



Cisco Firepower 4100/9300 FXOS コマンドリファレンス

初版：2021年12月1日

最終更新：2022年6月7日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスココンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（ www.cisco.com/jp/go/safety_warning/ ）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NON-INFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

The documentation set for this product strives to use bias-free language. For purposes of this documentation set, bias-free is defined as language that does not imply discrimination based on age, disability, gender, racial identity, ethnic identity, sexual orientation, socioeconomic status, and intersectionality. Exceptions may be present in the documentation due to language that is hardcoded in the user interfaces of the product software, language used based on standards documentation, or language that is used by a referenced third-party product.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2017–2022 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



FXOS CLI コマンド リファレンス ガイドについて

このガイドには、FXOS の多くの CLI コマンドを記録するための一連の作業が説明されているため、作業をしながら確認する必要があります。新しいコマンドの説明が追加されたり、既存の説明が更新または修正されたりすると、このガイドは定期的に再公開されます。



CLI 概要

- 管理対象オブジェクト (4 ページ)
- コマンドモード (5 ページ)
- FXOS CLI 接続図 (8 ページ)
- オブジェクトコマンド (9 ページ)
- コマンドの実行 (10 ページ)
- コマンド履歴 (11 ページ)
- 保留中のコマンドのコミット、破棄、表示 (12 ページ)
- CLI のインラインヘルプ (13 ページ)
- CLI セッション制限 (14 ページ)

管理対象オブジェクト

FXOS は管理対象オブジェクトモデルを使用します。このモデルでは、管理対象オブジェクトは管理可能な物理エンティティまたは論理エンティティを抽象的に表現したものです。たとえば、シャーシ、セキュリティモジュール、ネットワークモジュール、ポート、プロセッサは、管理対象オブジェクトとして表現される物理エンティティです。また、ユーザロールやプラットフォーム ポリシーは、管理対象オブジェクトとして表現される論理エンティティです。

管理対象オブジェクトには、設定可能な1つ以上のプロパティが関連付けられる場合があります。

コマンドモード

CLI のコマンドモードは階層構造になっており、EXEC モードが階層の最上位となります。高いレベルのモードは、低いレベルのモードに分岐します。高いレベルのモードから1つ低いレベルのモードに移動するには、**create**、**enter**、および**scope** コマンドを使用します。また、モード階層で1つ高いレベルに移動するには、**up** コマンドを使用します。また、モード階層の最上位に移動するには **top** コマンドも使用できます。



- (注) コマンドモードの大半は管理対象オブジェクトに関連付けられているため、あるオブジェクトと関連付けられているモードにアクセスできるようにするには、まず、そのオブジェクトを作成する必要があります。アクセスするモードに対する管理対象オブジェクトを作成するには、**create** および **enter** コマンドを使用します。**scope** コマンドは管理対象オブジェクトを作成するものではありません。すでに管理対象オブジェクトが存在するモードにアクセスするだけです。

各モードには、そのモードで入力できるコマンドのセットが含まれています。各モードで使用できるコマンドの大部分は、関連する管理対象オブジェクトに関係しています。

各モードの CLI プロンプトには、モード階層における現在のモードのフルパスが表示されます。これにより、コマンドモード階層内での現在位置を容易に判断できます。また、この機能は階層内を移動する際にも非常に役立ちます。

次の表は、主要なコマンドモード、各モードへのアクセスに使用するコマンド、および各モードに関連する CLI プロンプトを示しています。

表 1: 主要なコマンドモードとプロンプト

モード名	アクセスに使用するコマンド	モード プロンプト
EXEC	任意のモードで top コマンド	#
アダプタ	EXEC モードから scope adapter コマンド	/adapter #
ケーブル接続	EXEC モードから scope cabling コマンド	/cabling #
シャーシ	EXEC モードから scope chassis コマンド	/chassis #
イーサネットサーバドメイン	EXEC モードで scope eth-server コマンド (このコマンドとそのすべてのサブコマンドは現在サポートされていません)	/eth-server #

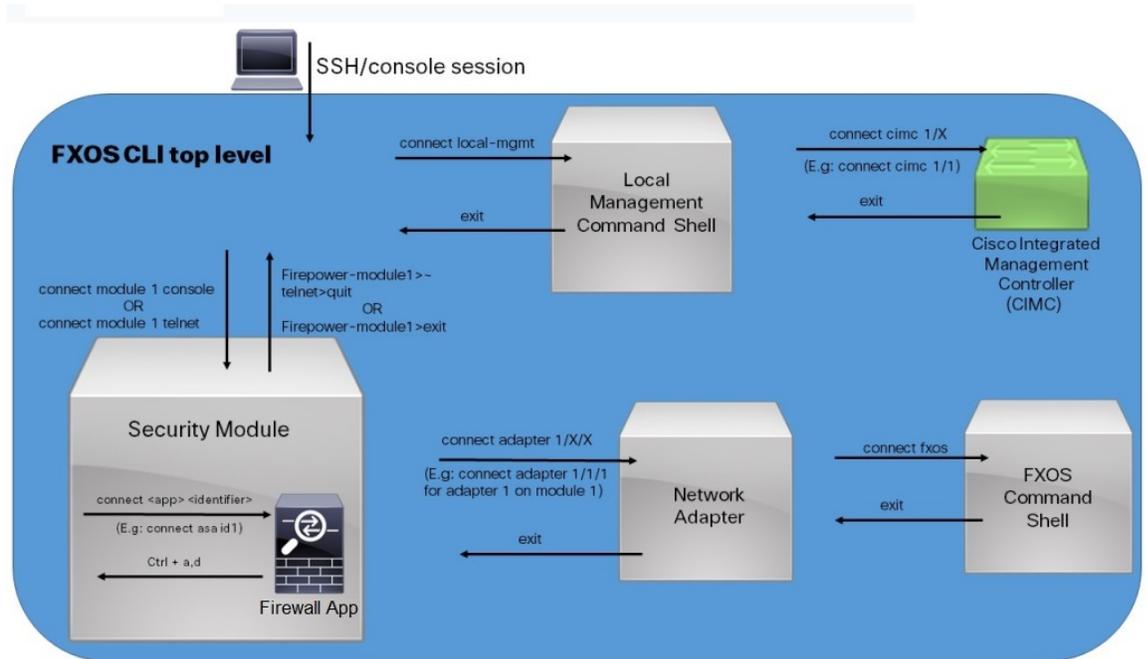
モード名	アクセスに使用するコマンド	モード プロンプト
イーサネット アップリンク	EXEC モードで scope eth-uplink コマンド	/eth-uplink #
ファブリック インターコネクト	EXEC モードから scope fabric-interconnect コマンド	/fabric-interconnect #
ファームウェア	EXEC モードから scope firmware コマンド	/firmware #
ホストイーサネットインターフェイス	EXEC モードから scope host-eth-if コマンド (注) このコマンドとそのすべてのサブコマンドは、このレベルではサポートされません。ホストイーサネットインターフェイス コマンドは /adapter # モードで使用できます。	/host-eth-if #
ライセンス	EXEC モードから scope license コマンド	/license #
モニタリング	EXEC モードから scope monitoring コマンド	/monitoring #
マニュアルの構成	EXEC モードから scope org コマンド	/org #
パケット取り込み	EXEC モードで scope packet-capture コマンド	/packet-capture #
セキュリティ	EXEC モードから scope security コマンド	/security #
サーバ	EXEC モードから scope server コマンド	/server #
サービス プロファイル	EXEC モードから scope service-profile コマンド (注) サービス プロファイルを変更したり、構成したりしないでください。つまり、 create 、 set 、または delete サブコマンドセットを使用しないでください。	/service-profile #

モード名	アクセスに使用するコマンド	モードプロンプト
SSA	EXEC モードから scope ssa コマンド	/ssa #
システム	EXEC モードから scope system コマンド	/system #
仮想 HBA	EXEC モードから scope vhba コマンド (注) 現在、このコマンドとそのすべてのサブコマンドはサポートされていません。	/vhba #
仮想 NIC	EXEC モードから scope vnic コマンド	/vnic #

FXOS CLI 接続図

次の図は、FXOS CLI のトップレベルから FXOS コマンドシェル、ローカル管理コマンドシェル、ネットワークアダプタ、CIMC、およびセキュリティモジュール CLI にアクセスするために実行できる各種コマンドの概要を示したものです。

図 1: Firepower 4100/9300 FXOS CLI 接続図



オブジェクト コマンド

オブジェクト管理用に 4 つの一般的なコマンドがあります。

- **create object**
- **delete object**
- **enter object**
- **scope object**

scope コマンドは、永続的オブジェクトでもユーザインスタンス化オブジェクトでも、すべての管理対象オブジェクトで使用できます。その他のコマンドを使用して、ユーザインスタンス化オブジェクトを作成および管理できます。すべての **create object** コマンドには、それぞれに対応する **delete object** および **enter object** コマンドが存在します。

ユーザインスタンス化オブジェクトの管理では、次の表に説明するように、これらのコマンドの動作はオブジェクトが存在するかどうかによって異なります。

表 2: オブジェクトが存在しない場合のコマンドの動作

コマンド	動作
create object	オブジェクトが作成され、該当する場合、そのコンフィギュレーション モードが開始されます。
delete object	エラー メッセージが生成されます。
enter object	オブジェクトが作成され、該当する場合、そのコンフィギュレーション モードが開始されます。
scope object	エラー メッセージが生成されます。

表 3: オブジェクトが存在する場合のコマンドの動作

コマンド	動作
create object	エラー メッセージが生成されます。
delete object	オブジェクトが削除されます。
enter object	該当する場合、オブジェクトのコンフィギュレーション モードが開始されます。
scope object	オブジェクトのコンフィギュレーション モードが開始されます。

コマンドの実行

任意のモードで **Tab** キーを使用することで、コマンド入力を完了できます。コマンド名の一部を入力して **Tab** キーを押すと、コマンド全体が表示されるか、または別のキーワードや引数値を入力する必要がある場所まで表示されます。

コマンド履歴

CLIでは、現在のセッションで使用したすべてのコマンドが保存されます。上矢印キーまたは下矢印キーを使用すると、これまでに使用したコマンドを1つずつ表示できます。上矢印キーを押すと履歴内の直前のコマンドが表示され、下矢印キーを押すと履歴内の次のコマンドが表示されます。履歴の最後に到達すると、下矢印キーを押しても次のコマンドが表示されなくなります。

履歴を閲覧して適切なコマンドを再び呼び出し、**Enter** キーを押すことで、履歴内のコマンドを再入力できます。このコマンドは手動で入力したように表示されます。また、コマンドを再度呼び出した後、**Enter** キーを押す前にコマンドを変更することもできます。

保留中のコマンドのコミット、破棄、表示

CLI でコンフィギュレーション コマンドを入力する場合、**commit-buffer** コマンドを入力するまで、そのコマンドは適用されません。コミットされるまで、コンフィギュレーション コマンドは保留状態となり、**discard-buffer** コマンドを入力して廃棄できます。

複数のコマンド モードで保留中の変更を積み重ね、**commit-buffer** コマンド 1 つでまとめて適用できます。任意のコマンド モードで **show configuration pending** コマンドを入力して、保留中のコマンドを表示できます。



- (注) 保留中のすべてのコマンドの有効性をチェックします。ただし、キュー登録済みコマンドがコミット中に失敗した場合、残りのコマンドにも適用されます。失敗したコマンドはエラー メッセージで報告されます。

コマンドが保留中の場合、コマンドプロンプトの前にアスタリスク (*) が表示されます。アスタリスクは、**commit-buffer** コマンドを入力すると消去されます。

次に、プロンプトがコマンド エントリのプロセス中に変わる例を示します。

```
Firepower# scope system
Firepower /system # scope services
Firepower /system/services # create ntp-server 192.168.200.101
Firepower /system/services* # show configuration pending
  scope services
+   create ntp-server 192.168.200.101
  exit
Firepower /system/services* # commit-buffer
Firepower /system/services #
```

CLI のインライン ヘルプ

? 文字を入力すれば、いつでもコマンド構文の現在の状態で使用可能なオプションを表示できます。

プロンプトに何も入力せずに ? を入力すると、現在のモードで使用できるコマンドがすべて表示されます。コマンドの一部を入力して ? を入力すると、その時点のコマンド構文内の位置でキーワードと引数がすべて表示されます。

CLI セッション制限

FXOS は、同時にアクティブにできる CLI セッションの数を合計で 32 セッションに制限します。この値は設定可能です。



show 出力のフィルタリングと保存

- [show コマンド出力の保存とフィルタリング \(16 ページ\)](#)

show コマンド出力の保存とフィルタリング

出力をテキスト ファイルにリダイレクトすると、**show** コマンドの出力を保存できます。出力をフィルタリング コマンドにパイピングすると、**show** コマンドの出力をフィルタリングできます。

出力の保存とフィルタリングはすべての **show** コマンドで使用できますが、大量のテキストを生成するコマンドを処理する場合に最も役立ちます。たとえば、**show configuration** コマンドを使用して、設定のすべてまたは一部を表示できます。設定の出力をコピーすると、設定をバックアップおよび復元できます。



(注) **show** コマンドではシークレット (パスワードフィールド) が表示されないため、新しいデバイスに設定を貼り付ける場合は、実際のパスワードを含めるように **show** 出力を変更する必要があります。

show コマンド出力のフィルタリング

show コマンドの出力をフィルタリングするには、次のサブコマンドを使用します。次の構文の説明で、**show** コマンドの後の最初の縦棒 | はパイプ文字であり、コマンドに含まれ、構文の説明の一部ではありません。フィルタリング オプションはコマンドの最初の | 文字の後に入力します。

```
show command | {begin expression | count | cut expression | egrep expression | end
expression | exclude expression | grep expression | head | include expression | last | less | no-more | sort
expression | tr expression | uniq expression | wc}
```

フィルタリング オプション

フィルタリング サブコマンドは次のとおりです。

- **begin** : 指定されたパターンを含む最初の行を検索し、その行と後続のすべての行を表示します。
- **count** : 行数をカウントします。
- **cut** : 各行の一部分を削除 (「カット」) します。
- **egrep** : 拡張タイプのパターンと一致する行のみを表示します。
- **end** : パターンと一致する行で終了します。
- **exclude** : パターンと一致するすべての行を除外し、その他のすべての行を表示します。
- **grep** : パターンと一致する行のみを表示します。
- **head** : 最初の行を表示します。

- **include** : パターンと一致する行のみを表示します。
- **last** : 最後の行を表示します。
- **less** : ページングのフィルタです。
- **no-more** : コマンド出力の改ページをオフにします。
- **sort** : 行をソートします (ストリーム ソーター)。
- **tr** : 文字を変換、スクイーズ、および削除します。
- **uniq** : 連続した同一行の 1 つを除くすべてを破棄します。
- **wc** : 行、単語、および文字の数を表示します。

expression

通常、式、つまりパターンは単純なテキスト文字列です。式を一重引用符または二重引用符で囲まないでください。式の一部として表示されます。また、末尾のスペースは式に含まれます。



- (注) 次のサブコマンドのいくつかには、フィルタリングを詳細に制御できる追加オプションがあります。たとえば、**show configuration | head** および **show configuration | last** と指定すると、**lines** キーワードを使用して表示される行数を変更できます。デフォルトは 10 です。さらに、**show configuration | sort** と指定すると、出力から重複行を削除するためのオプション **-u** を追加できます。(このオプションの詳細な説明は本ドキュメントの対象外です。さまざまなコマンドについては、FXOS のヘルプ出力を参照してください。詳細については、該当する Linux のヘルプを参照してください。)

例

次の例では、システム イベント ログ内の現在の行数を確認する方法を示します。

```
FP9300-A# show sel 1/1 | count
3008
FP9300-A#
```

次の例では、文字列「error」を含むシステム イベント ログの行を表示する方法を示します。

```
FP9300-A# show sel 1/1 | include error
968 | 05/15/2016 16:46:25 | CIMC | System Event DDR4_P2_H2_EC
C #0x99 | Upper critical - going high | Asserted | Reading 20
000 >= Threshold 20000 error
FP9300-A#
```

関連項目

[show コマンド出力の保存 \(18 ページ\)](#)

show コマンド出力の保存

出力をテキスト ファイルにリダイレクトすると、**show** コマンドの出力を保存できます。

```
show command [> {ftp:|scp:|sftp:|tftp:|volatile:|workspace:}]|>> {volatile:|workspace:}}
```

構文の説明

> {ftp:|scp:|sftp:|tftp:|volatile:|workspace:}

選択したトランスポート プロトコルを使用して指定されたテキストファイルに **show** コマンド出力をリダイレクトします。

コマンドを入力すると、リモート サーバ名、IP アドレス、ユーザ名、ファイルパスなどがクエリされます。

この時点で **Enter** を押すと、出力がローカルに保存されます。

>> {volatile:|workspace:}

show コマンド出力を適切なテキスト ファイルに追加します。このファイルはすでに存在する必要があります。

例

次の例では、現在の設定をシステムワークスペースに保存しようとしています。設定ファイルがすでに存在しており、上書きするかどうかを選択できます。

```
FP9300-A# show configuration > workspace
File already exists, overwrite (y/n)?[n]n
Reissue command with >> if you want to append to existing file
```

```
FP9300-A#
```

関連項目

[show コマンド出力のフィルタリング \(16 ページ\)](#)



サポートされていないコマンドと制限コマンド

- サポートされていないコマンド (20 ページ)
- 制限コマンド (24 ページ)

サポートされていないコマンド

次のコマンドはCLIに表示されていますが、サポートはされていません。いずれのコマンドを入力しても、有効ではありません。

EXEC（最上位レベル）コマンド

```
#restore-check
# scope eth-server (すべてのサブコマンド)
# scope host-eth-if (host-eth-if サブコマンドは /adapter モードで使用可能です)
# scope nh-test (すべてのサブコマンド)
#set nh-test
#show nh-test
#show registry-repository
#show ucspe-tech-support
#ucspe-copy
# vhma (すべてのサブコマンド)
```

シャーシモードコマンド

```
/chassis # scope iom
/chassis # show iom
/chassis # show post
```

ファブリック インターコネクト モードコマンド

```
/fabric-interconnect #scope fan
/fabric-interconnect #scope fan-module
/fabric-interconnect #scope psu
/fabric-interconnect #scope sw-uplink
/fabric-interconnect #show fan
/fabric-interconnect #show fan-module
/fabric-interconnect #show lan-neighbors
/fabric-interconnect #show psu
/fabric-interconnect #show san-neighbors
/fabric-interconnect #show sw-uplink
```

組織モード コマンド

```
/org #recommission server
/org #scope auth-profile
/org #scope fc-policy
/org #scope iqn-pool
/org #scope iscsi-policy
/org #scope kvm-mgmt-policy
/org #scope rackserver-disc-policy
/org #scope rackserver-mgmt-policy
/org #scope san-connectivity-policy
/org #scope storage-connection-policy
/org #scope uddl-link-policy
/org #scope uddl-system-settings
/org #scope uuid-suffix-pool
/org #scope vhba-beh-policy
/org #scope vhba-templ
/org #scope vmq-conn-policy
/org #scope wwn-pool
/org #show fc-policy
/org #show fc-zone
/org #show iqn-pool
/org #show rackserver-disc-policy
/org #show rackserver-mgmt-policy
/org #show san-connectivity-policy
/org #show uddl-link-policy
/org #show uddl-system-settings
/org #show uuid-suffix-pool
/org #show vhba-beh-policy
/org #show vhba-templ
/org #show vmq-conn-policy
/org #show wwn-pool
```

パケットキャプチャ モード コマンド

```
/packet-capture #show nh-test
```

セキュリティ モード コマンド

```
/security # create role
```

```
/security #delete role
```

サーバ モード コマンド

```
/server # show flexflash-controller
```

サービス プロファイル モード コマンド

```
/service-profile #disassociate
```

```
/service-profile #rename-to
```

```
/service-profile #scope dynamic-vnic-conn
```

```
/service-profile #scope ext-pooled-ip
```

```
/service-profile #scope ext-static-ip
```

```
/service-profile #scope fc-zone
```

```
/service-profile #scope iscsi-boot
```

```
/service-profile #scope vhba
```

```
/service-profile #set dynamic-vnic-conn-policy
```

```
/service-profile #set ext-mgmt-ip-pool-name
```

```
/service-profile #set ext-mgmt-ip-state
```

```
/service-profile #set iscsi-identity
```

```
/service-profile #set kvm-mgmt-policy
```

```
/service-profile #set san-connectivity-policy-name
```

```
/service-profile #set src-templ-name
```

```
/service-profile #show dynamic-vnic-conn
```

```
/service-profile #show dynamic-vnic-conn-policy
```

```
/service-profile #show ext-pooled-ip
```

```
/service-profile #show ext-static-ip
```

```
/service-profile #show fc-zone
```

```
/service-profile #show initiator-group
```

```
/service-profile #show iscsi-boot
```

```
/service-profile #show iscsi-identity
```

```
/service-profile #show mgmt-iface
```

```
/service-profile #show vhba
```

```
/service-profile #show vnic-iscsi
```

システム モード コマンド

```
/system # scope control-ep
```

```
/system # scope environment-features
```

```
/system # scope storage-features
```

```
/system # scope vm-mgmt
```

```
/system # set virtual-ip
```

```
/system # show control-ep
```

制限コマンド

次のコマンドの使用は制限されています。Cisco Technical Assistance Center (TAC) のメンバーから指示された場合を除き、これらのコマンドは使用しないでください。

サービス プロファイル モード コマンド

サービス プロファイルの設定は変更しないでください。特に、`/service-profile # create`、`/service-profile # delete`、または `/service-profile # set` サブコマンドのいずれも使用しないでください。



第 **I** 部

A-R コマンド

- [A-C コマンド \(27 ページ\)](#)
- [D-R コマンド \(123 ページ\)](#)



A-C コマンド

- [acknowledge fault](#) (29 ページ)
- [acknowledge server](#) (30 ページ)
- [acknowledge slot](#) (31 ページ)
- [activate firmware](#) (32 ページ)
- [backup sel](#) (33 ページ)
- [cancel](#) (34 ページ)
- [clear lock-status](#) (35 ページ)
- [clear message](#) (36 ページ)
- [clear password-history](#) (38 ページ)
- [clear sel](#) (39 ページ)
- [commit-buffer](#) (40 ページ)
- [connect adapter](#) (41 ページ)
- [connect asa](#) (43 ページ)
- [connect cimc](#) (45 ページ)
- [connect ftd](#) (47 ページ)
- [connect fxos](#) (49 ページ)
- [connect local-mgmt](#) (51 ページ)
- [connect module](#) (53 ページ)
- [connect vdp](#) (55 ページ)
- [create app-instance](#) (57 ページ)
- [create bootstrap-key FIREWALL_MODE](#) (58 ページ)
- [create bootstrap-key MANAGEMENT_TYPE](#) (59 ページ)
- [create bootstrap-key PERMIT_EXPERT_MODE](#) (60 ページ)
- [create bootstrap-key-secret PASSWORD](#) (61 ページ)
- [create bootstrap-key-secret REGISTRATION_KEY](#) (62 ページ)
- [create bootstrap-key DNS_SERVERS](#) (63 ページ)
- [create bootstrap-key FIREPOWER_MANAGER_IP](#) (64 ページ)
- [create bootstrap-key SEARCH_DOMAINS](#) (65 ページ)
- [create breakout](#) (66 ページ)

- [create certreq](#) (68 ページ)
- [create class](#) (70 ページ)
- [create connection](#) (73 ページ)
- [create destination](#) (75 ページ)
- [create dns](#) (77 ページ)
- [create hw-crypto](#) (78 ページ)
- [create ip-block](#) (79 ページ)
- [create ipv6-block](#) (81 ページ)
- [create keyring](#) (83 ページ)
- [create local-user](#) (84 ページ)
- [create member-port](#) (86 ページ)
- [create ntp-server](#) (88 ページ)
- [create policy \(callhome\)](#) (89 ページ)
- [create policy \(flow control\)](#) (92 ページ)
- [create port-channel](#) (94 ページ)
- [create pre-login-banner](#) (96 ページ)
- [create profile](#) (98 ページ)
- [create property](#) (100 ページ)
- [create resource-profile](#) (102 ページ)
- [create server \(scope ldap\)](#) (104 ページ)
- [create snmp-trap](#) (106 ページ)
- [create snmp-user](#) (108 ページ)
- [create ssh-server](#) (110 ページ)
- [create stats-threshold-policy](#) (112 ページ)
- [create subinterface](#) (114 ページ)
- [create threshold-value](#) (117 ページ)
- [create trustpoint](#) (119 ページ)
- [cycle](#) (121 ページ)

acknowledge fault

システム障害を確認するには、**acknowledge fault** コマンドを使用します。

acknowledge fault *id*

構文の説明	fault <i>id</i>	障害の ID 番号。指定できる有効範囲は 0 ~ 18446744073709551615 です。
-------	------------------------	---

コマンドモード	マルチ モード
---------	---------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **acknowledge fault** コマンドを使用して障害の有無を確認します。

例

次の例は、障害に対して確認応答を行う方法を示しています。

```
firepower # acknowledge fault 11347599
firepower* # commit-buffer
firepower #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	acknowledge server	デバイスでサーバに対して確認応答を行います。
	acknowledge slot	デバイス内のスロットの有無を確認します。
	show fault	障害ポリシー情報を表示します。

acknowledge server

サーバに対して確認応答を行うには、**acknowledge server** コマンドを使用します。

acknowledge server {id|chassis/blade_id}

構文の説明

server
{id|chassis/blade_id}

サーバ ID 番号を使用して確認応答を行うサーバを識別するには、*id* と入力します。

シャーシおよびブレード ID 番号を使用して確認応答を行うサーバを識別するには、n/n 形式で *chassis/blade_id* と入力します。

(注) シャーシ ID 番号は常に **1** です。

コマンドモード

EXEC
scope chassis/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

acknowledge server コマンドを使用して、ネットワーク内のデバイスの有無を確認します。たとえば、最近作動させたサーバに対して確認応答を行い、そのサーバが存在することを確認できます。

シャーシモードで確認応答を行うサーバを識別するのに使用できる変数は *id* のみです。

例

次の例は、シャーシモードでモジュール 2 のサーバに対して確認応答を行う方法を示しています。

```
firepower# scope chassis 1
firepower /chassis # acknowledge server 2
firepower /chassis* # commit-buffer
firepower /chassis #
```

関連コマンド

コマンド	説明
acknowledge fault	システム障害を確認します。
acknowledge slot	最近作動させたスロットの有無を確認します。
show server	show server コマンドはサーバに関連するさまざまな設定情報を表示します。

acknowledge slot

スロットに対して確認応答を行うには、**acknowledge slot** コマンドを使用します。

acknowledge slot {*id*|*chassis/blade_id*}

構文の説明

EXEC モードでシャーシおよびブレード ID 番号を使用して確認応答を行うスロットを識別するには、n/n 形式で *chassis/blade_id* と入力します。

(注) シャーシ ID 番号は常に **1** です。

コマンドモード

EXEC
scope chassis/
scope fabric-interconnect/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

acknowledge slot コマンドを使用して、最近作動させたスロットの有無を確認します。

シャーシモードで確認応答を行うスロットを識別するのに使用できる変数は *id* のみです。

EXEC モードで、確認応答を行うスロットを識別するのに使用できるのは、シャーシおよびブレード ID 番号 (*chassis/blade_id*) のみです。

例

次の例は、シャーシモードでスロットに対して確認応答を行う方法を示しています。

```
firepower# scope chassis 1
firepower /chassis # acknowledge slot 2
firepower /chassis* # commit-buffer
firepower /chassis #
```

関連コマンド

コマンド	説明
acknowledge fault	システム障害を確認します。
acknowledge server	ネットワーク内のサーバの有無を確認します。

activate firmware

ファームウェア パッケージをアクティブにするには、**activate firmware** コマンドを使用します。

activate firmware *version*

構文の説明	<i>version</i>	バージョン番号を使用して、アクティブにするファームウェアパッケージを指定します。
-------	----------------	--

コマンドモード	scope system/
---------	---------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン アクティベーションプロセスの一部として、すべての CLI セッションが終了します。

例

次の例では、ファームウェア パッケージをアクティブにする方法を示します。

```
firepower# scope system
firepower /system # activate firmware 2.4(1.52)
As part of activation, all cli sessions will be terminated.
Continue with activation? (yes/no)
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show firmware	システムファームウェアのバージョンとステータス情報を表示します。
	show server firmware	サーバファームウェアのバージョンとステータス情報を表示します。

backup sel

システムイベントログ (SEL) をバックアップするには、**backup sel** コマンドを使用します。

backup sel {*id*|*chassis/blade_id*}

構文の説明	<i>id</i>	サーバID。9300 デバイスでは、最大3台のサーバを設定できます。
	<i>chassis/blade_id</i>	x/y 形式のアプライアンスのシャーシ番号とブレード番号。 (注) シャーシ ID 番号は常に 1 です。

コマンドモード 任意のコマンドモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、サーバのシステム イベント ログ (SEL) をバックアップします。特定のサーバのコマンドモード (/chassis/server) では、オプションを指定せずにこのコマンドを実行できます。

例

次の例は、シャーシ 1 のサーバ 2 の SEL をバックアップする方法を示しています。

```
firepower# backup sel 1/2
firepower* # commit-buffer
firepower#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	clear sel	サーバのシステム イベント ログ (SEL) をクリアします。

cancel

予約要求をキャンセルするには、**cancel** コマンドを使用します。

cancel

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope license/scope reservation/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

認証コードがすでに生成されている場合は、そのコードをインストールする必要があります。

例

次の例では、予約要求をキャンセルする方法を示します。

```
firepower# scope license
firepower /license # scope reservation
firepower /license/reservation # cancel
Warning : If you have already generated the authorization code from CSSM, please abort
the cancellation by issuing discard-buffer and then install the authorization code.
firepower /license/reservation* #
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable reservation	パーマネント ライセンスの予約をイネーブルにします。
show license	現在のライセンス情報を表示します。

clear lock-status

ユーザのロックアウトステータスをクリアするには、ローカルユーザモードで **clear lock-status** コマンドを使用します。

clear lock-status

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	ローカルユーザ (/security/local-user)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	ユーザ（管理者ユーザを含む）が指定されたログイン試行最高回数を超えると、ユーザはシステムからロックアウトされるため、ユーザのロックアウトステータスをクリアしない限り、ログインが許可されるまで、指定された時間待機する必要があります。	

例

次の例では、ローカルユーザモードを開始し、ロックアウトされたユーザがログインできるまでに経過する時間を指定する方法を示します。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A # scope local-user test_user1
FP9300-A /security/local-user # clear lock-status
FP9300-A /security/local-user* # commit-buffer
FP9300-A /security/local-user #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set max-login-attempts	ユーザがシステムからロックアウトされるまで、ログイン試行を失敗できる回数を指定します。
	set user-account-unlock-time	ログイン試行の最高回数に達した後、ユーザがシステムからロックアウトされる時間を指定します。

clear message

現在のログイン前バナーテキストをクリアするには、**clear message** コマンドを使用します。ログイン前バナー オブジェクト自体は削除されません。

clear message

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope security/scope banner/scope pre-login-banner/

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを入力すると、ログイン前バナーテキストがクリアされます。ログイン前バナーオブジェクト自体は削除されません。

例

次の例では、現在のログイン前バナーを表示する方法、そのバナーをクリアする方法、および変更を適用して確定する例を示します。

```
firepower # scope security
firepower /security # scope banner
firepower /security/banner # scope pre-login-banner
firepower /security/banner/pre-login-banner # show

Pre login banner:
  Message
  -----
  Firepower-9300-2
  Western Data Center

firepower /security/banner/pre-login-banner # clear message
firepower /security/banner/pre-login-banner* # commit
firepower /security/banner/pre-login-banner # show

Pre login banner:
  Message
  -----

firepower /security/banner/pre-login-banner #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create pre-login-banner	ログイン画面の前に表示されるバナーを作成します。初期のバナーオブジェクトは空です。

コマンド	説明
set message	ログイン前バナーとして表示されるテキストの行を追加または置き換えます。

clear password-history

ローカルユーザのパスワード履歴をクリアするには、**clear password-history** コマンドを使用します。

clear password-history

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	ローカルユーザ (/security/local-user) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドを使用するには、admin または AAA 権限を持つユーザである必要があります。	

例

次の例では、ローカルユーザモードを開始し、ユーザのパスワード履歴をクリアする方法を示します。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # scope local-user test_user
FP9300-A /security/local-user # clear password history
FP9300-A /security/local-user* # commit-buffer
FP9300-A /security/local-user #
```

コマンド	説明
create local-user	新規のローカルユーザ アカウントを作成します。
set password	ユーザ アカウントのパスワードを指定します。

clear sel

サーバのシステム イベント ログ (SEL) をクリアするには、**clear sel** コマンドを使用します。

clear sel {*id* | *chassis_id/blade_id*}

構文の説明	<i>id</i>	(オプション) サーバ ID。9300 デバイスには最大 3 台のサーバがあります。
	<i>chassis_id/blade_id</i>	(オプション) n/n 形式のシャーシ番号およびブレード番号。 (注) シャーシ ID 番号は常に 1 です。

コマンドモード 任意のコマンドモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、サーバのシステム イベント ログ (SEL) をクリアします。
特定のサーバ (/chassis/server) のコマンドモードでは、サーバを指定せずにこのコマンドを実行できます。

例

次の例では、組織モードでシャーシ 1 にあるサーバ 1 のシステム イベント ログをクリアする方法を示します。

```
FP9300-A # scope org Test
FP9300-A /org # clear sel 1/1
FP9300-A /org* # commit-buffer
FP9300-A /org #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	backup sel	システム イベント ログ (SEL) をバックアップします。

commit-buffer

設定変更を保存または確認するには、**commit-buffer** コマンドを使用します。

commit-buffer [**verify-only**]

構文の説明	verify-only (オプション) パッファ コンテンツのみを確認/検証します。コンテンツはコミットされていません。
コマンドモード	任意のコマンドモード
コマンド履歴	リリース 変更内容 1.1(1) コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドを使用して、保留中のすべての設定変更を実行または確認します。設定変更の保留中は、コマンドプロンプトの前にアスタリスク (*) が表示されます。 commit-buffer コマンドが入力されると、保留中のコマンドがコミットされ、アスタリスクがなくなります。

例

次の例は、設定変更の保存方法を示しています。

```
FP9300-A# create org 3
FP9300-A /org* # commit-buffer
FP9300-A /org #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	discard-buffer	すべてのコミットされていないコンフィギュレーションの変更を廃棄します。
	show configuration pending	保留中のすべての設定変更を表示します。

connect adapter

アダプタ コマンド シェルに接続するには、**connect** コマンドを使用します。

connect adapter {*chassis/server/id*|*rack_server/id*}

構文の説明	<i>chassis/server/id</i>	シャーシ、サーバ (モジュール) 、およびアダプタ ID (n/n/n 形式で入力) を指定します。Firepower 9300 では、モジュール番号は 1、2、または 3 を指定できます。Firepower 4100 では、1 です。 (注) シャーシ ID 番号は常に 1 です。
	<i>rack_server/id</i>	ラック番号とモジュール ID (n/n 形式で入力) を指定します。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **help** を使用して、利用可能なメザニオンアダプタ コマンドをリストします。**help** コマンドを使用して、利用可能なコマンドの情報を表示します。

追加情報については、[connect adapter : コマンドリスト \(676 ページ\)](#) を参照してください。



(注) アダプタ コマンド シェルに接続すると、コマンドラインプロンプトはデフォルト コマンドから変更されます。adapter n/n/n というアプライアンスに割り当てた名前に変更されます。この場合、n/n/n は、接続用に入力したアダプタのシャーシ/サーバ/ID の組み合わせです。

アダプタ モードを終了するには、**exit** と入力します。

例

次の例では、アダプタ コマンド シェルに接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示します。

```
firepower# connect adapter 1/1/1
adapter 1/1/1 # help
Available commands:
  connect      - Connect to remote debug shell
  exit         - Exit from subshell
  help         - List available commands
  history      - Show command history
  show-fwlist  - Show firmware versions on the adapter
  show-identity - Show adapter identity
```

```
show-phyinfo      - Show adapter phy info
show-systemstatus - Show adapter status
adapter 1/1/1 # exit
firepower#
```

関連コマンド

コマンド	説明
exit	前の CLI モードに戻ります。

connect asa

ASA CLI に接続するには、**connect asa** コマンドを使用します。

connect asa [*name*]

構文の説明	<i>name</i>	(オプション) ASA アプリケーション インスタンス名を指定します。これは論理デバイス名と同じです。
コマンド モード	connect module/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	<i>name</i> 引数が追加されました。
	1.1(4)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン CLI から利用可能なコマンドについては、ASA のマニュアルを参照してください。

ASA コンソールを終了するには、**Ctrl-a, d** と入力します

FXOS CLI のスーパーバイザ レベルに戻ります。

コンソールを終了します。

~ と入力し、Telnet アプリケーションを終了するには **quit** と入力します。

例 :

```
asa> Ctrl-a, d
Firepower-module1> ~
telnet> quit
firepower#
```

Telnet セッションを終了します。

Ctrl-], . と入力

例 :

```
asa> Ctrl-a, d
Firepower-module1> Ctrl-], .
firepower#
```

例

次の例では、モジュール 1 の ASA CLI に接続する方法を示します。

```
firepower# connect module 1 console
```

```

Telnet escape character is '~'.
Trying 127.5.1.1...
Connected to 127.5.1.1.
Escape character is '~'.

CISCO Serial Over LAN:
Close Network Connection to Exit

Firepower-module1> connect asa
asa>

```

関連コマンド

コマンド	説明
connect ftd	Threat Defense CLI に接続します。
connect module	モジュール CLI に接続します。
connect vdp	vDP CLI に接続します。

connect cimc

Cisco Integrated Management Controller (CIMC) コマンドシェルに接続するには、**connect cimc** コマンドと入力します。

connect cimc { *chassis_id/blade_id* | *rack_id* }

構文の説明

chassis_id/blade_id シャーシおよびモジュール番号を指定します (n/n 形式で入力)。
(注) シャーシ ID 番号は常に **1** です。

rack-id ラック番号を指定します。

コマンドモード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

help を使用して、利用可能な CIMC ファームウェア デバッグ ユーティリティ コマンドをリストします。**help** コマンドを入力して、利用可能なコマンドの情報を表示します。



(注) CIMC コマンドシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトがデフォルトプロンプトから変更されます。[*xxx*] というアプライアンスに割り当てた名前です。この場合、*xxx* は入力した最後のコマンドです。次の例を参照してください。

ユーティリティを終了するには、**exit** と入力します。

Cisco TAC から指示がない限り、このユーティリティは使用しないでください。追加情報については、[connect cimc : コマンドリスト \(681 ページ\)](#) を参照してください。

例

次の例では、CIMC モードに接続し、利用可能なコマンドをリストする方法を示します。

```
firepower# connect cimc 1/1
Trying 127.5.1.1...
Connected to 127.5.1.1.
Escape character is '^]'.

CIMC Debug Firmware Utility Shell [ support ]
[ help ]# help

Debug Firmware Utility
```

Command List

```

alarms
cores
dimmb1
exit
i2cstats
images
mctools
memory
messages
mrcout
network
obfl
post
power
programmables
sensors
sel
fru
tasks
top
update
users
version
cert
sldp
help
help [COMMAND]

```

Notes:

```

"enter Key" will execute last command
"COMMAND ?" will execute help for that command

```

```

[ help ]# exit
Connection closed by foreign host.
firepower#

```

関連コマンド

コマンド	説明
exit	前の CLI モードに戻ります。

connect ftd

Threat Defense CLI に接続するには、**connect ftd** コマンドを使用します。

connect ftd *name*

構文の説明	<i>name</i>	Threat Defense アプリケーション インスタンス名を指定します。これは論理デバイス名と同じです。アプリケーションタイプに複数のアプリケーションインスタンスがある場合、インスタンス名を指定する必要があります。インスタンス名を表示するには、名前を付けずにコマンドを入力します。
コマンドモード	connect module/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	<i>name</i> 引数が追加されました。エスケープ文字が exit から Ctrl-a, d に変更されました。
	1.1(4)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	<p>CLI から利用可能なコマンドについては、Threat Defense のマニュアルを参照してください。</p> <p>Threat Defense コンソールを終了するには、exit と入力します。2.4(1) より前のバージョンの場合は、Ctrl-a, d と入力します</p> <p>FXOS CLI のスーパーバイザ レベルに戻ります。</p> <p>コンソールを終了します。</p> <p>~ と入力し、Telnet アプリケーションを終了するには quit と入力します。</p> <p>例：</p> <pre>> exit Firepower-module1> ~ telnet> quit firepower#</pre> <p>Telnet セッションを終了します。</p> <p>Ctrl-], . と入力</p> <p>例：</p> <pre>> exit Firepower-module1> Ctrl-], . firepower#</pre>
------------	--

例

次の例では、モジュール 1 の Threat Defense CLI に接続する方法を示します。

```
firepower# connect module 1 console
Telnet escape character is '~'.
Trying 127.5.1.1...
Connected to 127.5.1.1.
Escape character is '~'.
```

```
CISCO Serial Over LAN:
Close Network Connection to Exit
```

```
Firepower-module1> connect ftd
>
```

関連コマンド

コマンド	説明
connect asa	ASA CLI に接続します。
connect module	モジュール CLI に接続します。
connect vdp	vDP CLI に接続します。

connect fxos

FXOS コマンド シェルに接続するには、**connect fxos** コマンドを使用します。

connect fxos [a]

構文の説明	a	(オプション) ファブリック a に接続します。 (注) ファブリック ID は常に a です。ファブリック ID を省略すると、ファブリック A に接続されます。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	? と入力して、利用可能な FXOS シェル コマンドをリストします。 <i>command ?</i> と入力して、個別のコマンドの情報を表示します。	



- (注) FXOS コマンドシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトがデフォルトプロンプトから変更されます。(fxos) が付加されたデフォルトプロンプトというアプライアンスに割り当てられた名前です。次の例を参照してください。

FXOS シェルを終了するには、**exit** と入力します。

例

次の例では、FXOS コマンドシェルに接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示します。

```
firepower# connect fxos
firepower(fxos)# ?
clear          Reset functions
cli            CLI commands
debug         Debugging functions
debug-filter   Enable filtering for debugging functions
ethanalyzer    Configure cisco packet analyzer
no            Negate a command or set its defaults
ntp           NTP configuration
show          Show running system information
system        System management commands
terminal      Set terminal line parameters
test          Test command
undebug       Disable Debugging functions (See also debug)
end           Go to exec mode
exit          Exit from command interpreter
```

```

pop           Pop mode from stack or restore from name
push          Push current mode to stack or save it under name
where         Shows the cli context you are in

```

```

firepower (fxos) # exit
firepower #

```

関連コマンド

コマンド	説明
connect local-mgmt	特定のアダプタに接続している間に、リモート デバッグ シェルに接続します。
exit	前の CLI モードに戻ります。

connect local-mgmt

ローカル管理コマンドシェルに接続するには、**connect local-mgmt** コマンドを使用します。

connect local-mgmt [a]

構文の説明	a	(オプション) ファブリック a に接続します。 (注) ファブリック ID は常に a です。ファブリック ID を省略すると、ファブリック A に接続されます。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン ?を入力して、利用可能なローカル管理シェルコマンドをリストします。 *command ?* を入力して、個別のコマンドの情報を表示します。

追加情報については、[connect local-mgmt : コマンドリスト \(701 ページ\)](#) を参照してください。



(注) ローカル管理コマンドシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトがデフォルトプロンプトから変更されます。(local-mgmt)が付加されたデフォルトプロンプトというアプライアンスに割り当てられた名前です。次の例を参照してください。

ローカル管理モードを終了するには、**exit** と入力します。

例

次の例では、ローカル管理コマンドシェルに接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示します。

```
firepower# connect local-mgmt
firepower(local-mgmt)# ?
  cd          Change current directory
  clear       Clear managed objects
  cluster     Cluster mode
  connect     Connect to Another CLI
  copy        Copy a file
  cp          Copy a file
  delete      Delete managed objects
  dir         Show content of dir
  enable      Enable
  end         Go to exec mode
```

```

erase          Erase
erase-log-config Erase the mgmt logging config file
exit           Exit from command interpreter
fips          FIPS compliance
ls            Show content of dir
mgmt-port     Management Port
mkdir         Create a directory
move         Move a file
mv           Move a file
ping         Test network reachability
ping6        Test IPv6 network reachability
pwd          Print current directory
reboot       Reboots Fabric Interconnect
restore-check Check if in restore mode
rm           Remove a file
rmdir        Remove a directory
run-script   Run a script
show         Show system information
shutdown     Shutdown
ssh          SSH to another system
tail-mgmt-log tail mgmt log file
telnet       Telnet to another system
terminal     Terminal
top          Go to the top mode
traceroute   Traceroute to destination
traceroute6  Traceroute to IPv6 destination
verify       Verify Application Image

```

```

firepower(local-mgmt)# exit
firepower#

```

関連コマンド

コマンド	説明
connect fxos	FXOS コマンド シェルに接続します。
exit	前の CLI モードに戻ります。

connect module

モジュール コマンド シェルに接続するには、**connect module** コマンドを使用します。

connect module *module_id* {**console**|**telnet**}

構文の説明	console	シリアル コンソールに接続します。 コンソール接続の利点は永続的であることです。
	<i>module_id</i>	9300 デバイスの場合、モジュール番号は 1、2、または 3 に指定できます。4100 デバイスは 1 です。
	telnet	Telnet 接続を使用して接続します。Telnet 接続を使用する利点は、モジュールに同時に複数のセッションを設定でき、接続速度が速くなることです。

コマンドモード 任意のコマンドモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	Telnet サポートが追加されました。
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン モジュール CLI から、**connect application** コマンドを使用してアプリケーション CLI に接続できます。

help と入力して、利用可能なモジュールシェルコマンドをリストします。**help command** を使用して、個別のコマンドの情報を表示します。また、**help** の代わりに **?** を使用すると、ヘルプ情報を表示することもできます。



- (注) モジュール コマンド シェルに接続すると、コマンドラインプロンプトがデフォルトプロンプトから変更されます。Firepower-module*n* というアプライアンスに割り当てた名前です。この場合、*n* は接続先のモジュール番号です。次の例を参照してください。

追加情報については、[connect module : コマンドリスト \(708 ページ\)](#) を参照してください。

例

次の例では、モジュール 1 コンソールに接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示します。

```
firepower# connect module 1 console
Telnet escape character is '~'.
```

```

Trying 127.5.1.1...
Connected to 127.5.1.1.
Escape character is '~'.

CISCO Serial Over LAN:
Close Network Connection to Exit

Firepower-module1>?
  secure-login    => Enable blade secure login
  show            => Display system information. Enter show ? for options
  config         => Configure the system. Enter config ? for options
  terminalLength => Terminal settings. Enter terminal ? for options
  ping           => Ping a host to check reachability
  nslookup       => Look up an IP address or host name with the DNS servers
  traceroute     => Trace the route to a remote host
  connect        => Connect to specific csp console (asa, etc)
  support        => System file operations
  help           => Get help on command syntax

Firepower-module1> ~
telnet> close
Connection closed.
firepower#

```

次の例では、Telnet を使用してモジュール 1 に接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示します。

```

firepower# connect module 1 telnet
Type exit or Ctrl-] followed by . to quit.
Firepower-module1>?
  secure-login    => Enable blade secure login
  show            => Display system information. Enter show ? for options
  config         => Configure the system. Enter config ? for options
  terminalLength => Terminal settings. Enter terminal ? for options
  ping           => Ping a host to check reachability
  nslookup       => Look up an IP address or host name with the DNS servers
  traceroute     => Trace the route to a remote host
  connect        => Connect to specific csp console (asa, etc)
  support        => System file operations
  exit           => Exit the session
  help           => Get help on command syntax
Firepower-module1> <Ctrl-], .>
firepower#

```

関連コマンド

コマンド	説明
connect asa	ASA CLI に接続します。
connect ftd	Threat Defense CLI に接続します。
connect vdp	vDP CLI に接続します。

connect vdp

Radware DefensePro (vDP) CLI に接続するには、**connect vdp** コマンドを使用します。

connect vdp [*name*]

構文の説明	<i>name</i>	(オプション) vDP アプリケーション インスタンス名を指定します。これはメイン アプリケーションの論理デバイス名/アプリケーション インスタンス名と同じです。
コマンド モード	connect module/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	<i>name</i> 引数が追加されました。
	1.1(4)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン CLI から利用可能なコマンドについては、vDP のマニュアルを参照してください。

vDP コンソールを終了するには、**Ctrl-],.** と入力します。

FXOS CLI のスーパーバイザ レベルに戻ります。

コンソールを終了します。

~ と入力し、Telnet アプリケーションを終了するには **quit** と入力します。

例 :

```
> Ctrl-], .
Firepower-module1> ~
telnet> quit
firepower#
```

Telnet セッションを終了します。

Ctrl-],. と入力

例 :

```
> Ctrl-], .
Firepower-module1> Ctrl-], .
firepower#
```

例

次の例では、モジュール 1 の vDP CLI に接続する方法を示します。

```
firepower# connect module 1 console
Telnet escape character is '~'.
Trying 127.5.1.1...
Connected to 127.5.1.1.
Escape character is '~'.
```

```
CISCO Serial Over LAN:
Close Network Connection to Exit
```

```
Firepower-module1> connect vdp
```

関連コマンド

コマンド	説明
connect asa	ASA CLI に接続します。
connect ftd	Threat Defense CLI に接続します。
connect module	モジュール CLI に接続します。

create app-instance

アプリケーションインスタンスを定義するには、**create app-instance** コマンドを使用します。

create app-instance *app_type* *app_name*

構文の説明	<i>app_name</i>	アプリケーションインスタンスの名前は 1～64 文字です。このインスタンスの論理デバイスを作成するときに、このデバイス名を使用します。
	<i>app_type</i>	アプリケーションタイプは、 asa 、 ftd 、または vdp のいずれかです。
コマンドモード	scope ssa/scope slot/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	<i>app_name</i> 引数が必須になりました。
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	イメージバージョン、展開タイプ、リソースプロファイル、モードなど、このアプリケーションインスタンスには多くのパラメータを設定できます。また、アプリケーションの有効化、無効化、および再起動も可能です。	
	<p>例</p> <p>次の例では、Threat Defense アプリケーション インスタンスのイメージバージョンを設定する方法を示します。</p> <pre>firepower# scope ssa firepower /ssa # scope slot 1 firepower /ssa/slot # create app-instance ftd MyDevice1 firepower /ssa/slot/app-instance* # set deploy-type container firepower /ssa/slot/app-instance* # set resource-profile-name silver 1 firepower /ssa/slot/app-instance* # set startup-version 6.3.0 firepower /ssa/slot/app-instance* #</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	show app-attri	現在のアプリケーション属性を表示します。

create bootstrap-key FIREWALL_MODE

Threat Defense と ASA のブートストラップ コンフィギュレーションでファイアウォール モードをルーテッドまたはトランスペアレントに指定するには、**create bootstrap-key FIREWALL_MODE** コマンドを指定します。

create bootstrap-key FIREWALL_MODE

コマンド モード scope ssa/create logical-device/create mgmt-bootstrap/

コマンド デフォルト デフォルト モードはルーテッドです。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	ASA のサポートが追加されました。
	1.1(4)	FTD に対してコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン ブートストラップの設定は、初期導入専用、またはディザスタリカバリ用です。通常の運用では、アプリケーション CLI の設定でほとんどの値を変更できます。

例

次に、モードをルーテッドに設定する例を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # create logical-device FTD1 ftd 1 standalone
Firepower /ssa/logical-device* # create mgmt-bootstrap ftd
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* # create bootstrap-key FIREWALL_MODE
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # set value routed
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # exit
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create logical-device	論理デバイスを作成します。
	create mgmt-bootstrap	アプリケーションのブートストラップ コンフィギュレーションを作成します。
	set value	このコマンドの値を設定します。

create bootstrap-key MANAGEMENT_TYPE

Threat Defense のブートストラップ設定でマネージャ（FMC または FDM）を指定するには、**create bootstrap-key MANAGEMENT_TYPE** コマンドを使用します。

create bootstrap-key MANAGEMENT_TYPE

コマンド モード `scope ssa/create logical-device/create mgmt-bootstrap/`

コマンド デフォルト デフォルトのマネージャは FMC です。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.7(1)	FTD に対してコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン ブートストラップの設定は、初期導入専用、またはディザスタリカバリ用です。通常の運用では、アプリケーション CLI の設定でほとんどの値を変更できます。

例

次の例は、マネージャを FDM に設定する方法を示しています。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # create logical-device FTD1 ftd 1 standalone
Firepower /ssa/logical-device* # create mgmt-bootstrap ftd
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* # create bootstrap-key MANAGEMENT_TYPE
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # set value LOCALLY_MANAGED
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # exit
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create logical-device	論理デバイスを作成します。
	create mgmt-bootstrap	アプリケーションのブートストラップコンフィギュレーションを作成します。
	set value	このコマンドの値を設定します。

create bootstrap-key PERMIT_EXPERT_MODE

Threat Defense の FTD SSH セッションでエキスパート モードを許可するには、**create bootstrap-key PERMIT_EXPERT_MODE** コマンドを使用します。

create bootstrap-key PERMIT_EXPERT_MODE

コマンド モード scope ssa/create logical-device/create mgmt-bootstrap/

コマンド デフォルト デフォルトは no です。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン エキスパート モードでは、高度なトラブルシューティングに FTD シェルからアクセスできません。デフォルトでは、コンテナ インスタンスの場合、エキスパート モードを使用できるのは FXOS CLI から FTD CLI にアクセスするユーザだけです。この制限は、インスタンス間の分離を増やす場合、コンテナ インスタンスのみに適用されます。マニュアルの手順で求められた場合、または Cisco Technical Assistance Center から求められた場合のみ、エキスパート モードを使用します。このモードを開始するには、FTD CLI で **expert** コマンドを使用します。

例

次に、SSH でエキスパート モードを有効にする例を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # create logical-device FTD1 ftd 1 standalone
Firepower /ssa/logical-device* # create mgmt-bootstrap ftd
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* # create bootstrap-key PERMIT_EXPERT_MODE
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # set value yes
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # exit
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create logical-device	論理デバイスを作成します。
	create mgmt-bootstrap	アプリケーションのブートストラップコンフィギュレーションを作成します。
	set value	このコマンドの値を設定します。

create bootstrap-key-secret PASSWORD

Threat Defense のブートストラップ設定で管理者パスワードを指定するには、**create bootstrap-key-secret PASSWORD** コマンドを使用します。

create bootstrap-key-secret PASSWORD

コマンド モード scope ssa/create logical-device/create mgmt-bootstrap/

コマンド デフォルト 管理者パスワードが設定されていない場合。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(4)	FTD に対してコマンドが追加されました。
	2.4(1)	ASA のサポートが追加されました。

使用上のガイドライン 事前設定されている ASA 管理者ユーザおよびイネーブル パスワードはパスワードの回復時に役立ちます。FXOS アクセスができる場合、管理者ユーザパスワードを忘れたときにリセットできます。

例

次に、モードをルーテッドに設定する例を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # create logical-device FTD1 ftd 1 standalone
Firepower /ssa/logical-device* # create mgmt-bootstrap ftd
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # create bootstrap-key-secret
PASSWORD
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # set value
Enter a value: floppylampshade
Confirm the value: floppylampshade
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key-secret* # exit
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create logical-device	論理デバイスを作成します。
	create mgmt-bootstrap	アプリケーションのブートストラップコンフィギュレーションを作成します。
	set value	このコマンドの値を設定します。

create bootstrap-key-secret REGISTRATION_KEY

ブートストラップ設定において、Threat Defense デバイスと Management Center 間で共有される登録キーを指定するには、**create bootstrap-key-secret REGISTRATION_KEY** コマンドを使用します。

create bootstrap-key-secret REGISTRATION_KEY

コマンド モード scope ssa/create logical-device/create mgmt-bootstrap/

コマンド デフォルト 登録済みのキーは生成されません。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(4)	FTD に対してコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン この登録キーのパスフレーズは、1～37文字の範囲で選択できます。FTDを追加するときに、FMCに同じキーを入力します。ブートストラップの設定は、初期導入専用、またはディザスタリカバリ用です。通常の運用では、アプリケーション CLI の設定でほとんどの値を変更できます。

例

次の例は、登録キーの値を設定する方法を示しています。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # create logical-device FTD1 ftd 1 standalone
Firepower /ssa/logical-device* # create mgmt-bootstrap ftd
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # create bootstrap-key-secret
REGISTRATION_KEY
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key-secret* # set value
Enter a value: gratuitousapples
Confirm the value: gratuitousapples
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key-secret* # exit
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create logical-device	論理デバイスを作成します。
	create mgmt-bootstrap	アプリケーションのブートストラップコンフィギュレーションを作成します。
	set value	このコマンドの値を設定します。

create bootstrap-key DNS_SERVERS

Threat Defense の DNS サーバーのカンマ区切りリストを指定するには、**create bootstrap-key DNS_SERVERS** コマンドを使用します。

create bootstrap-key DNS_SERVERS

コマンド モード `scope ssa/create logical-device/create mgmt-bootstrap/`

コマンド デフォルト デフォルトは no です。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン FMC は、FMC のホスト名を指定すると、DNS を使用します。

例

次の例は、ホスト名を指定する方法を示しています。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # create logical-device FTD1 ftd 1 standalone
Firepower /ssa/logical-device* # create mgmt-bootstrap ftd
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* # create bootstrap-key DNS_SERVERS
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # set value 10.9.8.7,10.9.6.5
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # exit
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create logical-device	論理デバイスを作成します。
	create mgmt-bootstrap	アプリケーションのブートストラップコンフィギュレーションを作成します。
	set value	このコマンドの値を設定します。

create bootstrap-key FIREPOWER_MANAGER_IP

管理側の Firepower Management Center の IP アドレスまたはホスト名もしくは NAT ID を指定するには、**create bootstrap-key FIREPOWER_MANAGER_IP** コマンドを使用します。

create bootstrap-key FIREPOWER_MANAGER_IP

コマンドモード scope ssa/create logical-device/create mgmt-bootstrap/

コマンド デフォルト デフォルトは no です。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 通常は、ルーティングと認証の両方の目的で両方の IP アドレス（登録キー付き）が必要です。FMC がデバイスの IP アドレスを指定し、デバイスが FMC の IP アドレスを指定します。ただし、IP アドレスの1つのみがわかっている場合（ルーティング目的の最小要件）は、最初の通信用に信頼を確立して正しい登録キーを検索するために、接続の両側に一意の NAT ID を指定する必要もあります。NAT ID として、1~37 文字の任意のテキスト文字列を指定できます。FMC およびデバイスでは、初期登録の認証と承認を行うために、登録キーおよび NAT ID（IP アドレスではなく）を使用します。

例

次に、SSH でエキスパート モードを有効にする例を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # create logical-device FTD1 ftd 1 standalone
Firepower /ssa/logical-device* # create mgmt-bootstrap ftd
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* # create bootstrap-key FIREPOWER_MANAGER_IP
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # set value 10.10.10.7
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # exit
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create logical-device	論理デバイスを作成します。
	create mgmt-bootstrap	アプリケーションのブートストラップコンフィギュレーションを作成します。
	set value	このコマンドの値を設定します。

create bootstrap-key SEARCH_DOMAINS

検索ドメインのカンマ区切りリストを指定するには、**create bootstrap-key SEARCH_DOMAINS** コマンドを使用します。

create bootstrap-key SEARCH_DOMAINS

コマンド モード scope ssa/create logical-device/create mgmt-bootstrap/

コマンド デフォルト デフォルトは no です。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	コマンドが追加されました。

例

次に、SSH でエキスパート モードを有効にする例を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # create logical-device FTD1 ftd 1 standalone
Firepower /ssa/logical-device* # create mgmt-bootstrap ftd
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* # create bootstrap-key SEARCH_DOMAINS
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # set value
cisco.com,example.com
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # exit
Firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create logical-device	論理デバイスを作成します。
	create mgmt-bootstrap	アプリケーションのブートストラップコンフィギュレーションを作成します。
	set value	このコマンドの値を設定します。

create breakout

ブレイクアウトポートを作成するには、**create breakout** コマンドを使用します。指定されたスロットとポートIDを持つブレイクアウトがすでに存在している場合、コマンドは失敗します。

ブレイクアウトポートを追加または開始するには、**enter breakout** コマンドを使用します。指定されたブレイクアウトが存在しない場合は、作成されて開始されます。ブレイクアウトポートが存在する場合は、そのポートが開始されます。

また、このコマンドの **scope** を使用して、既存のブレイクアウトポートを開始し、プロパティを表示することもできます。

既存のブレイクアウトポートを削除するには、このコマンドの **delete** を使用します。

create breakout *slot_ID* *port_ID*

構文の説明	<i>slot_ID</i>	このスロット番号を使用して、ブレイクアウトするポートモジュールを特定します。
	<i>port_ID</i>	このブレイクアウトポートに ID 番号を割り当てます。
コマンドモード	scope cabling/scope fabric a/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン ブレイクアウトケーブルと組み合わせ、このコマンドを使用すると、40ギガビットイーサネットポートを「ブレイクアウト」し、最大4個の未設定の10ギガビットポートを作成できます。

ハードウェアバイパス対応のインターフェイスをブレイクアウトポートとして設定することはできません。



(注) ポートでブレイクアウトを設定するとシステムが再起動するため、変更をコミットする前に、必要なすべてのポートをブレイクアウトすることをお勧めします。

例

次に、スロット2に4つのブレイクアウトポートを作成する例を示します。

```
firepower# scope cabling
firepower /cabling/fabric/ # scope fabric
firepower /cabling/fabric/ # create breakout 2 1
Warning: This action will reboot the system and any existing configurations on 40G port
will be erased.!
firepower /cabling/fabric/breakout* # up
```

```

firepower /cabling/fabric/ # create breakout 2 2
Warning: This action will reboot the system and any existing configurations on 40G port
will be erased.!
firepower /cabling/fabric/breakout* # up
firepower /cabling/fabric/ # create breakout 2 3
Warning: This action will reboot the system and any existing configurations on 40G port
will be erased.!
firepower /cabling/fabric/breakout* # up
firepower /cabling/fabric/ # create breakout 2 4
Warning: This action will reboot the system and any existing configurations on 40G port
will be erased.!
firepower /cabling/fabric/breakout* # commit-buffer
firepower /cabling/fabric/breakout #

```

関連コマンド

コマンド	説明
delete breakout	既存のブレイクアウト ポートを削除します。
enter aggr-interface	パラメータを設定できる集約インターフェイスを開始します。

create certreq

キーリング認証要求を追加するには、**create certreq** コマンドを使用します。キーリングの要求が現在すでに存在する場合、コマンドは失敗します。

既存の認証要求を編集するには、**enter certreq** コマンドを使用します。

また、このコマンドの **scope** を使用して、既存の認証要求を入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。

既存の認証要求を削除するには、**delete** コマンドを使用します。

create certreq [**ip** | **subject-name**]

delete certreq

enter certreq
scope certreq

構文の説明

ip *ip_address* (オプション) このデバイスが配置されているドメインの **ip** キーワードと IPv4 アドレスを入力します。要求のパスワードの入力と確定が求められます。このパラメータは、コマンドの **create certreq** 形式にのみ適用されます。

subject-name *name* (オプション) この要求の **subject-name** キーワードと識別子を入力します。たとえば、アプライアンスのホスト名を入力します。要求のパスワードの入力と確定が求められます。このパラメータは、コマンドの **create certreq** 形式にのみ適用されます。

コマンドモード

scope security/scope keyring/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

新しいキーリング認証要求を作成すると、新しい認証要求が定義およびコミットされていないことを示すアスタリスクが付いた認証要求モード (**security/keyring/certreq**) が自動的に開始されます。また、既存のキーリングの認証要求モードを調査することもできます。

認証要求パラメータを指定するには、認証要求モードで **set** コマンドを使用します。



(注) 新しい認証要求を作成またはコミットする前に、**set modulus** (313 ページ) を使用して RSA キー係数 (SSL キーの長さ) を設定する必要があります。

例

次の例は、新しいキーリングとその認証要求の作成方法を示しています。

```
firepower # scope security
firepower /security # create keyring test-ring2
firepower /security/keyring* # create certreq ip 209.165.201.20
Certificate request password:
Confirm certificate request password:
firepower /security/keyring* # scope certreq
firepower /security/keyring/certreq* #
firepower /security/keyring/certreq* # set ?
country          Country name (2 letter code)
dns              DNS name (subject alternative name)
e-mail          E-mail name
fi-a-ip         Certificate request FI A ip address
fi-a-ipv6       Certificate request FI A ipv6 address
fi-b-ip         Certificate request FI B ip address
fi-b-ipv6       Certificate request FI B ipv6 address
ip              Certificate request ip address
ipv6            Certificate request ipv6 address
locality        Locality name (eg, city)
org-name        Organisation name (eg, company)
org-unit-name   Organisational Unit Name (eg, section)
password        Certificate request password
state           State, province or county (full name)
subject-name    Certificate request subject name

firepower /security/keyring/certreq* # set
```

関連コマンド

コマンド	説明
delete certreq	既存のキーリング認証要求を削除します。
set (certreq)	キーリング認証要求関連の情報を設定します。

create class

統計情報のしきい値ポリシーに新しいクラスの統計情報を追加するには、**create class** コマンドを使用します。名前が指定されたクラスがすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

統計情報クラスを追加または編集するには、**enter class** コマンドを使用します。指定されたクラスが存在しない場合は、作成されて入力されます。クラスが存在する場合は、そのクラスが入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のクラスを入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。通常、オブジェクトの「調査」は入力するよりも簡単です。これは、オブジェクトの名前がすべて必要になるため、このコマンドの **enter** 形式では、すべての定義パラメータを入力する必要があります。

既存のクラスの統計情報を削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

```
create class type
delete class type
enter class type
scope class type
```

構文の説明

type

任意の統計情報クラスを指定します。

利用可能なクラスは、現在のモードの統計情報のしきい値ポリシーによって異なります。たとえば、eth-server/ モードの場合、利用可能なクラスは chassis-stats および ether-error-stats があります。eth-uplink/ モードの場合、利用可能なクラスは ether-rx-stats および ether-rx-stats があります。org/ モードの場合、利用可能なクラスは cpu-env-stats および ethernet-port-err-stats です。

現在の統計情報のしきい値ポリシーで利用可能なクラスのリストを表示するには、**create class ?** コマンドを使用します。

コマンドモード

```
scope eth-server/scope stats-threshold-policy/
scope eth-uplink/scope stats-threshold-policy/
scope org/scope stats-threshold-policy/
```

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

特定の統計情報セットに対してしきい値を設定するには、クラスを使用します。たとえば、ドロップされたパケットの平均数が特定の量を超えた場合に障害を出すしきい値をポートで定義できます。このクラスでは、イーサネット エラー統計情報のしきい値プロパティを作成します。

統計情報しきい値ポリシーには複数のクラスを設定できます。

set collection-interval コマンドを使用して、統計情報を収集する頻度を定義し、**set reporting-interval** コマンドを使用して、統計情報を報告する頻度を定義します。これらの間隔で統計情報収集ポリシーが定義されます。



- (注) イーサネット サーバ ポートまたはイーサネット アップリンク ポートごとにデフォルトの統計情報しきい値ポリシーが1つあります。追加の統計情報収集ポリシーは作成できません。また、このコンポーネントの既存のデフォルト ポリシーを削除できません。デフォルト ポリシーを変更するだけです。ただし、組織モード (scope org/) では統計情報のしきい値ポリシーを作成および削除できます。

例

次の例では、イーサネットサーバの統計情報しきい値ポリシークラスを調査し、シャーシ統計情報クラスを作成し、入力電力 (W) プロパティを作成し、通常電力を8kWに指定し、通常超えの警告しきい値 11 kW を作成し、クラスをコミットする方法を示します。

```
firepower # scope eth-server
firepower /eth-server # scope stats-threshold-policy default
firepower /eth-server/stats-threshold-policy # create class chassis-stats
firepower /eth-server/stats-threshold-policy/class* # create property input-power
firepower /eth-server/stats-threshold-policy/class/property* # set normal-value 8000.0
firepower /eth-server/stats-threshold-policy/class/property* # create threshold-value
above-normal warning
firepower /eth-server/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # set
escalating 11000.0
firepower /eth-server/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* #
commit-buffer
firepower /eth-server/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value #
```

次の例では、組織モードを調査し、サーバとサーバコンポーネント統計情報に新しい統計情報しきい値ポリシーを作成し、CPU環境統計情報のしきい値ポリシークラスを作成し、CPU 温度プロパティを作成し、通常の CPU 温度を摂氏 48.5 度に指定し、通常超えの警告しきい値を摂氏 50 度に作成し、トランザクション全体をコミットする方法を示します。

```
firepower # scope org
firepower /org # create stats-threshold-policy ServStatsPolicy
firepower /org/stats-threshold-policy* # create class cpu-env-stat
firepower /org/stats-threshold-policy/class* # create property temperature
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property* # set normal-value 48.5
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property* # create threshold-value above-normal
warning
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # set escalating
50.0
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # commit-buffer
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value #
```

関連コマンド

コマンド	説明
------	----

コマンド	説明
delete class	統計情報の既存のクラスを削除します。
enter class	統計情報クラスを入力します。クラスが存在しない場合は、クラスが作成されます。
enter property	統計情報のクラスにプロパティを入力または作成します。
scope stats-threshold-policy	stats-threshold-policy ポリシー モードを開始します。このモードでは、特定の統計情報クラスを管理します。

create connection

新しい IPSec 接続を追加するには、**create connection** コマンドを使用します。名前が指定された接続がすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

IPSec 接続を追加または編集するには、**enter connection** コマンドを使用します。指定された接続が存在しない場合は、作成されて入力されます。接続が存在する場合は、その接続が入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存の接続を入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。通常、オブジェクトの「調査」は入力するよりも簡単です。これは、オブジェクトの名前がすべて必要になるため、このコマンドの **enter** 形式では、すべての定義パラメータを入力する必要があります。

既存の接続を削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create connection *name*

enter connection *name*

delete connection *name*

scope connection *name*

構文の説明	<i>name</i>	接続名には 16 文字以内の英数字を使用できます。
コマンドモード	scope security/scope ipsec/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 新しい IPSec 接続を作成すると、新しい接続がまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いた security/ipsec/connection モードが自動的に開始されます。接続はコミットする前に設定できます。

接続を作成すると、名前を変更することはできません。接続を削除し、新しい接続を作成する必要があります。

例

次の例では、新しい IPSec 接続を作成して入力する方法を示します。

```
firepower # scope security
firepower /security # scope ipsec
firepower /security/ipsec # enter connection ipsec_conn2
firepower /security/ipsec/connection* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set adminstate	IPSec 接続の管理状態を有効または無効に設定します。
	show connection	現在の IPSec 接続情報を表示します。

create destination

新しい Smart Call Home の宛先を追加するには、**create destination** コマンドを使用します。名前が指定された宛先がすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

Smart Call Home の宛先を追加または編集するには、**enter destination** コマンドを使用します。指定された宛先が存在しない場合は、作成されて入力されます。宛先が存在する場合は、その宛先が入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存の宛先を入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。通常、オブジェクトの「調査」は入力するよりも簡単です。これは、オブジェクトの名前がすべて必要になるため、このコマンドの **enter** 形式では、すべての定義パラメータを入力する必要があります。

既存の宛先を削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

```
create destination name
delete destination name
enter destination name
scope destination name
```

構文の説明	<i>name</i>	Smart Call Home 宛先を識別する名前。
コマンドモード	scope monitoring/scope callhome/scope profile/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 新しい Smart Call Home 宛先を作成すると、新しい宛先がまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いた **callhome/profile** モード (**monitoring/callhome/profile**) が自動的に開始されます。宛先パラメータ (トランスポート プロトコルと電子メールアドレス) を設定してから、新しい宛先情報をコミットできます。



(注) **callhome** プロファイルで許可されている唯一の宛先アドレスは電子メールアドレスです。

Smart Call Home 宛先を作成すると、宛先名を変更することはできません。宛先を削除し、新しい宛先を作成する必要があります。

例

次の例では、Smart Call Home 宛先を作成、入力、および設定する方法を示します。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring # scope callhome
```

create destination

```

firepower /monitoring/callhome # scope profile SLProfile
firepower /monitoring/callhome/profile # enter destination TestDest
firepower /monitoring/callhome/profile/destination* # set address user1@test.com
firepower /monitoring/callhome/profile/destination* # set protocol email
firepower /monitoring/callhome/profile/destination* # commit-buffer
firepower /monitoring/callhome/profile/destination #

```

関連コマンド

コマンド	説明
delete destination	既存の Smart Call Home 宛先を削除します。
enter destination	Smart Call Home 宛先を入力します。
set address	Smart Call Home 宛先の電子メール アドレスを設定します。
set protocol	Smart Call Home 宛先のトランスポート プロトコルを設定します。

create dns

FXOS で DNS ネームサーバーを作成するには、**create dns** コマンドを使用します。

create dns

構文の説明	create dns	このコマンドは、FXOS で DNS ネームサーバーを作成するために使用されます。
コマンドモード	scope system/scope services	
コマンド履歴	リリー	変更内容
	ス	
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	デフォルトでは、このコマンドは FXOS に DNS ネームサーバーを作成します。	

例

次の例は、DNS ネームサーバーを作成する方法を示しています。

```
firepower# scope system; scope services
firepower /system /services # create dns 192.0.2.1
firepower /system /services* # commit
```

create hw-crypto

コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション 設定を作成するには、**create hw-crypto** コマンドを使用します。TLS 暗号化アクセラレーションに関する詳細については、*Management Center* コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

create hw-crypto

コマンドモード	connect module	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.7.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション 設定を削除できます。コンテナインスタンスで TLS 暗号化アクセラレーション が有効になっている場合、このコマンドを使用すると、設定は、削除される前に無効になります。

例

次に、TLS 暗号化アクセラレーション 設定を作成する例を示します。

```
scope ssa
/ssa # show app-instance

App Name      Identifier Slot ID   Admin State Oper State   Running Version Startup
Version Deploy Type Turbo Mode Profile Name Cluster State   Cluster Role
-----
ftd           FTD-FDM    1           Enabled    Online       6.5.0.1159    6.5.0.1159
              Native     No           Not Applicable  None
ftd           ftd2       2           Enabled    Online       6.5.0.1159    6.5.0.1159
              Container  No           Default-Small Not Applicable  None

/ssa # sc slot 2
/ssa/slot # scope app-instance ftd ftd2
/ssa/slot/app-instance # create hw-crypto
/ssa/slot/app-instance* # commit-buffer
```

関連コマンド	コマンド	説明
	delete hw-crypto	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション 設定を削除します。
	scope hw-crypto	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション 設定を有効または無効にします。
	show hw-crypto	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション 設定のステータスを表示します。

create ip-block

サービスアクセスにIPv4アドレスの新しいブロックを追加するには、**create ip-block** コマンドを使用します。プロパティが指定されたアドレスブロックがすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

IPv4 アドレスのブロックを追加または編集するには、**enter ip-block** コマンドを使用します。指定されたアドレスブロックが存在しない場合は、作成されて入力されます。アドレスブロックが存在する場合は、そのブロックが入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のアドレスブロックを入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。

既存のアドレス ブロックを削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create ip-block *ip_address* *prefix_length* {**https**|**snmp**|**ssh**}

delete ip-block *ip_address* *prefix_length* {**https**|**snmp**|**ssh**}

enter ip-block *ip_address* *prefix_length* {**https**|**snmp**|**ssh**}

scope ip-block *ip_address* *prefix_length* {**https**|**snmp**|**ssh**}

構文の説明

<i>ip_address</i>	IPv4 アドレス ブロックの開始アドレス。
<i>prefix_length</i>	プレフィックス長。ブロック内のアドレスの数を決定します。値は 0 ~ 32 です。
https snmp ssh	アドレスブロックが割り当てられるサービス (HTTPS、SNMP、または SSH)。

コマンドモード

scope system/scope services/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、IPv4アドレスのブロックを割り当て、指定されたサービス (HTTPS、SNMP、または SSH) にアクセスできます。

新しい IP ブロックを作成すると、新しいブロック割り当てがまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いた **ip-block** モード (system/services/ip-block) が自動的に入力されません。

FXOS バージョン 2.3.1 以前では、サービスごとに最大 25 個の異なるブロックを設定できます。FXOS バージョン 2.4.1 以降では、サービスごとに最大 100 個の異なるブロックを設定できます。アドレスを 0.0.0.0、プレフィックスを 0 と指定すると、サービスに無制限にアクセスできるようになります。アドレスの各ブロックは、自身の開始 IPv4 アドレスによって識別されます。

例

次の例では、IPv4アドレスブロックを作成、入力、および確認し、SSHにアクセスする方法を示します。

```
firepower # scope system
firepower /system # scope services
firepower /system/services # enter ip-block 192.168.200.101 32 ssh
firepower /system/services/ip-block* # commit-buffer
firepower /system/services/ip-block # up
firepower /system/services # show ip-block
```

```
Permitted IP Block:
  IP Address      Prefix Length Protocol
  -----
  0.0.0.0         0 https
  0.0.0.0         0 snmp
  0.0.0.0         0 ssh
  192.168.200.101 32 ssh
firepower /system/services #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create ipv6-block	IPv6 アドレス ブロックを作成します。
delete ip-block	既存の IPv4 ブロックを削除します。

create ipv6-block

サービスアクセスに IPv6 アドレスの新しいブロックを追加するには、**create ipv6-block** コマンドを使用します。プロパティが指定されたアドレスブロックがすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

IPv6 アドレスのブロックを追加または編集するには、**enter ipv6-block** コマンドを使用します。指定されたアドレスブロックが存在しない場合は、作成されて入力されます。アドレスブロックが存在する場合は、そのブロックが入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のアドレスブロックを入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。

既存のアドレスブロックを削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

```
create ipv6-block ipv6_address prefix_length {https|snmp|ssh}
delete ipv6-block ipv6_address prefix_length {https|snmp|ssh}
enter ipv6-block ipv6_address prefix_length {https|snmp|ssh}
scope ipv6-block ipv6_address prefix_length {https|snmp|ssh}
```

構文の説明	<i>ipv6_address</i>	IPv6 アドレス ブロックの開始アドレス。
	<i>prefix_length</i>	プレフィックス長。ブロック内のアドレスの数を決定します。値は 0 ~ 128 です。
	https snmp ssh	アドレスブロックが割り当てられるサービス (HTTPS、SNMP、または SSH)。
コマンドモード	scope system/scope services/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、IPv6アドレスのブロックを割り当て、指定されたサービス (HTTPS、SNMP、または SSH) にアクセスできます。

新しい IPv6 ブロックを作成すると、新しいブロック割り当てがまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いた **ipv6-block** モード (`system/services/ipv6-block`) が自動的に入力されます。

FXOS バージョン 2.3.1 以前では、サービスごとに最大 25 個の異なるブロックを設定できます。FXOS バージョン 2.4.1 以降では、サービスごとに最大 100 個の異なるブロックを設定できます。アドレスを `0:0:0:0:0:0:0`、プレフィックスを `0` と指定すると、サービスに無制限にアクセスできるようになります。アドレスの各ブロックは、自身の開始 IPv6 アドレスによって識別されます。

例

次の例では、IPv6アドレスブロックを作成、入力、および確認し、SSHにアクセスする方法を示します。

```
firepower # scope system
firepower /system # scope services
firepower /system/services # create ipv6-block 2001:DB8:1::1 64 ssh
firepower /system/services/ipv6-block* # commit-buffer
firepower /system/services/ipv6-block # up
firepower /system/services # show ipv6-block
```

```
Permitted IPv6 Block:
  IPv6 Address Prefix Length Protocol
  -----
  ::                      0 https
  ::                      0 snmp
  ::                      0 ssh
  2001:DB8:1::1
                          64 ssh
firepower /system/services #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create ip-block	IPv4 ブロックを作成します。
delete ipv6-block	既存の IPv6 ブロックを削除します。

create keyring

新しい RSA キーリングを追加するには、**create keyring** コマンドを使用します。名前が指定されたキーリングがすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

既存のキーリングを編集するには、**enter keyring** コマンドを使用します。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のキーリングを入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。

既存のキーリングを削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create keyring *name*

delete keyring *name*

enter keyring *name*

scope keyring *name*

構文の説明	<i>name</i>	キーリングを識別する名前には、1 ～ 16 文字を使用できます。
コマンドモード	scope security/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 新しいキーリングを作成すると、新しいキーリングがまだコミットされていないことを示すアラスタリスクが付いた **keyring** モード (**security/keyring**) が自動的に開始されます。キーリング認証要求を作成し、RSA キー係数や認証局トラストポイントなどのキーリングパラメータを設定して、新しいキーリング情報をコミットすることができます。

例

次の例では、新しい RSA キーリングを作成して入力する方法を示します。

```
firepower # scope security
firepower /security # enter keyring test_keyring
firepower /security/keyring* # set ?
    cert          Keyring certificate
    modulus       RSA key modulus
    regenerate    Regenerate keyring
    trustpoint    Trustpoint CA

firepower /security/keyring* # set
```

関連コマンド	コマンド	説明
	delete keyring	既存の RSA キーリングを削除します。

create local-user

新しいローカル ユーザ アカウントを追加するには、**create local-user** コマンドを使用します。名前が指定されたローカル ユーザ アカウントがすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

ローカル ユーザ アカウントを追加または編集するには、**enter local-user** コマンドを使用します。指定されたアカウントが存在しない場合は、作成されて入力されます。アカウントが存在する場合は、そのクラスが入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のローカル ユーザ アカウントを入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。

既存のローカル ユーザ アカウントを削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create local-user *user_name*

delete local-user *user_name*

enter local-user *user_name*

scope local-user *user_name*

構文の説明

user_name

このローカル ユーザ アカウントにログインする場合に使用される ID。ユーザ名を入力する場合は、次のガイドラインおよび制限事項に留意してください。

- 名前には、次を含む 1 ～ 32 文字を使用できます。
 - 任意の英字
 - 任意の数字
 - _ (アンダースコア)
 - - (ダッシュ)
 - . (ドット)
- 名前は一意である必要があります。
- 名前の先頭を英字にする必要があります。アンダースコアなどの特殊文字や数字から始めることはできません。
- 名前では、大文字と小文字が区別されます。
- すべて数字の名前を作成することはできません。

ユーザアカウントの作成後は、その名前を変更できません。ユーザアカウントを削除し、新しいユーザアカウントを作成する必要があります。

コマンド モード

scope security/

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 最大48のローカルユーザアカウントを設定できます。各アカウントには、一意のユーザ名とパスワードが必要です。

新しいユーザアカウントを作成すると、新しいアカウントがまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いた **local user** モード (`/security/local-user`) が自動的に開始されます。パスワードや姓名など、追加のユーザアカウント情報を指定してから、新しいアカウント情報をコミットすることができます。

ユーザアカウントの作成後は、アカウント名を変更できません。ユーザアカウントを削除し、新しいユーザアカウントを作成する必要があります。

例

次の例では、セキュリティモードを開始し、ローカルユーザアカウントを入力し（存在しないために新しいアカウントを同時に作成）、アカウントに姓と名を割り当てる方法を示します。

```
firepower # scope security
firepower /security # enter local-user test_user
firepower /security/local-user* # set firstname test
firepower /security/local-user* # set lastname user
firepower /security/local-user* # commit-buffer
firepower /security/local-user #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	delete local-user	既存のローカルユーザアカウントを削除します。
	set expiration	ユーザアカウントが期限切れになる日付を指定します。
	set password	ユーザアカウントのパスワードを設定します。

create member-port

ポートチャネルメンバーポートを作成するには、**create member-port** コマンドを使用します。指定された ID を持つメンバーポートがすでに存在している場合、コマンドは失敗します。

メンバーポートを追加または開始するには、**enter member-port** コマンドを使用します。指定されたメンバーポートが存在しない場合は、作成されて開始されます。メンバーポートが存在する場合は、そのポートが開始されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のメンバーポートを入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。

既存のメンバーポートを削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create member-port *interface_id*

構文の説明

<i>interface_id</i>	次のいずれかの形式を使用して、このポートチャネルに追加するインターフェイスを特定します。
	<ul style="list-style-type: none"> • <i>slot_id port_id</i> : スロット番号とポート番号で表されるシャーシ内のポートの場所。 • Ethernetslot_idport_id : イーサネットポートラベル。

コマンドモード

scope eth-uplink/scope fabric a/port-channel

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、ポートチャネルを作成または入力する必要があります。

新しいメンバーポートを作成すると、新しいメンバーポートがまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いたメンバーポートモード (**eth-uplink/fabric/port-channel/member-port**) が自動的に開始されます。

例

次の例は、新しいポートチャネルを作成し、それを有効にしてメンバーポートを追加する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink/fabric # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # create port-channel 4
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # enable
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/1
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/2
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/3
```

```
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/4
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create port-channel	新しい EtherChannel (ポートチャネル) を作成します。

create ntp-server

FXOS で NTP サーバーを作成するには、**create ntp-server** コマンドを使用します。

create ntp-server

構文の説明	create ntp-server	このコマンドは、FXOS で NTP サーバーを作成するために使用されます。
-------	--------------------------	--

コマンドモード	scope system/scope services/
---------	------------------------------

コマンド履歴	リリー 変更内容 ス
	1.1(1) コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	デフォルトでは、このコマンドは FXOS に NTP サーバーを作成します。
------------	--

例

次の例は、NTP サーバーを作成する方法を示しています。

```
firepower# scope system;scope services

firepower /system/services # create ntp-server 192.0.2.1
firepower /system/services # commit

firepower /system/services/ntp-server # set
  ntp-sha1-key-id      NTP SHA-1 key id  <===== [Optional] Configure NTP
authentication key ID
  ntp-sha1-key-string  NTP SHA-1 key string <===== [Optional] Configure NTP
authentication key string

firepower /system/services/ntp-server # commit
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show ntp-server	このコマンドは、NTP サーバーを表示します。

create policy (callhome)

新しい Smart Call Home およびスマート ライセンス ポリシーを追加するには、**create policy** コマンドを使用します。名前が指定されたポリシーがすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

IPSec 接続を追加または編集するには、**enter policy** コマンドを使用します。指定されたポリシーが存在しない場合は、作成されて入力されます。ポリシーが存在する場合は、そのポリシーが入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のポリシーを入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。

既存のポリシーを削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create policy *event*

delete policy *event*

enter policy *event*

scope policy *event*

構文の説明	<i>event</i>	障害またはシステムイベントのタイプ。イベントのオプションについては、次の使用ガイドラインを参照してください。
コマンドモード	scope monitoring/scope callhome/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 新しい Smart Call Home ポリシーを作成すると、新しいポリシーがまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いた **callhome/policy** モード (**monitoring/callhome/policy**) が自動的に開始されます。プロパティ値を設定し、サービスを有効/無効にしてから、新しいポリシーをコミットすることができます。

Smart Call Home ポリシーを作成した後は、ポリシー名を変更することはできません。ポリシーを削除し、新しいポリシーを作成する必要があります。

このコマンドを使用して、既存の障害またはシステムイベントの種類に対するポリシーのインスタンスを作成します。Call Home ポリシーのイベントタイプに使用できるキーワードは次のとおりです。

- adaptor-mismatch
- arp-targets-config-error
- association-failed
- configuration-failure
- connectivity-problem

- election-failure
- equipment-degraded
- equipment-disabled
- equipment-inaccessible
- equipment-inoperable
- equipment-offline
- equipment-problem
- equipment-removed
- fru-problem
- health-led-amber
- health-led-amber-blinking
- identity-unestablishable
- inventory-failed
- license-graceperiod-expired
- limit-reached
- link-down
- management-services-failure
- management-services-unresponsive
- memory-error
- mgmtif-down
- ndisc-targets-config-error
- near-max-limit
- port-failed
- power-problem
- psu-insufficient
- psu-mixed-mode
- thermal-problem
- version-incompatible
- vif-ids-mismatch
- voltage-problem

例

次の例では、link-down イベントの Call Home ポリシー インスタンスを作成、入力、および有効にする方法を示します。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring # scope callhome
firepower /monitoring/callhome # enter policy link-down
firepower /monitoring/callhome/policy* # set admin-state enabled
firepower /monitoring/callhome/policy* # commit-buffer
firepower /monitoring/callhome/policy #
```

関連コマンド

コマンド	説明
delete policy	既存の Smart Call Home ポリシーを削除します。
set admin-state	Smart Call Home ポリシー用のポリシーの管理状態を有効または無効にします。

create policy (flow control)

新しい名前付きフロー制御ポリシーを追加するには、**create policy** コマンドを使用します。名前が指定されたポリシーがすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

名前付きフロー制御ポリシーを追加または編集するには、**enter policy** コマンドを使用します。指定されたポリシーが存在しない場合は、作成されて入力されます。ポリシーが存在する場合は、そのポリシーが入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のポリシーを入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。

既存のポリシーを削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create policy *name*

delete policy *name*

enter policy *name*

scope policy *name*

構文の説明	<i>name</i>	フロー制御ポリシーを識別するための名前。名前には 1 ~ 16 文字を使用できます。
コマンドモード	scope eth-uplink/scope flow-control/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

フロー制御ポリシーは、ポートの受信バッファがいっぱいになったときに、アプライアンスドメインのアップリンクイーサネットポートが IEEE 802.3x ポーズフレームを送信および受信するかどうかを決定します。これらのポーズフレームは、バッファがクリアされるまでの数ミリ秒間、送信側ポートからのデータの送信を停止するように要求します。デバイス間でフロー制御が行われるようにするには、両方のデバイスで、対応する送信および受信フロー制御パラメータを有効にする必要があります。

デフォルトのフロー制御ポリシーは、送受信の制御を無効にし、自動ネゴシエーションに優先順位を設定します。

新しいフロー制御ポリシーを作成すると、新しいポリシーがまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いたフロー制御/ポリシーモード (**eth-uplink/flow-control/policy**) が自動的に開始されます。ポリシープロパティ値を設定し、新しいポリシーをコミットすることができます。

フロー制御ポリシーを作成した後にポリシー名を変更することはできません。ポリシーを削除し、新しいポリシーを作成する必要があります。

例

次の例は、フロー制御の名前付きポリシーを作成する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope flow-control
firepower /eth-uplink/flow-control # enter policy FCpolicy1
firepower /eth-uplink/flow-control/policy* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/flow-control/policy #
```

関連コマンド

コマンド	説明
delete policy	既存のフロー制御ポリシーを削除します。
set	フロー制御/ポリシーモードで、フロー制御ポリシーのプロパティを設定します。
show policy	フロー制御ポリシーのプロパティ値を表示します。

create port-channel

EtherChannel（ポートチャネルとも呼ばれる）を作成するには、**create port-channel** コマンドを使用します。指定された ID を持つポートチャネルがすでに存在している場合、コマンドは失敗します。

ポートチャネルを追加または開始するには、**enter port-channel** コマンドを使用します。指定されたポートチャネルが存在しない場合は、作成されて入力されます。ポートチャネルが存在する場合は、そのポートチャネルが入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のポートチャネルを入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。

既存のポートチャネルを削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create port-channelid

構文の説明	<i>id</i>	このポートチャネルに ID 番号を割り当てます。
コマンドモード	scope eth-uplink/scope fabric a/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 新しいポートチャネルを作成すると、新しいポートチャネルがまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いたポートチャネルモード（eth-uplink/fabric/port-channel）が自動的に開始されます。ポートチャネルパラメータを設定してから、新しいポートチャネルをコミットできます。

新しいポートチャネルを作成したら、それを有効にして、メンバーポートを追加します。

Firepower 4100/9300 シャーシが EtherChannel を作成すると、EtherChannel は [一時停止 (Suspended)] 状態になり、物理リンクがアップしても論理デバイスに割り当てられるまでそのままになります。EtherChannel は次のような状況でこの [一時停止 (Suspended)] 状態になります。

- EtherChannel がスタンドアロン論理デバイスのデータまたは管理ポートとして追加された。
- EtherChannel がクラスタの一部である論理デバイスの管理または CCL ポートとして追加された。
- EtherChannel がデータがクラスタの一部である論理デバイスのデータポートとして追加され、また少なくとも 1 つのセキュリティモジュールがクラスタに参加している。

EtherChannel は論理デバイスに割り当てられるまで動作しないことに注意してください。EtherChannel が論理デバイスから削除された場合や論理デバイスが削除された場合は、EtherChannel が [一時停止 (Suspended)] 状態に戻ります。



- (注) Firepower 4100/9300 シャーシは、アクティブ Link Aggregation Control Protocol (LACP) モードでのみ EtherChannel をサポートします。最適な互換性を得るために、接続スイッチポートをアクティブ モードに設定することを推奨します。

例

次の例は、新しいポートチャネルを作成し、それを有効にしてメンバーポートを追加する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink/fabric # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # create port-channel 4
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # enable
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/1
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/2
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/3
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/4
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create member-port	ポートチャネルにメンバーポートを追加します。
set (port-channel)	既存のポートチャネルのパラメータを設定または変更します。

create pre-login-banner

ログイン画面の前に表示されるバナーを作成するには、**create pre-login-banner** コマンドを使用します。ログイン前バナーがすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

ログイン前バナーを追加または編集するには、**enter pre-login-banner** コマンドを使用します。バナーが存在しない場合は、作成されて入力されます。バナーが存在する場合は、そのバナーが入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のバナーを入力し、メッセージを設定またはクリアすることもできます。

既存のバナーを削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create pre-login-banner

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	scope security/scope banner/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 新しいログイン前バナーを作成すると、最初は空白になり、バナーがまだ指定およびコミットされていないことを示すアスタリスクが付いた **pre-login-banner** モード (**security/banner/pre-login-banner**) が自動的に開始されます。

ログイン前バナー テキストを入力するには、**set message** コマンドを使用します。バナーメッセージを終了するには、ENDOFBUF (すべて大文字) と入力する必要があります。

このコマンドを入力したときにログイン前バナーがすでに存在する場合、コマンドは失敗し、「Error: Managed object already exists」というメッセージが表示されます。

例

次の例は、ログイン前バナーを作成および指定し、コミットおよび表示する方法を示します。

```
firepower # scope security
firepower /security # scope banner
firepower /security/banner # create pre-login-banner
firepower /security/banner/pre-login-banner* # set message
Enter lines one at a time. Enter ENDOFBUF to finish. Press ^C to abort.
Enter prelogin banner:
>Firepower-9300-2
>Western Data Center
>ENDOFBUF
firepower /security/banner/pre-login-banner* # commit
firepower /security/banner/pre-login-banner # show
```

```
Pre login banner:
  Message
  -----
  Firepower-9300-2
  Western Data Center

firepower /security/banner/pre-login-banner #
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear message	既存のログイン前バナーからテキストを削除します。実際のバナーオブジェクト自体は削除されません。
set message	ログイン前バナーとして表示されるテキスト行を指定します。

create profile

新しい Smart Call Home およびスマートライセンスの宛先プロファイルを追加するには、**create profile** コマンドを使用します。名前が指定されたプロファイルがすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

宛先プロファイルを追加または編集するには、**enter profile** コマンドを使用します。指定されたプロファイルが存在しない場合は、作成されて入力されます。プロファイルが存在する場合は、そのプロファイルが入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のプロファイルを入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。プロファイルが存在しない場合、コマンドは失敗します。

既存のプロファイルを削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create profile *name*

delete profile *name*

enter profile *name*

scope profile *name*

構文の説明	<i>name</i>	宛先プロファイルを識別する名前。
コマンドモード	scope monitoring/scope callhome/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 新しい Smart Call Home プロファイルを作成すると、新しいプロファイルがまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いた `callhome/profile` モード (`monitoring/callhome/profile`) が自動的に開始されます。プロファイルを定義して、新しいプロファイル情報をコミットすることができます。

Smart Call Home の宛先プロファイルを作成すると、プロファイル名を変更することはできません。プロファイルを削除し、新しいプロファイルを作成する必要があります。

例

次の例は、Smart Call Home の宛先プロファイルを作成および入力する方法を示しています。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring # scope callhome
firepower /monitoring/callhome # enter profile TestProfile
firepower /monitoring/callhome/profile* # commit-buffer
firepower /monitoring/callhome/profile #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	delete profile	既存の Smart Call Home の宛先プロファイルを削除します。
	set	monitoring/callhome モードで、プロファイルプロパティを設定します。
	show profile	現在定義されている Smart Call Home とスマート ライセンシングのプロファイルをリストします。monitoring/callhome モードで使用できます。

create property

ネットワーク統計情報のしきい値ポリシークラスに新しいプロパティを追加するには、**create property** コマンドを使用します。名前が指定されたプロパティがすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

統計情報のしきい値プロパティを追加または編集するには、**enter property** コマンドを使用します。指定されたプロパティが存在しない場合は、作成されて入力されます。プロパティが存在する場合は、そのプロパティが入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のプロパティを入力し、パラメータを割り当てまたは変更することもできます。通常、オブジェクトの「調査」は入力するよりも簡単です。これは、オブジェクトの名前がすべて必要になるため、このコマンドの **enter** 形式では、すべての定義パラメータを入力する必要があります。

既存のプロパティを削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create property *property-name*

delete property *property-name*

enter property *property-name*

scope property *property-name*

構文の説明

property-name

任意の統計情報プロパティを指定します。

利用可能なプロパティは、現在のモードと定義された統計情報のクラスによって異なります。たとえば、eth-server モードの chassis-stats クラスの場合、input-power および output-power オプションが使用できます。eth-uplink モードの ether-rx-stats クラスの場合、broadcast-packets-delta や total-bytes-delta などのプロパティが使用できます。

現在の統計情報のクラスで利用可能なプロパティのリストを表示するには、**create property ?** コマンドを使用します。

コマンドモード

scope eth-server/scope stats-threshold-policy/scope class/

scope eth-uplink/scope stats-threshold-policy/scope class/

scope org/scope stats-threshold-policy/scope class/

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

特定の統計情報セットに対してしきい値を設定するには、クラスを使用します。プロパティを使用して、ポリシークラスの特定の値と統計情報のしきい値を定義します。たとえば、ドロップされたパケットの平均数が特定の量を超えた場合に障害を出すしきい値をポートで定義でき

ます。このクラスでは、イーサネットエラー統計情報クラスのしきい値プロパティを作成します。

ポリシー クラスには複数のプロパティを設定できます。



- (注) イーサネット サーバポートまたはイーサネットアップリンクポートごとにデフォルトの統計情報しきい値ポリシーが1つあります。追加の統計情報収集ポリシーは作成できません。また、このコンポーネントの既存のデフォルトポリシーを削除できません。デフォルトポリシーを変更するだけです。ただし、組織モード (scope org/) では統計情報のしきい値ポリシーを作成および削除できます。

例

次の例は、デフォルトのイーサネットアップリンク統計情報のしきい値ポリシーを調査し、エラー統計情報クラスを作成し、巡回冗長検査 (CRC) エラーカウントプロパティを作成し、各ポーリング間隔の通常のCRCエラーカウントを1000に指定し、通常超えの警告しきい値1250を作成し、クラスをコミットする方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope stats-threshold-policy default
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy # create class ether-error-stats
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class* # create property crc-delta
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property* # set normal-value 1000
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property* # create threshold-value
above-normal warning
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # set
escalating 1250
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* #
commit-buffer
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value #
```

関連コマンド

コマンド	説明
delete property	既存のプロパティを削除します。
enter property	クラスプロパティを入力します。プロパティが存在しない場合は、プロパティが作成されます。
enter property	統計情報のクラスにプロパティを入力または作成します。
scope property	プロパティモードを開始します。このモードでは、統計情報のクラスのプロパティを管理します。

create resource-profile

コンテナインスタンスで使用するリソースプロファイルを追加するには、**create resource-profile** コマンドを使用します。

create resource-profile *name*

構文の説明

name プロファイルの名前を 1～64 文字で設定します。追加後にこのプロファイルの名前を変更することはできません。

コマンドモード

scope ssa/

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コンテナインスタンスごとにリソース使用率を指定するには、1つまたは複数のリソースプロファイルを作成します。論理デバイス/アプリケーションインスタンスを展開するときに、使用するリソースプロファイルを指定します。リソースプロファイルはCPU コアの数を設定します。RAM はコアの数に従って動的に割り当てられ、ディスク容量はインスタンスごとに 40 GB に設定されます。

- コアの最小数は 6 です。
- 内部アーキテクチャにより 8 コアを指定することはできません。
- コアを偶数（6、10、12、14 など）で最大値まで割り当てることができます。
- 利用可能な最大コア数は、セキュリティ モジュール/シャーシモデルによって異なります。

シャーシには、「Default-Small」と呼ばれるデフォルトリソースプロファイルが含まれています。このコア数は最小です。このプロファイルの定義を変更したり、使用されていない場合には削除することもできます。シャーシをリロードし、システムに他のプロファイルが存在しない場合は、このプロファイルが作成されます。

使用中のリソースプロファイルの設定を変更することはできません。そのリソースプロファイルを使用しているすべてのインスタンスを無効にしてから、リソースプロファイルを変更し、最後にインスタンスを再度有効にする必要があります。確立されたハイ アベイラビリティ ペア内のインスタンスのサイズを変更する場合、できるだけ早くすべてのメンバを同じサイズにする必要があります。

Threat Defense インスタンスを Management Center に追加した後にリソース プロファイル設定を変更する場合は、**[Devices] > [Device Management] > [Device] > [System] > [Inventory]** ダイアログボックスで各ユニットのインベントリを更新します。

例

次の例では、3つのリソース プロファイルを追加します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # enter resource-profile basic
firepower /ssa/resource-profile* # set description "lowest level"
firepower /ssa/resource-profile* # set cpu-core-count 6
firepower /ssa/resource-profile* # exit
firepower /ssa # enter resource-profile standard
firepower /ssa/resource-profile* # set description "middle level"
firepower /ssa/resource-profile* # set cpu-core-count 10
firepower /ssa/resource-profile* # exit
firepower /ssa # enter resource-profile advanced
firepower /ssa/resource-profile* # set description "highest level"
firepower /ssa/resource-profile* # set cpu-core-count 12
firepower /ssa/resource-profile* # commit-buffer
firepower /ssa/resource-profile #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set cpu-count	リソース プロファイルの CPU の数を設定します。
set resource-profile-name	リソース プロファイルがアプリケーション インスタンスに割り当てられました。
show monitor detail	セキュリティ モジュール/エンジン スロットのリソース使用率を表示します。
show resource detail	アプリケーションインスタンスのリソース割り当てを表示します。
show resource-profile user-defined	リソース プロファイルの割り当てを表示します。

create server (scope ldap)

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバーオブジェクトを作成するには、セキュリティ/LDAP モードで **create server** コマンドを使用します。名前が指定されたサーバーがすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

LDAP サーバーを追加または編集するには、セキュリティ/LDAP モードで **enter server** コマンドを使用します。指定されたサーバーが存在しない場合は、作成されて入力されます。サーバーが存在する場合は、そのサーバーが入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のサーバーを入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。

既存のサーバーを削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create server *id*

構文の説明	<i>id</i>	ホスト名、完全修飾ドメイン名 (FQDN)、または IP アドレス (IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを使用可能) を使用して、サーバー ID を指定します。
コマンドモード	scope security/scope ldap/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン ホスト名または FQDN を使用してサーバー *ID* を指定する場合は、DNS サーバーも設定する必要があります。

SSL が有効の場合、サーバー *ID* は、LDAP サーバーのセキュリティ証明書内の Common Name (CN) と正確に一致している必要があります。

新しい LDAP サーバーを作成すると、新しいサーバーがまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いたセキュリティ/LDAP/サーバーモードが自動的に開始されます。サーバーはコミットする前に設定できます。



(注) FXOS では、最大 16 の LDAP プロバイダーをサポートします。

例

次に、新しい LDAP サーバーを作成し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
firepower # scope security
firepower # scope ldap
```

```
firepower /security/ldap # create server 192.168.100.112  
Warning: LDAP server name has to be DNS name in Secure LDAP connection. It has to match  
the LDAP server certificate SAN field.  
firepower /security/ldap/server* # commit-buffer  
firepower /security/ldap/server #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create ldap-group-rule	LDAP プロバイダー グループ ルール パラメータを作成します。
set	セキュリティ/LDAP/サーバーモードで、SSL の有効化/無効化などのさまざまな LDAP サーバー関連パラメータを設定します。

create snmp-trap

Simple Network Management Protocol (SNMP) のトラップ宛先を削除するには、**create snmp-trap** コマンドを使用します。名前が指定されたトラップがすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

SNMP トラップを追加または編集するには、**enter snmp-trap** コマンドを使用します。指定されたトラップが存在しない場合は、作成されて入力されます。トラップが存在する場合は、そのトラップが入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のトラップを入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。通常、オブジェクトの「調査」は入力するよりも簡単です。これは、オブジェクトの名前がすべて必要になるため、このコマンドの **enter** 形式では、すべての定義パラメータを入力する必要があります。

既存のトラップを削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create snmp-trap destination

構文の説明

destination ホスト名または IP アドレス（IPv4 または IPv6 アドレスを指定可能）を使用して、トラップ宛先サーバを指定します。

コマンドモード

scope monitoring/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

SNMP (**enable snmp**) を有効にするには、事前に SNMP コミュニティ (**set snmp community**) を作成する必要があります。

新しい SNMP トラップを作成すると、新しいトラップがまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いた `monitoring/snmp-trap` モードが自動的に開始されます。



(注) 最大 8 つの SNMP トラップを作成できます。

例

次の例は、SNMP トラップを作成し、トランザクションをコミットする方法を示しています。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring/ # enable snmp
firepower /monitoring/ # create snmp-trap 192.168.100.112
firepower /monitoring/snmp-trap* # commit-buffer
```

```
firepower /monitoring/snmp-trap #
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable snmp	SNMP を有効にします。
set snmp	SNMP 設定パラメータを設定します。これは、コミュニティ、SNMP を担当するシステム担当者、およびホストの場所です。

create snmp-user

新しい SNMPv3 ユーザを作成するには、**create snmp-user** コマンドを使用します。名前が指定されたユーザがすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

SNMP ユーザを追加または編集するには、**enter snmp-user** コマンドを使用します。指定されたユーザが存在しない場合は、作成されて入力されます。ユーザが存在する場合は、そのユーザが入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のユーザを入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。通常、オブジェクトの「調査」は入力するよりも簡単です。これは、オブジェクトの名前がすべて必要になるため、このコマンドの **enter** 形式では、すべての定義パラメータを入力する必要があります。

既存のユーザを削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create snmp-user *user_name*

構文の説明	<i>user_name</i>	SNMPv3 ユーザー名を指定します。最大 32 文字の英数字、アンダースコア (_)、ドット (.)、アットマーク (@)、およびダッシュ (-) を使用できます。
コマンドモード	scope monitoring/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン SNMP (**enable snmp**) を有効にするには、SNMP ユーザを作成する前に SNMP コミュニティ (**set snmp community**) を作成する必要があります。

新しい SNMP ユーザを作成すると、そのユーザのパスワードを作成するように求められます。このパスワードの長さは 8 文字以上にする必要があります。パスワードは入力しても表示されません。

新しい SNMP ユーザを作成すると、新しいユーザがまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いた **monitoring/snmp-user** モードが自動的に開始されます。

例

次の例は、SNMPv3 ユーザを作成する方法を示しています。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring/ # enable snmp
firepower /monitoring/ # create snmp-user test1
Password:
firepower /monitoring/snmp-user* # commit-buffer
firepower /monitoring/snmp-user #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	enable snmp	SNMP を有効にします。
	set snmp	SNMP 設定パラメータを設定します。これは、コミュニティ、SNMP を担当するシステム担当者、およびホストの場所です。

create ssh-server

新しい SSH ホスト キーを作成するには、**host-key** キーワードが指定された **create ssh-server** コマンドを使用します。

既存の SSH ホスト キーを作成するには、**host-key** キーワードが指定された **delete ssh-server** コマンドを使用します。

```
create ssh-server host-key
create ssh-server host-key
```

構文の説明	このコマンドには、追加の引数はありません。	
コマンドモード	scope system/scope services/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドの **create** 形式を使用して、新しい SSH ホスト キーを生成します。
このコマンドの **delete** 形式を使用して、新しい SSH ホスト キーを作成する前に既存のキーを破棄します。

例

次の例は、新しい SSH サーバ ホスト キーを生成する方法を示しています。

```
firepower # scope system
firepower /system # scope services
firepower /system/services # create ssh-server host-key
firepower /system/services* # commit-buffer
firepower /system/services #
```

次の例は、既存の SSH ホスト キーを削除して、自身の宛先を確認する方法を示しています。

```
firepower # scope system
firepower /system # scope services
firepower /system/services # delete ssh-server host-key
firepower /system/services* # commit-buffer
firepower /system/services # show ssh-server host-key
Host Key Size: 2048
Deleted: Yes
firepower /system/services #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set ssh-server	SSH サーバのホスト キーのサイズを設定します。
	show ssh-server	SSH サーバのプロパティを表示します。

create stats-threshold-policy

新しい統計情報しきい値ポリシーを作成するには、**create stats-threshold-policy** コマンドを使用します。名前が指定されたポリシーがすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

organization モードでしきい値ポリシーを追加または編集するには、**enter stats-threshold-policy** コマンドを使用します。指定されたポリシーが存在しない場合は、作成されて入力されます。ポリシーが存在する場合は、そのポリシーが入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、**organization** モードで既存の統計情報しきい値ポリシーを入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。通常、オブジェクトの「調査」は入力するよりも簡単です。これは、オブジェクトの名前がすべて必要になるため、このコマンドの **enter** 形式では、すべての定義パラメータを入力する必要があります。

既存のポリシーを削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create stats-threshold-policy *policy-name*

構文の説明

<i>policy-name</i>	新しい統計情報しきい値ポリシーの名前。 (注) イーサネットサーバポート (<code>scope eth-server/</code>) またはイーサネットアップリンクポート (<code>scope eth-uplink/</code>) のデフォルトの統計情報しきい値ポリシーを作成または削除することはできません。
--------------------	---

コマンドモード

scope org/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

統計情報しきい値ポリシーは、システムの特定の側面についての統計情報をモニタし、指定されたしきい値を超えた場合にはイベントを生成します。最小値と最大値の両方のしきい値を設定できます。たとえば、CPUの温度が特定の値を超えた場合や、サーバを過度に使用していたり、サーバの使用に余裕がある場合には、アラームを発生するようにポリシーを設定できます。

組織モードで追加の統計情報のしきい値ポリシーを作成、入力、および削除できます。イーサネットサーバポートまたはイーサネットアップリンクポートでは、追加の統計情報のしきい値ポリシーを作成できません。また、このコンポーネントの既存のデフォルトポリシーを削除することもできません。デフォルトポリシーを変更できるだけです。



- (注) **set collection-interval** コマンドを使用して、統計情報を収集する頻度を定義し、**set reporting-interval** コマンドを使用して、統計情報を報告する頻度を定義します。これらの間隔で統計情報収集ポリシーが定義されます。

例

次の例では、組織モードを調査し、サーバとサーバコンポーネント統計情報に新しい統計情報しきい値ポリシーを作成し、CPU 環境統計情報のしきい値ポリシークラスを作成し、CPU 温度プロパティを作成し、通常の CPU 温度を摂氏 48.5 度に指定し、通常超えの警告しきい値を摂氏 50 度に作成し、トランザクション全体をコミットする方法を示します。

```
firepower # scope org
firepower /org # create stats-threshold-policy ServStatsPolicy
firepower /org/stats-threshold-policy* # create class cpu-env-stat
firepower /org/stats-threshold-policy/class* # create property temperature
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property* # set normal-value 48.5
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property* # create threshold-value above-normal
warning
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # set escalating
50.0
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # commit-buffer
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create class	統計情報の新しいクラスを作成します。
create property	統計情報のクラスの新しいプロパティを作成します。
create threshold-value	クラスプロパティにしきい値 (above-normal または below-normal) を指定します。
scope org	組織モードを開始します。

create subinterface

コンテナ インスタンスで使用する物理または EtherChannel インターフェイスにサブインターフェイスを追加するには、**create subinterface** コマンドを使用します。

create subinterface *id*

構文の説明	<i>id</i>	ID を 1 ～ 4294967295 で設定します。この ID は、 <i>interface_id.subinterface_id</i> のように親インターフェイスの ID に追加されます。たとえば、サブインターフェイスを ID 100 でイーサネット 1/1 に追加する場合、そのサブインターフェイス ID はイーサネット 1/1.100 になります。利便性を考慮して一致するように設定することができますが、この ID は VLAN ID と同じではありません。
コマンド モード	scope eth-uplink/scope fabric a/scope interface/ scope eth-uplink/scope fabric a/create port-channel/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン シャーシには最大 500 個のサブインターフェイスを追加できます。

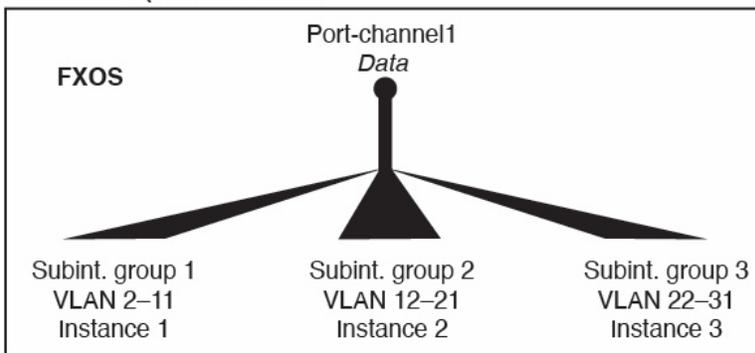
スタンドアロンインターフェイスの場合、サブインターフェイスは、データまたはデータ共有タイプのインターフェイスでのみサポートされます。マルチインスタンス クラスターリングの場合、クラスタタイプのインターフェイスにサブインターフェイスを追加するだけです。データインターフェイス上のサブインターフェイスはサポートされません。

インターフェイスごとの VLAN ID は一意である必要があります。コンテナ インスタンス内では、VLAN ID は割り当てられたすべてのインターフェイス全体で一意である必要があります。異なるコンテナ インターフェイスに割り当てられている限り、VLAN ID を別のインターフェイス上で再利用できます。ただし、同じ ID を使用していても、各サブインターフェイスが制限のカウント対象になります。

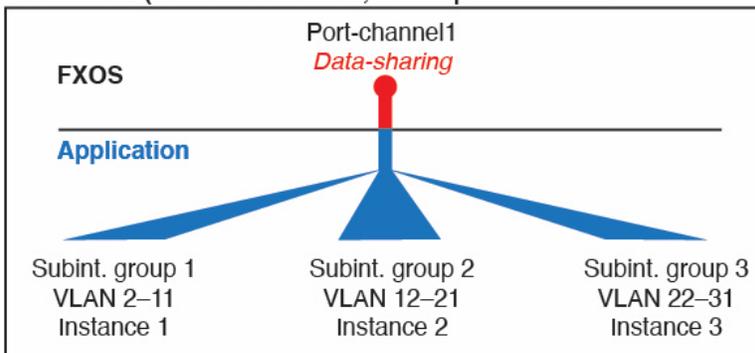
ネイティブ インスタンスの場合、アプリケーション内にも VLAN サブインターフェイスを作成できます。コンテナ インスタンスの場合、FXOS VLAN サブインターフェイスが定義されていないインターフェイスのアプリケーション内でも VLAN サブインターフェイスを作成できます。これらのサブインターフェイスには FXOS 制限が適用されません。サブインターフェイスを作成するオペレーティングシステムの選択は、ネットワーク導入および個人設定によって異なります。たとえば、サブインターフェイスを共有するには、FXOS でサブインターフェイスを作成する必要があります。FXOS サブインターフェイスを優先するもう 1 つのシナリオでは、1 つのインターフェイス上の別のサブインターフェイスグループを複数のインスタンスに割り当てます。たとえば、インスタンス A で VLAN 2-11 を、インスタンス B で VLAN 12-21 を、インスタンス C で VLAN 22-31 を使用して Port-Channel1 を使うとします。アプリケーション内でこれらのサブインターフェイスを作成する場合、FXOS 内で親インターフェイスを共有

しますが、これはお勧めしません。このシナリオを実現する3つの方法については、次の図を参照してください。

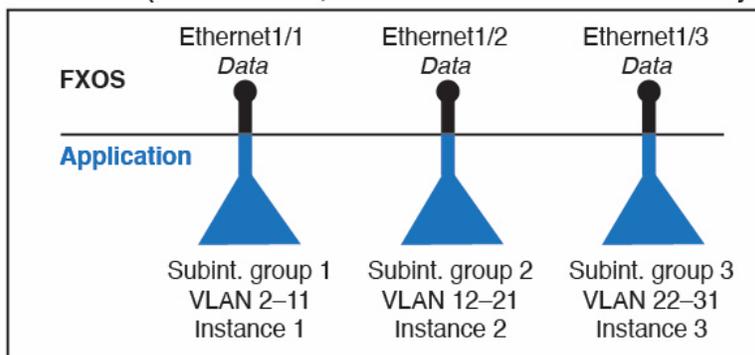
Scenario 1 (recommended)



Scenario 2 (not recommended, worse performance)



Scenario 3 (recommended, but lacks EtherChannel redundancy)



現在論理デバイスに割り当てられている物理インターフェイスにサブインターフェイスを追加することはできません。親の他のサブインターフェイスが割り当てられている場合、その親インターフェイス自体が割り当てられていない限り、新しいサブインターフェイスを追加できません。

例

次に、イーサネット 1/1 上の3つのサブインターフェイスを作成し、データ共有インターフェイスに設定する例を示します。

create subinterface

```

firepower# scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # scope interface Ethernet1/1
firepower /eth-uplink/fabric/interface # create subinterface 10
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set vlan 10
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set port-type data-sharing
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/interface # create subinterface 11
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set vlan 11
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set port-type data-sharing
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/interface # create subinterface 12
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set vlan 12
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set port-type data-sharing
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface #

```

関連コマンド

コマンド	説明
create port-channel	EtherChannel（ポートチャネル）を作成します。
scope interface	物理インターフェイスオブジェクトを入力します。
set port-type	インターフェイスタイプを設定します。
set vlan	サブインターフェイスの VLAN ID を設定します。

create threshold-value

クラス プロパティにしきい値 (above-normal または below-normal) を追加するには、**create threshold-value** コマンドを使用します。名前が指定されたしきい値がすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

しきい値を追加または編集するには、**enter threshold-value** コマンドを使用します。指定されたしきい値が存在しない場合は、作成されて入力されます。しきい値が存在する場合は、そのしきい値が入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のしきい値を入力し、パラメータを割り当てまたは変更することもできます。通常、オブジェクトの「調査」は入力するよりも簡単です。これは、オブジェクトの名前がすべて必要になるため、このコマンドの **enter** 形式では、すべての定義パラメータを入力する必要があります。

既存のしきい値を削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create threshold-value { **above-normal** | **below-normal** *event_type* }

構文の説明

above-normal | **below-normal** しきい値のタイプ (above-normal または below-normal) を指定します。これは、モニタ対象の値 (個別に設定) が関連する通常値 (個別に設定) に対して増減した場合に、指定された *event_type* が記録されるかどうかを決定します。

event_type ログに記録されるイベントのタイプを指定します。

- cleared
- condition
- critical
- info
- major
- minor
- warning

コマンドモード

scope eth-server/scope stats-threshold-policy/scope class/scope property/
scope eth-uplink/scope stats-threshold-policy/scope class/scope property/
scope org/scope stats-threshold-policy/scope class/scope property/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 特定の統計情報セットに対してしきい値を設定するには、クラスを使用します。プロパティを使用して、ポリシー クラスの通常値やしきい値などの特定の値を定義します。たとえば、ドロップされたパケットの平均数が特定の量を超えた場合に障害を出すしきい値をポートで定義できます。このクラスでは、イーサネットエラー統計情報クラスのしきい値プロパティを作成します。

1つのポリシー クラスに複数のプロパティを設定できます。また、1つのプロパティに対して複数のしきい値を作成することもできます。



- (注) イーサネット サーバ ポートまたはイーサネット アップリンク ポートごとにデフォルトの統計情報しきい値ポリシーが1つあります。追加の統計情報収集ポリシーは作成できません。また、このコンポーネントの既存のデフォルトポリシーを削除できません。デフォルトポリシーを変更するだけです。ただし、組織モード (scope org/) では統計情報のしきい値ポリシーを作成および削除できます。

例

次の例では、デフォルトのイーサネットサーバの統計情報しきい値ポリシークラスを調査し、シャシ統計情報クラスを作成し、入力電力 (W) プロパティを作成し、通常電力レベルを 8 kW に指定し、通常超えの警告しきい値 11 kW を作成し、クラスをコミットする方法を示します。

```
firepower # scope eth-server
firepower /eth-server # scope stats-threshold-policy default
firepower /eth-server/stats-threshold-policy # create class chassis-stats
firepower /eth-server/stats-threshold-policy/class* # create property input-power
firepower /eth-server/stats-threshold-policy/class/property* # set normal-value 8000.0
firepower /eth-server/stats-threshold-policy/class/property* # create threshold-value
above-normal warning
firepower /eth-server/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # set
escalating 11000.0
firepower /eth-server/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* #
commit-buffer
firepower /eth-server/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value #
```

関連コマンド

コマンド	説明
enter class	統計情報のクラスを入力または作成します。
enter property	統計情報のクラスにプロパティを入力または作成します。
scope stats-threshold-policy	stats-threshold-policy ポリシー モードを開始します。このモードでは、統計情報クラスを管理します。
set normal-value	クラス プロパティに通常値を指定します。

create trustpoint

インターネットキーエクスチェンジ (IKE) 認証時に証明書検証用の新しいトラストポイントを追加するには、**create trustpoint** コマンドを使用します。名前が指定された接続がすでに存在する場合、コマンドは失敗します。

トラストポイントを追加または編集するには、**enter trustpoint** コマンドを使用します。指定されたトラストポイントが存在しない場合は、作成されて入力されます。トラストポイントが存在する場合は、そのトラストポイントが入力されます。

また、このコマンドの **scope** 形式を使用して、既存のトラストポイントを入力し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。

既存のトラストポイントを削除するには、このコマンドの **delete** 形式を使用します。

create trustpoint *name*

delete trustpoint *name*

enter trustpoint *name*

scope trustpoint *name*

構文の説明	<i>name</i>	トラストポイント名には 32 文字以内の英数字を使用できます。
コマンドモード	scope security/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、インターネットキーエクスチェンジ (IKE) 認証時の証明書検証に使用するトラストポイントを識別します。

新しいトラストポイントを作成すると、新しいトラストポイントがまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いた **security/trustpoint** モードが自動的に開始されます。トラストポイントを作成した後は、名前を変更することはできません。トラストポイントを削除し、新しいトラストポイントを作成する必要があります。

例

次の例は、トラストポイントの作成方法と入力方法を示しています。

```
firepower # scope security
firepower /security # enter trustpoint tPoint4
firepower /security/trustpoint* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set certchain	トラストポイントの証明書情報を設定します。
	show trustpoint	現在のトラストポイント情報を表示します。

cycle

セキュリティ モジュール/サーバの電源を再投入するには、いずれかの **cycle** コマンドを使用します。

cycle { **cycle-immediate** | **cycle-wait** }

構文の説明	cycle-immediate	すぐにモジュールの電源の再投入を行います。
	cycle-wait	システムはモジュールで実行中のアプリケーションがシャットダウンするまで最大5分待ってから、モジュールの電源の再投入を行います。
コマンドモード	scope service-profile/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、実行中のアプリケーションがシャットダウンされた後にモジュールの電源を再投入する方法を示しています。

```
firepower # scope service-profile server 1/1
firepower /org/service-profile # cycle cycle-wait
firepower /org/service-profile* # commit-buffer
firepower /org/service-profile #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set adminstate	ネットワーク モジュールのオフラインまたはオンラインを切り替えます。



D-R コマンド

- [decommission](#) (125 ページ)
- [decommission-secure](#) (126 ページ)
- [delete hw-crypto](#) (127 ページ)
- [delete](#) (128 ページ)
- [delete decommissioned server](#) (130 ページ)
- [deregister](#) (131 ページ)
- [disable \(app-instance\)](#) (132 ページ)
- [disable \(export-configuration\)](#) (134 ページ)
- [disable \(interface\)](#) (135 ページ)
- [disable \(port-channel\)](#) (136 ページ)
- [disable \(security modes\)](#) (137 ページ)
- [disable reservation](#) (138 ページ)
- [disable snmp](#) (139 ページ)
- [discard-buffer](#) (140 ページ)
- [download image](#) (141 ページ)
- [enable \(app-instance\)](#) (143 ページ)
- [enable \(CC and FIPS security modes\)](#) (145 ページ)
- [enable \(export-configuration\)](#) (147 ページ)
- [enable \(interface\)](#) (148 ページ)
- [enable \(port-channel\)](#) (149 ページ)
- [enable reservation](#) (150 ページ)
- [enable snmp](#) (151 ページ)
- [end](#) (152 ページ)
- [enter](#) (153 ページ)
- [erase](#) (155 ページ)
- [exit](#) (157 ページ)
- [export-config](#) (158 ページ)
- [generate password](#) (160 ページ)
- [import-config](#) (161 ページ)

- [install](#) (164 ページ)
- [install firmware](#) (165 ページ)
- [install platform](#) (167 ページ)
- [mgmt-port \(connect local-mgmt\)](#) (169 ページ)
- [ping \(connect local-mgmt\)](#) (170 ページ)
- [ping6 \(connect local-mgmt\)](#) (172 ページ)
- [power](#) (174 ページ)
- [reboot](#) (175 ページ)
- [reinstall](#) (177 ページ)
- [register](#) (178 ページ)
- [reinitialize](#) (179 ページ)
- [remove server](#) (180 ページ)
- [renew](#) (181 ページ)
- [reset-password](#) (182 ページ)
- [request universal](#) (183 ページ)
- [restart](#) (184 ページ)
- [return](#) (185 ページ)

decommission

サーバの稼働を中止するには、**decommission server** コマンドを使用します。

decommission server {*id*|*chassis_id/blade_id*}

構文の説明

<i>id</i>	サーバの ID 番号。1 ~ 255 の値です。
<i>chassis_id/blade_id</i>	n/n 形式のシャーシおよびブレードの ID 番号。

コマンドモード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.3(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

使用停止にするモジュールをホストしているデバイスの種類によって、モジュールはモジュールIDで識別されるか（4100 シリーズ）、シャーシ番号とモジュール番号で識別されます（9300 デバイス）。

セキュリティモジュールを使用停止にすると、そのモジュールオブジェクトが設定から削除され、そのモジュールは管理対象外になります。モジュール上で実行していた論理デバイスやソフトウェアは非アクティブになります。

例

次の例では、サーバの稼働を中止する方法を示します。

```
firepower# decommission server 1/1
firepower* # commit-buffer
firepower #
```

関連コマンド

コマンド	説明
delete decommissioned	稼働中止されたサーバを削除します。
show server decommissioned	稼働中止されたすべてのサーバを表示します。

decommission-secure

サーバーの稼働を安全に中止するには、**decommission-secure server** コマンドを使用します。

decommission-secure server *chassis_id/blade_id*

構文の説明	<i>chassis_id/blade_id</i>	n/n 形式のシャーシおよびブレードの ID 番号。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.7(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、指定したモジュールが安全に消去されます。つまり、単にデータが削除されるだけでなく、物理ストレージが「ワイプ」（完全に消去）されます。セキュリティモジュールが消去されると、確認応答されるまでダウンした状態になります（デコミッションされたモジュールと同様）。

例

次の例は、サーバーの稼働を安全に中止する方法を示しています。

```
firepower# decommission-secure server 1/2
Warning:
1.Secure decommissioning of the service module may take some time. Please use the CLI
command 'show slot status [n/n] detail' to check for completion.
2.All of the application data on the service module will be lost. Please back up the
application's configuration files before executing the commit-buffer command.
firepower* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	decommission server	サーバーの稼働を中止します。モジュールオブジェクトは設定から削除されますが、物理ストレージは完全には消去されません。
	erase secure	指定されたシステムコンポーネントを安全に消去します。

delete hw-crypto

コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション設定を削除するには、**delete hw-crypto** コマンドを使用します。TLS 暗号化アクセラレーションの詳細については、『*Firepower Management Center Configuration Guide*』を参照してください。

delete hw-crypto

コマンドモード	connect module	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.7.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション設定を削除できます。コンテナインスタンスで TLS 暗号化アクセラレーションが有効になっている場合、このコマンドを使用すると、設定は、削除される前に無効になります。

例

次に、TLS 暗号化アクセラレーション設定を削除する例を示します。

```
scope ssa
/ssa # show app-instance

App Name      Identifier Slot ID      Admin State Oper State      Running Version Startup
Version Deploy Type Turbo Mode Profile Name Cluster State Cluster Role
-----
ftd           FTD-FDM    1           Enabled    Online           6.5.0.1159    6.5.0.1159
Native       No                               Not Applicable None
ftd           ftd2      2           Enabled    Online           6.5.0.1159    6.5.0.1159
Container    No           Default-Small Not Applicable None

/ssa # sc slot 2
/ssa/slot # scope app-instance ftd ftd2
/ssa/slot/app-instance # delete hw-crypto
/ssa/slot/app-instance* # commit-buffer
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create hw-crypto	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション設定を作成します。
	scope hw-crypto	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション設定を有効または無効にします。
	show hw-crypto	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション設定のステータスを表示します。

delete

既存の管理対象オブジェクトを削除するには、適切なコマンドモードで該当する **delete** コマンドを使用します。

delete *object_type* *name* [*parameters*]

構文の説明

<i>object_type</i>	削除するオブジェクトのタイプ。例には、ローカル ユーザ アカウントと組織が含まれています。
<i>name</i>	削除する特定のオブジェクトの名前。
パラメータ	(オプション) オブジェクトの識別に必要な追加のプロパティまたはパラメータ。詳細については、特定のオブジェクトに対する create コマンドの説明を参照してください。

コマンドモード

削除対象のオブジェクトのタイプに応じて異なります。詳細については、特定のオブジェクトに対する **create** コマンドの説明を参照してください。

コマンド履歴

履歴情報については、特定のオブジェクトに対する **create** コマンドの説明を参照してください。

使用上のガイドライン

オブジェクトは、管理可能な物理コンポーネントエンティティまたは論理エンティティを抽象的に表現したものです。たとえば、シャーシ、セキュリティ モジュール、ネットワーク モジュール、ポート、プロセッサは、管理対象オブジェクトとして表現される物理コンポーネントです。また、ライセンス、ユーザロール、プラットフォームポリシーは、管理対象オブジェクトとして表現される論理エンティティです。

FXOS には、オブジェクト管理用に一般的な 4 つのコマンド (**create**、**delete**、**enter**、**scope**) があります。たとえば、ローカル ユーザ アカウントの作成、ローカル ユーザ アカウントの削除、ローカル ユーザ アカウントの入力を行い、そのアカウントのプロパティを割り当てまたは変更することができます。また、ローカル ユーザ アカウントを「調査」し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。

通常、これらのオブジェクト管理コマンドごとに利用可能なキーワードとオプションは同じであるため、さまざまなオブジェクト コマンドの **create** バージョンだけについて説明します。つまり、特定のオブジェクトの **delete** コマンドの詳細については、そのオブジェクトの **create** コマンドの説明を参照してください。たとえば、既存のローカル ユーザ アカウントの削除に関連する情報については、[create local-user \(84 ページ\)](#) を参照してください。

例

次の例は、セキュリティ モードを開始して、ローカル ユーザ アカウントを削除する方法を示しています。

```
firepower # scope security
firepower /security # delete local-user test_user
firepower /security/local-user* # commit-buffer
firepower /security/local-user #
```

次の例は、ローカルユーザーアカウントを入力してから、ユーザーロールを削除する方法を示しています。

```
firepower # scope security
firepower /security # enter local-user test_user
firepower /security/local-user # delete role aaa
Warning: Change of privileges will terminate active sessions (CLI and Web) of user
'test_user
firepower /security/local-user* # commit-buffer
firepower /security/local-user #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create local-user	新規のローカル ユーザ アカウントを作成します。
enter local-user	ローカル ユーザ アカウントを追加または編集します。
delete local-user	既存のローカル ユーザ アカウントを削除します。
scope local-user	既存のローカル ユーザ アカウントを入力します。

delete decommissioned server

稼働中止されたサーバを削除するには、**delete decommissioned server** コマンドを使用します。

delete decommissioned server *vendor model serial_number*

構文の説明	<i>vendor</i>	サーバを製造した会社の名前です。入力できる最大文字数は510文字です。
	<i>model</i>	モジュールのモデル名です。入力できる最大文字数は510文字です。
	<i>serial_number</i>	モジュールのシリアル番号です。入力できる最大文字数は510文字です。

コマンドモード 任意のコマンドモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.4(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、稼働中止されたサーバを削除する方法を示しています。

```
FP9300-A # delete decommissioned server Cisco Systems, Inc.
Cisco Firepower 9000 Series Security Module
FLM1949C6J1
FP9300-A* # commit-buffer
```

関連コマンド	コマンド	説明
	decommission server	サーバの稼働を中止します。

deregister

この Firepower 4100/9300 デバイスをシスコ スマート ソフトウェア ライセンシングのアカウントから削除するには、**deregister** コマンドを使用します。

deregister

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

License mode

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

登録解除すると、アカウントからデバイスが削除され、デバイス上のすべてのライセンス権限と証明書が削除されます。この操作により、新しい Firepower 4100/9300 用にライセンスを解放したり、Smart Software Manager からデバイスを削除したりすることができます。

例

次の例は、このデバイスを登録解除する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope license
FP9300-A /license # deregister
FP9300-A /license #
```

関連コマンド

コマンド	説明
register	この Firepower 4100/9300 デバイ스에 Smart Software Manager のアカウントを登録します。

disable (app-instance)

既存のアプリケーションインスタンスを無効にするには、app-instance モードで **disable** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope ssa/scope slot/scope app-instance

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、アプリケーションインスタンスをシステムから削除せずに無効にできます。

例

次の例は、ステータスを含む現在のアプリケーションインスタンスを表示し、アプリケーションインスタンス モードを開始し、アプリケーション インスタンスを無効にする方法を示しています。

```
firepower # scope ssa
firepower /ssa # scope slot 2
firepower /ssa/slot # show app-instance
```

```
Application Instance:
  App Name   Identifier Admin State Oper State   Running Version Startup Version
  Deploy Type Profile Name Cluster State Cluster Role
  -----
  ftd1      IFT-63     Enabled   Online     6.3.0.12   6.3.0.12
  Native                    In Cluster   Slave
```

```
Application Instance:
  App Name   Identifier Admin State Oper State   Running Version Startup Version
  Deploy Type Profile Name Cluster State Cluster Role
  -----
  ftd2      FTD-2     Enabled   Online     6.3.0.12   6.3.0.12
  Container bronze      Not Applicable None
firepower /ssa/slot # scope app-instance ftd2 FTD-2
firepower /ssa/slot/app-instance # disable
firepower /ssa/slot/app-instance* # commit-buffer
firepower /ssa/slot/app-instance #
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable	既存のアプリケーション インスタンスを有効にします。

コマンド	説明
scope app-instance	特定のアプリケーション インスタンスのアプリケーション モードを開始します。

disable (export-configuration)

既存のエクスポート設定オブジェクトを無効にするには、`export-config` モードで **disable** コマンドを使用します。

既存のアプリケーションインスタンスを無効にするには、`app-instance` モードで **disable** コマンドを使用します。

既存のエクスポート設定オブジェクトを無効にするには、`export-config` モードで **disable** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope system/scope export-config

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

`export-configuration` モードでこのコマンドを使用すると、既存のエクスポート設定オブジェクトをシステムから削除せずに無効にできます。

例

次の例は、エクスポートされた既存の設定オブジェクトを有効にして、無効にする方法を示しています。

```
firepower # scope system
firepower /system # scope export-config 192.168.1.2
firepower /system/export-config #disable
firepower /system/export-config* #commit-buffer
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable	<code>export-config</code> モードでは、既存のエクスポート設定オブジェクトを有効にします。
scope export-config	既存のエクスポート設定オブジェクトを入力します。

disable (interface)

現在のインターフェイスを無効にするには、インターフェイスモードで **disable** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

scope eth-uplink/scope fabric/interface

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

現在のインターフェイスを無効にするには、このコマンドを使用します。

例

次の例は、インターフェイスを無効にして、そのステータスを確認する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric
firepower /eth-uplink #/fabric # scope interface Ethernet1/5
firepower /eth-uplink/fabric/interface # disable
firepower /eth-uplink/fabric/interface* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/fabric/interface # show
```

```
Interface:
  Port Name          Port Type          Admin State Oper State          Allowed Vlan State
Reason
-----
-----
  Ethernet1/5      Data              Disabled      Up              All
firepower /eth-uplink/fabric/interface #
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable	現在のインターフェイスを有効にします。
set	インターフェイスモードで、インターフェイス コンフィギュレーション パラメータを設定します。
show interface	インターフェイスの設定とステータスに関する情報を表示します。

disable (port-channel)

現在のポートチャネル（EtherChannel）を無効にするには、ポートチャネルモードで **disable** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope eth-uplink/scope fabric/port-channel

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

現在のポートチャネルを無効にするには、このコマンドを使用します。

例

次の例は、ポートチャネルを無効にして、そのステータスを確認する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric
firepower /eth-uplink #/fabric # scope port-channel 4
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel # disable
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel # show
```

```
Port Channel:
  Port Channel Id Name          Port Type          Admin State Oper State
Port Channel Mode Allowed Vlan State Reason
-----
-----
      4          Port-channel4    Data              Disabled    Failed
Active          All          Admin config change
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel #
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable	現在のポートチャネルを有効にします。
show port-channel	ポートチャネルの設定およびステータス情報を表示します。

disable (security modes)

コモンクライトリアモードまたはFIPS（連邦情報処理標準）モードを無効にするには、セキュリティモードで **disable** コマンドを使用します。

disable { **cc-mode** | **fips-mode** }

構文の説明	cc-mode	コモンクライトリアモードを無効にするには、このキーワードを使用します。
	fips-mode	FIPS モードを無効にするには、このキーワードを使用します。
コマンドモード	scope security/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドがコミットされると、システムの再起動が必要になります。	

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、FIPS モードを無効にする方法を示しています。

```
firepower # scope security
firepower /security # disable fips-mode
Warning: A reboot of the system is required in order for the system to be
operating in a non-FIPS approved mode.
firepower /security* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	enable (security modes)	CC モードまたは FIPS モードを有効にします。
	show cc-mode	現在のコモンクライトリアモードの管理状態および動作状態を表示します。
	show fips-mode	現在の FIPS モードの管理状態と動作状態を表示します。

disable reservation

永久ライセンス予約を無効にするには、**disable reservation** コマンドを使用します。

disable reservation

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ライセンス (/license) モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Firepower 4100/9300 シャーシに永久ライセンスを割り当てる前にライセンス予約を有効にします。

例

次の例は、ライセンス モードを開始し、予約モードを無効にする方法を示しています。

```
FP9300-A # scope license
FP9300-A /license # disable reservation
Warning: If you have already generated the authorization code from CSSM
and have not installed it on the device, please abort this command by
issuing discard-buffer and complete the installation.
FP9300-A /license* #
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable reservation	パーマネント ライセンスの予約をイネーブルにします。
show license	現在のライセンス情報を表示します。

disable snmp

このデバイスで Simple Network Management Protocol (SNMP) 処理を無効にするには、**disable snmp** コマンドを使用します。

disable snmp

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope monitoring/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、このデバイスで SNMP エージェントを無効にします。現在の SNMP コミュニティ設定は廃棄されますが、他の SNMP 構成設定は削除されません。

例

次の例は、モニタリングモードを有効にし、SNMP 処理を無効にしてから、**show snmp** コマンドを使用して無効になっていることを確認する方法を示しています。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring # disable snmp
firepower /monitoring* # commit-buffer
firepower /monitoring # show snmp
Name: snmp
  Admin State: Disabled
  Port: 161
  Is Community Set: No
  Sys Contact: R_Admin
  Sys Location:
firepower /monitoring #
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable snmp	SNMP を有効にします。
set snmp	SNMP 設定パラメータを設定します。これは、コミュニティ、SNMP を担当するシステム担当者、およびホストの場所です。
show snmp	現在の SNMP 設定を表示します。

discard-buffer

保留中の設定変更をキャンセルするには、**discard-buffer** コマンドを使用します。

discard-buffer

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、コミットされていないすべての設定変更をキャンセルし、破棄します。任意のコンフィギュレーション コマンドの保留中は、コマンドプロンプトの前にアスタリスク (*) が表示されます。**discard-buffer** コマンドを入力すると、コマンドが破棄され、アスタリスクが消去されます。

例

次の例は、保留中の設定変更を破棄する方法を示しています。

```
FP9300-1# scope chassis 1
FP9300-1 /chassis # enable locator-led
FP9300-1 /chassis* # show configuration pending
  scope chassis 1
+   enable locator-led
  exit
FP9300-1 /chassis* # discard-buffer
FP9300-1 /chassis #
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit-buffer	設定の変更を保存または確認します。
show configuration pending	コミットされていない設定の変更を表示します。

download image

Firepower 4100/9300 シャーシに FXOS ファームウェア イメージをコピーするには、ファームウェア モードで **download image** コマンドを使用します。

論理デバイス ソフトウェア イメージを Firepower 4100/9300 シャーシにコピーするには、アプリケーション ソフトウェア (/ssa/app-software) モードで **download image** コマンドを使用します。

download image { **ftp:** | **scp:** | **sftp:** | **tftp:** | **usbA:** | **usbB:** }

構文の説明

ftp://server-ip-addr/path	(オプション) FTP (ファイル転送プロトコル) を使用してインポートするイメージファイルの URI を指定します。
scp://username@server-ip-addr/path	(オプション) SCP (セキュア コピー プロトコル) を使用してインポートするイメージファイルの URI を指定します。
sftp://username@server-ip-addr/path	(オプション) SFTP (SSH ファイル転送プロトコルまたはセキュア ファイル転送プロトコル) を使用してインポートするイメージファイルの URI を指定します。
tftp://username@server-ip-addr:port-num/path	(オプション) TFTP (トリビアル ファイル転送プロトコル) を使用してインポートするイメージファイルの URI を指定します。 (注) [TFTP] ではファイルサイズが 32 MB に制限されます。ファームウェア バンドルはそれよりも大幅にサイズが大きいため、ファームウェアのダウンロードに TFTP を使用しないことを推奨します。
usbA:/path	(オプション) 接続されている USB タイプ A デバイスからインポートされるイメージファイルへのパスを指定します。
usbB:/path	(オプション) 接続されている USB タイプ B デバイスからインポートされるイメージファイルへのパスを指定します。

コマンド モード

scope firmware/
scope ssa/scope app-software/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

イメージファイルアクセスのロケーションアドレスと認証情報、およびファイルの完全修飾名を使用していることを確認してください。

FXOSによって、ファブリックインターコネクットのブートフラッシュにファームウェアイメージが保存されます。

ファームウェアモードでは、**show package image_name detail** コマンドを使用して、イメージのダウンロードプロセスをモニタできます。出力表示は自動的に更新されないため、タスクのステータスに「Downloaded」が表示されるまで何度もコマンドを入力する必要があります。

ファームウェアモードおよびアプリケーションソフトウェアモードでは、**show download-task** コマンドを使用して、イメージのダウンロードプロセスをモニタできます。出力表示は自動的に更新されないため、何度もコマンドを入力する必要があります。

例

次の例は、SCPプロトコルを使用してファームウェアイメージファイルをダウンロードし、ダウンロードの進行状況をモニタする方法を示しています。

```
FP9300-A# scope firmware
FP9300-A /firmware # download image scp://user@192.168.1.1/images/fxos-k9.1.1.1.119.SPA
FP9300-A /firmware # show package fxos-k9.1.1.1.119.SPA detail
Download task:
File Name: fxos-k9.1.1.1.119.SPA
Protocol: scp
Server: 192.168.1.1
Userid:
Path:
Downloaded Image Size (KB): 5120
State: Downloading
Current Task: downloading image fxos-k9.1.1.1.119.SPA from
192.168.1.1 (FSM-STAGE:sam:dme:FirmwareDownloaderDownload:Local)
```

次の例は、SCPプロトコルを使用してソフトウェアイメージファイルをダウンロードし、ダウンロードの進行状況をモニタする方法を示しています。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope app-software
firepower /ssa/app-software # download image
scp://user@192.168.1.1/images/cisco-asa.9.4.1.65.csp
firepower /ssa/app-software # show download-task
Downloads for Application Software:
  File Name                Protocol  Server                Userid                State
-----
  cisco-asa.9.4.1.65.csp   Scp      192.168.1.1          user
  Downloaded
```

関連コマンド

コマンド	説明
show download-task	イメージファイルのダウンロードの進行状況を表示します。
show package	ファームウェアファイルのダウンロードの進行状況を表示します。
verify platform-pack	指定された FXOS プラットフォーム イメージを確認します。

enable (app-instance)

既存のアプリケーション インスタンスを有効にするには、app-instance モードで **enable** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

scope ssa/scope slot/scope app-instance

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、以前に無効にしたアプリケーション インスタンスを再び有効にできます。

例

次の例は、ステータスを含む現在のアプリケーション インスタンスを表示し、アプリケーション インスタンス モードを開始し、無効にされているアプリケーション 有効にする方法を示しています。

```
firepower # scope ssa
firepower /ssa # scope slot 2
firepower /ssa/slot # show app-instance
```

Application Instance:

App Name	Identifier	Admin State	Oper State	Running Version	Startup Version
Deploy Type	Profile Name	Cluster State	Cluster Role		
ftd1	IFT-63	Enabled	Online	6.3.0.12	6.3.0.12
Native		In Cluster	Slave		

Application Instance:

App Name	Identifier	Admin State	Oper State	Running Version	Startup Version
Deploy Type	Profile Name	Cluster State	Cluster Role		
ftd2	FTD-2	Disabled	Online	6.3.0.12	6.3.0.12
Container	bronze	Not Applicable	None		

```
firepower /ssa/slot # scope app-instance ftd2 FTD-2
firepower /ssa/slot/app-instance # enable
firepower /ssa/slot/app-instance* # commit-buffer
firepower /ssa/slot/app-instance #
```

関連コマンド

コマンド	説明
disable	app-instance モードでは、既存のアプリケーション インスタンスを無効にします。

enable (app-instance)

コマンド	説明
scope app-instance	特定のアプリケーションインスタンスのアプリケーションモードを開始します。

enable (CC and FIPS security modes)

コモンクライテリアモードまたはFIPS（連邦情報処理標準）モードを有効にするには、セキュリティモードで **enable** コマンドを使用します。

enable {cc-mode|fips-mode}

構文の説明	cc-mode	コモンクライテリアモードを有効にするには、このキーワードを使用します。
	fips-mode	FIPS モードを有効にするには、このキーワードを使用します。
コマンドモード	scope security/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドがコミットされると、1つまたは複数のサービスへの接続が拒否される場合があります。また、システムの再起動が必要になります。



重要 FXOS リリース 2.0.1 より以前は、デバイスの最初の設定時に作成した SSH ホストキーが 1024 ビットにハードコードされていました。FIPS およびコモンクライテリア認定要件に準拠するには、この古いホストキーを破棄し、新しいホストキーを生成する必要があります（SSH ホストキーの作成と削除の詳細については、[create ssh-server（110 ページ）](#)を参照）。これらの追加手順を実行しないと、コモンクライテリアモードを有効にしてデバイスをリブートした後に、SSH を使用してスーパーバイザに接続できなくなります。FXOS 2.0.1 以降を使用して初期設定を行った場合は、新しいホストキーを生成する必要はありません。

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、FIPS モードを有効にする方法を示しています。

```
firepower # scope security
firepower /security # enable fips-mode
Warning: Connectivity to one or more services may be denied when committed.
Please consult the product's FIPS Security Policy documentation.
WARNING: A reboot of the system is required in order for the system to be operating in
a FIPS approved mode.

firepower /security* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	disable (security modes)	CC モードまたは FIPS モードを無効にします。
	show cc-mode	現在のコモンクライテリア モードの管理状態および動作状態を表示します。
	show fips-mode	現在の FIPS モードの管理状態と動作状態を表示します。

enable (export-configuration)

既存のエクスポート設定オブジェクトを再び有効にするには、export-config モードで **enable** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

scope system/scope export-config

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、設定を再びエクスポートする前に、以前バックアップしたエクスポート設定オブジェクトを再び有効にできます。現在のシステム設定は、**commit-buffer** コマンド発行時のオブジェクト パラメータに従ってエクスポートされます。

例

次の例は、以前エクスポートした設定オブジェクトを開始し、その範囲を有効にし、設定のバックアップを開始し、エクスポートが進行中であることを確認する方法を示しています。

```
firepower # scope system
firepower /system # scope export-config 192.168.1.2
firepower /system/export-config #enable
firepower /system/export-config* #commit-buffer
firepower /system/export-config #show
```

Export Configuration Task:

Hostname	User	Protocol	Admin	State	Status	Description
192.168.1.2	user1	Scp	Enabled		Exporting	

関連コマンド

コマンド	説明
disable	既存のエクスポート設定オブジェクトを無効にします。
scope export-config	既存のエクスポート設定オブジェクトを入力します。

enable (interface)

現在のインターフェイスを有効にするには、インターフェイスモードで **enable** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope eth-uplink/scope fabric/interface

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

インターフェイスを有効または再度有効にするには、このコマンドを使用します。

例

次の例は、インターフェイスを有効にして、そのステータスを確認する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric
firepower /eth-uplink #/fabric # scope interface Ethernet1/5
firepower /eth-uplink/fabric/interface # enable
firepower /eth-uplink/fabric/interface* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/fabric/interface # show
```

```
Interface:
  Port Name          Port Type          Admin State Oper State          Allowed Vlan State
Reason
-----
-----
Ethernet1/5         Data                Enabled      Up                    All
firepower /eth-uplink/fabric/interface #
```

関連コマンド

コマンド	説明
disable	現在のインターフェイスを無効にします。
set	インターフェイスモードで、インターフェイス コンフィギュレーション パラメータを設定します。
show interface	インターフェイスの設定とステータスに関する情報を表示します。

enable (port-channel)

現在のポートチャネル (EtherChannel) を有効にするには、ポートチャネルモードで **enable** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

scope eth-uplink/scope fabric/port-channel

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ポートチャネルを有効または再度有効にするには、このコマンドを使用します。

例

次の例は、新しいポートチャネルを作成し、それを有効にしてメンバーポートを追加する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink/fabric # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # create port-channel 4
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # enable
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/1
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/2
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/3
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/4
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create member-port	ポートチャネルにメンバーポートを追加します。
disable	現在のポートチャネルを無効にします。
set (port-channel)	既存のポートチャネルのパラメータを設定または変更します。
show port-channel	ポートチャネルの設定およびステータス情報を表示します。

enable reservation

永久ライセンス予約を有効にするには、**enable reservation** コマンドを使用します。

enable reservation

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ライセンス (/license) モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Firepower 4100/9300 シャーシに永久ライセンスを割り当てる前にライセンス予約を有効にします。

例

次の例は、ライセンス モードを開始し、予約モードを有効にする方法を示しています。

```
FP9300-A # scope license
FP9300-A /license # enable reservation
FP9300-A /license #
```

関連コマンド

コマンド	説明
disable reservation	永久ライセンス予約を有効にします。
show license	現在のライセンス情報を表示します。

enable snmp

このデバイスで Simple Network Management Protocol (SNMP) 処理を有効にするには、**enable snmp** コマンドを使用します。

enable snmp

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope monitoring/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用してこのデバイスの SNMP エージェントを有効にすると、SNMP コミュニティを作成し、SNMP ユーザとトラップを作成できます。

例

次の例は、モニタリングモードを開始し、SNMP 処理を有効にする方法を示しています。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring # enable snmp
firepower /monitoring* # commit-buffer
firepower /monitoring #
```

関連コマンド

コマンド	説明
disable snmp	SNMP をディセーブルにします。
set snmp	SNMP 設定パラメータを設定します。これは、コミュニティ、SNMP を担当するシステム担当者、およびホストの場所です。
show snmp	現在の SNMP 設定を表示します。

end

CLI の EXEC (トップ レベル) モードに戻るには、**end** コマンドを使用します。

end

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、サービスプロファイルモードから CLI の最高レベルのモードに戻る方法を示しています。

```
FP9300-A # scope org Test
FP9300-A /org # scope service-profile Sample
FP9300-A /org/service-profile # end
FP9300-A #
```

関連コマンド

コマンド	説明
top	任意のモードからトップ レベルモードを開始します。

enter

管理対象オブジェクトを開始するには、適切なコマンドモードで該当する **enter** コマンドを使用します。通常、指定されたオブジェクトが存在しない場合は、オブジェクトが作成されます。

enter *object_type* *name* [*parameters*]

構文の説明	<p><i>object_type</i> 開始するオブジェクトのタイプ。例には、ローカル ユーザ アカウントと組織が含まれています。</p> <hr/> <p><i>name</i> 開始する特定のオブジェクトの名前。</p> <hr/> <p>パラメータ (オプション) オブジェクトの識別に必要な追加のプロパティまたはパラメータ。詳細については、特定のオブジェクトに対する create コマンドの説明を参照してください。</p>
コマンドモード	開始対象のオブジェクトのタイプに応じて異なります。詳細については、特定のオブジェクトに対する create コマンドの説明を参照してください。
コマンド履歴	履歴情報については、特定のオブジェクトに対する create コマンドの説明を参照してください。
使用上のガイドライン	<p>オブジェクトは、管理可能な物理コンポーネントエンティティまたは論理エンティティを抽象的に表現したものです。たとえば、シャーシ、セキュリティ モジュール、ネットワーク モジュール、ポート、プロセッサは、管理対象オブジェクトとして表現される物理コンポーネントです。また、ライセンス、ユーザロール、プラットフォームポリシーは、管理対象オブジェクトとして表現される論理エンティティです。</p> <p>FXOS には、オブジェクト管理用に一般的な 4 つのコマンド (create、delete、enter、scope) があります。たとえば、ローカル ユーザ アカウントの作成、ローカル ユーザ アカウントの削除、ローカル ユーザ アカウントの入力を行い、そのアカウントのプロパティを割り当てまたは変更することができます。また、ローカル ユーザ アカウントを「調査」し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。</p> <p>通常、これらのオブジェクト管理コマンドごとに利用可能なキーワードとオプションは同じであるため、さまざまなオブジェクト コマンドの create バージョンだけについて説明します。つまり、特定のオブジェクトの delete コマンドの詳細については、そのオブジェクトの create コマンドの説明を参照してください。たとえば、既存のローカル ユーザ アカウントの入力に関連する情報については、create local-user (84 ページ) を参照してください。</p>

例

次の例は、セキュリティ モードを開始して、ローカル ユーザ アカウントを入力し、アカウントの詳細を表示する方法を示しています。

```

firepower # scope security
firepower /security # enter local-user test_user
firepower /security/local-user # show detail
Local User test_user:
  First Name: test
  Last Name: user
  Email: test_user@testuser.com
  Phone:
  Expiration: Never
  Password: ****
  User lock status: Not Locked
  Account status: Active
  User Roles:
    Name: admin
    Name: read-only
  User SSH public key:
firepower /security/local-user #

```

関連コマンド

コマンド	説明
create local-user	新規のローカルユーザアカウントを作成します。
enter local-user	ローカルユーザアカウントを追加または編集します。
delete local-user	既存のローカルユーザアカウントを削除します。
scope local-user	既存のローカルユーザアカウントを入力します。

erase

アプライアンスからすべてのユーザー設定を消去するか、アプライアンスの要素を安全に消去するには、**erase** コマンドを使用します。

erase {**configuration** | **secure** {**chassis** | **security_modulesupervisor**}}

構文の説明

configuration	このキーワードを使用すると、シャーシのすべてのユーザー設定情報が削除され、工場出荷時のデフォルト設定に戻ります。
secure	指定したアプライアンス コンポーネントを安全に消去するには、このオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • chassis : シャーシを安全に消去するには、このキーワードを使用します。 • security_module module_id : 指定したモジュールを安全に消去するには、このオプションを使用します。 • supervisor : シャーシスーパーバイザを安全に消去するには、このキーワードを使用します。

コマンドモード

connect local-mgmt/

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0.1	コマンドが追加されました。
2.7(1)	secure オプションが追加されました。

使用上のガイドライン

erase configuration コマンドを実行すると、シャーシのすべてのユーザー設定情報が削除され、工場出荷時のデフォルト設定に戻ります。

erase secure コマンドにより、指定したアプライアンス コンポーネントが安全に消去されます。つまり、単にデータが削除されるだけでなく、物理ストレージが「ワイプ」（完全に消去）されます。これは、ハードウェア ストレージ コンポーネントが残存データやスタブを保持しない状態で、アプライアンスを転送または返却する際に重要です。



- (注) 完全消去中にデバイスが再起動します。これは、SSH 接続が終了したことを意味します。したがって、シリアルコンソールポート接続を介して完全消去を実行することをお勧めします。

例

次の例は、シャーシのすべてのユーザー設定情報を削除し、工場出荷時のデフォルト設定に戻す方法を示しています。

```
firepower# connect local-mgmt
firepower(local-mgmt)# erase configuration
All configurations will be erased and system will reboot. Are you sure? (yes/no):
```

次の例は、セキュリティモジュール 2 (security_module 2) を安全に消去する方法を示しています。

```
firepower# connect local-mgmt
firepower# erase secure security_module 2
The physical storages in security module will be securely erased.
ALL DATA AND IMAGES WILL BE LOST AND CANNOT BE RECOVERED!
After the erase the module will reboot and need to be re-initialized.
DO NOT POWER OFF THE DEVICE IF YOU DECIDE TO PERFORM THIS TASK!
Are you sure? (yes/no):
```

関連コマンド

コマンド	説明
decommission-secure	指定されたモジュールを安全に消去します。

exit

現在の CLI セッションを終了してデバイスから切断したり、接続されたオブジェクト モードを終了して EXEC レベルに戻るには、**exit** コマンドを使用します。

exit

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

任意のコマンド モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、現在のトップレベルの CLI セッションを終了し、このデバイスから切断する方法を示しています。

```
FP9300-A # exit
```

次の例は、ローカル管理接続を開始および終了する方法を示しています。

```
FP9300-A # connect local-mgmt
FP9300-A(local-mgmt) # exit
FP9300-A #
```

関連コマンド

コマンド	説明
connect	別の管理対象オブジェクトに接続します。
end	CLI の最高レベル モードに戻ります。

export-config

現在のシステム設定をリモートサーバに XML ファイルとしてエクスポートするには、**export-config** コマンドを使用します。

export-config {*URL* **disabled** | **enabled**}

構文の説明	URL	
		エクスポートされた XML イメージファイルに、ユーザアカウント名、トランスポートプロトコル、ファイル名など、リモートシステムへのフルパスを指定します。次のトランスポートプロトコルを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • ftp://username@hostname/path/image_name • scp://username@hostname/path/image_name • sftp://username@hostname/path/image_name • tftp://username@hostname/path/image_name
	disabled	ポリシー管理状態を無効にします。コンフィギュレーションファイルはエクスポートされません。
	enabled	ポリシー管理状態を有効にします。コンフィギュレーションファイルがすぐにエクスポートされます。

コマンドモード `scope system/`

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1.3	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 設定エクスポート機能を使用すると、Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含む XML ファイルをリモートサーバにエクスポートできます。このコンフィギュレーションファイルを後でインポートして Firepower 4100/9300 に迅速に構成設定を適用し、既知の構成に戻したり、システム障害から回復させたりすることができます。

次の点に注意してください。

- FXOS 2.6.1 以降、設定のエクスポート中にパスワードやその他の秘密キーなどの機密情報を暗号化する際に使用するキーを指定する必要があります。設定をエクスポートする前に、パスワードやその他の秘密キーを指定しておく必要があります。

また、ファイルが 2.6.1 より前の FXOS リリースからファイルがエクスポートされない限り、エクスポートされた設定をインポートする場合にターゲットシステムで、エクスポート時に同じキーが使用されるように設定する必要があります。この場合、ターゲットシステムは暗号化キーをチェックせず、インポートできます。

- コンフィギュレーションファイルの内容は、修正しないでください。コンフィギュレーションファイルが変更されると、そのファイルを使用するコンフィギュレーションインポートが失敗する可能性があります。
- 用途別のコンフィギュレーション設定は、コンフィギュレーションファイルに含まれていません。用途別の設定やコンフィギュレーションを管理するには、アプリケーションが提供するコンフィギュレーションバックアップツールを使用する必要があります。
- 既存のバックアップファイルが上書きされるのを回避するには、エクスポート操作時にファイル名を変更するか、既存のファイルを別の場所にコピーしてください。

トランスポートプロトコルとリモートサーバの設定に応じて、ユーザの接続用パスワードの入力が必要になる場合があります。

新しいコンフィギュレーションファイルをエクスポートすると、新しいファイルがまだエクスポートされていないことを示すアスタリスクが付いた **export-config** モード (system/export-config) が自動的に開始されます。プロセスを開始するには、**commit-buffer** と入力します。

例

次の例は、論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含む XML ファイルをリモートサーバにエクスポートする方法を示しています。

```
firepower # scope system
firepower /system # export-config scp://user1@192.168.1.2:/export/cfg-backup.xml enabled
Password:
firepower /system/export-config* # commit-buffer
firepower /system/export-config #
```

関連コマンド

コマンド	説明
cfg-export-policy	設定のエクスポートポリシーを指定します。
import-config	以前にエクスポートした XML コンフィギュレーションファイルをこのアプライアンスにコピーします。
set password-encryption-key	設定のエクスポート中に機密情報を暗号化するときに使用されるキーを指定します。

generate password

特殊文字の有無を指定して固定長のランダムパスワードを生成するには、**generate password** コマンドを使用します。

generate password *password*

構文の説明	<i>password</i>	ログイン時にユーザーが使用するパスワード。
コマンドモード	scope security	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.10(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 特殊文字の有無を指定して固定長のランダムパスワードを生成することができます。

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、特殊文字の有無を指定して固定長のランダムパスワードを生成する方法を示しています。

```
firepower # scope security
firepower # create local-user admin2
firepower /security/local-user #

firepower /security/local-user # generate password
      8-127 Password length

firepower /security/local-user # generate password 10 with
      with-special-char      With Special Char
      without-special-char   Without Special Char

firepower /security/local-user # generate password 10 with-special-char
@!D4%v1wCN
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set password	ユーザ アカウントのパスワードを設定します。

import-config

以前にエクスポートした XML コンフィギュレーション ファイルをインポートするには、**import-config** コマンドを使用します。

import-config {*URL* **disabled**|**enabled**}

構文の説明

<i>URL</i>	トランスポート プロトコルやファイル名など、リモートシステムへのフルパスをエクスポートする XML イメージファイルに指定します。次のトランスポート プロトコルを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • ftp: //username@hostname/path/image_name • scp: //username@hostname/path/image_name • sftp: //username@hostname/path/image_name • tftp: //username@hostname/path/image_name
disabled	ポリシー管理状態を無効にします。コンフィギュレーションファイルはインポートされません。
enabled	ポリシー管理状態を有効にします。コンフィギュレーションファイルがすぐにインポートされます。

コマンドモード

scope system/

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

設定エクスポート機能を使用すると、Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含む XML ファイルをリモートサーバにエクスポートできます。このコンフィギュレーション ファイルを後でインポートして Firepower 4100/9300 に迅速に構成設定を適用し、既知の構成に戻したり、システム障害から回復させたりすることができます。

次の点に注意してください。

- FXOS 2.6.1 以降、設定のエクスポート中にパスワードやその他の秘密キーなどの機密情報を暗号化する際に使用するキーを指定する必要があります。設定をエクスポートする前に、パスワードやその他の秘密キーを指定しておく必要があります。

また、ファイルが 2.6.1 より前の FXOS リリースからファイルがエクスポートされない限り、エクスポートされた設定をインポートする場合にターゲットシステムで、エクスポート時に同じキーが使用されるように設定する必要があります。この場合、ターゲットシステムは暗号化キーをチェックせず、インポートできます。

- コンフィギュレーション ファイルの内容は、修正しないでください。コンフィギュレーション ファイルが変更されると、そのファイルを使用するコンフィギュレーション インポートが失敗する可能性があります。
- 用途別のコンフィギュレーション設定は、コンフィギュレーションファイルに含まれていません。用途別の設定やコンフィギュレーションを管理するには、アプリケーションが提供するコンフィギュレーションバックアップ ツールを使用する必要があります。
- 4100/9300 シャーシへのコンフィギュレーションのインポート時、シャーシのすべての既存のコンフィギュレーション（論理デバイスを含む）は削除され、インポートファイルに含まれるコンフィギュレーションに完全に置き換えられます。
- コンフィギュレーション ファイルのエクスポート元と同じ Firepower 4100/9300 シャーシだけにコンフィギュレーション ファイルをインポートすることをお勧めします。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシのプラットフォーム ソフトウェア バージョンは、エクスポートしたときと同じバージョンになるはずですが、異なる場合は、インポート操作の成功は保証されません。シスコは、Firepower 4100/9300 シャーシをアップグレードしたりダウングレードしたりするたびにバックアップ設定をエクスポートすることを推奨します。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシでは、エクスポートしたときと同じスロットに同じネットワーク モジュールがインストールされている必要があります。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシでは、インポートするエクスポート ファイルに定義されているすべての論理デバイスに、正しいソフトウェア アプリケーション イメージがインストールされている必要があります。
- インポートするコンフィギュレーションファイルに、そのアプリケーションにエンドユーザライセンス契約書（EULA）がある論理デバイスが含まれていると、コンフィギュレーションをインポートする前に、そのアプリケーションの EULA が Firepower 4100/9300 シャーシで受け入れられている必要があります。受け入れられていない場合、操作は失敗します。

トランスポート プロトコルとリモート サーバの設定に応じて、リモート ユーザの接続用パスワードの入力が必要になる場合があります。

show fsm status コマンドを入力すると、インポート ステータスを確認し、その進行状況を確認することができます。次の例を参照してください。タスクの進行状況に応じて、コマンド入力が複数回必要になる場合があります。

例

次の例は、論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含む XML ファイルをリモート サーバからインポートする方法を示しています。

```
firepower # scope system
firepower /system # import-config scp://user1@192.168.1.2:/export/cfg-backup.xml enabled
Password:
Warning: After configuration import any changes on the breakout port configuration will
cause the system to reboot
```

```

firepower /system* # commit-buffer
firepower /system # show fsm status

Hostname: 192.168.1.2

FSM 1:
  Remote Result: Not Applicable
  Remote Error Code: None
  Remote Error Description:
  Status: Import Wait For Switch
  Previous Status: Import Config Breakout
  Timestamp: 2016-01-03T15:45:03.963
  Try: 0
  Progress (%): 97
  Current Task: updating breakout port
configuration (FSM-STAGE:sam:dme:MgmtImporterImport:configBreakout)

```

関連コマンド

コマンド	説明
cfg-export-policy	エクスポート ポリシーを設定します。
export-config	現在のシステム設定をリモートサーバに XML ファイルとしてエクスポートします
set password-encryption-key	設定のエクスポート中に機密情報を暗号化するときに使用されるキーを指定します。

install

予約認証コードをインストールするには、**install** コマンドを使用します。

install *code*

構文の説明	<i>code</i>	Smart Software Manager から取得した予約認証コード。
コマンドモード	予約 (/license/reservation) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 認証コードがすでに生成されている場合は、そのコードをインストールする必要があります。

例

次の例は、予約認証コードをインストールする方法を示しています。

```
FP9300-A# scope license
FP9300-A /license # scope reservation
FP9300-A /license/reservation # install <code>
FP9300-A /license/reservation* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	request universal	予約要求コードを生成します。
	show license	現在のライセンス情報を表示します。

install firmware

以前にダウンロードしたファームウェアアップグレードパッケージをインストールするには、**install firmware** コマンドを使用します。

install firmware pack-version version_number

構文の説明	pack-version <i>version_number</i>	インストールするファームウェアパッケージのバージョンを指定します。 (注) パッケージ <i>version_number</i> はイメージファイル名ではありません (通常はファイル名の一部)。 show コマンドを使用すると、パッケージ <i>version_number</i> を特定できます。
コマンドモード	ファームウェア インストール モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用するには、管理者権限が必要です。通常、アップグレードのインストールプロセスには 20 ~ 30 分かかり、プロセス中にシステムが再起動します。

インストールを開始する前に、現在の深刻/重大な障害を確認し、現在の設定をバックアップします。

アップグレードは、パッケージの検証とその後のインストールの2段階のプロセスです。各ステップの開始時に続行するかどうかの確認があります。いずれかのプロンプト表示で **no** と入力すると、プロセスは終了します。

show detail コマンドを使用すると、インストールプロセスをモニタできます。

例

次の例は、以前にダウンロードしたファームウェアアップグレードパッケージをインストールする方法を示しています。

```
FP9300-A# scope firmware
FP9300-A /firmware # scope firmware-install
FP9300-A /firmware/firmware-install # install firmware pack-version 1.0.16
Verifying FXOS firmware package 1.0.16. Verification could take several minutes.
Do you want to proceed? (yes/no):yes

FXOS SUP ROMMON: Upgrade from 1.0.10 to 1.0.10
FXOS SUP FPGA : Upgrade from 1.04 to 1.05
This operation upgrades SUP firmware on Security Platform.
Here is the checklist of things that are recommended before starting the install operation
(1) Review current critical/major faults
(2) Initiate a configuration backup
Attention:
```

```

The system will be reboot to upgrade the SUP firmware.
The upgrade operation will take several minutes to complete.
PLEASE DO NOT POWER RECYCLE DURING THE UPGRADE.
Do you want to proceed? (yes/no):yes
Upgrading FXOS SUP firmware software package version 1.0.10
command executed

```

関連コマンド

コマンド	説明
scope firmware-install	firmware-installation モードを開始します。
show download-task	ファームウェアパッケージのダウンロードに関する情報を表示します。
show (firmware-install)	firmware-installation モードでは、ファームウェアパッケージ情報が表示されます。

install platform

セキュリティプラットフォーム コンポーネントでファームウェアおよびソフトウェアをアップグレードするには、**install platform** コマンドを使用します。

install platform platform-vers version_number

構文の説明	platform-vers <i>version_number</i>	インストールするプラットフォームパッケージのバージョンを指定します。
コマンドモード	自動インストール (/firmware/auto-install) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用するには、管理者権限が必要です。アップグレードプロセスには通常 20 ～ 30 分かかります。

インストールを開始する前に、現在の深刻/重大な障害を確認し、現在の設定をバックアップします。

auto-install モードで **show fsm status expand** コマンドを使用すると、インストールプロセスをモニタできます。

アップグレードインストールプロセスを完了するには、プライマリ ファブリック インターコネクットの再起動を確認する必要があります。

例

次の例は、プラットフォームアップグレードパッケージをインストールする方法を示しています。

```
FP9300-A# scope firmware
FP9300-A /firmware # scope auto-install
FP9300-A /firmware/auto-install # install platform platform-vers 2.3(1.51)
The currently installed FXOS platform software package is 2.2(2.19)

INFO: There is no service impact to install this FXOS platform software 2.3(1.51)

This operation upgrades firmware and software on Security Platform Components
Here is the checklist of things that are recommended before starting Auto-Install
(1) Review current critical/major faults
(2) Initiate a configuration backup
Do you want to proceed? (yes/no):
```

関連コマンド	コマンド	説明
	download image	Firepower 4100/9300 シャーシに FXOS ソフトウェア イメージをダウンロードします。
	show validate-task	イメージ検証プロセスのステータスを表示します。

mgmt-port (connect local-mgmt)

管理ポート情報の管理ステータスを表示および設定するには、**mgmt-port** コマンドを使用します。

mgmt-port

構文の説明	mgmt-port	管理ポート情報を表示します。
コマンドモード	connect local-mgmt	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	デフォルトでは、このコマンドは管理ポート情報を表示します。	

例

次の例は、管理ポート情報を表示する方法を示しています。

```
firepower#
firepower# connect local-mgmt...

firepower(local-mgmt) #mgmt-port
<CR>
  no-shut Management port up <===== Administratively enable the chassis management
interface.
  shut Management port down <===== Administratively disable/shutdown the chassis
management interface.
```

ping (connect local-mgmt)

基本的なネットワーク接続をテストする目的で、ネットワーク上の別のデバイスの IPv4 アドレスを使って ping を実行するには、**ping** コマンドを使用します。

```
ping {hostname | IPv4_address} [count number_packets] | [deadline seconds] | [interval seconds] | [packet-size bytes]
```

構文の説明	
<i>hostname</i> <i>IPv4_address</i>	接続するネットワーク デバイスのホスト名または IP アドレス。このホスト名の長さは最大 510 文字です。
count <i>number_packets</i>	(オプション) 送信する ping パケットの数。範囲は 1 ~ 2147483647 パケットです。
deadline <i>seconds</i>	(オプション) 応答パケットが受信されなかった場合にパケットの送信を継続する最大時間。この時間が経過すると、ping は終了します。範囲は 1 ~ 60 秒です。
interval <i>seconds</i>	(オプション) ping パケット間の時間 (秒単位)。範囲は 1 ~ 60 秒です。デフォルトは 1 秒です。
packet-size <i>bytes</i>	(オプション) ping パケットに追加するデータ バイト数。範囲は 1 ~ 65468 バイトです。デフォルトは 56 バイトで、8 バイトが ICMP ヘッダーに追加されると、64 バイト パケットになります。

コマンド モード connect local-mgmt

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、指定されたホストに ICMP エコー要求パケットを送信することにより、シャーシ管理インターフェイスから外部ネットワークへの基本的な IP 接続をテストします。

例

次の例は、ローカル管理シェルに接続し、ネットワーク上の別のデバイスに対して ping 接続を 12 回実行する方法を示しています。

```
firepower# connect local-mgmt
firepower(local-mgmt)# ping 198.51.100.10 count 12
PING 198.51.100.10 (198.51.100.10) from 203.0.113.5 eth0: 56(84) bytes of data.
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=1 ttl=61 time=0.264 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=2 ttl=61 time=0.219 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=3 ttl=61 time=0.234 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=4 ttl=61 time=0.205 ms
```

```

64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=5 ttl=61 time=0.216 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=6 ttl=61 time=0.251 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=7 ttl=61 time=0.223 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=8 ttl=61 time=0.221 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=9 ttl=61 time=0.227 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=10 ttl=61 time=0.224 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=11 ttl=61 time=0.261 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=12 ttl=61 time=0.261 ms

--- 198.51.100.10 ping statistics ---
12 packets transmitted, 12 received, 0% packet loss, time 11104ms
rtt min/avg/max/mdev = 51.005/51.062/51.164/0.064 ms
firepower(local-mgmt)#

```

関連コマンド

コマンド	説明
ping6	基本的なネットワーク接続をテストする目的で、ネットワーク上の別のデバイスの IPv6 アドレスを使って ping を実行します。
traceroute	指定された宛先 (IPv4 アドレス) へのルートをトレースします。

ping6 (connect local-mgmt)

ネットワーク上の別のデバイスの IPv6 アドレスを使って ping を実行するには、**ping6** コマンドを使用します。

```
ping6 {hostname|IPv6_address} [count number_packets] | [deadline seconds] | [interval seconds] | [mtu-hint {do|dont|want}] | [packet-size bytes]
```

構文の説明	<i>hostname IPv6_address</i>	接続するネットワーク デバイスのホスト名または IP アドレス。このホスト名の長さは最大 510 文字です。
	count <i>number_packets</i>	(オプション) 送信する ping パケットの数。範囲は 1～2147483647 パケットです。
	deadline <i>seconds</i>	(オプション) 応答パケットが受信されなかった場合にパケットの送信を継続する最大時間。この時間が経過すると、ping は終了します。範囲は 1～60 秒です。
	interval <i>seconds</i>	(オプション) ping パケット間の時間 (秒単位)。範囲は 1～60 秒です。デフォルトは 1 秒です。
	mtu-hint {do dont want}	(オプション) パスの MTU 検出方法。ヒントは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • do : ローカルパケットの場合でもフラグメンテーションを禁止します。do-not-fragment (DF) フラグを設定します。 • dont : フラグメンテーションを禁止します。ただし、DF フラグを設定しません。 • want : パケットサイズが大きい場合に PMTU 検出と、ローカルでのフラグメンテーションを実行することがあります。
	packet-size <i>bytes</i>	(オプション) ping パケットに追加するデータバイト数。範囲は 1～65468 バイトです。デフォルトは 56 バイトで、8 バイトが ICMP ヘッダーに追加されると、64 バイトパケットになります。

コマンドモード connect local-mgmt

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(4)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、指定されたホストに ICMP エコー要求パケットを送信することにより、シャーシ管理インターフェイスから外部ネットワークへの基本的な IPv6 接続をテストします。

例

次の例は、ローカル管理シェルに接続し、ネットワーク上の別のデバイスに対して ping 接続を 12 回実行する方法を示しています。

```
firepower# connect local-mgmt
firepower(local-mgmt)# ping6 2001:DB8:0:ABCD::1 count 12
PING 2001:DB8:0:ABCD::1 (2001:DB8:0:ABCD::1) from 2001:DB8:1::1 eth0: 56(84) bytes of
data.
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=1 ttl=61 time=0.264 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=2 ttl=61 time=0.219 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=3 ttl=61 time=0.234 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=4 ttl=61 time=0.205 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=5 ttl=61 time=0.216 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=6 ttl=61 time=0.251 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=7 ttl=61 time=0.223 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=8 ttl=61 time=0.221 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=9 ttl=61 time=0.227 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=10 ttl=61 time=0.224 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=11 ttl=61 time=0.261 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=12 ttl=61 time=0.261 ms

--- 2001:DB8:0:ABCD::1 ping statistics ---
12 packets transmitted, 12 received, 0% packet loss, time 11104ms
rtt min/avg/max/mdev = 51.005/51.062/51.164/0.064 ms
firepower(local-mgmt)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping	基本的なネットワーク接続をテストする目的で、ネットワーク上の別のデバイスの IPv4 アドレスを使って ping を実行します。
traceroute6	指定された宛先 (IPv6 アドレス) へのルートを追跡します。

power

モジュールの電源を切断するには、**power** コマンドを使用します。

power { **down** [**soft-followed-by-hard** | **soft-shut-down**] | **up** }

構文の説明

soft-followed-by-hard	(オプション) このキーワードを使用してモジュールの電源を「グレースフル」に切断すると、SSP オペレーティングシステムがシャットダウンするまで最大 45 分待機し、その後、OS のシャットダウン状態に関係なくモジュールの電源が切断されます。
soft-shut-down	(オプション) このキーワードを使用してモジュールの電源をグレースフルに切断すると、システムは SSP オペレーティングシステムのシャットダウンを無期限に待機します。モジュールは、SSP OS が正常にシャットダウンされた後にのみ電源が切断されます。

コマンドモード

サービス プロファイル モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

power down コマンドでいずれのオプション キーワードも指定しない場合は、モジュールのオペレーティングシステムをグレースフルにシャットダウンせずに、モジュールの電源がすぐに切断されます。

電源をオフにする前にモジュールの設定をバックアップすることを推奨します。

例

次の例は、サービス プロファイル モードを開始し、ソフト シャットダウンでモジュールの電源をオフにする方法を示しています。

```
FP9300-A # scope service-profile server 1/1
FP9300-A /org/service-profile # power down soft-shut-down
FP9300-A /org/service-profile* # commit-buffer
FP9300-A /org/service-profile #
```

関連コマンド

コマンド	説明
shutdown	デバイスをシャットダウンします。

reboot

シャーシまたはファブリックインターコネクトを再起動するには、**reboot** コマンドを使用します。

```
(local-mgmt) # reboot

/chassis # reboot [no-prompt | reason]
```

構文の説明

ローカル管理モードでは、このコマンドに引数またはキーワードはありません。

no-prompt

(オプション) シャーシモードでこのキーワードを使用すると、再起動をすぐに開始できます。それ以外の場合、再起動の開始には **commit-buffer** が必要です。

reason

(オプション) シャーシモードでは、再起動ログに追加するテキスト文字列を入力できます。最大 510 文字まで入力できます。

コマンドモード

シャーシモード
ローカル管理モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

再起動前にシステム設定をバックアップすることを推奨します。

ローカル管理モードでは、このコマンドにキーワードまたはオプションはありません。



(注) 「グレースフルな」システムのシャットダウンと再起動を実行するため、シャーシモードでこのコマンドを使用することを推奨します。

例

次の例は、ローカル管理シェルを開始し、システムを再起動する方法を示しています。

```
FP9300-A # connect local-mgmt
FP9300-A (local-mgmt)# reboot
Before rebooting, please take a configuration backup.
Do you still want to reboot? (yes/no)::yes
nohup: ignoring input and appending output to `nohup.out'

Broadcast message from root (Fri Apr 13 17:12:49 2018):
```

```
All shells being terminated due to system /sbin/reboot
```

次の例は、シャードモードを開始し、システムを再起動する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope chassis 1
FP9300-A /chassis # reboot
This command will reboot the chassis when committed
FP9300-A /chassis* # commit-buffer
Starting chassis shutdown. Monitor progress with the command "show fsm status"
System is safe to power off after "System halted." message is seen
FP9300-A /chassis #
Broadcast message from root@DOC-FP9300-A (Fri Apr 13 16:27:04 2018):

All shells being terminated due to system /sbin/shutdown
```

関連コマンド

コマンド	説明
shutdown	デバイスをシャットダウンします。

reinstall

論理デバイスのブートストラップ設定を変更するには、**reinstall** コマンドを使用してアプリケーションインスタンスを再インストールします。

reinstall

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

scope slot/scope app/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

論理デバイスのブートストラップ設定は、変更することができます。新しい設定を使用してアプリケーションを再インストールすることも、変更を保存しておいて後で新しい設定を使用してアプリケーションインスタンスを再インストールすることもできます。

例

次の例は、**license/licdebu** モードを開始し、スマート ソフトウェア ID 証明書とライセンス権限付与を手動で更新する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope slot 2
FP9300-A /slot # scope app-instance asa cluster1
FP9300-A /slot/app-instance # reinstall app
FP9300-A /slot/app-instance # Do you want to reinstall the app now [Y/N]? Y
...
```

関連コマンド

コマンド	説明
register	論理デバイスのブートストラップ設定を変更して、アプリケーションインスタンスを再起動します。

register

この Firepower 4100/9300 デバイスに Smart Software Manager のアカウントを登録するには、**register** コマンドを使用します。

register idtoken id_token

構文の説明	<i>id_token</i>	Smart Software Manager サテライトから取得した登録トークン。
コマンドモード	ライセンス (/license) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	Smart Software Manager または Smart Software Manager サテライトから登録トークンを要求してコピーします。詳細については、『 Cisco Smart Software Manager Satellite User Guide 』を参照してください。	

例

次の例は、このデバイスを登録する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope license
FP9300-A /license # register idtoken ZGFmNWM5NjgtYmNjYS00ZWl3L
WE3NGItMWJkOGExZjIxNGQ0LTE0NjI2NDYx%0AMDIZNT
V8N3R0dXMlZ0NjWkdpcR214eFZhM1dBOS9CVnNEYnVKM1
FP9300-A /license #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	deregister	登録解除すると、アカウントからデバイスが削除されます。デバイス上のすべてのライセンス権限と証明書が削除されます。

reinitialize

モジュールを完全に再フォーマットするには、**reinitialize** コマンドを使用します。

reinitialize

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

スロット モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

モジュールを再初期化すると、保存されたすべてのアプリケーションデータが完全に消去されます。**commit-buffer** コマンドを発行する前に、実行中のすべてのコンフィギュレーションファイルをバックアップしてください。

例

次の例は、スロット 2 のモジュールを再初期化する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope ssa
FP9300-A /ssa # scope slot 2
FP9300-A /ssa/slot # reinitialize
Warning: Reinitializing blade takes a few minutes. All the application data on blade
will get lost. Please backup application running config files before commit-buffer.
FP9300-A /ssa/slot* #
```

関連コマンド

コマンド	説明
decommission	サーバの稼働を中止します。

remove server

以前に稼働中止されたサーバをデバイス インベントリから削除するには、**remove server** コマンドを使用します。

remove server {*id*|*chassis_id/blade_id*}

構文の説明	<i>id</i>	スロット番号。有効な値の範囲は 1 ～ 255 です。
	<i>chassis_id/blade_id</i>	n/n 形式のサーバ シャーシとブレード番号。 (注) シャーシ番号は常に 1 です。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	シャーシモードでこのコマンドを使用する場合は、スロット ID 番号のみを指定する必要があります。	

例

次の例は、稼働中止されたサーバを削除する方法を示しています。

```
FP9300-A# remove server 1/1
FP9300-A* # commit-buffer
FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	decommission server	サーバの稼働を中止します。
	show server decommissioned	稼働中止されたサーバを表示します。

renew

スマートソフトウェア登録証明書を手動で更新し、すべてのセキュリティ モジュールで権限を更新するには、**renew** コマンドを使用します。

renew

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンド モード	ライセンス デバッグ (/license/licensedebug) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	デフォルトでは、アイデンティティ証明書は 6 ヶ月ごと、ライセンス資格は 30 日ごとに自動的に更新されます。インターネットアクセスの期間が限られている場合、Smart Software Manager でライセンスを変更した場合は、これらの登録を手動で更新することもできます。	

例

次の例は、license/licdebu モードを開始し、スマートソフトウェア ID 証明書とライセンス権限付与を手動で更新する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope license
FP9300-A /license # scope licdebug
FP9300-A /license/licdebug # renew
FP9300-A /license/licdebug #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	register	この Firepower 4100/9300 デバイスに Smart Software Manager のアカウントを登録します。

reset-password

ユーザーにユーザーパスワードの変更を強制するには、**reset-password** コマンドを使用します。

reset-password *password*

構文の説明	<i>password</i>	ログイン時にユーザーが使用するパスワード。
コマンドモード	scope security	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.10(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 次回ログイン時にユーザーにユーザーパスワードの変更を強制することができます。

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、パスワードをリセットする方法を示しています。

```
firepower# scope security
firepower# create local-user admin2
firepower /security/local-user # set
  account-status Account status
  email           Email
  expiration      User account expiration
  firstname       FirstName
  lastname        LastName
  password        Password
  phone           Phone
  reset-password  Change password at next login

firepower /security/local-user # set reset-password
no No
yes Yes
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set password	ユーザ アカウントのパスワードを設定します。
	\[Generate Password\]	ユーザーアカウントのパスワードを生成します。

request universal

予約要求コードを生成するには、**request universal** コマンドを使用します。

request universal

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	予約 (/license/reservation) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン Smart Software Manager で使用できるように、開始前にパーマネントライセンスを購入する必要があります。すべてのアカウントが永続ライセンスの予約について承認されているわけではありません。設定を開始する前にこの機能についてシスコの承認があることを確認します。

Firepower 4100/9300 シャーシに永久ライセンスを割り当てる前にライセンス予約を有効にします。

このコマンドを発行した後、**show license resvcode** を使用して、生成された予約要求、認証、および戻りコードを表示します。

例

次の例は、予約要求コードを生成し、生成されたコードを表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope license
FP9300-A /license # scope reservation
FP9300-A /license/reservation # request universal
FP9300-A /license/reservation # show license resvcode
Warning : generating the reservation code takes a few seconds.
Please run the 'show license resvcode' again if the code is not available.
Reservation request code :
<empty>
Reservation authorization code :
<empty>
Reservation return code :
<empty>
```

関連コマンド	コマンド	説明
	enable reservation	パーマネントライセンスの予約をイネーブルにします。
	show license	現在のライセンス情報を表示します。

restart

論理デバイスのブートストラップ設定を変更するには、**restart** コマンドを使用してアプリケーション インスタンスを再起動します。

restart

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope slot/scope app/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

論理デバイスのブートストラップ設定は、変更することができます。変更した後、直ちに新しい設定を使用してアプリケーションを再起動することも、変更を保存しておいて後で新しい設定を使用してアプリケーション インスタンスを再起動することもできます。

次の例は、アプリケーションを再起動する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope slot 2
FP9300-A /slot # scope app-instance asa cluster1
FP9300-A /slot /app-instance # restart app
FP9300-A /slot /app-instance # Do you want to restart now [Y/N]? Y
```

関連コマンド

コマンド	説明
reinstall	アプリケーション インスタンスを再インストールします。

return

永久ライセンスの戻りコードを生成するには、**return** コマンドを使用します。

return [*code*]

構文の説明	<i>code</i> (オプション) Smart Software Manager から取得したライセンスコード。
コマンドモード	予約 (/license/reservation) モード
コマンド履歴	リリース 変更内容 1.1(1) コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 永久ライセンスが不要になった場合は、Smart Software Manager に正式に返却する必要があります。返却しないと、ライセンスが使用状態のままになり、別の場所で使用できません。

このコマンドを入力すると、Firepower 4100/9300 シャーシが即座にライセンス未適用状態になり、試用状態に移行します。

返却を完了するには、<https://software.cisco.com/#SmartLicensing-Inventory> に移動し、ユニバーサルデバイス識別子 (UDI) を使用して Firepower 4100/9300 シャーシを特定し、製品インスタンスを削除します。

例

次の例は、永久ライセンスを返却する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope license
FP9300-A /license # scope reservation
FP9300-A /license/reservation # return
FP9300-A /license/reservation #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show license udi	FXOS ユニバーサル デバイス識別子 (UDI) が表示されるので、Smart Software Manager の FXOS インスタンスを見つけます。

return



第 II 部

S コマンド

- [scope コマンド \(189 ページ\)](#)
- [set コマンド \(247 ページ\)](#)
- [sh コマンド \(383 ページ\)](#)



scope コマンド

- [scope](#) (191 ページ)
- [scope adapter](#) (193 ページ)
- [scope app-software](#) (194 ページ)
- [scope auto-install](#) (195 ページ)
- [scope auto-macpool](#) (196 ページ)
- [scope banner](#) (198 ページ)
- [scope cabling](#) (199 ページ)
- [scope callhome](#) (200 ページ)
- [scope card](#) (201 ページ)
- [scope cfg-export-policy](#) (202 ページ)
- [scope cfg-export-reminder](#) (204 ページ)
- [scope chassis](#) (205 ページ)
- [scope cloud-connector](#) (206 ページ)
- [scope default-auth](#) (207 ページ)
- [scope eth-uplink](#) (208 ページ)
- [scope export-config](#) (209 ページ)
- [scope fabric](#) (210 ページ)
- [scope fabric-interconnect](#) (211 ページ)
- [scope fan-module](#) (212 ページ)
- [scope firmware](#) (213 ページ)
- [scope firmware-install](#) (214 ページ)
- [scope flow-control](#) (215 ページ)
- [scope health monitoring policy](#) (216 ページ)
- [scope hw-crypto](#) (218 ページ)
- [scope import-config](#) (220 ページ)
- [scope interface](#) (221 ページ)
- [scope ipsec](#) (223 ページ)
- [scope ipv6-config](#) (224 ページ)
- [scope ldap](#) (225 ページ)

- [scope licdebug](#) (226 ページ)
- [scope license](#) (227 ページ)
- [scope mem-leak-logging](#) (228 ページ)
- [scope monitoring](#) (229 ページ)
- [scope org](#) (230 ページ)
- [scope packet-capture](#) (231 ページ)
- [scope password-profile](#) (232 ページ)
- [scope profile](#) (233 ページ)
- [scope reservation](#) (234 ページ)
- [scope security](#) (235 ページ)
- [scope server](#) (236 ページ)
- [scope service-profile](#) (237 ページ)
- [scope slot](#) (238 ページ)
- [scope ssa](#) (239 ページ)
- [scope stats-collection-policy](#) (240 ページ)
- [scope stats-threshold-policy](#) (242 ページ)
- [scope system](#) (244 ページ)
- [scope vnic](#) (245 ページ)

scope

既存の管理対象オブジェクトを「範囲設定」（入力）するには、適切なコマンドモードで該当する **scope** コマンドを使用します。

scope *object_type* *name* [*parameters*]

構文の説明

<i>object_type</i>	開始するオブジェクトのタイプ。例には、ローカルユーザアカウントと組織が含まれています。
<i>name</i>	開始する特定のオブジェクトの名前。
パラメータ	(オプション) オブジェクトの識別に必要な追加のプロパティまたはパラメータ。このコマンドを使用する場合、一般的にオブジェクトの識別には <i>name</i> で十分です。詳細については、特定のオブジェクトに対する create コマンドの説明を参照してください。

コマンドモード

範囲設定するオブジェクトのタイプに応じて異なります。詳細については、特定のオブジェクトに対する **create** コマンドの説明を参照してください。

コマンド履歴

履歴情報については、特定のオブジェクトに対する **create** コマンドの説明を参照してください。

使用上のガイドライン

オブジェクトは、管理可能な物理コンポーネントエンティティまたは論理エンティティを抽象的に表現したものです。たとえば、シャーシ、セキュリティモジュール、ネットワークモジュール、ポート、プロセッサは、管理対象オブジェクトとして表現される物理コンポーネントです。また、ライセンス、ユーザロール、プラットフォームポリシーは、管理対象オブジェクトとして表現される論理エンティティです。

FXOS には、オブジェクト管理用に一般的な 4 つのコマンド (**create**、**delete**、**enter**、**scope**) があります。たとえば、ローカルユーザアカウントの作成、ローカルユーザアカウントの削除、ローカルユーザアカウントの入力を行い、そのアカウントのプロパティを割り当てまたは変更することができます。また、ローカルユーザアカウントを「調査」し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。

通常、これらのオブジェクト管理コマンドごとに利用可能なキーワードとオプションは同じであるため、さまざまなオブジェクトコマンドの **create** バージョンだけについて説明します。つまり、特定のオブジェクトの **delete** コマンドの詳細については、そのオブジェクトの **create** コマンドの説明を参照してください。たとえば、既存のローカルユーザアカウントの範囲設定に関連する情報については、[create local-user \(84 ページ\)](#) を参照してください。

例

次の例は、セキュリティモードを開始して、ローカルユーザアカウントを範囲設定し、アカウントの詳細を表示する方法を示しています。

```

firepower # scope security
firepower /security # scope local-user test_user
firepower /security/local-user # show detail
Local User test_user:
  First Name: test
  Last Name: user
  Email: test_user@testuser.com
  Phone:
  Expiration: Never
  Password: ****
  User lock status: Not Locked
  Account status: Active
  User Roles:
    Name: admin
    Name: read-only
  User SSH public key:
firepower /security/local-user #

```

関連コマンド

コマンド	説明
create local-user	新規のローカルユーザアカウントを作成します。
enter local-user	ローカルユーザアカウントを追加または編集します。
delete local-user	既存のローカルユーザアカウントを削除します。

scope adapter

アダプタ モードを開始するには、**scope adapter** コマンドを使用します。

scope adapter {*rack_server/id* | *chassis/server/id*}

構文の説明	<i>rack_server/id</i>	n/n 形式で入力されたラック サーバおよびアダプタ ID で指定されたアダプタの場所。
	<i>chassis/server/id</i>	n/n/n 形式で入力されたシャーシ、サーバ、およびアダプタ ID で指定されたアダプタの場所。 (注) シャーシ ID は常に 1 です。

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン アダプタ モードでは、ファームウェア バージョンを有効化または更新し、さまざまなアダプタ固有のデータを表示し、ホストおよび外部イーサネットインターフェイスに範囲設定できません。

例

次の例は、シャーシ、サーバ、およびアダプタ ID を使用してアダプタ モードを開始する方法を示しています。

```
firepower# scope adapter 1/1/1
firepower /chassis/server/adapter #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	connect adapter	特定のアダプタのコマンドシェルに接続します。
	scope chassis	シャーシモードを開始します。

scope app-software

アプリケーションソフトウェア モードを開始するには、**scope app-software** コマンドを使用します。

scope app-software

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope ssa/

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

アプリケーションソフトウェア モードで **download image** コマンドを使用すると、論理デバイス ソフトウェア イメージを Firepower 4100/9300 シャーシにコピーできます。

例

次の例は、アプリケーション ソフトウェア モードを開始する方法を示しています。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope app-software
firepower /ssa/app-software #
```

関連コマンド

コマンド	説明
download image	論理デバイス ソフトウェア イメージを Firepower 4100/9300 シャーシにコピーします。
show download-task	イメージ ファイルのダウンロードの進行状況を表示します。

scope auto-install

インフラストラクチャ更新の自動インストールモードを開始するには、**scope auto-install** コマンドを使用します。

scope auto-install

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

ファームウェア (/firmware) モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

なし

例

次の例は、ファームウェアモードを開始して、自動インストールモードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope firmware
FP9300-A /firmware # scope auto-install
FP9300-A /firmware/auto-install #
```

関連コマンド

コマンド	説明
install platform	UCS インフラ コンポーネント (UCSM、FI、IOM) を指定されたインフラ バージョンにアップグレードします。

scope auto-macpool

コンテナ インスタンス インターフェイスの MAC アドレス プールを管理するには、**scope auto-macpool** コマンドを使用します。

scope auto-macpool

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

scope ssa/

コマンド履歴

リリース

変更内容

2.4(1)

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

FXOS シャーシは、各インスタンスの共有インターフェイスが一意的 MAC アドレスを使用するように、コンテナインスタンスインターフェイスの MAC アドレスを自動的に生成します。

アプリケーション内の共有インターフェイスに MAC アドレスを手動で割り当てると、手動で割り当てられた MAC アドレスが使用されます。後で手動 MAC アドレスを削除すると、自動生成されたアドレスが使用されます。生成した MAC アドレスがネットワーク内の別のプライベート MAC アドレスと競合することがまれにあります。この場合は、アプリケーション内のインターフェイスの MAC アドレスを手動で設定してください。

自動生成されたアドレスは A2 で始まるため、アドレスが重複するリスクがあることから手動 MAC アドレスを A2 で始めることはできません。



- (注) MAC アドレスを手動で設定すると、サブインターフェイスを共有していない場合でも、分類が正しく行われるように、同じ親インターフェイス上のすべてのサブインターフェイスで一意的 MAC アドレスを使用します。

FXOS シャーシは、次の形式を使用して MAC アドレスを生成します。

A2xx.yyzz.zzzz

xx.yy はユーザ定義のプレフィックスまたはシステム定義のプレフィックスであり、zz.zzzz はシャーシが生成した内部カウンタです。システム定義のプレフィックスは、IDPROM にプログラムされている Burned-in MAC アドレス内の最初の MAC アドレスの下部 2 バイトと一致します。**connect fxos** を使用し、次に **show module** を使用して、MAC アドレスプールを表示します。たとえば、モジュール 1 について示されている MAC アドレスの範囲が b0aa.772f.f0b0 ~ b0aa.772f.f0bf の場合、システムプレフィックスは f0b0 になります。

ユーザ定義のプレフィックスは、16 進数に変換される整数です。ユーザ定義のプレフィックスの使用法を示す例を挙げます。プレフィックスとして 77 を指定すると、シャーシは 77 を 16

進数値 004D (yyxx) に変換します。MAC アドレスで使用すると、プレフィックスはシャーマンネイティブ形式に一致するように逆にされます (xxyy)。

A24D.00zz.zzzz

プレフィックス 1009 (03F1) の場合、MAC アドレスは次のようになります。

A2F1.03zz.zzzz

例

次に、mac-pool モードを開始する例を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope auto-macpool
firepower /ssa/auto-macpool #
```

関連コマンド

コマンド	説明
scope ssa	ssa モードを開始します。
set prefix	MAC アドレス プレフィックスを設定します。
show mac-address	指定された MAC アドレスを表示します。

scope banner

バナー管理モードを開始するには、**scope banner** コマンドを使用します。

scope banner

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	scope security/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このモードでは、ユーザログインの前にアプライアンスによって表示されるバナーを管理できます。	

例

次の例は、バナーモードを開始し、現在のログイン前バナーを表示する方法を示しています。

```
firepower # scope security
firepower /security # scope banner
firepower /security/banner # show pre-login-banner

Pre login banner:
  Message
  -----
  Firepower-9300-2
  Western Data Center

firepower /security/banner #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	clear message	既存のログイン前バナーからテキストを削除します。実際のバナーオブジェクト自体は削除されません。
	create pre-login-banner	ログイン画面の前に表示されるバナーを作成します。初期のバナーオブジェクトは空です。
	set message	ログイン前バナーとして表示されるテキストの行を追加または置き換えます。

scope cabling

ケーブル接続モードを開始するには、**scope cabling** コマンドを使用します。

scope cabling

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	ケーブル接続モードからファブリック モードにアクセスできます。このモードでは、ポートブレイクアウトを表示および管理できます。	

例

次の例は、ケーブル接続モードを開始する方法を示します。

```
FP9300-A # scope cabling
FP9300-A /cabling #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	scope fabric-interconnect	ファブリック インターコネクト モードを開始します。

scope callhome

callhome モードを開始するには、**scope callhome** コマンドを使用します。

scope callhome

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

monitoring モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。

例

次の例は、monitoring モードから callhome モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A#scope monitoring
FP9300-A /monitoring # scope callhome
FP9300-A /monitoring/callhome #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show callhome	Call Home の設定およびステータス情報を表示します。

scope card

特定のファブリックカードの管理モードを開始するには、**scope card** コマンドを使用します。

scope card *card_ID*

構文の説明	<i>card_ID</i>	ファブリックカードの数値識別子。
コマンドモード	scope fabric-interconnect/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン cardモードでは、ファブリックカードのオフラインまたはオンラインに切り替えることができます。

例

次の例は、cardモードを開始し、利用可能なコマンドを表示する方法を示しています。

```
firepower# scope fabric-interconnect
firepower /fabric-interconnect # scope card 2
firepower /fabric-interconnect/card # ?
  acknowledge  Acknowledge
  scope        Changes the current mode
  set          Set property values
  show         Show system information

firepower /fabric-interconnect/card #
```

コマンド	説明
set adminstate	ファブリックカードのオフラインまたはオンラインを切り替えます。

scope cfg-export-policy

設定のエクスポートポリシーを入力するには、**scope cfg-export-policy** コマンドを使用します。

scope cfg-export-policyname

構文の説明	<i>name</i>	入力する設定エクスポート ポリシーの名前。 設定エクスポート ポリシーを作成または削除することはできません。既存のデフォルトポリシーの設定だけを行うことができます。ポリシー名として default を入力します。
コマンドモード	scope org/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 設定エクスポート ポリシーを作成または削除することはできません。既存のデフォルトポリシーのみを設定できます。

例

次の例は、設定のエクスポートポリシーを入力し、現在の設定の詳細を表示する方法を示しています。

```
firepower # scope org
firepower /org # scope cfg-export-policy default
firepower /org/cfg-export-policy # show detail
Config Export policy:
  Name: default
  Description: Configuration Export Policy
  Admin State: Enable
  Protocol: Ftp
  Hostname: 192.168.1.2
  User: user1
  Remote File: /export/cfg-backup.xml
  Schedule: Daily
  Port: Default
  Current Task:
firepower /org/cfg-export-policy #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	export-config	現在のシステム設定をリモートサーバにXMLファイルとしてエクスポートします。エクスポート設定オブジェクトを作成します。
	import-config	以前にエクスポートしたXMLコンフィギュレーションファイルをこのアプライアンスにコピーします。

コマンド	説明
set password-encryption-key	設定のエクスポート中に機密情報を暗号化するときに使用されるキーを指定します。

scope cfg-export-reminder

設定エクスポートの通知オブジェクトを入力するには、**scope cfg-export-reminder** コマンドを使用します。

scope cfg-export-reminder

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope org/

コマンド履歴

リリース

変更内容

2.0.1

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

設定エクスポートの通知オブジェクトを作成または削除することはできません。既存の通知オブジェクトのみを設定できます。

例

次の例は、設定エクスポートの通知オブジェクトを入力し、現在の設定を表示する方法を示しています。

```
firepower # scope org
firepower /org # scope cfg-export-reminder
firepower /org/cfg-export-reminder # show
```

```
Config Export Reminder:
  Config Export Reminder (Days): 30
  AdminState: Enable
firepower /org/cfg-export-reminder #
```

関連コマンド

コマンド	説明
import-config	以前にエクスポートした XML コンフィギュレーションファイルをこのアプライアンスにコピーします。
scope cfg-export-policy	設定エクスポート ポリシーを入力します。
set password-encryption-key	設定のエクスポート中に機密情報を暗号化するときに使用されるキーを指定します。

scope chassis

シャーシモードを開始するには、**scope chassis** コマンドを使用します。

scope chassis *chassis_id*

構文の説明	<i>chassis_id</i>	シャーシ ID 番号。この値は常に 1 です。
-------	-------------------	--------------------------------

コマンドモード	EXEC モード
---------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、シャーシモードの開始方法を示します。

```
firepower# scope chassis 1  
firepower /chassis #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show chassis	シャーシ情報を表示します。

scope cloud-connector

クラウド コネクタ モードを開始するには、**scope cloud-connector** コマンドを使用します。

scope cloud-connector

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、クラウド コネクタ モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope cloud-connector
FP9300-A /cloud-connector #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cloud-connector	クラウド コネクタの設定情報を表示します。

scope default-auth

デフォルトの認証モードを開始するには、**scope default-auth** コマンドを使用します。

scope default-auth

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	セキュリティ モード 認証ドメイン (/security/auth-domain)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.4(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	<p>このモードで set コマンドを使用して、認証サービスやセッション タイムアウト値などのデフォルトの認証パラメータを設定します。</p> <p>ドメインのデフォルトの認証モードを開始するには、このコマンドを使用する前に認証ドメインを作成する必要があります。</p> <p>例</p> <p>次の例は、セキュリティモードを開始し、デフォルトの認証モードを開始する方法を示しています。</p> <pre>FP9300-A# scope security FP9300-A /security # scope default-auth FP9300-A /security/default-auth #</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	set realm	デフォルトの認証サービスを設定します。
	show	デフォルトの認証設定を表示します。

scope eth-uplink

イーサネットアップリンク モードを開始するには、**scope eth-uplink** コマンドを使用します。

scope eth-uplink

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。

例

次の例は、イーサネットアップリンク モードを開始する方法を示しています。

```
firepower#scope eth-uplink
firepower /eth-uplink #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show	イーサネットアップリンク情報を表示します。

scope export-config

既存のエクスポート設定オブジェクトを入力するには、**scope export-config** コマンドを使用します。

scope export-config*hostname*

構文の説明	<i>hostname</i>	エクスポート設定オブジェクトの識別子。これは、設定がバックアップされているリモートサーバの名前または IP アドレスです。
コマンドモード	scope system/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1.(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン エクスポート設定オブジェクトは、現在の論理デバイスおよびプラットフォーム設定をバックアップする **export-config** コマンドを発行する場合に作成されます。**scope export-config** は、オブジェクトを入力してパラメータを編集するために使用されます。エクスポート設定オブジェクトに関連する **create** または **enter** コマンドはありません。エクスポート設定オブジェクトの削除には、**delete** コマンドを使用できます。

例

次の例は、以前にエクスポートされた設定オブジェクトを有効にする方法を示しています。

```
firepower # scope system
firepower /system # scope export-config 192.168.1.2
firepower /system/export-config #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cfg-export-policy	設定のエクスポートポリシーを指定します。
	delete export-config	既存のエクスポート設定オブジェクトを削除します。
	export-config	現在のシステム設定をリモートサーバに XML ファイルとしてエクスポートします。エクスポート設定オブジェクトを作成します。

scope fabric

ファブリック モードを開始するには、**scope fabric** コマンドを使用します。

scope fabric [a]

構文の説明	a	ファブリック A を指定します。Firepower デバイスにはファブリックが1つしかありません。このキーワードの使用は任意です。
コマンドモード	scope eth-uplink/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	ファブリック モードでは、インターフェイス、ポート チャネル、集約インターフェイス、および VLAN を管理できます。	

例

次の例は、ファブリック モードを開始する方法を示しています。

```
firepower# scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show interface	ファブリック モードでは、すべてのデバイス インターフェイスの情報が表示されます。
	show port-channel	ファブリック モードでは、すべてのポートチャネルの情報とステータスが表示されます。

scope fabric-interconnect

ファブリック インターコネクト モードを開始するには、**scope fabric-interconnect** コマンドを使用します。

scope fabric-interconnect a

構文の説明	a	ファブリック A を指定します。Firepower デバイスにはファブリックが1つしかありません。
コマンドモード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、ファブリック インターコネクト モードの開始方法を示しています。

```
firepower# scope fabric-interconnect a
firepower /fabric-interconnect #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fabric-interconnect	ファブリック インターコネクトの情報を表示します。

scope fan-module

特定のファン モジュールを入力するには、シャーシ モードで **scope fan-module** コマンドを使用します。

scope fan-module {**1** *module_id*}

構文の説明	<i>tray_id</i>	<i>tray_id</i> は常に 1 です。
	<i>module_id</i>	入力する特定のファンモジュールを指定します。値は1～8です。
コマンドモード	scope chassis/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、fan-module モードを開始にする方法を示しています。

```
firepower# scope chassis
firepower /chassis # scope fan-module 1 2
firepower /chassis/fan-module #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	scope fan	特定のファンを有効にします。

scope firmware

ファームウェア モードを開始するには、**scope firmware** コマンドを使用します。

scope firmware

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。	

例

次の例は、ファームウェア モードの開始方法を示します。

```
firepower# scope firmware  
firepower /firmware #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show server firmware	サーバファームウェア情報を表示します。
	show server version	サーバファームウェアバージョンを表示します。

scope firmware-install

firmware-installation モードを開始するには、**scope firmware-install** コマンドを使用します。

scope firmware-install

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ファームウェア モード

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

この scope を使用して、以前にダウンロードしたファームウェアパッケージでシステムファームウェアを更新します。

例

次の例は、firmware-installation モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope firmware
FP9300-A /firmware # scope firmware-install
FP9300-A /firmware-install #
```

関連コマンド

コマンド	説明
download image	ファームウェア パッケージをダウンロードします。
install firmware	ファームウェア パッケージをインストールします。

scope flow-control

フロー制御モードを開始するには、**scope flow-control** コマンドを使用します。

scope flow-control

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope eth-uplink/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

フロー制御ポリシーは、ポートの受信バッファがいっぱいになったときに、イーサネットポートが IEEE 802.3x ポーズフレームを送受信するかどうかを決定します。これらのポーズフレームは、バッファがクリアされるまでの数ミリ秒間、送信側ポートからのデータの送信を停止するように要求します。デバイス間でフロー制御が行われるようにするには、両方のデバイスで、対応する送信および受信フロー制御パラメータを有効にする必要があります。

デフォルトのフロー制御ポリシーは、送受信の制御を無効にし、自動ネゴシエーションに優先順位を設定します。

例

次の例は、フロー制御モードを開始し、現在のポリシー情報を表示する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope flow-control
firepower /eth-uplink/flow-control # show policy detail
Flowctrl policy:
  Name: default
  receive: Off
  send: Off
  Prio: Auto
firepower /eth-uplink/flow-control #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create policy	新しい名前付きフロー制御ポリシーを追加します。
set	フロー制御/ポリシーモードで、フロー制御ポリシーのプロパティを設定します。
show policy	フロー制御ポリシーのプロパティ値を表示します。

scope health monitoring policy

メモリ使用量のメトリック

収集されたメモリ統計情報は、CLI を使用して、**scope** 'stats-collection-memory' の下で有効または無効にすることができます。デフォルトでは有効に設定されています。

また、すべてのメモリモニタリング障害に関する障害しきい値を設定することができます。しきい値 (**threshold-value**) は 50 ~ 99 の範囲で指定できます。デフォルトでは 95% に設定されています。

```
scope health-monitoring-policy
scope stats-collection-memory
enable | disable
set fault-threshold <threshold-value>
```

コマンドモード monitoring モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.11.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、メモリモニタリングを有効または無効にしたり、すべてのメモリモニタリング障害の障害しきい値を変更することができます。

例

```
firepower# scope monitoring
firepower /monitoring # scope health-monitoring-policy
firepower /monitoring/health-monitoring-policy # scope stats-collection-memory
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-memory # set
fault-threshold 75
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-memory # disable
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-memory* # commit-buffer
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-memory # show
Memory stats collection policy:
Admin State Fault-Threshold (%)
-----
Disabled 75
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-memory # show detail
Admin State: Disabled
Fault Threshold (%): 75
```

CPU 使用量のメトリック

収集された CPU 統計情報は、CLI を使用して、**scope** 'stats-collection-cpu' の下で有効または無効にすることができます。デフォルトでは有効に設定されています。

また、すべての CPU モニタリング障害に関する障害しきい値を設定することができます。しきい値 (threshold-value) は 50 ~ 99 の範囲で指定できます。デフォルトでは 90% に設定されています。

```
scope health-monitoring-policy
scope stats-collection-cpu
enable | disable
set fault-threshold <threshold-value>
```

コマンド モード

monitoring モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
------	------

2.11.1	このコマンドが導入されました。
--------	-----------------

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、CPU モニタリングを有効または無効にしたり、すべての CPU モニタリング障害の障害しきい値を変更することができます。

例

```
firepower# scope monitoring
firepower /monitoring # scope health-monitoring-policy
firepower /monitoring/health-monitoring-policy # scope stats-collection-cpu
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-cpu # set fault-threshold
85
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-cpu # enable
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-cpu * # commit-buffer
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-cpu # show
Cpu stats collection policy:
Admin State Fault-Threshold (%)
-----
Enabled 85
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-cpu # show detail
Admin State: Enabled
Fault Threshold (%): 85
```

scope hw-crypto

コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーションを有効または無効にするには、**scope hw-crypto** コマンドを使用します。TLS 暗号化アクセラレーションに関する詳細については、*Management Center* コンフィギュレーションガイドを参照してください。

scope hw-crypto

コマンドモード	connect module	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.7.1	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	このコマンドにより、コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーションが有効または無効になります。	

例

次に、コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーションを有効にする例を示します。

```
scope ssa
/ssa # show app-instance
```

App Name	Identifier	Slot ID	Admin State	Oper State	Running Version	Startup Version
Version	Deploy Type	Turbo Mode	Profile Name	Cluster State	Cluster	Role
ftd	FTD-FDM	1	Enabled	Online	6.5.0.1159	6.5.0.1159
	Native	No		Not Applicable	None	
ftd	ftd2	2	Enabled	Online	6.5.0.1159	6.5.0.1159
	Container	No	Default-Small	Not Applicable	None	

```

/ssa # sc slot 2
/ssa/slot # scope app-instance ftd ftd2
/ssa/slot/app-instance # scope hw-crypto
/ssa/slot/app-instance/hw-crypto # set admin-state enabled
/ssa/slot/app-instance/hw-crypto* # commit-buffer

```

次に、コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーションを無効にする例を示します。

```
scope ssa
/ssa # show app-instance
```

App Name	Identifier	Slot ID	Admin State	Oper State	Running Version	Startup Version
Version	Deploy Type	Turbo Mode	Profile Name	Cluster State	Cluster	Role
ftd	FTD-FDM	1	Enabled	Online	6.5.0.1159	6.5.0.1159
	Native	No		Not Applicable	None	
ftd	ftd2	2	Enabled	Online	6.5.0.1159	6.5.0.1159
	Container	No	Default-Small	Not Applicable	None	

```
/ssa # sc slot 2
/ssa/slot # scope app-instance ftd ftd2
/ssa/slot/app-instance # scope hw-crypto
/ssa/slot/app-instance/hw-crypto # set admin-state disabled
/ssa/slot/app-instance/hw-crypto* # commit-buffer
```

関連コマンド

コマンド	説明
create hw-crypto	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション 設定を作成します。
delete hw-crypto	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション 設定を削除します。
show hw-crypto	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション 設定のステータスを表示します。

scope import-config

既存のインポート設定オブジェクトを入力するには、**scope import-config** コマンドを使用します。

scope import-config*hostname*

構文の説明	<i>hostname</i>	インポート設定オブジェクトの識別子。これは、設定が格納されているリモート サーバの名前または IP アドレスです。
-------	-----------------	---

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1.(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン エクスポート設定オブジェクトは、現在の論理デバイスおよびプラットフォーム設定をバックアップする **export-config** コマンドを発行した場合に作成されます。**import-config** コマンドは、以前にエクスポートされたコンフィギュレーション ファイルをインポートするために使用され、同時にインポート設定オブジェクトを作成します。

scope import-config を使用すると、既存のインポート設定オブジェクトを入力し、そのパラメータを編集できます。インポート設定オブジェクトには、**create** または **enter** コマンドは関連付けられていません。インポート設定オブジェクトの削除には、**delete** コマンドを使用できます。

例

次の例は、既存のインポート設定オブジェクトを有効にする方法を示しています。

```
firepower # scope system
firepower /system # scope import-config 192.168.1.2
firepower /system/import-config #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cfg-export-policy	設定のエクスポート ポリシーを指定します。
	delete import-config	既存のインポート設定オブジェクトを削除します。
	import-config	以前にエクスポートしたシステム設定をリモート サーバからインポートします。インポート設定オブジェクトを作成します。

scope interface

特定のインターフェイスのコンフィギュレーションモードを開始するには、**scope interface** コマンドを使用します。

scope interface { *Ethernet*slot_id|port_id|slot_num }

構文の説明

*Ethernet*slot_id|port_id イーサネットポート名。

slot_num インターフェイスのスロット番号。

コマンドモード

scope eth-uplink/scope fabric a/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.1	コマンドが追加されました。

例

次の例は、特定のインターフェイスのコンフィギュレーションモードを開始し、現在の設定を表示する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # scope interface Ethernet1/5
firepower /eth-uplink/fabric/interface # show detail
```

```
Interface:
  Port Name: Ethernet1/5
  User Label:
  Port Type: Data
  Admin State: Enabled
  Oper State: Up
  State Reason:
  flow control policy: default
  Auto negotiation: No
  Admin Speed: 1 Gbps
  Oper Speed: 1 Gbps
  Admin Duplex: Full Duplex
  Oper Duplex: Full Duplex
  Ethernet Link Profile name: default
  Oper Ethernet Link Profile name: fabric/lan/eth-link-prof-default
  Uddl Oper State: Admin Disabled
  Inline Pair Admin State: Enabled
  Inline Pair Peer Port Name:
  Allowed Vlan: All
  Network Control Policy: default
  Current Task:
firepower /eth-uplink/fabric/interface #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	disable	現在のインターフェイスを無効にします。
	enable	現在のインターフェイスを有効にします。
	set	インターフェイスモードで、インターフェイス コンフィギュレーションパラメータを設定します。
	show interface	インターフェイスの設定とステータスに関する情報を表示します。

scope ipsec

IPSec モードを開始するには、**scope ipsec** コマンドを使用します。

scope ipsec

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	セキュリティ モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。	

例

次の例は、IPSec モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # scope ipsec
FP9300-A /security/ipsec #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show connection	IPSec の接続情報を表示します。

scope ipv6-config

ファブリックの IPv6 管理インターフェイスを設定できる場合、IPv6 設定モードを開始するには、ファブリック インターコネクト モードで **scope ipv6-config** コマンドを使用します。

scope ipv6-config

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ファブリック インターコネクト モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。

例

次に、IPv6 設定モードを開始する例を示します。

```
FP9300-A# scope fabric-interconnect a
FP9300-A /fabric-interconnect # scope ipv6-config
FP9300-A /fabric-interconnect/ipv6-config #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ipv6-if	IPv6 管理インターフェイス情報を表示します。

scope ldap

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) コンフィギュレーションモードを開始するには、**scope ldap** コマンドを使用します。

scope ldap

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

scope security/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。

例

次の例は、LDAP モードを開始する方法を示します。

```
firepower# scope security
firepower /security # scope ldap
firepower /security/ldap #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create ldap-group-rule	LDAP プロバイダー グループ ルール パラメータを作成します。
create server	セキュリティ/LDAP モードで、新しい LDAP サーバーを作成します。
set	セキュリティ/LDAP/サーバーモードで、SSL の有効化/無効化などのさまざまな LDAP サーバー関連パラメータを設定します。

scope licdebug

ライセンスモードからライセンスデバッグモードを開始するには、**scope licdebug** コマンドを使用します。

scope licdebug

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

License mode

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

例

次の例は、ライセンスモードからライセンスデバッグモードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope license
FP9300-A /license # scope licdebug
FP9300-A /license/licdebug #
```

関連コマンド

コマンド

説明

scope license

ライセンスモードを開始します。

scope license

ライセンス モードを開始するには、**scope license** コマンドを使用します。

scope license

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。
-------	---------------------------

コマンドモード	任意のコマンドモード
---------	------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、EXEC レベルからライセンス モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope license
FP9300-A /license #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show license	一部またはすべてのライセンス パッケージの使用状況を表示します。

scope mem-leak-logging

スタックトレース状態で各 UCSM プロセスのメモリリークを検出できるようにするには、**scope mem-leak-logging** コマンドを使用します。

scope mem-leak-logging 設定

構文の説明

設定 ノブのメモリリークログを設定します。

コマンドモード

scope monitoring/scope sysdebug

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、メモリリーク機能を有効にして、指定したプロセスのメモリリークの問題をデバッグし、スタックトレースを有効にします。

例

次の例は、ノブの状態を設定し、スタックトレースモードを有効にする方法を示しています。

```
Firepower#scope monitoring
Firepower /monitoring# scope sysdebug
Firepower /monitoring/sysdebug# scope mem-leak-logging
Firepower /monitoring/sysdebug/mem-leak-logging # set ?
  appag-log           Memory Leak Logging for appAG
  bladeag-log         Memory Leak Logging for bladeAG
  dcosag-log          Memory Leak Logging for dcosAG
  dme-log             Memory Leak Logging for dme
  extvmmag-log        Memory Leak Logging for extvmmAG
  hostagentag-log     Memory Leak Logging for hostagentAG
  licenseag-log       Memory Leak Logging for licenseAG
  nicag-log           Memory Leak Logging for nicAG
  portag-log          Memory Leak Logging for portAG
  rsdag-log           Memory Leak Logging for rsdag
  serviceorchag-log   Memory Leak Logging for serviceOrchAG
  sessionmgrag-log    Memory Leak Logging for sessionmgrAG
  statsag-log         Memory Leak Logging for statsAG
  svcmonag-log        Memory Leak Logging for svcmonAG
Firepower /monitoring/sysdebug/mem-leak-logging # set statsag-log enable ?
<CR>
  stacktrace Stacktrace for Memory Leak Report
Firepower /monitoring/sysdebug/mem-leak-logging # set statsag-log enable stacktrace ?
  off Off
  on  On
```

scope monitoring

システム モニタリング モードを開始するには、**scope monitoring** コマンドを使用します。

scope monitoring

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。	

例

次の例は、モニタリング モードを開始する方法を示します。

```
FP9300-A#scope monitoring
FP9300-A /monitoring #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show server status	サーバのステータスに関する情報を表示します。

scope org

組織モードを開始するには、**scope org** コマンドを使用します。

scope org [*org_name*]

構文の説明

org_name (任意) 組織名。

コマンドモード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、組織モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope org org100
FP9300-A /org #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show org	現在定義されている組織をリストします。

scope packet-capture

パケット キャプチャ モードを開始するには、**scope packet-capture** コマンドを使用します。

scope packet-capture

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
------	------

1.1(1)	コマンドが追加されました。
--------	---------------

使用上のガイドライン

管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。

例

次の例は、パケット キャプチャ モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A#scope packet-capture
FP9300-A /monitoring #
```

関連コマンド

コマンド	説明
traceroute	ネットワーク上の別のデバイスへのルートをトレースします。

scope password-profile

パスワードプロファイル モードを開始するには、**scope password-profile** コマンドを使用します。

scope password-profile

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

セキュリティ モード

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

例

次の例は、パスワードプロファイルセキュリティ モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # scope password-profile
FP9300-A /security/password-profile #
```

関連コマンド

コマンド

説明

show password-profile

パスワードプロファイル情報を表示します。

scope profile

Smart Call Home およびスマートライセンスの宛先プロファイルモードを開始するには、**scope profile** コマンドを使用します。

scope profile *profile_name*

構文の説明	<i>profile_name</i>	宛先プロファイルの名前。1 ～ 16 文字です。
コマンドモード	Callhome (/monitoring/callhome/) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、プロファイルモードを開始し、このプロファイルで設定されている宛先を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A /monitoring/callhome # scope profile SLProfile
FP9300-A /monitoring/callhome/profile # show destination
```

```
Destination:
  Name          Transport Protocol Email or HTTP/HTTPS URL Address
  -----
  SLDest        Https
  https://tools.cisco.com/its/service/oddce/services/DDCEService
FP9300-A /monitoring/callhome/profile #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show profile	現在定義されている Smart Call Home とスマートライセンスのプロファイルをリストします。monitoring/callhome モードで使用できます。

scope reservation

ライセンス予約モードを開始するには、**scope reservation** コマンドを使用します。

scope reservation

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

License mode

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

例

次の例は、ライセンス モードから予約モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope license
FP9300-A /license # scope reservation
FP9300-A /license/reservation #
```

関連コマンド

コマンド	説明
request universal	予約要求コードを生成します。
show license	一部またはすべてのライセンス パッケージの使用状況を表示します。

scope security

セキュリティモードを開始するには、**scope security** コマンドを使用します。

scope security

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
------	------

1.1(1)	コマンドが追加されました。
--------	---------------

使用上のガイドライン

管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。

例

次の例は、セキュリティモードを開始する方法を示します。

```
firepower# scope security  
firepower /security #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show security	EXECモードでは、現在のセキュリティポリシーに関する情報を表示します。

scope server

サーバモードを開始するには、**scope server** コマンドを使用します。

scope server { *id* | *dynamic_uuid* | *chassis_id/blade_id* }

構文の説明	<i>id</i>	サーバ ID。1 ~ 255 の整数。
	<i>dynamic_uuid</i>	サーバの動的汎用一意 ID (UUID)。
	<i>chassis_id/blade_id</i>	シャーシおよびブレード ID を使用して指定されたサーバ。n/n 形式で入力する必要があります。 (注) シャーシ ID は常に 1 です。
コマンドモード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、サーバモードを開始する方法を示します。

```
FP9300-A# scope server 1/1
FP9300-A /chassis/server #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show server adapter	サーバのネットワーク アダプタに関する情報を表示します。
	show server identity	サーバの ID 情報を表示します。

scope service-profile

サービス プロファイル モードを開始するには、**scope service-profile** コマンドを使用します。

scope service-profile { *dynamic_uuid* | *org* | *server* }

構文の説明		
	<i>dynamic_uuid</i>	サービス プロファイルの動的 UUID。
	<i>org</i>	サービス プロファイルが作成された組織の名前。1～16 文字です。
	<i>server</i>	サービス プロファイルが作成されたサーバの ID。

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン *org* オプションを指定してこのコマンドを使用するには、組織およびこの組織のサービス プロファイルがすでに存在する必要があります。

server オプションを指定してこのコマンドを使用するには、サーバ ID、またはシャーシ ID と ブレード ID (n/n 形式) を使用してサーバを指定できます。シャーシ ID は常に **1** です。

例

次の例は、サービス プロファイル モードを開始する方法を示しています。

```
firepower # scope service-profile server 1/1
firepower /org/service-profile #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show service-profile	サービス プロファイル情報を表示します。

scope slot

特定の SSP モジュールのスロット モードを開始するには、**scope slot** コマンドを使用します。

scope slot *slot_ID*

構文の説明	<i>slot_ID/id</i>	モジュール スロットを識別します。FP9300 の場合、この値は 1、2、または 3 のいずれかになります。FP4100 の場合、この値は 1 です。
コマンド モード	scope ssa/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン スロット モードでは、論理デバイス上のアプリケーション イメージを更新できます。

例

次の例は、スロット モードを開始する方法を示しています。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope slot 2
firepower /ssa/slot #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show security	セキュリティ情報を表示します。

scope ssa

セキュリティ サービス (ssa) モードを開始するには、**scope ssa** コマンドを使用します。

scope ssa

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。	

例

次の例は、ssa モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope ssa
FP9300-A /ssa #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show security	セキュリティ情報を表示します。

scope stats-collection-policy

Firepower の機能エリアの 1 つに統計情報収集ポリシーを入力するには、**scope stats-collection-policy** コマンドを使用します。

scope stats-collection-policy *policy-area*

構文の説明	<i>policy-area</i>	<p>特定の収集ポリシー エリア：</p> <ul style="list-style-type: none"> • Adapter：アダプタに関連した統計情報。 • Chassis：ブレード シャーシに関連した統計情報。 • Fex：設定されたファブリック エクステンダに関連した統計情報。 • Host：このポリシーは今後サポートされる機能のプレースホルダです。 • Port：サーバポート、アップリンク イーサネット ポート、およびアップリンク ファイバチャネル ポートを含むポートに関連した統計情報。 • Server：サーバに関連した統計情報。
コマンドモード	scope monitoring/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 統計情報は、システムの複数の機能エリアについて収集し、報告できます。

set collection-interval コマンドを使用して、統計情報を収集する頻度を定義し、**set reporting-interval** コマンドを使用して、統計情報を報告する頻度を定義します。これらの間隔で統計情報収集ポリシーが定義されます。

報告インターバル中に複数の統計データ ポイントが収集できるように、報告インターバルは収集インターバルよりも長くなります。これにより、最小値、最大値、平均値を計算して報告するために十分なデータが提供されます。



(注) 機能エリアごとにデフォルト統計情報収集ポリシーが 1 つずつあります。追加で統計情報収集ポリシーを作成できません。また、既存のデフォルトポリシーを削除できません。デフォルト ポリシーを変更することだけが可能です。

例

次の例は、ポートの統計情報収集ポリシーを入力し、収集間隔を1分に設定し、レポート間隔を30分に設定し、トランザクションをコミットする方法を示しています。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring # scope stats-collection-policy port
firepower /monitoring/stats-collection-policy # set collection-interval 1minute
firepower /monitoring/stats-collection-policy* # set reporting-interval 30minute
firepower /monitoring/stats-collection-policy* # commit-buffer
firepower /monitoring/stats-collection-policy #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set collection-interval	統計情報の収集頻度を指定します。
set reporting-interval	統計情報の報告頻度を指定します。

scope stats-threshold-policy

システムのコンポーネントの1つに統計情報しきい値ポリシーを入力するには、**scope stats-threshold-policy** コマンドを使用します。

scope stats-threshold-policy *policy-name*

構文の説明	<i>policy-name</i>	入力する特定のしきい値ポリシーの名前。 イーサネット サーバポートまたはイーサネットアップリンクポートでは、統計情報のしきい値ポリシーを作成したり、削除できません。既存のデフォルトポリシーのみを設定できるため、これらのポリシーの場合、 default を <i>policy-name</i> に入力します。
コマンドモード	scope eth-server/ scope eth-uplink/ scope org/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 統計情報しきい値ポリシーは、システムの特定の側面についての統計情報をモニタし、指定されたしきい値を超えた場合にはイベントを生成します。最小値と最大値の両方のしきい値を設定できます。たとえば、CPUの温度が特定の値を超えた場合や、サーバを過度に使用していたり、サーバの使用に余裕がある場合には、アラームを発生するようにポリシーを設定できます。

イーサネットサーバポートまたはイーサネットアップリンクポートごとにデフォルトの統計情報しきい値ポリシーが1つあります。追加の統計情報しきい値ポリシーは作成できません。また、このコンポーネントの既存のデフォルトポリシーを削除できません。デフォルトポリシーを変更するだけです。

ただし、組織モード (*scope org/*) では統計情報のしきい値ポリシーを作成および削除できません。詳細については、**create stats-threshold-policy** コマンドを参照してください。



(注) **set collection-interval** コマンドを使用して、統計情報を収集する頻度を定義し、**set reporting-interval** コマンドを使用して、統計情報を報告する頻度を定義します。これらの間隔で統計情報収集ポリシーが定義されます。

例

次の例は、デフォルトのイーサネットアップリンク統計情報のしきい値ポリシーを調査し、エラー統計情報クラスを作成し、巡回冗長検査（CRC）エラーカウントプロパティを作成し、各ポーリング間隔の通常の CRC エラー カウントを 1000 に指定し、通常超えの警告しきい値 1250 を作成し、クラスをコミットする方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope stats-threshold-policy default
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy # create class ether-error-stats
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class* # create property crc-delta
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property* # set normal-value 1000
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property* # create threshold-value
above-normal warning
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # set
escalating 1250
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* #
commit-buffer
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value #
```

次の例では、組織モードを調査し、サーバとサーバコンポーネント統計情報に新しい統計情報しきい値ポリシーを作成し、CPU 環境統計情報のしきい値ポリシークラスを作成し、CPU 温度プロパティを作成し、通常の CPU 温度を摂氏 48.5 度に指定し、通常超えの警告しきい値を摂氏 50 度に作成し、トランザクション全体をコミットする方法を示します。

```
firepower # scope org
firepower /org # create stats-threshold-policy ServStatsPolicy
firepower /org/stats-threshold-policy* # create class cpu-env-stat
firepower /org/stats-threshold-policy/class* # create property temperature
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property* # set normal-value 48.5
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property* # create threshold-value above-normal
warning
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # set escalating
50.0
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # commit-buffer
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create class	統計情報の新しいクラスを作成します。
create property	統計情報のクラスの新しいプロパティを作成します。
create threshold-value	クラスプロパティにしきい値（above-normal または below-normal）を指定します。
scope stats-collection-policy	stats-collection-policy モードを開始します。ここでは、統計情報の収集と報告の間隔を管理できます。

scope system

システム管理モードを開始するには、**scope system** コマンドを使用します。

scope system

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このモードでは、コンフィギュレーションファイルのエクスポートやインポートなど、システム設定を管理できます。	

例

次の例は、システム管理モードを開始する方法を示しています。

```
firepower# scope system
firepower /system #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show system	このデバイスに設定されているシステムに関する情報を表示します。

scope vnic

仮想 NIC モードを開始するには、**scope vnic** コマンドを使用します。

scope vnic *dynamic_mac*

構文の説明	<i>dynamic_mac</i>	仮想 NIC ダイナミック MAC アドレス。
コマンドモード	EXEC モード サービス プロファイル モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、組織モードで仮想 NIC モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope org org10
FP9300-A /org # scope service-profile sp10
FP9300-A /org/service-profile # scope vnic vNIC10
FP9300-A /org/service-profile/vnic #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show server adapter	利用可能なネットワーク アダプタに関する情報を表示します。



set コマンド

- [set absolute-session-timeout](#) (250 ページ)
- [set account-status](#) (251 ページ)
- [set address](#) (252 ページ)
- [set admin-state](#) (253 ページ)
- [set auth-server-group](#) (254 ページ)
- [set authentication](#) (255 ページ)
- [set auto-negotiation](#) (256 ページ)
- [set cert](#) (257 ページ)
- [set certchain](#) (259 ページ)
- [set \(certreq\)](#) (261 ページ)
- [set \(cfg-export-policy\)](#) (264 ページ)
- [set \(cfg-export-reminder\)](#) (267 ページ)
- [set cli](#) (268 ページ)
- [set clock](#) (270 ページ)
- [set cluster-control-link network](#) (271 ページ)
- [set collection-interval](#) (272 ページ)
- [set con-absolute-session-timeout](#) (274 ページ)
- [set con-session-timeout](#) (275 ページ)
- [set cpu-core-count](#) (276 ページ)
- [set deploy-type](#) (278 ページ)
- [set descr](#) (280 ページ)
- [set duplex](#) (281 ページ)
- [set email](#) (282 ページ)
- [set enforce-strong-password](#) (283 ページ)
- [set expiration](#) (285 ページ)
- [set \(export-config\)](#) (286 ページ)
- [set firstname](#) (288 ページ)
- [set flow-control-policy](#) (289 ページ)
- [set \(flow-control policy\)](#) (290 ページ)

- [set frequency \(292 ページ\)](#)
- [set http-proxy-server-enable \(293 ページ\)](#)
- [set http-proxy-server-port \(294 ページ\)](#)
- [set http-proxy-server-url \(295 ページ\)](#)
- [set https \(296 ページ\)](#)
- [set \(interface\) \(299 ページ\)](#)
- [set keyring-name \(303 ページ\)](#)
- [set lastname \(304 ページ\)](#)
- [set link-state-sync \(305 ページ\)](#)
- [set local-address \(306 ページ\)](#)
- [set log-level \(307 ページ\)](#)
- [set max-login-attempts \(308 ページ\)](#)
- [set message \(309 ページ\)](#)
- [set min-password-length \(311 ページ\)](#)
- [set mode \(312 ページ\)](#)
- [set modulus \(313 ページ\)](#)
- [set out-of-band \(314 ページ\)](#)
- [set password \(316 ページ\)](#)
- [set password-encryption-key \(317 ページ\)](#)
- [set \(password-profile\) \(319 ページ\)](#)
- [set phone \(321 ページ\)](#)
- [set \(port-channel\) \(322 ページ\)](#)
- [set port-channel-mode \(326 ページ\)](#)
- [set port-type \(328 ページ\)](#)
- [set port-type \(aggr-interface\) \(333 ページ\)](#)
- [set prefix \(337 ページ\)](#)
- [set protocol \(339 ページ\)](#)
- [set realm \(341 ページ\)](#)
- [set refresh-period \(342 ページ\)](#)
- [set regenerate \(343 ページ\)](#)
- [set remote-address \(344 ページ\)](#)
- [set remote-ike-ident \(345 ページ\)](#)
- [set remote-subnet \(346 ページ\)](#)
- [set remote-user \(347 ページ\)](#)
- [set reporting-interval \(348 ページ\)](#)
- [set resource-profile-name \(350 ページ\)](#)
- [set session-timeout \(352 ページ\)](#)
- [set snmp \(353 ページ\)](#)
- [set \(snmp-trap\) \(355 ページ\)](#)
- [set \(snmp-user\) \(358 ページ\)](#)
- [set speed \(360 ページ\)](#)

- [set speed \(aggr-interface\) \(362 ページ\)](#)
- [set ssh-server \(365 ページ\)](#)
- [set sshkey \(366 ページ\)](#)
- [set startup-version \(367 ページ\)](#)
- [set timezone \(368 ページ\)](#)
- [set trustpoint \(370 ページ\)](#)
- [set use-2-factor \(371 ページ\)](#)
- [set user-account-unlock-time \(372 ページ\)](#)
- [set user-label \(373 ページ\)](#)
- [set value \(create bootstrap-key FIREWALL_MODE\) \(375 ページ\)](#)
- [set value \(create bootstrap-key MANAGEMENT_TYPE\) \(377 ページ\)](#)
- [set value \(create bootstrap-key PERMIT_EXPERT_MODE\) \(378 ページ\)](#)
- [set vlan \(380 ページ\)](#)

set absolute-session-timeout

絶対セッションタイムアウトを設定するには、**set absolute-session-timeout** コマンドを使用します。

set absolute-session-timeout *seconds*

構文の説明	<i>seconds</i>	Web、SSH、および Telnet セッションの絶対セッションタイムアウト。値は 0 ～ 3600 秒で指定できます。このタイムアウトを無効にするには、値を 0 に設定します。
コマンドモード	デフォルト認証 (/security/default-auth) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン セッションの使用状況に関係なく、指定したタイムアウト期間が経過すると、絶対セッションタイムアウトによってユーザセッションは閉じられます。この絶対タイムアウトは、シリアルコンソール、SSH、HTTPS を含むすべての形式のアクセスに対してグローバルに適用されません。

例

次の例は、デフォルトの認証モードを開始し、すべてのセッションの絶対タイムアウトを 4 分に設定する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # scope default-auth
FP9300-A /security/default-auth # set absolute-session-timeout 240
FP9300-A /security/default-auth* # commit-buffer
FP9300-A /security/default-auth #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set refresh-period	Web セッション更新期間を設定します。
	show detail	現在のセッションおよび絶対セッションタイムアウト設定を表示します。

set account-status

ローカル ユーザ アカウントをアクティブ化するか非アクティブ化するかを指定するには、**set account-status** コマンドを使用します。

set account-status { **active** | **inactive** }

構文の説明	active	ローカル ユーザ アカウントが有効になるように指定します。
	inactive	ローカル ユーザ アカウントが無効になるように指定します。
コマンド モード	ローカル ユーザ (/security/local-user) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドを使用するには、 admin または AAA 権限を持つユーザである必要があります。 admin ユーザ アカウントは常にアクティブに設定されます。変更はできません。	

例

次の例は、ローカルユーザモードを開始し、ローカルユーザアカウントを非アクティブ化する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # scope local-user test_user
FP9300-A /security/local-user # set account-status inactive
FP9300-A /security/local-user* # commit-buffer
FP9300-A /security/local-user #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set expiration	ユーザ アカウントが期限切れになる日付を指定します。

set address

Smart Call Home またはスマート ライセンスの宛先の電子メールアドレスまたは URL アドレスを設定するには、**set address** コマンドを使用します。

set address *address*

構文の説明	<i>address</i>	Smart Call Home またはスマート ライセンスの宛先の電子メールアドレスまたは URL。
コマンド モード	scope monitoring/scope callhome/scope profile/scope destination/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 各 Firepower 4100/9300 シャーシは、Smart Call Home ライセンス認証局またはスマート ライセンス サテライト サーバに登録する必要があります。このコマンドを使用して、電子メールアドレスまたは HTTP/HTTPS の URL アドレスをライセンスの宛先として設定します。

ライセンス認証局例: `https://tools.cisco.com/its/service/oddce/services/DDCEService`

サテライト サーバ例: `https://ip_address/Transportgateway/services/DeviceRequestHandler`

例

次の例は、Smart Call Home の宛先を作成する方法を示しています。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring # scope callhome
firepower /monitoring/callhome # scope profile SLProfile
firepower /monitoring/callhome/profile # scope destination SLDest
firepower /monitoring/callhome/profile/destination # set address
https://tools.cisco.com/its/service/oddce/services/DDCEService
firepower /monitoring/callhome/profile/destination* # commit-buffer
firepower /monitoring/callhome/profile/destination #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create destination	新しい Smart Call Home の宛先を作成します。
	delete destination	既存の Smart Call Home 宛先を削除します。
	set protocol	Smart Call Home 宛先のトランスポート プロトコルを設定します。

set admin-state

Smart Call Home ポリシーの管理状態を有効または無効にするには、**set admin-state** コマンドを使用します。

set admin-state { **disabled** | **enabled** }

構文の説明	disabled	ポリシーの管理状態を無効に設定します。
	enabled	ポリシーの管理状態を有効に設定します。
コマンドモード	scope monitoring/scope callhome/policy/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドを使用して、関連付けられた原因と一致する障害またはシステムイベントが発生した場合に、Call Home ポリシーをイネーブルまたはディセーブルにします。	

例

次の例は、link-down イベントに対し Call Home ポリシーを開始し、イネーブルにする方法を示します。

```
firepower /monitoring/callhome # enter policy link-down
firepower /monitoring/callhome/policy* # set admin-state enabled
firepower /monitoring/callhome/policy* # commit-buffer
firepower /monitoring/callhome/policy #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	enter policy	Smart Call Home ポリシーを入力します。
	delete policy	既存の Smart Call Home ポリシーを削除します。
	scope policy	Smart Call Home ポリシーを有効にします。
	show	Call Home の設定またはポリシーに関する情報を表示します。

set auth-server-group

デフォルトの認証サーバ グループを指定するには、**set auth-server-group** コマンドを使用します。

set auth-server-group *admin*

構文の説明	<i>admin</i>	認証サーバ グループの名前。
コマンドモード	デフォルト認証モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、デフォルトの認証サーバ グループを指定する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # scope default-auth
FP9300-A /security/default-auth # set auth-server-group admin_server
FP9300-A /security/default-auth* # commit-buffer
FP9300-A /security/default-auth #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set realm	デフォルトの認証サービスを指定します。

set authentication

ログインする際およびコンソールポート経由で FXOS CLI に接続する際のユーザーのデフォルト認証方式を設定するには、 **set authentication** コマンドを使用します。

set authentication

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope security

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.10(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ログインする際およびコンソールポート経由で FXOS CLI に接続する際のユーザーのデフォルト認証方式を設定できます。

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、デフォルト認証方式を設定する方法を示しています。

```
firepower# scope security
firepower /security # set authentication
  console Console authentication
  default Default authentication
```

関連コマンド

コマンド	説明
show authentication	既存の認証サービスを表示します。

set auto-negotiation

インターフェイスの自動ネゴシエーションを有効または無効にするには、**set auto-negotiation** コマンドを使用します。

set auto-negotiation { **on** | **off** }

構文の説明

on (任意) 自動ネゴシエーションがオンになります。

off (任意) 自動ネゴシエーションがオフになります。

コマンドモード

scope eth-uplink/scope fabric a/scope interface/

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは特定のポートタイプのみで機能します。

例

次の例は、自動ネゴシエーションを有効または無効にする方法を示しています。

```
Firepower-9300 # scope eth-uplink
Firepower-9300 /eth-uplink # scope fabric a
Firepower-9300 /eth-uplink #/fabric # scope interface Ethernet2/1
Firepower-9300 /eth-uplink/fabric/interface* # set auto-negotiation on
Firepower-9300 /eth-uplink/fabric/interface* # commit-buffer
Firepower-9300 /eth-uplink/fabric/interface #
```

関連コマンド

コマンド	説明
scope interface	インターフェイスのイーサネットインターフェイスの情報を表示します。

set cert

RSA 証明書をキーリングに追加するには、**set cert** コマンドを使用します。

set cert

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	キーリング モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン コマンドを入力すると、証明書のテキストを入力するように求められます。この末尾には **ENDOFBUF** を入力する必要があります。

例

次の例は、証明書のテキストをキーリングに入力する方法を示しています。

```

FP9300-A /security/keyring # set cert
Enter lines one at a time. Enter ENDOFBUF to finish. Press ^C to abort.
Keyring certificate:
>-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIFGDCCA5CgAwIBAgIBBDANBgkqhkiG9w0BAQsFADBwMQswCQYDVQQGEwJlVUZEL
MAKGA1UECAwCQ0EExDDAKBgNVBACMA1NKQzEOMAwGA1UECgwfQ2l2Y28xDTALBgNV
BAsMBFNUQ1UxXzA1JBgNVBAMMAkNBMR0wGAYJKoZIhvcNAQkBFgtzc3Bac3NwLm5l
dDAeFw0xNjEyMTUyMTM0NTRaFw>0yNjEyMTUyMTM0NTRaMHwxXzA1JBgNVBAYTA1VT
MQswCQYDVQQIDAJDQTEPMA0GA1UECgwGbmV3c3RnMRAwDgYDVQQQLDAduZXdzdGJl
MRMwEQYDVQQDDAAppbnRlcm0xLWNhMSgwJgYJKoZIhvcNAQkBFhlpbnRlcm0xLWNh
QGluZGVybTEyEubmV0MIICIjANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOCAg8AMIICCgKCAgEA
wLpNnyEx5I4P8uDoW>KWF3IZsegjhLANsodxuAUhmhwKekd0OpZZxHMw1wSO4IBX5
4itJS0xyXFzPmeptG3OXvNqCcsT+4BXl3DoGgPMULccc4NesHeg2z8+q3SPA6uZh
iseWNvKfnUjixbQEBtcrWBiSkNzuOz1cpuBn34gtgeFFoCEXN+EZVpPESiancDVh
8pCPlipc/08ZJ3o9GW2j0eHJN84sguIEDL812ROejQvpmfGQU11stkIIuh+wB+V
VRhUBVG7p>V57I6DHeeRp6cDMLXaM3iMTelhdShyo5YUaRJMak/t8kCqhtGXfuLlI
E2AkkXeeveR9n6cpQd5JiNzCT/t9IQL/T/CCqMICRXLFP LCS9o5S5O2B6QFgcTZ
yKR6hsmwe22wpK8QI7/5oWNXl0lb96hHJ7RPbG7RXYqmcLiXY/d2j9/RuNoPJawI
hLkfhoidPA28xlnfIBlazCmMmdPcBO6cbUQfcj5hSmk3StvQKgcJCjaujz55TGGdl
G>jnxDMX9twwz7Ee51895Xmtr24qqaCXJoW/dPhcIIXRdJPMsTJ4yPG0BieuRwdOp
i8w/rFwbHzv4C9FthwlJrRxHlyeHJHrLlZgJ5txSaVUIgrgVCJaf6/jrRRwRJwt
AzvnzYql2dZPCcEAYgP7JcaQpvdpuDgq++NgBtygiqECAwEAANBMD8wDAYDVR0T
BAUwAwEB/zAvBgNVHR8EKDAmMCSgIqAghh5odHRwOi8vMTkyLjE2OC40LjI5>L2lu
dGVybS5jcmwwDQYJKoZIhvcNAQELBQADggIBAG/XujJh5G5UWo+cwTsitAezWbJA
h1dAIXZ/OYWZSxkFRliErKdupLqL0ThjnX/wRFFEXbrBQwm5kWAUUDr97D1Uz+2A
8LC5I8SWKXmyf0jUtsnEQbDZb33oVL7yXJk/A0SF0jihpPheMA+YRazalT9xj9KH
PE7nHCJMbb2ptrHUyvBrKSYrSeEqOpQU2+otnFyV3rS9aelgV>juaWyawOc3L2L0l
CC2tJvY3NnM56j5iesxUCeY/SZ2/ECXN7RRBViLHmA3gFKmWf3xeNiKkxmJCxOaa
UWPC1x2V66I8DG9uUz1Wyd79O2dy52aAphAHC6hq1zb6v+gw1Tld7UxaqVd8CD5W
ATjNs+ifkJS1h5ERxHjgcurZXOpR+NWpwF+UDzbMXxx+KAAXCI6ltCd8Pb3wOUC3
PKvWEaIcCcxGx71eRLpWPZFyEoi4N2NGE9OXRjz0>K/KERZgNhsIW3bQMjcw3ax6
OXskEuKgsayctnWyxVqNnqvuz06kqyubh4+ZgGKZ5LNEXYmGNz3oED1rUN636Tw
SjGAPHgerOzyTFDixCeI6aR0lGdP/Hwvb0/+uThIe89g8WZ0djTKFUM8uBO3f+II

```

```

/cbuyBO1+JrDMq8NkAjxKlJlp1c3WbfCue/qcwtcfUBYZ4i53a56UNF5Ef0rpy/8
B/+07Me/p2y9Luqa
-----END CERTIFICATE-----
ENDOFBUF
FP9300-A /security/keyring* #

```

関連コマンド

コマンド	説明
set modulus	RSA キー係数（SSL キーの長さ）をビット単位で指定します。
set regenerate	デフォルト キー リングで RSA キーを再生成します。
set trustpoint	キーリング証明書を再生成できるかどうかを指定します。

set certchain

現在のトラストポイントの証明書のリスト（またはチェーン）を入力するには、**set certchain** コマンドを使用します。

set certchain [*cert_chain*]

構文の説明	<i>cert_chain</i>	(任意) 認証局から取得した証明書チェーン。 この変数を省略すると、証明書情報を手動で入力するように求められます。
コマンドモード	トラストポイント モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 証明書は、Base64 エンコード X.509 (CER) フォーマットである必要があります。
コマンドで証明書チェーンを指定しない場合、ルート認証局 (CA) への認証パスを定義するトラストポイントのリストまたは証明書を入力するように求められます。入力を完了するには `ENDOFBUF` と入力します。
信頼証明書の取得については、『*Cisco FXOS CLI Configuration Guide*』の「Certificates, Key Rings, and Trusted Points」を参照してください。

例

次の例は、新しいトラストポイントを作成して入力し、このトラストポイントに証明書チェーンを貼り付ける方法を示しています。

```

FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # enter trustpoint tPoint4
FP9300-A /security/trustpoint* # set certchain
Enter lines one at a time. Enter ENDOFBUF to finish. Press ^C to abort.
Trustpoint Certificate Chain:
> -----BEGIN CERTIFICATE-----
> MIIDMCCApmgAwIBAgIBADANBgkqhkiG9w0BAQQFADB0MQswCQYDVQQGEwJVUzEL
> BxMMU2FuIEpvc2UsIENBMRUwEwYDVQQKEwxFeGFtcGxlIEluYy4xEzARBgNVBASt
> ClRlc3QgR3JvdXAxGTAXBgNVBAMTEHRlc3QuZXhhbXBsZS5jb20xHzAdBgkqhkiG
> 9w0BCQEWZHVzZXJAZXhhbXBsZS5jb20wgZ8wDQYJKoZIhvcNAQEBBQADgY0AMIGJ
> AoGBAMZw4nTepNIDhVzb0j7Z2Je4xAG56zmSHRMQeOGHemdh66u2/XAoLx7YCCeYU
> ZgAMivvyCsKgb/6CjQtsofvtrmC/eAehuK3/SINv7wd6Vv2pBt6ZpXgD4VBNKOND1
> GMbkPayV1Qjbg4MD2dx2+H8EH3LmtdZrgKvPxPTE+bF5wZVNAGMBAAGJTajBgkq
> hkiG9w0BCQcxFhMUQSBjaGFsbGVuZ2UgcGFzc3dvcmQwDQYJKoZIhvcNAQEFBQAD
> gYEAG61CaJoJaVMhzCl90306Mg51zq1zXcz75+VFj2I6rH9asckClD3mkOVx5gJU
> Ptt5CVQpNgNLdvbDPSsXretysOhqHmp9+CLv8FDuy1CDYfuaLtlv1WvfhevskV0j6
> jtcEMyZ+f7+3yh42lido3n04MIGeBgNVHSMGgZYwgZOAFL1njtcEMyZ+f7+3yh42
> lido3n04oXikdjb0MQswCQYDVQQGEwJVUzELMAkGA1UECBM0ExFDASBgNVBAcT
> ClNhbW90YXN0eXh0MRswGQYDVQQKEwJ0dW92YSBTeXN0ZW1zIEluYy4xFDASBgNV

```

```

> BAstCOVuZ21uZWVyaW5nMQ8wDQYDVQQDEwZ0ZXN0Q0GCAQAwdAYDVROTBaUwAwEB
> /zANBgkqhkiG9w0BAQQAQAAOBgQAhWaRwXNR6B4g6Lsnr+fptHv+WVhB5fKqGQqXc
> wR4pYiO4z42/j9Ijenh75tCKMhW51az8copP1EBmOcyuhf5C6vasrenn1ddkkYt4
> PR0vxGc40whuiozBolesmsmjBbedUCwQgdFDWhDIZJwK5+N3x/kfa2EHU6id1avt
> 4YL5Jg==
> -----END CERTIFICATE-----
> ENDOFBUF
FP9300-A /security/trustpoint* # commit-buffer
FP9300-A /security/trustpoint #

```

関連コマンド

コマンド	説明
enter trustpoint	トラストポイントを入力します。
show trustpoint	現在のトラストポイント情報を表示します。

set (certreq)

キーリング認証要求パラメータを指定するには、認証要求モードで **set** コマンドを使用します。

```
set {country|dns|e-mail|fi-a-ip|fi-a-ipv6|fi-b-ip|fi-b-ipv6|ip|ipv6|locality|org-name|org-unit-name|password|state|subject-name}
```

構文の説明

<i>country</i>	(任意) 要求に2文字の国コードを指定します。文字は大文字で指定する必要があります。
<i>dns</i>	(任意) ネットワークに割り当てられるドメイン名 (すべてのホスト名に共通) を指定します。これは <i>subject-name</i> の代わりです。
<i>e-mail</i>	(任意) 要求に関連付けられた電子メールアドレスを指定します。
<i>fi-a-ip</i>	未使用。
<i>fi-a-ipv6</i>	未使用。
<i>fi-b-ip</i>	未使用。ファブリック インターコネクト B はありません。
<i>fi-b-ipv6</i>	未使用。ファブリック インターコネクト B はありません。
<i>ip</i>	(任意) デバイス ドメインの IPv4 アドレスを指定します。
<i>ipv6</i>	(任意) デバイス ドメインの IPv6 アドレスを指定します。
<i>locality</i>	(任意) 証明書を要求している会社の本社が存在する市または町を指定します。 最大 64 文字まで入力できます。任意の文字、数字、スペース、および次の特殊文字を使用できます: , (カンマ) 、 . (ピリオド) 、 @ (アットマーク) 、 ^ (キャラット) 、 ((開き括弧) 、) (閉じ括弧) 、 - (ダッシュ) 、 _ (アンダースコア) 、 + (プラス記号) 、 : (コロン) 、 / (スラッシュ) 。
<i>org-name</i>	(任意) 証明書を要求している組織を指定します。 最大 64 文字まで入力できます。任意の文字、数字、スペース、および次の特殊文字を使用できます: , (カンマ) 、 . (ピリオド) 、 @ (アットマーク) 、 ^ (キャラット) 、 ((開き括弧) 、) (閉じ括弧) 、 - (ダッシュ) 、 _ (アンダースコア) 、 + (プラス記号) 、 : (コロン) 、 / (スラッシュ) 。

<i>org-unit-name</i>	(任意) 組織内の部門名を指定します。 最大 64 文字まで入力できます。任意の文字、数字、スペース、および次の特殊文字を使用できます: , (カンマ) 、 . (ピリオド) 、 @ (アットマーク) 、 ^ (キャラット) 、 ((開き括弧) 、) (閉じ括弧) 、 - (ダッシュ) 、 _ (アンダースコア) 、 + (プラス記号) 、 : (コロン) 、 / (スラッシュ) 。
<i>password</i>	(任意) 要求のパスワードを入力して確認するように求められません。
<i>state</i>	(任意) 証明書を要求している会社の本社が存在する州または行政区分を指定します。 最大 64 文字まで入力できます。任意の文字、数字、スペース、および次の特殊文字を使用できます: , (カンマ) 、 . (ピリオド) 、 @ (アットマーク) 、 ^ (キャラット) 、 ((開き括弧) 、) (閉じ括弧) 、 - (ダッシュ) 、 _ (アンダースコア) 、 + (プラス記号) 、 : (コロン) 、 / (スラッシュ) 。
<i>subject-name</i>	(任意) ローカル ファブリック インターコネクトの完全修飾ドメイン名を指定します。

コマンド モード

scope security/enter keyring/scope certreq/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

認証要求を作成または入力した後は、次のオプションを使用して要求に関する情報を指定します。

例

次の例は、認証要求に関する情報を指定する方法を示しています。

```
firepower /security/keyring # enter certreq
firepower /security/keyring/certreq # set subject-name FP9300-1.testnet.com
firepower /security/keyring/certreq* # set password
Certificate request password:
Confirm certificate request password:
firepower /security/keyring/certreq* #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create certreq	新しいキーリング認証要求を作成します。
delete certreq	既存のキーリング認証要求を削除します。

コマンド	説明
enter certreq	キーリング認証要求を入力します。
set (keyring)	モジュールとトラストポイントなど、キーリング関連の情報を設定します。

set (cfg-export-policy)

既存の設定エクスポートポリシーのパラメータを指定または編集するには、`configuration-export-policy` モードで **set** コマンドを使用します。

set { **adminstate** | **descr** | **hostname** | **password** | **port** | **protocol** | **remote-file** | **schedule** | **user** }

構文の説明

adminstate { disable enable }	ポリシー管理を有効または無効にします。無効にすると、設定のバックアップがポリシースケジュールに従ってエクスポートされません。
descr <i>description</i>	(任意) 設定オブジェクトに説明を追加できます。説明は 1 ~ 256 文字で指定できます。ダッシュやアンダースコアのようにほとんどの英数字を使用できます。文字列の末尾には、セミコロン、ピリオド (終止符)、および感嘆符などの句読点を使用できますが、説明にはこれらの文字を埋め込むことはできません。
hostname <i>host_ID</i>	(任意) 設定のバックアップのエクスポート先であるリモートサーバの IP アドレスまたはホスト名を指定します。このホストには、サーバ、ストレージレイ、ローカルドライブ、またはネットワーク経由でアクセス可能な任意の読み取り/書き込みメディアなどを指定できます。 (注) 実際のホスト名を使用するには、設定された DNS サーバが利用可能である必要があります。
password	(任意) リモートサーバへの接続に使用するパスワードを指定します。パスワードを入力して確認するように求められます。
port { <i>number</i> default }	(任意) リモートサーバとの通信に使用されるポートを変更できます。このオプションが指定されていない場合は、プロトコルのデフォルトポートが使用されます。 オプションは、0 ~ 4294967295 のポート ID 番号です。現在のプロトコルのデフォルトポートは default です。
protocol <i>name</i>	(任意) 使用するファイル転送プロトコルを指定します。使用可能なオプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • ftp • scp • sftp • tftp

remote-file <i>name</i>	(任意) エクスポートされた設定のファイル名を含むフルパスを指定します。1 ~ 128 文字で指定できます。
schedule { bi-weekly daily weekly }	(任意) 設定が自動的にエクスポートされる頻度を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • bi-weekly : 2 週間ごとにエクスポートが実行されます。 • daily : 毎日エクスポートが実行されます。 • weekly : 1 週間に 1 回エクスポートが実行されます。
user <i>name</i>	(任意) リモート ホストへの接続に使用されるユーザ アカウント名を指定します。0 ~ 510 文字で指定できます。

コマンド モード

scope org/scope cfg-export-policy/

コマンド履歴

リリース 変更内容

1.1.1 コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

set adminstate を enable に変更し、commit-buffer コマンドをすぐに発行すると、設定のエクスポートがトリガーされます。

例

次の例は、デフォルトの設定エクスポートポリシーを設定し、ポリシーパラメータを確認する方法を示しています。

```
firepower # scope org
firepower /org # scope cfg-export-policy default
firepower /org/cfg-export-policy # set protocol scp
firepower /org/cfg-export-policy* # set hostname 192.168.1.2
firepower /org/cfg-export-policy* # set remote-file /export/cfg-backup.xml
firepower /org/cfg-export-policy* # set user user1
firepower /org/cfg-export-policy* # set password
Enter a password:
Confirm the password:
firepower /org/cfg-export-policy* # set schedule weekly
firepower /org/cfg-export-policy* # set adminstate enable
firepower /org/cfg-export-policy* # commit-buffer
firepower /org/cfg-export-policy # show detail
Config Export policy:
  Name: default
  Description: Configuration Export Policy
  Admin State: Enable
  Protocol: Scp
  Hostname: 192.168.1.2
  User: user1
  Remote File: /export/cfg-backup.xml
  Schedule: Weekly
  Port: Default
  Current Task:
firepower /org/cfg-export-policy #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	export-config	現在のシステム設定をリモートサーバに XML ファイルとしてエクスポートします。エクスポート設定オブジェクトを作成します。
	import-config	以前にエクスポートした XML コンフィギュレーションファイルをこのアプライアンスにコピーします。
	set password-encryption-key	設定のエクスポート中に機密情報を暗号化するときを使用されるキーを指定します。

set (cfg-export-reminder)

設定エクスポート通知オブジェクトのパラメータを指定または編集するには、configuration-export-reminder モードで **set** コマンドを使用します。

set { **adminstate** | **frequency** }

構文の説明	adminstate { disable enable }	エクスポートの通知を有効または無効にします。無効にすると、設定のバックアップ通知エラーは生成されません。
	frequency <i>number_of_days</i>	設定をバックアップせずに経過する日数を指定します。この期間が経過すると、システムによって通知エラーが生成されます。この値は 1 ~ 365 日で指定できます。
コマンドモード	scope org/scope cfg-export-reminder/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1.3	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 通知が有効になっている場合は、設定のエクスポートが指定された日数だけ経過すると、システムによってエラーが生成されます。

例

次の例は、エクスポート通知オブジェクトを入力して有効にし、バックアップを実行する頻度を指定し、設定を表示する方法を示しています。

```
firepower # scope org
firepower /org # scope cfg-export-reminder
firepower /org/cfg-export-reminder # set adminstate enable
firepower /org/cfg-export-reminder* # set frequency 30
firepower /org/cfg-export-policy* # commit-buffer
firepower /org/cfg-export-reminder # show
```

```
Config Export Reminder:
  Config Export Reminder (Days): 30
  AdminState: Enable
firepower /org/cfg-export-reminder #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	scope cfg-export-policy	設定エクスポート ポリシーを入力します。
	show	設定エクスポートの通知モードでは、現在の通知オブジェクトの設定が表示されます。

set cli

ターミナル ウィンドウの幅に合うようにコマンド出力行を折り返すまたは切り詰めるかどうか、テーブルヘッダーを表示するかどうか、コマンド出力テーブルのフィールドを区切るためにカンマまたはスペースを使用するかどうかを指定するには、**set cli** コマンドを使用します。

```
set cli {suppress-field-spillover {off|on}|suppress-headers {off|on}|table-field-delimiter {comma|none} }
```

構文の説明

suppress-field-spillover {off on}	off を使用すると、ターミナル ウィンドウで出力行が折り返されません。 on を使用すると、ターミナル ウィンドウの端で出力行を切り詰められます。
suppress-headers {off on}	off を使用すると、テーブルヘッダーを表示します。 on を使用すると、テーブルヘッダーを非表示にします。
table-field-delimiter {comma none}	comma を使用すると、コマンド出力テーブルのフィールドがカンマで区切られます。 none を使用すると、コマンド出力テーブルのフィールドがスペースで区切られます。

コマンド デフォルト

ターミナル ウィンドウでコマンド出力の行を折り返します。
テーブルヘッダーは表示されます。
コマンド出力テーブルのフィールドを区切るためにスペースを使用します。

コマンド モード

任意のコマンド モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、ターミナルウィンドウの幅に合うようにコマンド出力行を折り返すまたは切り詰めるかどうか、テーブルヘッダーを表示するかどうか、コマンド出力テーブルのフィールドを区切るためにカンマまたはスペースを使用するかどうかを指定できます。

例

次の例は、コマンド出力行が切り詰められるように指定してから、折り返すようにリセットする方法を示しています。

```
FP9300-A# set cli suppress-field-spillover on
FP9300-A# show fault
```

```

Severity Code      Last Transition Time      ID      Description
-----
Warning F16520 2010-01-21T18:33:22.065 5785755 [FSM:STAGE:RETRY:]: detect
mezz cards in 1/6 (FSM-STAGE:sam:dme:ComputeBladeDiscover:NicPresence)
Condition F77960 2010-01-21T18:32:31.255 1089623 [FSM:STAGE:REMOTE-ERROR]: R
esult: end-point-unavailable Code: unspecified Message: sendSamDmeAdapterInfo: i
dentify failed

FP9300-A# set cli suppress-field-spillover off
FP9300-A# show fault
Severity Code      Last Transition Time      ID      Description
-----
Warning F16520 2010-01-21T18:33:22.065 5785755 [FSM:STAGE:RETRY:]: detect
Condition F77960 2010-01-21T18:32:31.255 1089623 [FSM:STAGE:REMOTE-ERROR]: R

FP9300-A#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show cli	現在の CLI 設定を表示します。
terminal	ターミナル ウィンドウに表示される行数および行の幅を設定しま す。

set clock

FXOS でクロックを手動で設定するには、**set clock** コマンドを使用します。

set clock

構文の説明	set clock	FXOS でクロックを手動で設定するために set clock を使用します。
コマンドモード	scope system/scope services	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、FXOS でクロックを設定する方法を示しています。

```
firepower# scope system
firepower /system# scope services
firepower /system/services # set clock aug 23 2021 12 00 00
firepower /system/services* # commit
firepower /system/services # show clock
Tue Aug 24 12:00:02 UTC 2021
```

set cluster-control-link network

Threat Defense および ASA のクラスタ ブートストラップ設定でクラスタ制御リンク IP ネットワークを設定するには、**set cluster-control-link network** コマンドを使用します。

set cluster-control-link network *a.b.0.0*

構文の説明	<i>a.b.0.0</i>	ループバック (127.0.0.0/8) およびマルチキャスト (224.0.0.0/4) のアドレスは除いて、任意の/16 ネットワーク アドレスを指定します。値を 0.0.0.0 に設定すると、デフォルトのネットワーク (127.2.0.0) が使用されます。
コマンド デフォルト	デフォルト ネットワークは 127.2.0.0 です。	
コマンド モード	scope ssa/create logical-device/create cluster-bootstrap/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン シャーシは、シャーシ ID とスロット ID (*a.b.chassis_id.slot_id*) に基づいて、各ユニットのクラスタ制御リンク インターフェイスの IP アドレスを自動生成します。

ブートストラップの設定は、初期導入専用、またはディザスタリカバリ用です。通常の運用では、アプリケーション CLI の設定でほとんどの値を変更できます。

例

次に、モードをルーテッドに設定する例を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # create logical-device FTD1 ftd 1 clustered
Firepower /ssa/logical-device* # create cluster-bootstrap
firepower /ssa/logical-device/cluster-bootstrap* # set cluster-control-link network
10.10.0.0
firepower /ssa/logical-device/cluster-bootstrap* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create logical-device	論理デバイスを作成します。
	create cluster-bootstrap	アプリケーションのクラスタブートストラップ設定を作成します。

set collection-interval

モニタ対象の統計情報を収集する頻度を定義するには、**set collection-interval** コマンドを使用します。

set collection-interval *interval*

構文の説明	<i>interval</i>	統計情報収集間隔を定義する時間の長さ。使用可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 1minute : 1 分間隔 • 2minutes : 2 分間隔 • 30seconds : 30 秒間隔 • 5minutes : 5 分間隔
コマンドモード	scope monitoring/scope stats-collection-policy/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

set collection-interval コマンドを使用して、統計情報を収集する頻度を定義し、**set reporting-interval** コマンドを使用して、統計情報を報告する頻度を定義します。これらの間隔で統計情報収集ポリシーが定義されます。

報告インターバル中に複数の統計データポイントが収集できるように、報告インターバルは収集インターバルよりも長くなります。これにより、最小値、最大値、平均値を計算して報告するために十分なデータが提供されます。

統計情報は、Firepower システムの次の機能領域ごとに収集して報告することができます。特定の収集ポリシーにアクセスするには、**scope stats-collection-policy** コマンドを使用します。

- Adapter : アダプタに関連した統計情報。
- Chassis : ブレード シャーシに関連した統計情報。
- Fex : 設定されたファブリック エクステンダに関連した統計情報。
- Host : このポリシーは今後サポートされる機能のプレースホルダです。
- Port : サーバポート、アップリンク イーサネットポート、およびアップリンク ファイバチャネルポートを含むポートに関連した統計情報。
- Server : サーバに関連した統計情報。



- (注) 機能エリアごとにデフォルト統計情報収集ポリシーが1つずつあります。追加で統計情報収集ポリシーを作成できません。また、既存のデフォルトポリシーを削除できません。デフォルトポリシーを変更することだけが可能です。

例

次の例は、ポートの統計情報収集ポリシーを入力し、収集間隔を1分に設定し、レポート間隔を30分に設定し、トランザクションをコミットする方法を示しています。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring # scope stats-collection-policy port
firepower /monitoring/stats-collection-policy # set collection-interval 1minute
firepower /monitoring/stats-collection-policy* # set reporting-interval 30minute
firepower /monitoring/stats-collection-policy* # commit-buffer
firepower /monitoring/stats-collection-policy #
```

関連コマンド

コマンド	説明
scope stats-collection-policy	stats-collection-policy モードを開始します。ここでは、統計情報の収集と報告の間隔を管理できます。
set reporting-interval	統計情報の報告頻度を指定します。

set con-absolute-session-timeout

シリアル コンソールの絶対セッション タイムアウトを設定するには、**set con-absolute-session-timeout** コマンドを使用します。

set con-absolute-session-timeout *seconds*

構文の説明	<i>seconds</i>	シリアルコンソールの絶対セッションタイムアウト。値は0～3600秒で指定できます。このタイムアウトを無効にするには、値を0に設定します。
コマンドモード	デフォルト認証モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	シリアル コンソールセッションの絶対セッションタイムアウトを個別に設定できます。つまり、デバッグ用にシリアル コンソールの絶対セッションタイムアウトは無効にしなが、他の形式のアクセスの絶対タイムアウトは維持することができます。	

例

次の例は、デフォルトの認証モードを開始し、シリアルコンソールの絶対タイムアウトを4分に設定する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # scope default-auth
FP9300-A /security/default-auth # set con-absolute-session-timeout 240
FP9300-A /security/default-auth* # commit-buffer
FP9300-A /security/default-auth #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set refresh-period	Web セッション更新期間を設定します。
	show detail	現在のセッションおよび絶対セッションタイムアウト設定を表示します。

set con-session-timeout

シリアルコンソールのアイドルセッションタイムアウトを設定するには、**set con-session-timeout** コマンドを使用します。

set con-session-timeout *seconds*

構文の説明	<i>seconds</i>	シリアルコンソールのアイドルセッションタイムアウト。値は0～3600秒で指定できます。このタイムアウトを無効にするには、値を0に設定します。
コマンドモード	デフォルト認証モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドを使用して、シリアルコンソールセッションのアイドルセッションタイムアウトを指定します。	

例

次の例は、デフォルトの認証モードを開始し、シリアルコンソールのアイドルタイムアウトを4分に設定する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # scope default-auth
FP9300-A /security/default-auth # set con-session-timeout 240
FP9300-A /security/default-auth* # commit-buffer
FP9300-A /security/default-auth #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set refresh-period	Webセッション更新期間を設定します。
	show detail	現在のセッションおよび絶対セッションタイムアウト設定を表示します。

set cpu-core-count

コンテナ インスタンスで使用するリソース プロファイルの CPU コア数を設定するには、**set cpu-core-count** コマンドを使用します。

set cpu-core-count *cores*

構文の説明	<i>cores</i>	シャーシに応じて、プロファイルのコア数を6～最大数（偶数）で設定します。8 コアを指定することはできません。
コマンド モード	scope ssa/create resource-profile/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン コンテナインスタンスごとにリソース使用率を指定するには、1つまたは複数のリソースプロファイルを作成します。論理デバイス/アプリケーション インスタンスを展開するときに、使用するリソースプロファイルを指定します。リソースプロファイルはCPU コアの数を設定します。RAM はコアの数に従って動的に割り当てられ、ディスク容量はインスタンスごとに 40 GB に設定されます。

- コアの最小数は6です。
- 内部アーキテクチャにより8 コアを指定することはできません。
- コアを偶数（6、10、12、14 など）で最大値まで割り当てることができます。
- 利用可能な最大コア数は、セキュリティ モジュール/シャーシ モデルによって異なります。

シャーシには、「Default-Small」と呼ばれるデフォルトリソースプロファイルが含まれています。このコア数は最小です。このプロファイルの定義を変更したり、使用されていない場合には削除することもできます。シャーシをリロードし、システムに他のプロファイルが存在しない場合は、このプロファイルが作成されます。

使用中のリソースプロファイルの設定を変更することはできません。そのリソースプロファイルを使用しているすべてのインスタンスを無効にしてから、リソースプロファイルを変更し、最後にインスタンスを再度有効にする必要があります。確立されたハイ アベイラビリティ ペア内のインスタンスのサイズを変更する場合、できるだけ早くすべてのメンバを同じサイズにする必要があります。

Threat Defense インスタンスを Management Center に追加した後にリソース プロファイル設定を変更する場合は、**[Devices] > [Device Management] > [Device] > [System] > [Inventory]** ダイアログボックスで各ユニットのインベントリを更新します。

例

次の例では、3つのリソース プロファイルを追加します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # enter resource-profile basic
firepower /ssa/resource-profile* # set description "lowest level"
firepower /ssa/resource-profile* # set cpu-core-count 6
firepower /ssa/resource-profile* # exit
firepower /ssa # enter resource-profile standard
firepower /ssa/resource-profile* # set description "middle level"
firepower /ssa/resource-profile* # set cpu-core-count 10
firepower /ssa/resource-profile* # exit
firepower /ssa # enter resource-profile advanced
firepower /ssa/resource-profile* # set description "highest level"
firepower /ssa/resource-profile* # set cpu-core-count 12
firepower /ssa/resource-profile* # commit-buffer
firepower /ssa/resource-profile #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create resource-profile	コンテナ インスタンスで使用するリソース プロファイルを追加します。
set resource-profile-name	リソース プロファイルがアプリケーション インスタンスに割り当てられました。
show monitor detail	セキュリティ モジュール/エンジン スロットのリソース使用率を表示します。
show resource detail	アプリケーションインスタンスのリソース割り当てを表示します。
show resource-profile user-defined	リソース プロファイルの割り当てを表示します。

set deploy-type

ネイティブまたはコンテナのいずれかのアプリケーションインスタンスの展開タイプを設定するには、**set deploy-type** コマンドを使用します。

set deploy-type {native | container}

構文の説明

container	アプリケーションインスタンスをコンテナタイプに設定します。
native	アプリケーションインスタンスをネイティブタイプに設定します。

コマンド デフォルト

デフォルトのタイプは **native** です。

コマンド モード

scope ssa/scope slot/create app-instance/

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.4(1)	Threat Defense にコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

アプリケーションインスタンスは次の展開タイプで実行します。

- **ネイティブ インスタンス**：ネイティブ インスタンスはセキュリティモジュール/エンジンのすべてのリソース（CPU、RAM、およびディスク容量）を使用するため、ネイティブ インスタンスを1つだけインストールできます。
- **コンテナ インスタンス**：コンテナ インスタンスでは、セキュリティモジュール/エンジンのリソースのサブセットを使用するため、複数のコンテナインスタンスをインストールできます。マルチインスタンス機能は、Threat Defense でのみサポートされています。ASA ではサポートされていません。



(注) マルチインスタンス機能は、実装は異なりますが、ASA マルチ コンテキスト モードに似ています。マルチ コンテキスト モードでは、単一のアプリケーションインスタンスがパーティション化されますが、マルチインスタンス機能では、独立したコンテナ インスタンスを使用できます。コンテナ インスタンスでは、ハードリソースの分離、個別の構成管理、個別のリロード、個別のソフトウェアアップデート、および Threat Defense のフル機能のサポートが可能です。マルチ コンテキスト モードでは、共有リソースのおかげで、特定のプラットフォームでより多くのコンテキストをサポートできます。Threat Defense ではマルチコンテキストモードは使用できません。

Firepower 9300 の場合、一部のモジュールでネイティブ インスタンスを使用し、他のモジュールではコンテナ インスタンスを使用することができます。

例

次の例は、Threat Defense のアプリケーション インスタンスを追加し、コンテナ タイプに設定する方法を示しています。

```
Firepower# scope ssa
Firepower /ssa # scope slot 1
Firepower /ssa/slot # enter app-instance ftd MyDevice1
Firepower /ssa/slot/app-instance* # set deploy-type container
Firepower /ssa/slot/app-instance* # set resource-profile-name silver 1
Firepower /ssa/slot/app-instance* # set startup-version 6.3.0.1
Firepower /ssa/slot/app-instance* # exit
Firepower /ssa/slot* # exit
Firepower /ssa* #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show app-attri	現在のアプリケーション属性を表示します。
create resource-profile	コンテナ インスタンスで使用するリソース プロファイルを作成します。
show resource-profile-name	利用可能なリソース プロファイルを表示します。

set descr

ポートチャンネルに説明を設定するには、**set descr** コマンドを使用します。

set descr *description*

構文の説明	description	(任意) 説明。256 文字以下で入力します。
コマンドモード	scope eth-uplink/scope fabric a/port-channel/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合、説明の前後に引用符を付ける必要があります。引用符は、**show** コマンド出力イーサネットの説明フィールドには表示されません。

例

次に、説明を設定する例を示します。

```
firepower-9300 # scope eth-uplink
firepower-9300 /eth-uplink # scope fabric a
firepower-9300 /eth-uplink/fabric # create port-channel id
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # enable
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # set descr "link"
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # commit-buffer
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show interface	duplex パラメータを含むインターフェイスの情報を表示します。

set duplex

ポートチャネルのすべてのメンバーのデュプレックスを設定するには、**set duplex** コマンドを使用します。

set duplex { **fullduplex** | **halfduplex** }

構文の説明	fullduplex	(任意) デュプレックス モードを全二重に指定します。
	halfduplex	(任意) デュプレックス モードを半二重に指定します。
コマンドモード	scope eth-uplink/scope fabric a/port-channel/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デュプレックス モードを設定する前に速度を設定する必要があります。速度を 10 または 100 Mbps に指定すると、ポートでは半二重モードを使用するように自動的に設定されますが、全二重モードを指定することもできます。ギガビットイーサネットには全二重だけ指定できます。ギガビットイーサネットまたはギガビットイーサネットに設定されている 10/100/1000-Mbps ポートのデュプレックス モードは変更できません。

例

次の例は、インターフェイスのデュプレックス モードを設定する方法を示しています。

```
firepower-9300# scope eth-uplink
firepower-9300 /eth-uplink # scope fabric a
firepower-9300 /eth-uplink/fabric # create port-channel id
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # enable
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # set duplex halfduplex
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # commit-buffer
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show interface	duplex パラメータを含むインターフェイスの情報を表示します。

set email

ユーザアカウントの連絡先電子メールアドレスを設定するには、**set email** コマンドを使用します。

set email *email_address*

構文の説明

email_address ユーザアカウント用の電子メールアドレス。電子メールアドレスを *user_name@domain_name* という形式で指定します。

コマンドモード

Callhome (/monitoring/callhome) モード : Call Home メッセージに含めるプライマリ連絡先の電子メールアドレスを指定します。

ローカルユーザ (/security/local-user) モード : 現在のローカルユーザの連絡先電子メールアドレスを指定します。

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

電子メールアドレスに # (ハッシュ記号)、スペース、& (アンパサンド) などの特殊文字が含まれていると、電子メールサーバが電子メールメッセージをそのアドレスに配信できないことがあります。RFC2821 および RFC2822 に準拠し、7ビット ASCII 文字のみを含む電子メールアドレスを使用することをお勧めします。

Callhome モードでは、電子メールアドレスに最大 2083 文字を使用できます。

ローカルユーザモードでは、電子メールアドレスに最大 510 文字を使用できます。

例

次の例は、現在のローカルユーザの電子メールアドレスを指定する方法を示しています。

```
FP9300-A /security/local-user # set email admin@example.com
FP9300-A /security/local-user* # commit-buffer
FP9300-A /security/local-user #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create local-user	新規のローカルユーザアカウントを作成します。
set phone-contact	Smart Call Home アカウントの電話連絡先番号を指定します。

set enforce-strong-password

強力なパスワードの適用を有効または無効するには、**set enforce-strong-password** コマンドを使用します。

set enforce-strong-password {no|yes}

構文の説明	no	強力なパスワードの適用を無効にします。
	yes	強力なパスワードの適用を有効にします。
コマンドモード	セキュリティ モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン ローカル認証された各ユーザアカウントにパスワードが必要です。admin 権限または AAA 権限を持つユーザは、すべてのユーザパスワードのパスワード強度チェックを実行するようにシステムを設定できます。パスワード強度チェックが有効になると、各ユーザが強力なパスワードを使用する必要があります。

各ユーザが強力なパスワードを設定することを推奨します。ローカル認証ユーザのパスワード強度チェックを有効にすると、FXOS は次の要件を満たしていないパスワードを拒否します。

- 8～80 文字の長さであること。（[set min-password-length \(311 ページ\)](#) コマンドを使用すると、必要な最小文字数を指定できます。）
- アルファベットの大文字を少なくとも 1 文字含む。
- アルファベットの小文字を少なくとも 1 文字含む。
- 英数字以外の文字（特殊文字）を少なくとも 1 文字含む。
- aaabbb など連続して 3 回を超えて繰り返す文字を含まない。
- passwordABC や password321 などの 3 つの連続した数字や文字をどのような順序であっても含まない。
- ユーザ名またはユーザ名を逆にしたものではない。
- パスワードディクショナリ チェックに合格する。たとえば、辞書に記載されている標準的な単語に基づくパスワードを指定することはできません。
- 次の記号を含まない。\$（ドル記号）、?（疑問符）、=（等号）。
- ローカルユーザアカウントおよび admin アカウントの場合は空白にしない。

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、強力なパスワードの適用を有効にする方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # set enforce-strong-password yes
FP9300-A /security* # commit-buffer
FP9300-A /security #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set min-password-length	パスワードの最小の長さを指定します。

set expiration

ローカルユーザアカウントの有効期限を設定するには、**set expiration** コマンドを使用します。

```
set expiration {{apr|aug|dec|feb|jan|jul|jun|mar|may|nov|oct|sep} day year}
```

構文の説明

{apr|aug|dec|feb|jan|jul|jun|mar|may|nov|oct|sep} 3文字の月名の略称。

day 月の日付（数字）。有効な値は1～31です。

year 有効期限の年（数字）。最大値は2037です。

コマンドモード

ローカルユーザモード：現在のローカルユーザの有効期限を指定します。

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ユーザアカウントに有効期限を設定した後、「有効期限なし」に再設定することはできません。ただし、別の有効期限を使用してアカウントを再設定することはできます。

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、新しいローカルユーザアカウントを作成し、そのアカウントの有効期限を指定する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # create local-user test_user
FP9300-A /security/local-user* # set expiration dec 31 2019
FP9300-A /security/local-user* # commit-buffer
FP9300-A /security/local-user #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create local-user	新規のローカルユーザアカウントを作成します。
set password	ユーザアカウントのパスワードを指定します。

set (export-config)

既存のエクスポート設定オブジェクトのパラメータを編集するには、`export-configuration` モードで `set` コマンドを使用します。

```
set {descr | password | port | protocol | remote-file | user}
```

構文の説明

descr <i>description</i>	(任意) 設定オブジェクトに説明を追加できます。説明は 1 ~ 256 文字で指定できます。ダッシュやアンダースコアのようにほとんどの英数字を使用できます。文字列の末尾には、セミコロン、ピリオド (終止符)、および感嘆符などの句読点を使用できますが、説明にはこれらの文字を埋め込むことはできません。
password	(任意) リモートサーバへの接続に使用するパスワードを変更できます。パスワードを入力して確認するように求められます。
port { <i>number</i> default }	(任意) リモートサーバとの通信が行われるポートを変更できます。オプションは、0 ~ 4294967295 のポート ID 番号です。現在のプロトコルのデフォルトポートは default です。
protocol <i>name</i>	(任意) 設定のバックアップをリモートサーバに送信するために使用されるファイル転送プロトコルを変更できます。使用可能なオプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • ftp • scp • sftp • tftp
remote-file <i>name</i>	(任意) バックアップ コンフィギュレーション ファイルの名前を変更できます。1 ~ 128 文字で指定できます。
user <i>name</i>	(任意) リモートホストへの接続に使用されるユーザ アカウント名を変更できます。0 ~ 510 文字で指定できます。

コマンドモード

scope system/scope export-config/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.3	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このオプションを使用して、既存のエクスポート設定オブジェクトのバックアップオプションを変更します。

現在の論理デバイスとプラットフォーム設定のバックアップに **export-config** コマンドを発行する場合に、エクスポート設定オブジェクトが作成されます。 **scope export-config** を使用すると、オブジェクトを入力し、そのパラメータを編集できます。

次の点に注意してください。

- FXOS 2.6.1 以降、設定のエクスポート中にパスワードやその他の秘密キーなどの機密情報を暗号化する際に使用するキーを指定する必要があります。設定をエクスポートする前に、パスワードやその他の秘密キーを指定しておく必要があります。
- また、ファイルが 2.6.1 より前の FXOS リリースからファイルがエクスポートされない限り、エクスポートされた設定をインポートする場合にターゲットシステムで、エクスポート時に同じキーが使用されるように設定する必要があります。この場合、ターゲットシステムは暗号化キーをチェックせず、インポートできます。
- コンフィギュレーションファイルの内容は、修正しないでください。コンフィギュレーションファイルが変更されると、そのファイルを使用するコンフィギュレーションインポートが失敗する可能性があります。
- 既存のバックアップファイルが上書きされるのを回避するには、エクスポート操作時にファイル名を変更するか、既存のファイルを別の場所にコピーしてください。

例

次の例は、既存のエクスポート設定オブジェクトに説明を追加する方法を示しています。

```
firepower # scope system
firepower /system # scope export-config 192.168.1.2
firepower /system/export-config # set descr one-time_back-up_be_sure_to_change_file_name
firepower /system/export-config* # commit-buffer
firepower /system/export-config #
```

関連コマンド

コマンド	説明
cfg-export-policy	設定のエクスポートポリシーを指定します。
export-config	現在のシステム設定をリモートサーバに XML ファイルとしてエクスポートします。エクスポート設定オブジェクトを作成します。
import-config	以前にエクスポートした XML コンフィギュレーションファイルをこのアプライアンスにコピーします。
set password-encryption-key	設定のエクスポート中に機密情報を暗号化するときに使用されるキーを指定します。

set firstname

ローカル ユーザの名を指定するには、**set firstname** コマンドを使用します。

set firstname *name*

構文の説明	<i>name</i>	ユーザの名。0～32文字で指定できます。
コマンドモード	ローカル ユーザ モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、新しいローカル ユーザアカウントを作成し、そのユーザの名と姓を指定する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # create local-user test_user
FP9300-A /security/local-user* # set firstname john
FP9300-A /security/local-user* # set lastname doe
FP9300-A /security/local-user* # commit-buffer
FP9300-A /security/local-user #
```

コマンド	説明
create local-user	新規のローカル ユーザ アカウントを作成します。
set lastname	ローカル ユーザ アカウントの姓を指定します。

set flow-control-policy

フロー制御ポリシーをインターフェイスまたはポートチャネルに割り当てるには、**set flow-control-policy** コマンドを使用します。

set flow-control-policy *name*

構文の説明	<i>name</i>	フロー制御ポリシーの名前。最大 16 文字です。
コマンド モード	scope eth-uplink/scope fabric a/scope interface/ scope eth-uplink/scope fabric a/scope port-channel/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.1	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	新しいフロー制御ポリシーを作成すると、新しいポリシーがまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いた flow-control/policy モード (eth-uplink/flow-control/policy) が自動的に開始されます。ポリシープロパティ値を設定し、新しいポリシーをコミットすることができます。フロー制御ポリシーを作成した後は、ポリシー名を変更することはできません。ポリシーを削除し、新しいポリシーを作成する必要があります。	
	<p>例</p> <p>次の例は、フロー制御ポリシーをインターフェイスに割り当てる方法を示しています。</p> <pre>firepower-9300 # scope eth-uplink firepower-9300 /eth-uplink # scope fabric firepower-9300 /eth-uplink #/fabric # scope interface Ethernet1/8 firepower-9300 /eth-uplink/fabric/interface* # set flow-control-policy eth1-8flowcontrol firepower-9300 /eth-uplink/fabric/interface* # commit-buffer firepower-9300 /eth-uplink/fabric/interface #</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	create policy (flow control)	新しいフロー制御ポリシーを作成します。
	show interface	インターフェイスステータスを表示します。速度パラメータもあわせて表示します。
	show port-channel	ポートチャネル情報を表示します。

set (flow-control policy)

既存のフロー制御ポリシーのパラメータを指定または編集するには、フロー制御/ポリシーモードで **set** コマンドを使用します。

set {prio|receive|send}

構文の説明

prio {auto on	フロー制御優先順位オプションを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • auto : このデバイスとネットワークが、このファブリックでポイントツーポイントプロトコル (PPP) が使用されているかどうかをネゴシエートします。 • on : このファブリックで PPP が有効になります。
receive off	ネットワークからのポーズ要求が無視され、トラフィックフローが通常どおり継続することを指定します。
send off on	フロー制御送信パラメータを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • off : パケット負荷に関係なくトラフィックが通常どおり流れます。 • on : 着信パケットバッファがいっぱいになると、このデバイスからポーズ要求がネットワークに送信されます。ポーズは、トラフィックが通常のレベルに戻っている間も、数ミリ秒間は有効のままになります。

コマンドモード

scope eth-uplink/scope flow-control/policy/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、フロー制御受信オプションを指定します。**off** を指定すると、ネットワークからのポーズ要求が無視されて、トラフィックフローが通常どおり継続します。**on** を指定すると、ポーズ要求に従って、ネットワークがポーズ要求を取り消すまですべてのトラフィックがそのアップリンクポートで停止されます。

このコマンドを使用して、フロー制御送信オプションを指定します。**off** を指定すると、パケット負荷に関係なくポート上のトラフィックが通常どおり流れます。**on** に指定すると、着信パケットレートが非常に高くなる場合に、FXOS がポーズ要求をネットワークに送信します。ポーズは数ミリ秒有効になった後、通常のレベルにリセットされます。

例

次の例は、フロー制御の名前付きポリシーを作成し、開始してから、ポリシーパラメータを設定する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope flow-control
firepower /eth-uplink/flow-control # enter policy FCpolicy1
firepower /eth-uplink/flow-control/policy* # set prio auto
firepower /eth-uplink/flow-control/policy* # set send on
firepower /eth-uplink/flow-control/policy* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/flow-control/policy #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show policy	フロー制御/ポリシーモードでは、現在のフロー制御ポリシーのプロパティ値が表示されます。 フロー制御モードでは、現在定義されているすべてのフロー制御ポリシーのプロパティ値が表示されます。

set frequency

設定のエクスポートが特定の日数実行されない場合にエラーを生成するには、**set frequency** コマンドを使用します。

set frequency *days*

構文の説明	<i>days</i>	エクスポート通知の設定 (日数)。
コマンドモード	scope org/scope cfg-export-reminder/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.1	コマンドが追加されました。

例

次の例は、エクスポート通知の設定頻度の日数を設定する方法を示しています。

```
firepower-9300* # scope org
firepower-9300 /org* # scope cfg-export-reminder
firepower-9300 /org/scope cfg-export-reminder* # set frequency 2
firepower-9300 /org/scope cfg-export-reminder* # commit-buffer
firepower-9300 /org/scope cfg-export-reminder* # show detail
Config Export Reminder:
Config Export Reminder (Days): 10
AdminState: Enable
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set adminstate	エクスポート通知の管理状態を指定します。

set http-proxy-server-enable

スマート ソフトウェア ライセンスおよび Smart Call Home の HTTP/HTTPS プロキシを有効または無効にするには、**set http-proxy-server-enable** コマンドを使用します。

set http-proxy-server-enable {off|on}

構文の説明	off	Smart Call Home の HTTP/HTTPS プロキシを無効にします。
	on	Smart Call Home の HTTP/HTTPS プロキシを有効にします。
コマンド デフォルト	HTTP/HTTPS プロキシはデフォルトで無効になっています。	
コマンド モード	Callhome モード	
使用上のガイドライン	ネットワークでインターネット アクセスに HTTP プロキシを使用する場合、スマート ソフトウェア ライセンスのプロキシを有効にしてアドレスを設定する必要があります。このプロキシは、一般に Smart Call Home にも使用されます。	

例

次の例は、HTTP プロキシを有効にする方法を示しています。

```
FP9300-A# scope monitoring
FP9300-A /monitoring # scope callhome
FP9300-A /monitoring/callhome # set http-proxy-server-enable on
FP9300-A /monitoring/callhome #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set http-proxy-server-url	プロキシ サーバの HTTP または HTTPS アドレスを設定します。
	set http-proxy-server-port	プロキシ サーバの通信ポートを設定します。

set http-proxy-server-port

スマートソフトウェアライセンスおよび Smart Call Home の HTTP/HTTPS プロキシ サーバポートを設定するには、**set http-proxy-server-port** コマンドを使用します。

set http-proxy-server-port *port_number*

構文の説明	<i>port_number</i>	HTTP または HTTPS プロキシ サーバのポート。範囲は 1 ～ 65535 です。
コマンド デフォルト	HTTP/HTTPS プロキシはデフォルトで無効になっています。サーバアドレスとポート番号を入力する前にプロキシを有効にする必要があります。	
コマンド モード	Callhome モード	
使用上のガイドライン	ネットワークでインターネットアクセスに HTTP プロキシを使用する場合、スマートソフトウェアライセンスのプロキシを有効にしてアドレスを設定する必要があります。このプロキシは、一般に Smart Call Home にも使用されます。	

例

次の例は、HTTP/HTTPS プロキシ サーバのポート番号を入力する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope monitoring
FP9300-A /monitoring # scope callhome
FP9300-A /monitoring/callhome # set http-proxy-server-port 443
FP9300-A /monitoring/callhome #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set http-proxy-server-enable	スマートソフトウェアライセンスおよび Smart Call Home の HTTP/HTTPS プロキシを有効または無効にします。
	set http-proxy-server-url	プロキシ サーバの HTTP/HTTPS アドレスを設定します。

set http-proxy-server-url

スマートソフトウェアライセンスおよび Smart Call Home の HTTP/HTTPS プロキシサーバアドレスを設定するには、**set http-proxy-server-url** コマンドを使用します。

set http-proxy-server-url *url*

構文の説明	<i>url</i>	プロキシサーバの HTTP または HTTPS アドレス。最大 2083 文字を指定できます。
コマンドデフォルト	HTTP/HTTPS プロキシはデフォルトで無効になっています。サーバアドレスを入力する前にプロキシを有効にする必要があります。	
コマンドモード	Callhome モード	
使用上のガイドライン	ネットワークでインターネットアクセスに HTTP プロキシを使用する場合、スマートソフトウェアライセンスのプロキシを有効にしてアドレスを設定する必要があります。このプロキシは、一般に Smart Call Home にも使用されます。	

例

次の例は、HTTPS プロキシサーバアドレスを入力する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope monitoring
FP9300-A /monitoring # scope callhome
FP9300-A /monitoring/callhome # set http-proxy-server-url https://209.165.201.10
FP9300-A /monitoring/callhome #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set http-proxy-server-enable	スマートソフトウェアライセンスおよび Smart Call Home の HTTP/HTTPS プロキシを有効または無効にします。
	set http-proxy-server-port	プロキシサーバの通信ポートを設定します。

set https

HTTPS サービス パラメータを指定するには、**set https** コマンドを使用します。

```
set https {auth-type {cert-auth|cred-auth}|cipher-suite cipher_string|cipher-suite-mode
{custom|high-strength|low-strength|medium-strength}|crl-mode {relaxed|strict}|keyring
keyring_name|port port_number}
```

構文の説明

auth-type {**cert-auth**|**cred-auth**} (任意) HTTPS アクセスで使用する認証タイプを指定します。

- **cert-auth** : HTTPS アクセスのユーザを認証するために、クライアント証明書と LDAP を一緒に使用するようにシステムを設定します。
- **cred-auth** : HTTPS アクセスにクレデンシャルベースのユーザ認証を使用するようにシステムを設定します。

cipher-suite *cipher_string* (任意) カスタム **cipher-suite-mode** で使用する暗号スイートの定義文字列を指定します。

仕様の文字列は最大 256 文字まで使用できますが、OpenSSL 暗号スイート仕様に準拠する必要があります。次の場合を除き、スペースや特殊文字は使用できません。!(感嘆符)、+(プラス記号)、-(ハイフン)、および:(コロン)。詳細については、http://httpd.apache.org/docs/2.0/mod/mod_ssl.html#sslcipher-suiteを参照してください。

(注) **cipher-suite-mode** が **custom** に設定されている場合を除いて、この文字列は無視されます。

cipher-suite-mode (任意) 使用する暗号スイートセキュリティのレベルを設定します。
{**custom** | **high-strength** | **low-strength**}

low-strength

- **custom** : **cipher-suite** オプションを使用して、カスタム暗号スイートのセキュリティ仕様の文字列を定義できます。
- **high-strength** : ALL:!EDH-RSA-DES-CBC3-SHA:
!EDH-DSS-DES-CBC3-SHA: !DES-CBC3-SHA:!ADH:!3DES:
!EXPORT40:!EXPORT56:!LOW:!MEDIUM:!eNULL:!RC4:!MD5:
!IDEA:+HIGH:+EXP
- **low-strength** : ALL:!EDH-RSA-DES-CBC3-SHA:
!EDH-DSS-DES-CBC3-SHA: !DES-CBC3-SHA:!ADH:!3DES:
!EXPORT40:!EXPORT56:RC4+RSA:
!IDEA:+HIGH:+MEDIUM:+LOW:+EXP:+eNULL
- **medium-strength** : ALL:!EDH-RSA-DES-CBC3-SHA:
!EDH-DSS-DES-CBC3-SHA:
!DES-CBC3-SHA:!ADH:!3DES:!EXPORT40:!EXPORT56:
!LOW:!RC4:!MD5:!IDEA:+HIGH:+MEDIUM:+EXP:+eNULL

通常、暗号強度はセキュリティのビット（または対称キーサイズ）に基づいていることがほとんどで、「low」は 128 ビット未満のセキュリティ、「medium」は 128 ビット、「high」は 128 ビットを超えるセキュリティを示しています。

crl-mode
{**relaxed** | **strict**}

(任意) HTTPS 接続の証明書失効リスト (CRL) チェックのレベルを定義します。

- **relaxed** : 証明書が CRL にリストされていても、証明書のリスト理由に応じて HTTPS 認証の許可に使用される場合があります。発生するたびに警告メッセージが記録されます。基本的には、CRL チェックを無効にします。
- **strict** : CRL の証明書の接続認証は失敗します。発生するたびに警告メッセージが記録されます。また、CRL は最新の状態に維持する必要があります。

keyring *keyring_name*

(任意) HTTPS 接続に使用する RSA キーリングの名前を指定します。

port *port_number*

(任意) HTTPS 接続に使用するポートを指定します。1 ~ 65535 で指定できます。デフォルトは 443 です。

コマンド デフォルト

Firepower 4100/9300 シャーシ上でのデフォルトの HTTPS 認証設定はクレデンシャルベースです。

デフォルトの暗号スイートのセキュリティ レベルは中程度の強度です。

コマンド モード

サービス モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 証明書認証が有効である場合、これは HTTPS に許可されている唯一の認証形式です。この機能を使用するには、クライアント証明書が次の要件を満たしている必要があります。

- ユーザ名が X509 属性 [Subject Alternative Name - Email] に含まれている必要があります。
- クライアント証明書は、その証明書をスーパーバイザ上のトラストポイントにインポートしているルート CA により署名されている必要があります。



注意 これらの設定パラメータの大部分（特に `keyring`、`port`、`cipher-suite`、`custom cipher-suite-mode`）をコミットすると、現在のすべての HTTP および HTTPS セッションがユーザ警告なしで終了します。

例

次の例は、HTTPS アクセスの証明書ベースの認証を有効にする方法を示しています。

```
FP9300-A# scope system
FP9300-A /system # scope services
FP9300-A /system/services # set https auth-type cert-auth
FP9300-A /system/services* # commit-buffer
FP9300-A /system/services #
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable https	HTTPS サービスを有効にします。
show https	現在の HTTPS サービス設定を表示します。

set (interface)

インターフェイスのパラメータを指定または変更するには、インターフェイスモードで **set** コマンドを使用します。

set

{ **admin-duplex** | **admin-speed** | **auto-negotiation** | **descr** | **eth-link-profile** | **flow-control-policy** | **nw-ctrl-policy** | **port-type** | **user-label** }

構文の説明

admin-duplex { fullduplex halfduplex }	インターフェイスのデュプレックスモードを定義します。 <ul style="list-style-type: none"> • fullduplex : 双方向の同時通信を指定します。 • halfduplex : 一方向通信を指定します。
admin-speed { 100gbps 100mbps 10gbps 10mbps 1gbps 40gbps }	インターフェイスのデータ転送速度を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 100gbps : 100 ギガビット/秒。 • 100mbps : 100 メガビット/秒。 • 10gbps : 10 ギガビット/秒。 • 10mbps : 10 メガビット/秒。 • 1gbps : 1 ギガビット/秒。 • 40gbps : 40 ギガビット/秒。
auto-negotiation { no yes }	速度、デュプレックス、フロー制御など、一般的な伝送パラメータの自動ネゴシエーションを有効または無効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • no : 自動ネゴシエーションを無効にします。 • yes : 自動ネゴシエーションを有効にします。
descr <i>description</i>	インターフェイスに説明を追加できます。説明は 0 ~ 256 文字で指定できます。ダッシュやアンダースコアのようにほとんどの英数字を使用できます。スペースは使用できません。文字列の末尾には、セミコロン、ピリオド（終止符）、および感嘆符などの句読点を使用できますが、説明にはこれらの文字を埋め込むことはできません。
eth-link-profile <i>name</i>	インターフェイスにイーサネットリンクプロファイルを割り当てると、プロファイルパラメータに従ってインターフェイスを自動的に設定できます。プロファイルの名前を指定します。名前には最大 16 文字の英数字を使用できます。

flow-control-policy *name* フロー制御ポリシーをインターフェイスに割り当てることができます。ポリシー名を指定します。最大 16 文字の英数字を使用できません。

nw-ctrl-policy *name* ネットワーク制御ポリシーをインターフェイスに割り当てることができます。ポリシー名を指定します。最大 16 文字の英数字を使用できません。

port-type
{ **cluster** | **data** | **data-sharing** | **firepower-eventing** | **mgmt** }
インターフェイスのタイプまたは機能を指定します。

- **cluster** : このインターフェイスをクラスタ制御リンクとして使用する場合のみ、**cluster** を指定します。
- **data** : 通常のコピーデータ伝送に使用します。これがデフォルトのタイプです。
- **data-sharing** : 通常のコピーデータに使用します。コンテナインスタンスでのみサポートされます。
- **firepower-eventing** : このインターフェイスは、Threat Defense デバイスのセカンダリ管理インターフェイスとして使用します。firepower-eventing インターフェイスを使用すると、firepower-eventing インターフェイスは、すべてのイベントのトラフィック（Web イベントなど）を運べます。
- **mgmt** : アプリケーションインスタンスの管理に使用します。各論理デバイスには、管理インターフェイスを1つだけ割り当てることができます。

このコマンドの詳細については、[set port-type \(328 ページ\)](#) を参照してください。

user-label *label* このインターフェイスには説明ラベルを適用できます。0～16 文字の英数字を使用できます。

コマンド モード

scope eth-uplink/scope fabric a/interface/

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.4(1)	data-sharing タイプが追加されました。
1.1(4)	firepower-eventing タイプが追加されました。
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

タイプ **cluster** はクラスタ化された論理デバイスに使用する特別なインターフェイスです。このタイプは、ユニット間のクラスタ通信用にクラスタ制御リンクに自動的に割り当てられます。デフォルトでは、クラスタ制御リンクは 48 番のポートチャネル上に自動的に作成されません。

データ インターフェイスは論理デバイス間で共有できません。

タイプ `data-sharing` はコンテナ インスタンスでのみサポートされ、これらのデータ インターフェイスは1つまたは複数の論理デバイス/コンテナ インスタンス (Threat Defense のみ) で共有できます。各コンテナ インスタンスは、このインターフェイスを共有する他のすべてのインスタンスと、バックプレーン経由で通信できます。共有インターフェイスは、展開可能なコンテナ インスタンスの数に影響することがあります。共有インターフェイスは、ブリッジグループ メンバ インターフェイス (トランスペアレント モードまたはルーテッド モード)、インライン セット、パッシブ インターフェイス、またはフェールオーバー リンクではサポートされません。

`firepower-eventing` インターフェイスは Threat Defense デバイスのセカンダリ管理インターフェイスです。このインターフェイスを使用するには、Threat Defense CLI で IP アドレスなどのパラメータを設定する必要があります。たとえば、イベント (Web イベントなど) から管理トラフィックを分類できます。『Management Center configuration guide』の「System Configuration」の章にある「Management Interfaces」のセクションを参照してください。Firepower イベント インターフェイスは、外部ホストにアクセスするために1つまたは複数の論理デバイスで共有できます。論理デバイスはこのインターフェイスを介してインターフェイスを共有する他の論理デバイスと通信することはできません。

`mgmt` インターフェイスを使用してアプリケーション インスタンスを管理します。外部ホストにアクセスするために1つまたは複数の論理デバイスで共有できます。論理デバイスはこのインターフェイスを介して、インターフェイスを共有する他の論理デバイスと通信することはできません。各論理デバイスには、管理インターフェイスを1つだけ割り当てることができます。

指定するインターフェイス速度はインターフェイスで使用するデュプレックスモードに影響を与えます。このため、デュプレックスモードを設定する前に速度を設定する必要があります。速度を 10 または 100 Mbps に指定すると、ポートでは半二重モードを使用するように自動的に設定されますが、全二重モードを指定することもできます。1000 Mbps (1 Gbps) 以上の速度に設定すると、自動的に全二重モードが使用されます。

デフォルトのフロー制御ポリシーを編集した場合は、インターフェイスにすでに適用されています。新しいポリシーを作成した場合は、そのポリシーをインターフェイスに適用できます。

例

次の例は、インターフェイス速度を 10 Gbps に設定し、ポート タイプをデータに設定する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # enter interface Ethernet1/8
firepower /eth-uplink/fabric/interface # enable
firepower /eth-uplink/fabric/interface* # set admin-speed 10gbps
firepower /eth-uplink/fabric/interface* # set port-type data
firepower /eth-uplink/fabric/interface* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/fabric/interface
```

関連コマンド	コマンド	説明
	enter interface	インターフェイス設定を指定および管理できるようにインターフェイスを入力します。
	scope interface	インターフェイス設定を指定および管理できるようにインターフェイスを有効にします。
	show interface	インターフェイスの設定とステータスに関する情報を表示します。

set keyring-name

IPSec 接続にキーリングを割り当てるには、**set keyring-name** コマンドを使用します。

set keyring-name *name*

構文の説明	<i>name</i>	IPSec 接続に割り当てるキーリングの名前。最大 16 文字。
コマンドモード	接続 (/security/ipsec/connection) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドを使用して、IPSec 接続にキーリングを追加します。	

例

次の例は、現在の IPSec 接続にキーリングを追加する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # scope ipsec
FP9300-A /security/ipsec # enter connection testconn
FP9300-A /security/ipsec/connection # set keyring-name kr22
FP9300-A /security/ipsec/connection* # commit-buffer
FP9300-A /security/ipsec/connection #
```

コマンド	説明
create connection	新しい IPSec 接続を作成します。
set keyring-passwd	IPSec 接続に割り当てられるキーリングのパスフレーズを指定します。

set lastname

ローカル ユーザの姓を指定するには、**set lastname** コマンドを使用します。

set lastname *name*

構文の説明	<i>name</i>	ユーザの姓。0～32文字で指定できます。
コマンドモード	ローカル ユーザ モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、セキュリティ モードを開始し、新しいローカル ユーザ アカウントを作成し、そのユーザの名と姓を指定する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # create local-user test_user
FP9300-A /security/local-user* # set firstname john
FP9300-A /security/local-user* # set lastname doe
FP9300-A /security/local-user* # commit-buffer
FP9300-A /security/local-user #
```

コマンド	説明
create local-user	新規のローカル ユーザ アカウントを作成します。
set firstname	ローカル ユーザ アカウントの名を指定します。

set link-state-sync

サービス状態を使用して動作リンク状態をデータインターフェイスの物理リンク状態と同期させるには、**set link-state-sync** コマンドを使用します。

set link-state-sync

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

scope ssa

コマンド履歴

リリース	変更内容
------	------

2.9(1)	コマンドが追加されました。
--------	---------------

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、FTD動作リンク状態をデータインターフェイスの物理リンク状態と同期させることができます。

例

次の例は、scope ssa モードを開始し、link-state-sync を設定する方法を示しています。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope logical-device <logical device identifier>
firepower /ssa/logical-device # set link-state-sync ?
    disabled  Disabled
    enabled   Enabled
```

set local-address

IPSec 接続のローカル IP アドレスを指定するには、**set local-address** コマンドを使用します。

set local-address *ip_address*

構文の説明	<i>ip_address</i>	IPSec 接続の IPv4 または IPv6 ローカル ゲートウェイ アドレスを入力します。最大 510 文字。
コマンドモード	Connection mode	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドと set remote-address コマンドを使用して、IPSec 接続のエンドポイントを定義します。	

例

次の例は、IPSec 接続のローカル アドレスを設定する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # scope ipsec
FP9300-A /security/ipsec # enter connection testconn
FP9300-A /security/ipsec/connection # set local-address 209.165.201.12
FP9300-A /security/ipsec/connection* # commit-buffer
FP9300-A /security/ipsec/connection #
```

コマンド	説明
create connection	新しい IPSec 接続を作成します。
set remote-addr	IPSec 接続のリモート IP アドレスを設定します。

set log-level

IPSec ロギング レベルを指定するには、**set log-level** コマンドを使用します。

set log-level *log_level*

構文の説明	<i>log_level</i>	0 ~ 4 の値を入力して、IPSec ログの詳細を指定します。デフォルトは 1 です。 0 : SA アップ/ダウンなどの基本的な監査情報。 1 : エラーのある一般的な制御フロー情報。 2 : デバッグ情報などの詳細な制御フロー情報。 3 : raw データ ダンプ (16 進数) が含まれます。 4 : SA キーなど、データ ダンプに機密情報が含まれます。
-------	------------------	--

コマンドモード	IPsec モード
---------	-----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **show ipsec-log** コマンドを使用してログを表示します。

例

次の例は、IPSec ロギング レベルを 2 に設定する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # scope ipsec
FP9300-A /security/ipsec # set log-level 2
FP9300-A /security/ipsec* # commit-buffer
FP9300-A /security/ipsec #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show ipsec-log	IPSec ログ ファイルを表示します。

set max-login-attempts

ログイン試行の失敗が許可される最大回数を指定するには、**set max-login-attempts** コマンドを使用します。

set max-login-attempts *max_attempts*

構文の説明	<i>max_attempts</i>	ユーザがシステムからロックアウトされるまでにログイン試行を失敗できる回数。指定できる値は0～10です。デフォルトは0です。
-------	---------------------	---

コマンドモード	セキュリティ モード
---------	------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン ユーザ（管理者ユーザを含む）がこのログイン試行最高回数を超えると、ユーザはシステムからロックアウトされるため、ログインが再び許可されるまで、指定された時間待機する必要があります。ユーザがロックアウトされたことを示す通知は表示されません。

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、ログインの最大試行回数を指定する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # set max-login-attempts 4
FP9300-A /security* # commit-buffer
FP9300-A /security #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	clear lock-status	ユーザのロックアウトステータスをクリアします。
	set user-account-unlock-time	ログイン試行の最高回数に達した後、ユーザがシステムからロックアウトされる時間を指定します。

set message

ログイン前バナーとして表示されるテキストの行を追加または置き換えるには、**set message** コマンドを使用します。

set message

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンド モード	scope security/scope banner/scope pre-login-banner/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	コマンドを入力すると、バナー テキストの行数を入力するように求められます。バナー テキストを終了するには、ENDOFBUF（すべて大文字）と入力する必要があります。	



- (注) ログイン前バナー オブジェクトがすでに存在する必要があります。 [create pre-login-banner \(96 ページ\)](#) を参照してください。

例

次の例は、ログイン前バナーを作成および指定し、コミットおよび表示する方法を示します。

```
firepower # scope security
firepower /security # scope banner
firepower /security/banner # create pre-login-banner
firepower /security/banner/pre-login-banner* # set message
Enter lines one at a time. Enter ENDOFBUF to finish. Press ^C to abort.
Enter prelogin banner:
>Firepower-9300-2
>Western Data Center
>ENDOFBUF
firepower /security/banner/pre-login-banner* # commit
firepower /security/banner/pre-login-banner # show

Pre login banner:
  Message
  -----
  Firepower-9300-2
  Western Data Center

firepower /security/banner/pre-login-banner #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	clear message	既存のログイン前バナーからテキストを削除します。実際のバナーオブジェクト自体は削除されません。
	create pre-login-banner	ログイン画面の前に表示されるバナーを作成します。初期のバナーオブジェクトは空です。

set min-password-length

ユーザパスワードの最小長を指定するには、**set min-password-length** コマンドを使用します。

set min-password-length *num_chars*

構文の説明	<i>num_chars</i>	ユーザパスワードに必要な最小文字数。値の範囲は 8 ~ 80 です。
コマンドモード	セキュリティ モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	有効にした場合、ユーザは指定された最小文字数以上のパスワードを作成する必要があります。たとえば、 <i>num_chars</i> が 15 に設定されている場合、パスワードの長さは 15 文字以上で指定する必要があります。	

例

次の例は、セキュリティ モードを開始し、パスワードの最小長を 15 文字に指定する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # set min-password-length 15
FP9300-A /security* # commit-buffer
FP9300-A /security #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set enforce-strong-password	強力なパスワードの適用を有効または無効にします。

set mode

IPSec 接続モードを指定するには、**set mode** コマンドを使用します。

set mode {**transport**|**tunnel**}

構文の説明	transport	接続モードを transport に設定します。
	tunnel	接続モードを tunnel に設定します。
コマンドモード	Connection mode	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン トランスポートモードでは、IP パケットのペイロードのみが暗号化されます。トンネルモードでは、パケット全体が暗号化されます。通常、トランスポートモードはエンドツーエンドセッションに使用され、トンネルモードは他のすべての接続タイプ（ゲートウェイ間など）に使用されます。

例

次の例は、IPSec 接続モードをトンネルに設定する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # scope ipsec
FP9300-A /security/ipsec # enter connection testconn
FP9300-A /security/ipsec/connection # set mode tunnel
FP9300-A /security/ipsec/connection* # commit-buffer
FP9300-A /security/ipsec/connection #
```

コマンド	説明
create connection	新しい IPSec 接続を作成します。
set local-addr	IPSec 接続のローカル IP アドレスを設定します。
set remote-addr	IPSec 接続のリモート IP アドレスを設定します。

set modulus

RSA キー係数（SSL キーの長さ）をビット単位で指定するには、**set modulus** コマンドを使用します。

set modulus { **mod1536** | **mod2048** | **mod2560** | **mod3072** | **mod3584** | **mod4096** }

構文の説明

ビット単位の RSA キー 有効なオプションは次のとおりです。
係数（SSL キー長）

- **mod1536** : 係数は 1536 ビットです
- **mod2048** : 係数は 2048 ビットです
- **mod2560** : 係数は 2560 ビットです
- **mod3072** : 係数は 3072 ビットです
- **mod3584** : 係数は 3584 ビットです
- **mod4096** : 係数は 4096 ビットです

コマンドモード

キーリング モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、キーリングのキーの長さを指定します。

例

次の例は、キーリングのキーの長さとして 2048 ビットを指定する方法を示します。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # scope keyring test-ring
FP9300-A /security/keyring # set modulus 2048
FP9300-A /security/keyring* # commit-buffer
switch-A /security/keyring #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set cert	キーリングの RSA 証明書を入力します。
set regenerate	デフォルト キーリングで RSA キーを再生成します。
set trustpoint	キーリング証明書を再生成できるかどうかを指定します。

set out-of-band

デバイスの管理 IP アドレスを変更するには、**set out-of-band** コマンドを使用します。

IPv4 アドレスの場合：

```
set out-of-band {gw gateway_address | ip ip_address | netmask network_mask}
```

IPv6 アドレスの場合：

```
set out-of-band {ipv6 ipv6_address | ipv6-gw ipv6_gateway | ipv6-prefix ipv6_prefix}
```

構文の説明

gw <i>gateway_address</i>	IPv4 ゲートウェイ アドレスを入力します。
ip <i>ip_address</i>	デバイス管理アクセスの IPv4 アドレスを指定します。
netmask <i>network_mask</i>	IPv4 アドレスのネットマスクを指定します。
ipv6 <i>ipv6_address</i>	デバイス管理アクセスの IPv6 アドレスを指定します。
ipv6-gw <i>ipv6_gateway</i>	IPv6 ゲートウェイ アドレスを入力します。
prefix <i>ipv6_prefix</i>	IPv6 アドレスのプレフィックス長を入力します。
	(注) シャーシの IPv6 管理アドレスとしてサポートされるのは、IPv6 グローバルユニキャストアドレスのみです。

コマンドモード

IPv4 アドレス：ファブリック インターコネクト モード

IPv6 アドレス：IPv6 設定 (fabric-interconnect/ipv6-config) モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

管理 IP アドレスを変更した後、新しいアドレスを使用して既存の接続を再確立する必要があります。

あるコマンドラインで IP アドレス タイプに 3 つのキーワードと変数を任意の順序で入力できます。次の例を参照してください。



(注) シャーシの IPv6 管理アドレスとしてサポートされるのは、IPv6 グローバルユニキャストアドレスのみです。

例

次の例は、現在のIPv4管理インターフェイスおよびゲートウェイアドレスを表示し、新しいアドレスを指定する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope fabric-interconnect a
FP9300-A /fabric-interconnect # show

Fabric Interconnect:
ID      OOB IP Addr      OOB Gateway      OOB Netmask      OOB IPv6 Address OOB IPv6 Gateway
Prefix Operability
-----
-----
A      192.0.2.112      192.0.2.1        255.255.255.0    ::                ::
64      Operable
FP9300-A /fabric-interconnect # set out-of-band ip 192.0.2.111 netmask 255.255.255.0 gw
192.0.2.1
Warning: When committed, this change may disconnect the current CLI session
FP9300-A /fabric-interconnect* # commit-buffer
FP9300-A /fabric-interconnect #
```

次の例は、現在のIPv6管理インターフェイスおよびゲートウェイアドレスを表示し、新しいアドレスを指定する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope fabric-interconnect a
FP9300-A /fabric-interconnect # scope ipv6-config
FP9300-A /fabric-interconnect/ipv6-config # show ipv6-if

Management IPv6 Interface:
IPv6 Address      Prefix      IPv6 Gateway
-----
2001::8998        64          2001::1
FP9300-A /fabric-interconnect/ipv6-config # set out-of-band ipv6 2001::8999 ipv6-prefix
64 ipv6-gw 2001::1
FP9300-A /fabric-interconnect/ipv6-config* # commit-buffer
FP9300-A /fabric-interconnect/ipv6-config #
```

コマンド	説明
show	現在のデバイス管理 IP アドレスを表示します。
show ipv6-if	現在のデバイス管理 IPv6 アドレスを表示します。

set password

ユーザアカウントのパスワードを指定するには、**set password** コマンドを使用します。

set password

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope security/ : 現在ログインしているユーザのパスワードを変更します

scope security/scope local-user/ : 現在のローカルユーザのパスワードを指定します

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

set password コマンドを入力すると、パスワードの入力と確認を求めるプロンプトが表示されます。セキュリティ上の理由から、入力したパスワードは CLI ウィンドウには表示されません。

このパスワードの最小文字数は 8 文字、最大文字数は 80 文字です。特定の最小文字数を定義するには、[set min-password-length \(311 ページ\)](#) を使用します。「強力な」パスワードを使用する必要があるには、[set enforce-strong-password \(283 ページ\)](#) を使用します。

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、新しいローカルユーザアカウントを作成し、そのユーザのパスワードを指定する方法を示しています。

```
firepower# scope security
firepower /security # create local-user test_user
firepower /security/local-user* # set password
Enter a password:
Confirm the password:
firepower /security/local-user* # commit-buffer
firepower /security/local-user #
```

コマンド	説明
create local-user	新規のローカルユーザアカウントを作成します。
set expiration	ユーザアカウントが期限切れになる日付を指定します。

set password-encryption-key

設定のエクスポート中に機密情報を暗号化するときには使用されるキーを指定するには、**set password-encryption-key** コマンドを使用します。

set password-encryption-key

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。コマンドを入力すると、暗号キーを入力して確認するように求められます。

キーの長さは 4 ～ 40 文字です。入力したキーは 128 ビットの MD5 ハッシュ値を生成するために使用されます。

コマンドモード

scope security/

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.6.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

設定エクスポート機能を使用すると、Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含む XML ファイルをリモートサーバにエクスポートできます。このコンフィギュレーションファイルを後でインポートして Firepower 4100/9300 に迅速に構成設定を適用し、既知の構成に戻したり、システム障害から回復させたりすることができます。

FXOS 2.6.1 以降、設定のエクスポート中にパスワードやその他の秘密キーなどの機密情報を暗号化する際に使用するキーを指定する必要があります。設定をエクスポートする前に、パスワードやその他の秘密キーを指定しておく必要があります。

また、ファイルが 2.6.1 より前の FXOS リリースからファイルがエクスポートされない限り、エクスポートされた設定をインポートする場合にターゲットシステムで、エクスポート時に同じキーが使用されるように設定する必要があります。この場合、ターゲットシステムはインポートを許可します。

パスワード暗号キーが設定されると、factory-reset または password-recovery を実行しない限り、変更または削除することはできません。factory-reset または password-recovery はキーをクリアして、キーが設定されていない状態にします。

例

次の例は、現在の設定をエクスポートする前にパスワード暗号キーを指定する方法を示しています。

```
firepower # scope security
firepower /security # set password-encryption-key
Enter a key:
Confirm the key:
Warning: Please make note of the encryption key configured. If you change the key,
importing configurations that were exported with the previous key will fail, because
```

```

Import and Export requires the same encryption key on the system.
firepower /security* # commit-buffer
firepower /security #

```

関連コマンド

コマンド	説明
cfg-export-policy	エクスポート ポリシーを設定します。
export-config	現在のシステム設定をリモートサーバに XML ファイルとしてエクスポートします。
import-config	以前にエクスポートした XML コンフィギュレーションファイルをこのアプライアンスにコピーします。

set (password-profile)

ローカルユーザー パスワードプロファイル パラメータを指定または変更するには、パスワードプロファイル モードで **set** コマンドを使用します。

set { **change-count** | **change-during-interval** | **change-interval** | **history-count** | **no-change-interval** }

構文の説明

change-count <i>count</i>	ユーザーが自分のパスワードを変更できる最大回数 (set change-interval で指定された期間中)。値は 0 ~ 10 で指定できません。
change-during-interval { disable enable }	ローカル認証されたユーザーがパスワードを変更できる回数に対する制限を有効または無効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • disable : パスワード変更回数に対する制限を無効にします。 • enable : パスワード変更回数に対する制限を有効にします。 <p>このオプションは、ローカル認証されたユーザが自分のパスワードを変更できる最大回数を指定し、パスワードの変更回数を実行できる時間を指定する前に有効にする必要があります。</p>
change-interval <i>interval</i>	ユーザのパスワード変更間隔は、 set change-count コマンドで指定された最大回数を超えないように設定します。時間は 1 ~ 745 で指定できます。 <p>この間隔を指定する前に set change-during-interval オプションを有効にしておく必要があります。</p>
history-count <i>count</i>	ローカル認証されたユーザーが、以前に使用したパスワードを再利用できるようになるまでに、作成する必要がある一意のパスワードの数。0 ~ 15 の値を指定できます。 <p>デフォルトの <i>count</i> 値はゼロのため、パスワード履歴カウントが無効になり、ユーザーは以前使用したパスワードをいつでも再利用できます。</p>
no-change-interval <i>hours</i>	ユーザーが自分のパスワードを再度変更できない時間。1 ~ 745 の値を指定できます。 <p>set change-during-interval オプションは、この時間を設定するまで無効にしておく必要があります。そうしないと、この値は無視されます。</p>

コマンドモード

scope security/scope password-profile/

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **set change-during-interval** オプションは、ローカル認証されたユーザーが自分のパスワードを変更できる最大回数を指定し、パスワードの変更回数を実行できる時間を指定する前に有効にする必要があります。

デフォルトの **set history-count** 値はゼロのため、パスワード履歴カウントが無効になり、ユーザーは以前使用したパスワードをいつでも再利用できます。

例

次の例は、パスワードプロファイルモードを開始し、パスワード変更の制限を有効にして、ユーザーが48時間に2回だけ自分のパスワードを変更できるように指定してから、現在の設定を表示する方法を示しています。

```
firepower # scope security
firepower /security # scope password-profile
firepower /security/password-profile # set change-during-interval enable
firepower /security/password-profile* # set change-count 2
firepower /security/password-profile* # set change-interval 48
firepower /security/password-profile* # commit-buffer
firepower /security/password-profile # show detail
```

```
Password profile:
  Password history count: 5
  No password changes allowed (in Hours): 24
  Password change during interval: Enable
  Password change interval (in Hours): 48
  Password change count: 2
firepower /security/password-profile #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show detail	現在のパスワードプロファイル設定を表示します。

set phone

ユーザ アカウントの連絡先電話番号を設定するには、**set phone** コマンドを使用します。

set phone *tel_number*

構文の説明	<i>tel_number</i>	ユーザ アカウントの連絡先電話番号。最大 20 文字。
コマンドモード	ローカル ユーザ モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、現在のローカル ユーザの電話番号を指定する方法を示しています。

```
FP9300-A /security/local-user # set phone +1-408-555-1212
FP9300-A /security/local-user* # commit-buffer
FP9300-A /security/local-user #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create local-user	新規のローカル ユーザ アカウントを作成します。
	set phone-contact	Smart Call Home アカウントの連絡先電話番号を指定します。

set (port-channel)

既存のポートチャネルのパラメータを指定または編集するには、ポートチャネル モードで **set** コマンドを使用します。

```
set { auto-negotiation | descr | duplex | flow-control-policy | lacp-policy-name | nw-ctrl-policy |
port-channel-mode | port-type | speed }
```

構文の説明

auto-negotiation { no yes }	速度、デュプレックス、フロー制御など、一般的な伝送パラメータの自動ネゴシエーションを有効または無効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • no : 自動ネゴシエーションを無効にします。 • yes : 自動ネゴシエーションを有効にします。
descr <i>description</i>	ポートチャネルに説明を追加できます。説明は 0～256 文字で指定できます。ダッシュやアンダースコアのようにほとんどの英数字を使用できます。スペースは使用できません。文字列の末尾には、セミコロン、ピリオド（終止符）、および感嘆符などの句読点を使用できますが、説明にはこれらの文字を埋め込むことはできません。
duplex { fullduplex halfduplex }	ポートチャネルのデュプレックス モードを定義します。 <ul style="list-style-type: none"> • fullduplex : 双方向の同時通信を指定します。 • halfduplex : 一方向通信を指定します。
flow-control-policy <i>name</i>	フロー制御ポリシーをポートチャネルに割り当てることができます。ポリシー名を指定します。最大 16 文字の英数字を使用できます。
lacp-policy-name <i>name</i>	LACP ポリシーをポートチャネルに割り当てることができます。ポリシー名を指定します。最大 16 文字の英数字を使用できます。
nw-ctrl-policy <i>name</i>	ネットワーク制御ポリシーをポートチャネルに割り当てることができます。ポリシー名を指定します。最大 16 文字の英数字を使用できます。

port-channel-mode
{ **active** | **on** }

ポートチャネルの物理データまたはデータ共有インターフェイスのモードを定義します。

- **active** : LACP アップデートを送信および受信します。アクティブ ポートチャネルは、アクティブまたはパッシブ ポートチャネルのいずれかと接続を確立できます。LACP トラフィックを最小にする必要がある場合以外は、アクティブモードを使用する必要があります。これはデフォルトです。
- **on** : ポートチャネルは常にオンであり、LACP は使用されません。「オン」ポートチャネルは、別の「オン」ポートチャネルとの接続のみを確立できます。

非データ インターフェイスはアクティブ モードのみをサポートします。

port-type
{ **cluster** | **data** | **data-sharing** | **firepower-eventing** | **mgmt** }

ポートチャネルタイプまたは機能を指定します。

- **cluster** : このポートチャネルをクラスタ制御リンクとして使用する場合のみ、**cluster** を指定します。
- **data** : 通常 of データ伝送に使用します。これがデフォルトのタイプです。
- **data-sharing** : 通常 of データに使用します。コンテナインスタンスでのみサポートされます。
- **firepower-eventing** : このポートチャネルを Threat Defense デバイスのセカンダリ管理インターフェイスとして使用します。firepower-eventing ポートチャネルを使用すると、すべてのイベントのトラフィック (Web イベントなど) を運べます。
- **mgmt** : アプリケーションインスタンスの管理に使用します。各論理デバイスには、管理インターフェイスを1つだけ割り当てることができます。

このコマンドの詳細については、[set port-type \(328 ページ\)](#) を参照してください。

speed
{ **100gbps** | **100mbps** | **10gbps** | **10mbps** | **1gbps** | **40gbps** }

ポート データ転送速度を指定します。

- **100gbps** : 100 ギガビット/秒。
- **100mbps** : 100 メガビット/秒。
- **10gbps** : 10 ギガビット/秒。
- **10mbps** : 10 メガビット/秒。
- **1gbps** : 1 ギガビット/秒。
- **40gbps** : 40 ギガビット/秒。

コマンドモード scope eth-uplink/scope fabric a/port-channel/

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	data-sharing タイプが追加されました。
	1.1(4)	firepower-eventing タイプが追加されました。
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用してパラメータを設定する前に、メンバーインターフェイスをポートチャンネルに割り当てます。

LACPポートチャンネルモードはデータとデータ共有インターフェイスにのみ適用されます。非データまたは非データ共有インターフェイスの場合、モードは常に active です。

タイプ `cluster` はクラスタ化された論理デバイスに使用する特別なインターフェイスです。このタイプは、ユニット間のクラスタ通信用にクラスタ制御リンクに自動的に割り当てられません。デフォルトでは、クラスタ制御リンクは 48 番のポートチャンネル上に自動的に作成されません。

データ インターフェイスは論理デバイス間で共有できません。

タイプ `data-sharing` はコンテナ インスタンスでのみサポートされ、これらのデータ インターフェイスは1つまたは複数の論理デバイス/コンテナ インスタンス (**Threat Defense** のみ) で共有できます。各コンテナ インスタンスは、このインターフェイスを共有する他のすべてのインスタンスと、バックプレーン経由で通信できます。共有インターフェイスは、展開可能なコンテナ インスタンスの数に影響することがあります。共有インターフェイスは、ブリッジグループメンバ インターフェイス (トランスペアレント モードまたはルーテッド モード)、インラインセット、パッシブ インターフェイス、またはフェールオーバー リンクではサポートされません。

`firepower-eventing` インターフェイスは **Threat Defense** デバイスのセカンダリ管理インターフェイスです。このインターフェイスを使用するには、**Threat Defense CLI** で IP アドレスなどのパラメータを設定する必要があります。たとえば、イベント (Web イベントなど) から管理トラフィックを分類できます。『*Management Center configuration guide*』の「*System Configuration*」の章にある「*Management Interfaces*」のセクションを参照してください。Firepower イベント インターフェイスは、外部ホストにアクセスするために1つまたは複数の論理デバイスで共有できます。論理デバイスはこのインターフェイスを介してインターフェイスを共有する他の論理デバイスと通信することはできません。

`mgmt` インターフェイスを使用してアプリケーション インスタンスを管理します。外部ホストにアクセスするために1つまたは複数の論理デバイスで共有できます。論理デバイスはこのインターフェイスを介して、インターフェイスを共有する他の論理デバイスと通信することはできません。各論理デバイスには、管理インターフェイスを1つだけ割り当てることができます。

指定するインターフェイス速度はインターフェイスで使用するデュプレックスモードに影響を与えます。このため、デュプレックスモードを設定する前に速度を設定する必要があります。速度を 10 または 100 Mbps に指定すると、ポートでは半二重モードを使用するように自動的に

設定されますが、全二重モードを指定することもできます。1000 Mbps（1 Gbps）以上の速度に設定すると、自動的に全二重モードが使用されます。

デフォルトのフロー制御ポリシーを編集した場合は、インターフェイスにすでに適用されています。新しいポリシーを作成した場合は、そのポリシーをポートチャンネルに適用できます。

例

次の例は、4つのメンバー インターフェイスでポートチャンネル 1 を作成し、タイプをデータに設定し、EtherChannel を On モードに設定する方法を示しています。

```
firepower# scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # create port-channel 1
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/1
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/2
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/3
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/4
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # set port-type data
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # set port-channel-mode on
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create port-channel	EtherChannel インターフェイスを追加します。
scope interface	インターフェイス設定を指定および管理できるように物理インターフェイスを入力します。

set port-channel-mode

EtherChannel のポート チャンネル モードを設定するには、**set port-channel-mode** コマンドを使用します。

set port-channel-mode { **active** | **on** }

構文の説明	active	EtherChannel 内のインターフェイスをアクティブに設定します。
	on	EtherChannel 内のインターフェイスをオンに設定します。データまたはデータ共有インターフェイスでのみサポートされます。
コマンド デフォルト	デフォルト モードは、active です。	
コマンド モード	scope eth-uplink/scope fabric a/create port-channel/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン EtherChannel内の各物理データまたはデータ共有インターフェイスを次のように設定できます。

- **アクティブ** : LACP アップデートを送信および受信します。アクティブ EtherChannel は、アクティブまたはパッシブ EtherChannel と接続を確立できます。LACP トラフィックを最小にする必要がある場合以外は、アクティブ モードを使用する必要があります。
- **オン** : EtherChannel は常にオンであり、LACP は使用されません。「オン」の EtherChannel は、別の「オン」の EtherChannel のみと接続を確立できます。

非データ インターフェイスのみがアクティブ モードをサポートしています。

例

次の例は、4 つのメンバー インターフェイスでポートチャンネル 1 を追加し、タイプをデータに設定し、EtherChannel を On モードに設定する方法を示しています。

```
firepower# scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # create port-channel 1
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/1
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/2
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/3
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/4
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # set port-type data
```

```
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # set port-channel-mode on
```

関連コマンド

コマンド	説明
create port-channel	EtherChannel インターフェイスを追加します。
create member-port	EtherChannel にメンバーを割り当てます。
set port-type	インターフェイス タイプを設定します。

set port-type

インターフェイスのポートタイプを設定するには、**set port-type** コマンドを使用します。

set port-type { **cluster** | **data** | **data-sharing** | **firepower-eventing** | **mgmt** }

構文の説明

cluster	クラスタ化された論理デバイスに使用する特別なインターフェイスタイプです。このタイプは、ユニット間のクラスタ通信にクラスタ制御リンクに自動的に割り当てられます。デフォルトでは、クラスタ制御リンクは 48 番のポートチャンネル上に自動的に作成されます。マルチインスタンスクラスタリングの場合、デバイス間でクラスタタイプのインターフェイスを共有することはできません。各クラスタが別個のクラスタ制御リンクを使用できるように、クラスタ EtherChannel に VLAN サブインターフェイスを追加できます。クラスタインターフェイスにサブインターフェイスを追加した場合、そのインターフェイスをネイティブクラスタには使用できません。Device Manager ではクラスタリングはサポートされません。
data	データ インターフェイスは論理デバイス間で共有できません。
data-sharing	コンテナ インスタンスでのみサポートされ、これらのデータ インターフェイスは 1 つまたは複数の論理デバイス/コンテナ インスタンス (Threat Defense 専用) で共有できます。各コンテナ インスタンスは、このインターフェイスを共有する他のすべてのインスタンスと、バックプレーン経由で通信できます。共有インターフェイスは、展開可能なコンテナ インスタンスの数に影響することがあります。共有インターフェイスは、ブリッジグループメンバーインターフェイス (トランスペアレントモードまたはルーテッドモード)、インラインセット、パッシブインターフェイス、クラスタ、またはフェールオーバーリンクではサポートされません。
firepower-eventing	このインターフェイスは、Threat Defense デバイスのセカンダリ管理インターフェイスです。このインターフェイスを使用するには、Threat Defense CLI で IP アドレスなどのパラメータを設定する必要があります。たとえば、イベント (Web イベントなど) から管理トラフィックを分類できます。『Management Center configuration guide』の「System Configuration」の章にある「Management Interfaces」のセクションを参照してください。Firepower イベント インターフェイスは、外部ホストにアクセスするために 1 つまたは複数の論理デバイスで共有できます。論理デバイスはこのインターフェイスを介してインターフェイスを共有する他の論理デバイスと通信することはできません。

mgmt	管理インターフェイスを使用してアプリケーションインスタンスを管理します。外部ホストにアクセスするために1つまたは複数の論理デバイスで共有できます。論理デバイスはこのインターフェイスを介して、インターフェイスを共有する他の論理デバイスと通信することはできません。各論理デバイスには、管理インターフェイスを1つだけ割り当てることができます。
-------------	--

コマンドデフォルト デフォルトのタイプは **data** です。

コマンドモード

```
scope eth-uplink/scope fabric a/scope interface/
scope eth-uplink/scope fabric a/scope interface/create subinterface/
scope eth-uplink/scope fabric a/create port-channel/
scope eth-uplink/scope fabric a/create port-channel/create subinterface/
```

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.8(1)	マルチインスタンスクラスタリングで使用する VLAN サブインターフェイスの cluster タイプを設定できます。
	2.4(1)	data-sharing タイプが追加されました。
	1.1(4)	firepower-eventing タイプが追加されました。
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン コンテナ インスタンスは、**data-sharing** タイプのインターフェイスを共有できます。この機能を使用して、物理インターフェイスの使用率を節約し、柔軟なネットワークの導入をサポートできます。インターフェイスを共有すると、シャーシは一意の MAC アドレスを使用して、正しいインスタンスにトラフィックを転送します。ただし、共有インターフェイスでは、シャーシ内にフルメッシュトポロジが必要になるため、転送テーブルが大きくなることがあります（すべてのインスタンスが、同じインターフェイスを共有するその他すべてのインスタンスと通信できる必要があります）。そのため、共有できるインターフェイスの数には制限がありません。

転送テーブルに加えて、シャーシは VLAN サブインターフェイスの転送用に VLAN グループテーブルも保持します。親インターフェイスの数とその他の導入決定に応じて、最大 500 個の VLAN サブインターフェイスを作成できます。

共有インターフェイスの割り当てに次の制限を参照してください。

- 共有インターフェイスごとの最大インスタンス数：14。たとえば、Instance1 ~ Instance14 に Ethernet1/1 を割り当てることができます。
- インスタンスごとの最大共有インターフェイス数：10。たとえば、Ethernet1/1.10 を介して Instance1 に Ethernet1/1.1 を割り当てることができます。

スタンドアロン展開とクラスタ展開での FTD および ASA アプリケーションのインターフェイスタイプのサポートについては、次の表を参照してください。

表 4: インターフェイスタイプのサポート

アプリケーション	データ	データ： サブインターフェイス	データ共有	データ共有： サブインターフェイス	管理	Firepower イベント	クラスタ (EthaChanel のみ)	クラスタ： サブインターフェイス	
FTD	スタンドアロン ネイティブ インスタンス	対応	—	—	—	対応	対応	—	—
	スタンドアロン コンテナ インスタンス	対応	対応	対応	対応	対応	—	—	
	クラスタ ネイティブ インスタンス	対応 (シャ シ間クラ スタ専用 の EthaChanel)	—	—	—	対応	対応	対応	—
	クラスタ コンテナ インスタ ンス	対応 (シャ シ間クラ スタ専用 の EthaChanel)	—	—	—	対応	対応	対応	対応

アプリケーション		データ	データ : サブインターフェイス	データ共有	データ共有 : サブインターフェイス	管理	Firepower イベント	クラスタ (EtherChannel のみ)	クラスタ : サブインターフェイス
ASA	スタンドアロンネイティブインスタンス	対応	—	—	—	対応	—	対応	—
	クラスタネイティブインスタンス	対応 (シャリ間クラスタ専用の EtherChannel)	—	—	—	対応	—	対応	—

例

次の例は、4つのメンバーインターフェイスでポートチャンネル1を追加し、タイプをデータに設定し、EtherChannelをOnモードに設定する方法を示しています。

```
firepower# scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # create port-channel 1
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/1
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/2
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/3
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/4
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # set port-type data
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # set port-channel-mode on
```

次の例は、3つのサブインターフェイスを追加し、ポートタイプをdata-sharingに設定する方法を示しています。

```
firepower# scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # enter interface Ethernet1/1
firepower /eth-uplink/fabric/interface # enter subinterface 10
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set vlan 10
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set port-type data-sharing
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/interface # enter subinterface 11
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set vlan 11
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set port-type data-sharing
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # exit
```

```

firepower /eth-uplink/fabric/interface # enter subinterface 12
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set vlan 12
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set port-type data-sharing
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface #

```

関連コマンド

コマンド	説明
create port-channel	EtherChannel インターフェイスを追加します。
scope interface	インターフェイス設定を指定および管理できるように物理インターフェイスを入力します。

set port-type (aggr-interface)

インターフェイスのポート タイプを設定するには、**set port-type** コマンドを使用します。

```
set port-type { data | data-sharing | mgmt | firepower-eventing | cluster }
```

構文の説明

data	(オプション) データ インターフェイスは論理デバイス間で共有できません。
data-sharing	(オプション) コンテナインスタンスでのみサポートされ、これらのデータ インターフェイスは1つまたは複数の論理デバイス/コンテナインスタンス (FTD 専用) で共有できます。各コンテナインスタンスは、このインターフェイスを共有する他のすべてのインスタンスと、バックプレーン経由で通信できます。共有インターフェイスは、展開可能なコンテナインスタンスの数に影響することがあります。共有インターフェイスは、ブリッジグループ メンバ インターフェイス (トランスペアレント モードまたはルーテッド モード)、インラインセット、パッシブ インターフェイス、またはフェールオーバー リンクではサポートされません。
mgmt	(オプション) 管理インターフェイスを使用してアプリケーション インスタンスを管理します。外部ホストにアクセスするために1つまたは複数の論理デバイスで共有できます。論理デバイスはこのインターフェイスを介して、インターフェイスを共有する他の論理デバイスと通信することはできません。各論理デバイスには、管理インターフェイスを1つだけ割り当てることができます。
firepower-eventing	(オプション) このインターフェイスは、FTD デバイスのセカンダリ管理インターフェイスです。このインターフェイスを使用するには、FTD CLI で IP アドレスなどのパラメータを設定する必要があります。たとえば、イベント (Web イベントなど) から管理トラフィックを分類できます。Management Center 構成ガイドのシステム設定の章にある「管理インターフェイス」のセクションを参照してください。Firepower イベント インターフェイスは、外部ホストにアクセスするために1つまたは複数の論理デバイスで共有できません。論理デバイスはこのインターフェイスを介してインターフェイスを共有する他の論理デバイスと通信することはできません。
cluster	(オプション) クラスタ化された論理デバイスに使用する特別なインターフェイス タイプです。このタイプのインターフェイスは、ユニット クラスタ間通信用のクラスタ制御リンクに自動的に割り当てられます。デフォルトでは、クラスタ制御リンクはポートチャネル 48 に自動的に作成されます。

コマンド モード

scope cabling/scope fabric a/

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	data-sharing タイプが追加されました。
	1.1(4)	firepower-eventing タイプが追加されました。
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コンテナインスタンスは、**data-sharing** タイプのインターフェイスを共有できます。この機能を使用して、物理インターフェイスの使用率を節約し、柔軟なネットワークの導入をサポートできます。インターフェイスを共有すると、シャーシは一意的な MAC アドレスを使用して、正しいインスタンスにトラフィックを転送します。ただし、共有インターフェイスでは、シャーシ内にフルメッシュトポロジが必要になるため、転送テーブルが大きくなることがあります（すべてのインスタンスが、同じインターフェイスを共有するその他すべてのインスタンスと通信できる必要があります）。そのため、共有できるインターフェイスの数には制限がありません。

例

次の例では、インターフェイスのポートタイプを設定し、利用可能なコマンドをリストする方法を示します。

```
firepower-9300* # scope cabling
firepower-9300 /cabling* # scope fabric a
firepower-9300 /cabling/fabric* # create breakout port breakout 2 1
firepower-9300 /cabling/fabric* # show config
  scope fabric a
+   enter breakout 2 3
+   exit
  exit
firepower-9300 /cabling/fabric* # exit
firepower-9300 /cabling* # exit
```

commit-buffer コマンドを使用すると、システムが再起動します。

```
firepower-9300* # scope eth-uplink
firepower-9300 /eth-uplink* # scope fabric a
firepower-9300 /eth-uplink/fabric* # show
```

```
Fabric:
  Fabric ID
  -----
  Afirepower-9300 /eth-uplink/fabric* # show
<CR>
>
>>
aggr-interface Aggregate Interface
detail Detail
event Event Management
expand Expand
fault Fault
fsm Fsm
interface Interface
port-channel Port Channel
stats statistics
```

```

| Pipe command output to filter
firepower-9300 /eth-uplink/fabric* # show aggr-interface expand
firepower-9300 /eth-uplink/fabric* # show aggr-interface
1-4 Slot
<CR>
> Redirect it to a file
>> Redirect it to a file in append mode
detail Detail
expand Expand
n/n Ethernet<Slot Id>/<Aggregate Port Id>
| Pipe command output to filter
firepower-9300 /eth-uplink/fabric* # show aggr-interface expand
firepower-9300 /eth-uplink/fabric* #
acknowledge Acknowledge
create Create managed objects
delete Delete managed objects
enter Enters a managed object
scope Changes the current mode
show Show system information

firepower-9300 /eth-uplink/fabric* # scope aggr-interface
1-4 Slot
n/n Ethernet<Slot Id>/<Aggregate Port Id>

firepower-9300 /eth-uplink/fabric* # scope port-channel 2
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel/aggr-interface* # create member-port
Ethernet2/1/1
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel/aggr-interface/member-port* # show config
+enter member-port 2 1
+exit
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel/aggr-interface/member-port* #
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel/aggr-interface/member-port* # exit
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel/aggr-interface* # exit
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # show config
enter port-channel 2
enable
+ enter aggr-interface 2 1
+ enter member-port 2 1
+ exit
+ exit
enter member-port 1 6
enable
exit
set auto-negotiation no
set descr ""
set duplex full duplex
set flow-control-policy default
set lacp-policy-name default
set nw-ctrl-policy default
set port-channel-mode active
set port-type data
set speed 1gbps
exit

firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # set port-type
cluster Cluster
data Data
data-sharing Data Sharing
firepower-eventing Firepower Eventing
mgmt Mgmt

firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # set port-type cluster

```

set port-type (aggr-interface)

```
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* commit-buffer  
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create port-channel	EtherChannel インターフェイスを追加します
scope interface	物理インターフェイスを編集します。

set prefix

コンテナインスタンス インターフェイスの MAC アドレスの自動生成時に使用される MAC アドレス プレフィックスを設定するには、**set prefix** コマンドを使用します。

set prefix *prefix*

構文の説明

prefix 1 ～ 65535 の 10 進数を指定します。このプレフィックスは 4 桁の 16 進数値に変換され、MAC アドレスの一部として使用されます。

コマンドモード

scope ssa/scope auto-macpool/

コマンド履歴

リリース 変更内容

2.4(1) コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

FXOS シャーシは、各インスタンスの共有インターフェイスが一意的 MAC アドレスを使用するように、コンテナインスタンスインターフェイスの MAC アドレスを自動的に生成します。

アプリケーション内の共有インターフェイスに MAC アドレスを手動で割り当てると、手動で割り当てられた MAC アドレスが使用されます。後で手動 MAC アドレスを削除すると、自動生成されたアドレスが使用されます。生成した MAC アドレスがネットワーク内の別のプライベート MAC アドレスと競合することがまれにあります。この場合は、アプリケーション内のインターフェイスの MAC アドレスを手動で設定してください。

自動生成されたアドレスは A2 で始まるため、アドレスが重複するリスクがあることから手動 MAC アドレスを A2 で始めることはできません。



- (注) MAC アドレスを手動で設定すると、サブインターフェイスを共有していない場合でも、分類が正しく行われるように、同じ親インターフェイス上のすべてのサブインターフェイスで一意的 MAC アドレスを使用します。

FXOS シャーシは、次の形式を使用して MAC アドレスを生成します。

A2xx.yyzz.zzzz

xx.yy はユーザ定義のプレフィックスまたはシステム定義のプレフィックスであり、zz.zzzz はシャーシが生成した内部カウンタです。システム定義のプレフィックスは、IDPROM にプログラムされている Burned-in MAC アドレス内の最初の MAC アドレスの下部 2 バイトと一致します。**connect fxos** を使用し、次に **show module** を使用して、MAC アドレスプールを表示します。たとえば、モジュール 1 について示されている MAC アドレスの範囲が b0aa.772f.f0b0 ～ b0aa.772f.f0bf の場合、システムプレフィックスは f0b0 になります。

ユーザ定義のプレフィックスは、16 進数に変換される整数です。ユーザ定義のプレフィックスの使用方法を示す例を挙げます。プレフィックスとして 77 を指定すると、シャーシは 77 を 16

進数値 004D (yyxx) に変換します。MAC アドレスで使用すると、プレフィックスはシャーマネイティブ形式に一致するように逆にされます (xyyy)。

A24D.00zz.zzzz

プレフィックス 1009 (03F1) の場合、MAC アドレスは次のようになります。

A2F1.03zz.zzzz

例

次の例では、MAC プレフィックスを 33 に設定しています。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope auto-macpool
firepower /ssa/auto-macpool # set prefix 33
firepower /ssa/auto-macpool* # commit-buffer
firepower /ssa/auto-macpool
```

関連コマンド

コマンド	説明
scope ssa	ssa モードを開始します。
scope auto-macpool	auto-macpool モードを開始します。
show mac-address	指定された MAC アドレスを表示します。

set protocol

エクスポート ポリシーのリモート サーバと通信する場合に使用されるプロトコルを指定するには、**set protocol** コマンドを使用します。

set protocol {ftp | scp | sftp | tftp}

構文の説明	パラメータ	説明
	ftp	ファイル転送用のファイル転送プロトコル (FTP) を指定します。
	scp	ファイル転送用のセキュア コピー プロトコル (SCP) を指定します。
	sftp	ファイル転送用のセキュア ファイル転送プロトコル (SFTP) を指定します。
	tftp	ファイル転送用の簡易ファイル転送プロトコル (TFTP) を指定します。

コマンドモード 設定のエクスポート ポリシー (/org/cfg-export-policy)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、ファイル転送プロトコルを設定します。

例

次の例は、エクスポート ポリシーのポート番号を設定する方法を示しています。

```
firepower-9300* # scope org
firepower-9300 /org* # scope cfg-export-policy default
firepower-9300 /org/cfg-export-policy* # set protocol scp
firepower-9300 /org/cfg-export-policy* # commit-buffer
firepower-9300 /org/cfg-export-policy #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set adminstate (/org)	エクスポート ポリシーを有効にします。
	set hostname (/org)	バックアップ ファイルを格納する場所のホスト名を指定します。
	set password (/org)	リモート サーバのユーザ名のパスワードを指定します。
	set port (/org)	ポート番号を指定します。
	set protocol (/org)	リモート サーバとの通信時に使用するプロトコルを指定します。

コマンド	説明
set remote-file (/org)	ファイル名を含むコンフィギュレーションファイルをエクスポートする場所のフルパスを指定します。
set schedule (/org)	設定を自動的にエクスポートするスケジュールを指定します。
set user (/org)	システムがリモートサーバへのログインに使用する必要のあるユーザ名を指定します。

set realm

デフォルトの認証サービスを指定するには、**set realm** コマンドを使用します。

set realm {**ldap** | **local** | **none** | **radius** | **tacacs**}

構文の説明	パラメータ	説明
	ldap	LDAP 認証を指定します。
	local	ローカル認証を指定します。
	none	ローカル ユーザはパスワードを指定せずにログインできます。
	radius	RADIUS 認証を指定します。
	tacacs	TACACS+ 認証を指定します。

コマンドモード デフォルト認証モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、**security/default-auth** モードを開始し、デフォルトの認証サービスを **Radius** に設定する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # scope default-auth
FP9300-A /security/default-auth # set realm radius
FP9300-A /security/default-auth* # commit-buffer
FP9300-A /security/default-auth #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set auth-server-group	関連する認証プロバイダー グループを指定します。
	set use-2-factor	認証方式を Radius または TACACS+ レルムの二要素認証に設定します。

set refresh-period

Webセッションの更新期間（このドメインのユーザに許可された更新要求間の最大時間）を設定するには、**set refresh-period** コマンドを使用します。

set refresh-period *seconds*

構文の説明	<i>seconds</i>	Webセッションが非アクティブと見なされるまでの秒数。値は0～3600秒です。デフォルトは600秒です。
コマンドモード	デフォルト認証モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	この時間制限を超えると、FXOSはWebセッションを非アクティブと見なしますが、そのセッションを終了することはありません。	

例

次の例は、デフォルトの認証モードを開始し、セッションの更新間隔を設定する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # scope default-auth
FP9300-A /security/default-auth # set refresh-period 800
FP9300-A /security/default-auth* # commit-buffer
FP9300-A /security/default-auth #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set タイムアウト値	set absolute-session-timeout 、 set con-absolute-session-timeout 、 set con-session-timeout 、および set session-timeout コマンドを使用してさまざまなタイムアウト値を設定します。

set regenerate

デフォルトのキーリング内のキーを再生成するには、**set regenerate** コマンドを使用します。

set regenerate {no|yes}

構文の説明	no	キーを再生成しません。
	yes	キーを再生成します。
コマンドモード	キーリング モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、デフォルトのキーリング内の RSA キーを再生成します。このコマンドは、デフォルトのキーリング内だけに適用されます。

例

次に、デフォルトのキーリング内のキーを再生成する例を示します。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # scope keyring default
FP9300-A /security/keyring # set regenerate yes
FP9300-A /security/keyring* # commit-buffer
switch-A /security/keyring #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set cert	キーリングの RSA 証明書を入力します。
	set modulus	RSA キー係数 (SSL キーの長さ) をビット単位で指定します。
	set trustpoint	キーリング証明書を再生成できるかどうかを指定します。

set remote-address

IPSec 接続のリモート IP アドレスを指定するには、**set remote-address** コマンドを使用します。

set remote-address *ip_address*

構文の説明	<i>ip_address</i>	IPSec 接続の IPv4 または IPv6 リモート ゲートウェイ アドレスを入力します。最大 510 文字。
コマンドモード	接続 (/security/ipsec/connection) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドと set local-address コマンドを使用して、IPSec 接続のエンドポイントを定義します。	

例

次の例は、IPSec 接続のリモート アドレスを設定する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # scope ipsec
FP9300-A /security/ipsec # enter connection testconn
FP9300-A /security/ipsec/connection # set local-address 209.165.202.129
FP9300-A /security/ipsec/connection* # commit-buffer
FP9300-A /security/ipsec/connection #
```

コマンド	説明
create connection	新しい IPSec 接続を作成します。
set local-addr	IPSec 接続のローカル IP アドレスを設定します。

set remote-ike-ident

IPSec トンネル接続のリモートピア IKE ID を指定するには、**set remote-ike-ident** コマンドを使用します。

set remote-ike-ident *remote_ID*

構文の説明	<i>remote_ID</i>	リモートピアの IKE ID。最大 510 文字。
コマンドモード	接続 (/security/ipsec/connection) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドを使用して、IPSec 接続のリモートピアの IKE ID を指定します。この ID は、IKE ネゴシエーション中のピアの検証に使用されます。	

例

次の例は、IPSec 接続のリモート IKE ID を指定する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # scope ipsec
FP9300-A /security/ipsec # enter connection testconn
FP9300-A /security/ipsec/connection # set remote-ike-ident 203.0.113.12
FP9300-A /security/ipsec/connection* # commit-buffer
FP9300-A /security/ipsec/connection #
```

コマンド	説明
create connection	新しい IPSec 接続を作成します。
set remote-addr	IPSec 接続のリモート IP アドレスを設定します。

set remote-subnet

IPSec トンネル接続のリモート サブネットを指定するには、**set remote-subnet** コマンドを使用します。

set remote-subnet *ip_address/mask_bits*

構文の説明	<i>ip_address/mask_bits</i>	IPSec 接続の IPv4 または IPv6 リモートサブネットアドレス/マスクを入力します。最大 510 文字。
-------	-----------------------------	--

コマンドモード	接続 (/security/ipsec/connection) モード
---------	-------------------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	このコマンドを使用して、IPSec 接続のリモートサブネットの IP アドレス/マスクを指定します。
------------	--

例

次の例は、IPSec 接続のリモートサブネットを設定する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # scope ipsec
FP9300-A /security/ipsec # enter connection testconn
FP9300-A /security/ipsec/connection # set remote-subnet 209.165.202.128/27
FP9300-A /security/ipsec/connection* # commit-buffer
FP9300-A /security/ipsec/connection #
```

コマンド	説明
create connection	新しい IPSec 接続を作成します。
set remote-addr	IPSec 接続のリモート IP アドレスを設定します。

set remote-user

確立されたユーザロールに一致するユーザへのアクセスを制限するには、**set remote-user** コマンドを使用します。

set remote-user default-role {assign-default-role|no-login}

構文の説明	assign-default-role	ユーザがログインを試みたときに、リモート認証プロバイダーがユーザの認証情報を含むユーザロールを提供しないと、ユーザは読み取り専用ユーザロールでログインすることができます。
	no-login	ユーザがログインを試みたときに、リモート認証プロバイダーがユーザの認証情報を含むユーザロールを提供しないと、アクセスは拒否されます。

コマンドモード セキュリティ モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **assign-default-role** デフォルトの動作です。

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、ユーザロールが指定されていないユーザのアクセスを拒否する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # set remote-user default-role no-login
FP9300-A /security* # commit-buffer
FP9300-A /security #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set authentication	デフォルトの認証サービスを指定します。

set reporting-interval

モニタ対象の統計情報を報告する頻度を定義するには、**set reporting-interval** コマンドを使用します。

set reporting-interval *interval*

構文の説明	<i>interval</i>	統計情報報告間隔を定義する時間の長さ。使用可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 15minutes : 15 分間隔 • 2hours : 2 時間 (120 分) 間隔 • 2minutes : 2 分間隔 • 30minutes : 30 分間隔 • 4hours : 4 時間 (240 分) 間隔 • 60minutes : 60 分 (1 時間) 間隔 • 8hours : 8 時間 (480 分) 間隔
コマンドモード	scope monitoring/scope stats-collection-policy/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **set collection-interval** コマンドを使用して、統計情報を収集する頻度を定義し、**set reporting-interval** コマンドを使用して、統計情報を報告する頻度を定義します。これらの間隔で統計情報収集ポリシーが定義されます。

報告インターバル中に複数の統計データポイントが収集できるように、報告インターバルは収集インターバルよりも長くなります。これにより、最小値、最大値、平均値を計算して報告するために十分なデータが提供されます。

統計情報は、Firepower システムの次の機能領域ごとに収集して報告することができます。特定の収集ポリシーにアクセスするには、**scope stats-collection-policy** コマンドを使用します。

- Adapter : アダプタに関連した統計情報。
- Chassis : ブレードシャーシに関連した統計情報。
- Fex : 設定されたファブリック エクステンダに関連した統計情報。
- Host : このポリシーは今後サポートされる機能のプレースホルダです。

- Port : サーバポート、アップリンクイーサネットポート、およびアップリンクファイバチャネルポートを含むポートに関連した統計情報。
- Server : サーバに関連した統計情報。



(注) 機能エリアごとにデフォルト統計情報収集ポリシーが1つずつあります。追加で統計情報収集ポリシーを作成できません。また、既存のデフォルトポリシーを削除できません。デフォルトポリシーを変更することだけが可能です。

例

次の例は、ポートの統計情報収集ポリシーを入力し、収集間隔を1分に設定し、レポート間隔を30分に設定し、トランザクションをコミットする方法を示しています。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring # scope stats-collection-policy port
firepower /monitoring/stats-collection-policy # set collection-interval 1minute
firepower /monitoring/stats-collection-policy* # set reporting-interval 30minute
firepower /monitoring/stats-collection-policy* # commit-buffer
firepower /monitoring/stats-collection-policy #
```

関連コマンド

コマンド	説明
scope stats-collection-policy	stats-collection-policy モードを開始します。ここでは、統計情報の収集と報告の間隔を管理できます。
set collection-interval	統計情報の収集頻度を指定します。

set resource-profile-name

アプリケーションインスタンスのリソースプロファイルを設定するには、**set resource-profile-name** コマンドを使用します。

set resource-profile-name *profile_name*

構文の説明	<i>profile_name</i>	このアプリケーションインスタンスのリソースプロファイル名を設定します。
コマンドモード	scope ssa/scope slot/create app-instance/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	コンテナインスタンスで使用できるようになりました。
	1.1(1)	vDP で使用するコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン vDP の場合、リソースプロファイルは、vDP イメージのダウンロード時に FXOS 設定で事前に作成されます。コンテナインスタンスの場合、**create resource-profile** コマンドを使用してリソースプロファイルを作成します。**show resource-profile system** コマンドを使用して、利用可能なプロファイルを表示します。

実行中のアプリケーションインスタンスのリソースプロファイルを変更すると、インスタンスが再起動します。

例

次の例は、vDP アプリケーションインスタンスのリソースプロファイルを設定する方法を示しています。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # show app
  Name          Version          Author          Supported Deploy Types CSP Type    Is Default
  App
-----
  asa           9.10.1           cisco          Native          Application Yes
  ftd           6.2.3           cisco          Native          Application Yes
  vdp           8.13.01.09-2    radware        Vm              Application Yes

firepower /ssa # show resource-profile system
Profile Name      App Name  App Version  Is In Use  Security Model  CPU Logical Core
Count RAM Size (MB)  Default Profile Profile Type Description
-----
DEFAULT-4110-RESOURCE
          vdp           8.13.01.09-2 No          FPR4K-SM-12
  4          16384 Yes          System
DEFAULT-RESOURCE  vdp           8.13.01.09-2 No          FPR9K-SM-56, FPR9K-SM-44,
```

```
FPR9K-SM-36, FPR9K-SM-24, FPR4K-SM-44, FPR4K-SM-36, FPR4K-SM-24

      6          24576 Yes          System
VDP-10-CORES      vdp          8.13.01.09-2 No          FPR9K-SM-56, FPR9K-SM-44,
FPR9K-SM-36, FPR9K-SM-24, FPR4K-SM-44, FPR4K-SM-36, FPR4K-SM-24

      10         40960 No          System
VDP-2-CORES      vdp          8.13.01.09-2 No          all
      2          8192 No          System
VDP-4-CORES      vdp          8.13.01.09-2 No          all
      4          16384 No         System
VDP-8-CORES      vdp          8.13.01.09-2 No          FPR9K-SM-56, FPR9K-SM-44,
FPR9K-SM-36, FPR9K-SM-24, FPR4K-SM-44, FPR4K-SM-36, FPR4K-SM-24

      8          32768 No         System
firepower /ssa/app # exit
firepower /ssa # scope slot 1
firepower /ssa/slot # create app-instance vdp VDP1
firepower /ssa/slot/app-instance* # set resource-profile-name VDP-10-CORES
firepower /ssa/slot/app-instance* #
```

例

次の例は、Threat Defense コンテナ インスタンスのリソース プロファイルを設定する方法を示しています。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # show resource-profile

Profile Name      App Name      App Version  Is In Use  Security Model  CPU Logical Core
Count RAM Size (MB)  Default Profile Profile Type Description
-----
bronze            N/A          N/A          No         all
      6          N/A No         Custom     low end device
silver           N/A          N/A          No         all
      8          N/A No         Custom     mid-level

firepower /ssa # scope slot 1
firepower /ssa/slot # create app-instance ftd FTD1
firepower /ssa/slot/app-instance* # set resource-profile-name silver
firepower /ssa/slot/app-instance* #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show app-attri	現在のアプリケーション属性を表示します。
create resource-profile	コンテナ インスタンスで使用するリソース プロファイルを作成します。
show resource-profile-name	利用可能なリソース プロファイルを表示します。

set session-timeout

Web、SSH、および Telnet セッションのアイドルセッションタイムアウトを設定するには、**set session-timeout** コマンドを使用します。

set session-timeout *seconds*

構文の説明	<i>seconds</i>	Web、SSH、および Telnet セッションのアイドルセッションタイムアウト。値は 0 ～ 3600 秒で指定できます。
-------	----------------	--

コマンドモード	デフォルト認証モード
---------	------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	このコマンドを使用して、Web、SSH、および Telnet セッションのアイドルセッションタイムアウトを指定します。
------------	---

例

次の例は、デフォルトの認証モードを開始し、アイドルセッションタイムアウトを4分に設定する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # scope default-auth
FP9300-A /security/default-auth # set session-timeout 240
FP9300-A /security/default-auth* # commit-buffer
FP9300-A /security/default-auth #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set refresh-period	Web セッション更新期間を設定します。
	show detail	現在のセッションおよび絶対セッションタイムアウト設定を表示します。

set snmp

Simple Network Management Protocol (SNMP) の設定パラメータを設定するには、**set snmp** コマンドを使用します。

set snmp { **community** | **syscontact** | **syslocation** }

構文の説明	community	このコマンドを入力すると、1～32文字の英数字のSNMPコミュニティ名を入力するように求められます。入力したコミュニティ名は表示されませんが、 Enter キーを押すと、バッファをコミットする必要があることを示すアスタリスクがプロンプト表示されます。
	syscontact <i>name</i>	このシステム上のSNMPに関して連絡する担当者の名前を入力します。0～255文字の英数字を指定できます。
	syslocation <i>location</i>	このシステムの場所を入力します。0～510文字の英数字を指定できます。

コマンドモード scope monitoring/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

シスコでは、他のネットワークアプリケーションとのやり取りに必要なコミュニケーションサービスだけを有効にすることを推奨しています。

このシステムでSNMPを設定する前にSNMPエージェント (**enable snmp**) を有効にする必要があります。

set snmp community を使用して、SNMPトラップの宛先へのアクセスを許可するために使用されるコミュニティアクセスストリングを指定します。SNMPv1またはSNMPv2cがSNMPバージョンとして設定されている場合は、コミュニティ引数がコミュニティストリングとして使用されます。SNMPv3が設定されている場合は、コミュニティ引数がトラップメッセージを送信するためのSNMPユーザー名として使用されます。

SNMPコミュニティ名を指定すると、SNMPリモートマネージャからのポーリング要求に対してSNMPバージョン1および2cも自動的に有効になります。



- (注) SNMPバージョン1および2cには、重大な既知のセキュリティ問題があるので注意してください。これらのバージョンでは、すべての情報が暗号化されずに送信されます。これらのバージョンで唯一の認証形式として機能するコミュニティストリングも含まれません。

コミュニティ名は1つだけです。ただし、**set snmp community** を使用して既存の名前を上書きすることができます。既存のコミュニティ名を削除するには、**set snmp community** を入力します。ただし、コミュニティストリングは入力しないでください。つまり、もう一度 **Enter** キーを押します。バッファをコミットすると、**show snmp** の出力に `Is Community Set: No` という行が含まれます。

例

次の例は、モニタリングモードを開始し、SNMP 処理を有効にし、SNMP コミュニティ文字列とシステム連絡先を設定し、変更をコミットし、**show snmp** コマンドを使用して変更を確認する方法を示しています。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring # enable snmp
firepower /monitoring* # set snmp community
Enter a snmp community:
firepower /monitoring* # set snmp syscontact R_Admin
firepower /monitoring* # commit-buffer
firepower /monitoring # show snmp
Name: snmp
  Admin State: Enabled
  Port: 161
  Is Community Set: Yes
  Sys Contact: R_Admin
  Sys Location:
firepower /monitoring #
```

関連コマンド

コマンド	説明
disable snmp	SNMP をディセーブルにします。
enable snmp	SNMP を有効にします。
show snmp	現在の SNMP 設定を表示します。

set (snmp-trap)

Simple Network Management Protocol (SNMP) トラップパラメータを指定するには、snmp-trap モードで **set** コマンドを使用します。

set { **community** | **notificationtype** | **port** | **v3privilege** | **version** }

構文の説明

community	トラップの宛先へのアクセスを許可するために必要な SNMPv1/v2c コミュニティストリングまたは SNMPv3 ユーザ名を指定します。このコマンドを入力すると、コミュニティ名が照会されます。名前は最大 32 文字で、スペースは使用できません。名前は入力しても表示されません。
notificationtype { informs traps }	このエージェントによって生成される SNMP 通知のタイプを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • informs : これらは、重要なローカルイベントをマネージャに通知するために送信される非要請通知です。これらのメッセージは確認応答されます。このオプションは、version が vc2 に設定されている場合にのみ使用できます。 • traps : これらは、重要なローカルイベントをマネージャに通知するために送信される非要請通知です。これらのメッセージは確認応答されません。
port <i>port_num</i>	エージェントが SNMP 要求を受信するポートを変更するには、このコマンドを使用します。デフォルトのポートは 161 です。
v3privilege { auth noauth priv }	このコマンドを使用して、送信された SNMP トラップの Simple Network Management Protocol バージョン 3 (SNMPv3) セキュリティレベルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • auth : キー付きハッシュ認証を指定しますが、暗号化は指定しません。 • noauth : 認証または暗号化を指定しません。これを指定することはできますが、FXOS は SNMPv3 でこのセキュリティレベルをサポートしていないことに注意してください。 • priv : キー付きハッシュ認証とデータの暗号化 (プライバシー) を指定します。

version {**v1**|**v2c**|**v3**} トラップ通知を送信するときに使用する SNMP セキュリティモデルを指定するには、このコマンドを使用します。

- **v1** : SNMP バージョン 1 を指定します。
- **v2c** : SNMP バージョン 2c を指定します。
- **v3** : SNMP バージョン 3 を指定します。

(注) SNMP バージョン 1 および 2c には、重大な既知のセキュリティ問題があるので注意してください。これらのバージョンでは、すべての情報が暗号化されずに送信されます。これらのバージョンで唯一の認証形式として機能するコミュニティストリングも含まれます。

コマンドモード

scope monitoring/snmp-trap

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

SNMP (**enable snmp**) を有効にするには、SNMP トラップを作成してこれらのパラメータを設定する前に、SNMP コミュニティ (**set snmp community**) を作成する必要があります。

新しい SNMP トラップを作成すると、新しいトラップがまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いた `monitoring/snmp-trap` モードが自動的に開始されます。



(注) 最大 8 つの SNMP トラップを作成できます。

set version を使用して SNMPv1 または SNMPv2c が設定されている場合、**set community** 引数がコミュニティストリングとして使用されます。SNMPv3 が設定されている場合は、その引数が、通知を送信するためのユーザー名として使用されます。

SNMPv3 では、トラップの **v3privilege** 設定が、関連する SNMPv3 ユーザーのセキュリティレベルと互換性がある必要があります。つまり、関連付けられたユーザーのセキュリティ設定は、少なくともトラップの設定と同じくらいセキュアである必要があります。たとえば、認証が SNMPv3 ユーザーに対して有効になっている場合（認証は行われるが、プライバシー暗号化は行われない）、ユーザーの **priv-password** は設定されません。一方、プライバシーを有効にして（つまり、認証が行われ、プライバシー暗号化も行われる）通知を送信する場合は、ユーザーの **priv-password** が設定されます。SNMPv3 ユーザーに関連付けられたパスワードは、トラップ/通知の送信時にユーザーを認証するために使用されます。

例

次の例は、SNMP を有効にし、IPv4 アドレスを使用して SNMP トラップを作成し、バージョンを v3 に設定し、v3 権限レベルをプライバシーに設定し、トランザクションをコミットします。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring/ # enable snmp
firepower /monitoring/ # create snmp-trap 192.168.100.112
firepower /monitoring/snmp-trap* # set notificationtype traps
firepower /monitoring/snmp-trap* # set version v3
firepower /monitoring/snmp-trap* # set v3privilege priv
firepower /monitoring/snmp-trap* # commit-buffer
firepower /monitoring/snmp-trap #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create snmp-trap	新しい SNMP トラップ宛先を作成します。
enable snmp	SNMP をイネーブルにします。

set (snmp-user)

既存の Simple Network Management Protocol (SNMP) v3 ユーザーのパラメータを指定するには、snmp-user モードで **set** コマンドを使用します。

set {aes-128 | auth | password | priv-password}

構文の説明

aes-128 {no yes}	Advanced Encryption Standard (AES) -128 暗号化の使用を無効または有効にします。no または yes を入力してください。 デフォルトでは、AES-128 暗号化は無効になっています。
auth sha	HMAC Secure Hash Algorithm (SHA) に基づく SNMPv3 ユーザーの認証を有効にします。
password	このユーザーのパスワードを指定します。このコマンドを入力すると、パスワードの入力と確認を求められるようになります。
priv-password	ユーザー プライバシーパスワードを指定します。このコマンドを入力すると、パスワードの入力と確認を求められるようになります。AES プライバシーパスワードは8文字以上である必要があります。

コマンドモード

scope monitoring/snmp-user

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

SNMP ユーザーを作成してこれらのパラメータを設定する前に、SNMP を有能にする (**enable snmp**) 必要があります。

新しいSNMPユーザを作成すると、新しいユーザがまだコミットされていないことを示すアスタリスクが付いた monitoring/snmp-user モードが自動的に開始されます。

プライバシーパスワード (priv オプション) では、SNMPセキュリティ暗号化方式として DES または 128 ビット AES を選択できます。AES-128 の設定を有効にして、SNMPv3 ユーザ用のプライバシーパスワードを含めると、Firepower シャーシはそのプライバシーパスワードを使用して 128 ビット AES キーを生成します。

例

次の例では、snmp-user14 という名前の SNMPv3 ユーザーを作成し、AES-128 暗号化を有効化し、パスワードおよびプライバシーパスワードを設定し、トランザクションをコミットします。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring/ # enable snmp
firepower /monitoring/ # create snmp-user snmp-user14
Password:
firepower /monitoring/snmp-user* # set aes-128 yes
firepower /monitoring/snmp-user* # set priv-password
Enter a password:
Confirm the password:
firepower /monitoring/snmp-user* # commit-buffer
firepower /monitoring/snmp-user #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create snmp-user	新しい SNMPv3 ユーザーを作成します。
enable snmp	SNMP をイネーブルにします。

set speed

インターフェイスの速度を設定するには、**set speed** コマンドを使用します。



(注) このコマンドは、ポートチャネル範囲でのみ使用できます。

```
set speed { 10mbps | 100mbps | 1gbps | 10gbps | 40gbps | 100gbps }
```

構文の説明

10mbps	(任意) 速度を 10 Mbps に設定します。
100mbps	(任意) 速度を 100 Mbps に設定します。
1gbps	(任意) 速度を 1 Gbps に設定します。
10gbps	(任意) 速度を 10 Gbps に設定します。
40gbps	(任意) 速度を 40 Gbps に設定します。
100gbps	(任意) 速度を 100 Gbps に設定します。

コマンドモード

```
scope eth-uplink/scope fabric a/port-channel/
```

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.4.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

指定するインターフェイス速度はインターフェイスで使用するデュプレックスモードに影響を与えます。このため、デュプレックスモードを設定する前に速度を設定する必要があります。速度を 10 または 100 Mbps に指定すると、ポートでは半二重モードを使用するように自動的に設定されますが、全二重モードを指定することもできます。1000 Mbps (1 Gbps) 以上の速度に設定すると、自動的に全二重モードが使用されます。

例

次の例は、インターフェイスの速度を設定する方法を示しています。

```
firepower-9300 # scope eth-uplink
firepower-9300 /eth-uplink # scope fabric a
firepower-9300 /eth-uplink/fabric # create port-channel id
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # enable
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # set speed
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # set speed 1gbps
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # commit-buffer
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	duplex	デュプレックス モードを全二重または半二重に指定します。
	show interface	インターフェイスステータスを表示します。速度パラメータもあわせて表示します。

set speed (aggr-interface)

インターフェイスの速度を設定するには、**set speed** コマンドを使用します。

set speed { **10mbps** | **100mbps** | **1gbps** | **10gbps** | **40gbps** | **100gbps** }

構文の説明		
	10mbps	(任意) 速度を 10 Mbps に設定します。
	100mbps	(任意) 速度を 100 Mbps に設定します。
	1gbps	(任意) 速度を 1 Gbps に設定します。
	10gbps	(任意) 速度を 10 Gbps に設定します。
	40gbps	(任意) 速度を 40 Gbps に設定します。
	100gbps	(任意) 速度を 100 Gbps に設定します。

コマンドモード scope eth-uplink/scope fabric a/port-channel/

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.4.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

指定するインターフェイス速度はインターフェイスで使用するデュプレックスモードに影響を与えます。このため、デュプレックスモードを設定する前に速度を設定する必要があります。速度を 10 または 100 Mbps に指定すると、ポートでは半二重モードを使用するように自動的に設定されますが、全二重モードを指定することもできます。1000 Mbps (1 Gbps) 以上の速度に設定すると、自動的に全二重モードが使用されます。

次の例は、インターフェイスの速度を設定する方法を示しています。

```
firepower-9300* # scope cabling
firepower-9300 /cabling* # scope fabric a
firepower-9300 /cabling/fabric* # create breakout port breakout 2 1
firepower-9300 /cabling/fabric* # show config
  scope fabric a
+   enter breakout 2 3
+   exit
  exit
firepower-9300 /cabling/fabric* # exit
firepower-9300 /cabling* # exit
firepower-9300* # scope eth-uplink
firepower-9300 /eth-uplink* # scope fabric a
firepower-9300 /eth-uplink/fabric* # show

Fabric:
  Fabric ID
  -----
  A
firepower-9300 /eth-uplink/fabric* # show
```

```

<CR>
>          Redirect it to a file
>>        Redirect it to a file in append mode
aggr-interface  Aggregate Interface
detail         Detail
event         Event Management
expand        Expand
fault         Fault
fsm           Fsm
interface     Interface
port-channel  Port Channel
stats         statistics
|            Pipe command output to filter

firepower-9300 /eth-uplink/fabric* # show aggr-interface expand
firepower-9300 /eth-uplink/fabric* # show aggr-interface
1-4 Slot
<CR>
>          Redirect it to a file
>>        Redirect it to a file in append mode
detail     Detail
expand     Expand
n/n       Ethernet<Slot Id>/<Aggregate Port Id>
|         Pipe command output to filter
firepower-9300 /eth-uplink/fabric* # show aggr-interface expand
firepower-9300 /eth-uplink/fabric* #
acknowledge Acknowledge
create       Create managed objects
delete       Delete managed objects
enter        Enters a managed object
scope        Changes the current mode
show         Show system information

firepower-9300 /eth-uplink/fabric* # scope aggr-interface
1-4 Slot
n/n Ethernet<Slot Id>/<Aggregate Port Id>

firepower-9300 /eth-uplink/fabric* # scope port-channel 2
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel/aggr-interface* # create member-port
Ethernet2/1/1
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel/aggr-interface/member-port* # show config
+enter member-port 2 1
+exit
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel/aggr-interface/member-port* # exit
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel/aggr-interface* # exit
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # show config
enter port-channel 2
enable
+ enter aggr-interface 2 1
+   enter member-port 2 1
+   exit
+ exit
enter member-port 1 6
enable
exit
set auto-negotiation no
set descr ""
set duplex fullduplex
set flow-control-policy default
set lacp-policy-name default
set nw-ctrl-policy default
set port-channel-mode active
set port-type data
set speed lgbps

```

set speed (aggr-interface)

```

exit
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # set speed
    100gbps 100 Gbps
    100mbps 100 Mbps
    10gbps 10 Gbps
    10mbps 10 Mbps
    1gbps 1 Gbps
    40gbps 40 Gbps

firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # set speed 1gbps
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* commit-buffer
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel #

```

関連コマンド

コマンド	説明
duplex	デュプレックス モードを全二重または半二重に指定します。
show interface	インターフェイスステータスを表示します。速度パラメータもあわせて表示します。

set ssh-server

SSH ホスト キーのサイズを設定するには、**set ssh-server** コマンドを使用します。

```
set ssh-server host-key rsa key_size
```

構文の説明	rsa	ホスト キーのタイプを指定します。
	<i>key-size</i>	ホスト キーのサイズ。
コマンド モード	サービス モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、SSH ホスト キーのサイズを設定します。

例

次の例は、SSH ホスト キーのサイズを 2048 ビットに設定する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope system
FP9300-A /system # scope services
FP9300-A /system/services # set ssh-server host-key rsa 2048
FP9300-A /system/services* # commit-buffer
FP9300-A /system/services #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create ssh-server	新しい SSH サーバのホスト キーを作成します。
	delete ssh-server	既存の SSH ホスト キーを削除します。
	show ssh-server	ホスト キーのサイズを表示します。

set sshkey

パスワードなしのアクセスを許可する SSH キーを指定するには、**set sshkey** コマンドを使用します。

set sshkey [**none** | *user_ssh_key*]

構文の説明	none	(任意) ユーザの SSH 公開キーをクリアするには、 none キーワードを入力します。
	<i>user_ssh_key</i>	(任意) ユーザの SSH 公開キーを入力または貼り付けます。
コマンドモード	ローカル ユーザ モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **set sshkey** の入力後に **Enter** キーを押すと、SSH キーを 1 行ずつ入力するようにプロンプトが表示されます。完了するには、ENDOFBUF と入力します。中止するには、Ctrl-C キーを押します。

例

次の例は、現在のローカル ユーザの SSH 公開キーを指定する方法を示しています。

```
FP9300-A /security/local-user # set sshkey
"ssh-rsa
AAAAB3NzaC1yc2EAAAABIwAAAEAAu09VQ2CmWBI9/S1f30klCWjnV3lgdXMzO0WU15iPw851kdQqap+NFuNmHcb4K
iaQB8X/PDdmtlxQQcawclj+k8f4VcOelBxlsGk5luq5ls1ob1VOIEwcKEL/h51rdbNlI8y3SS9I/gGiBZ9ARlop9LDpD
m8HPh2LOgyH7Ei1MI8="
FP9300-A /security/local-user* # commit-buffer
FP9300-A /security/local-user #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create local-user	新規のローカル ユーザ アカウントを作成します。
set password	ユーザ アカウントのパスワードを指定します。

set startup-version

アプリケーションのスタートアップバージョンを指定するには、**set startup-version** コマンドを使用します。

set startup-version

構文の説明	startup-version	アプリケーションインスタンスのスタートアップソフトウェアバージョン
コマンドモード	scope ssa	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	scope app-instance ftd ftd1 の後に Enter キーを押すと、スタートアップバージョンを設定するように求められます。	

例

次の例は、FTD アプリケーションのスタートアップバージョンを設定する方法を示しています。

```
FPR# scope ssa
FPR /ssa # scope slot 1
FPR /ssa/slot # scope app-instance ftd ftd1
FPR /ssa/slot/app-instance # set startup-version 6.6.1.91
Warning: Upgrade of ftd through FXOS is not supported. The specified version of ftd
will be installed. Please reinitialize or reinstall ftd.
```

set timezone

FXOS でタイムゾーンを設定するには、**set timezone** コマンドを使用します。

set timezone

構文の説明	set timezone	コマンド set timezone を使用して、FXOS のタイムゾーンを設定します。
コマンドモード	scope system/scope services	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドを使用して、FXOS のタイムゾーンを設定します。	

例

次の例は、FXOS でタイムゾーンを設定する方法を示しています。

```
firepower# scope system
firepower /system# scope services
firepower /system/services # set timezone
Please identify a location so that time zone rules can be set correctly.
Please select a continent or ocean.
1) Africa                4) Arctic Ocean        7) Australia            10) Pacific Ocean
2) Americas              5) Asia                 8) Europe
3) Antarctica            6) Atlantic Ocean      9) Indian Ocean

#? 8 <===== Europe

Please select a country.
1) Aaland Islands        18) Greece              35) Norway
2) Albania                19) Guernsey            36) Poland
3) Andorra                20) Hungary             37) Portugal
4) Austria                21) Ireland             38) Romania
5) Belarus                22) Isle of Man         39) Russia
6) Belgium                23) Italy                40) San Marino
7) Bosnia & Herzegovina  24) Jersey              41) Serbia
8) Britain (UK)          25) Latvia              42) Slovakia
9) Bulgaria               26) Liechtenstein       43) Slovenia
10) Croatia               27) Lithuania           44) Spain
11) Czech Republic       28) Luxembourg          45) Sweden
12) Denmark               29) Macedonia           46) Switzerland
13) Estonia               30) Malta                47) Turkey
14) Finland               31) Moldova              48) Ukraine
15) France                 32) Monaco               49) Vatican City
16) Germany                33) Montenegro
17) Gibraltar             34) Netherlands

#? 36 <=====Poland
```

The following information has been given:

Poland

Therefore timezone 'Europe/Warsaw' will be set.
Local time is now: Sun Oct 24 08:51:04 CEST 2021.
Universal Time is now: Sun Oct 24 06:51:04 UTC 2021.
Is the above information OK?
1) Yes
2) No

#? 1 <===== Yes

```
firepower /system/services* # commit
firepower /system/services # show timezone
Timezone: Europe/Warsaw <===== Timezone is set
```

To set the timezone to UTC:

```
firepower /system/services* # set timezone UTC
firepower /system/services* # commit
```

set trustpoint

キーリングの証明書トラストポイントを指定するには、**set trustpoint** コマンドを使用します。

set trustpoint *trustpoint_name*

構文の説明

<i>trustpoint_name</i>	定義されたトラストポイントの名前。 この名前には、1～32文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後で、この名前を変更することはできません。
------------------------	--

コマンドモード

scope security/scope keyring/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、このキーリングの証明書に署名したトラストポイントを指定します。

例

次に、デフォルトのキーリング内のキーを再生成する例を示します。

```
firepower# scope security
firepower /security # scope keyring test-ring
firepower /security/keyring # set trustpoint CiscoCA5
firepower /security/keyring* # commit-buffer
firepower /security/keyring #
```

コマンド	説明
set cert	キーリングの RSA 証明書をを入力します。
set modulus	RSA キー係数 (SSL キーの長さ) をビット単位で指定します。
set regenerate	デフォルト キーリングで RSA キーを再生成します。

set use-2-factor

認証レールの二要素認証を有効または無効にするには、**set use-2-factor** コマンドを使用します。



(注) 二要素認証は、RADIUS および TACACS+ レールにのみ適用されます。

set use-2-factor {no|yes}

構文の説明

no	レールの二要素認証を無効にします。
yes	レールの二要素認証を有効にします。

コマンドモード

デフォルト認証モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

RADIUS または TACACS+ レールに二要素認証を設定する場合は、リモートユーザが頻繁に再認証する必要がないよう、セッションの更新時間およびセッションのタイムアウト時間を増やすことを検討してください。

例

次の例は、デフォルトの認証モードを開始し、二要素認証を有効にする方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # scope default-auth
FP9300-A /security/default-auth # set use-2-factor yes
FP9300-A /security/default-auth* # commit-buffer
FP9300-A /security/default-auth #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set authentication	デフォルトの認証サービスを指定します。
set タイムアウト値	set absolute-session-timeout 、 set con-absolute-session-timeout 、 set con-session-timeout 、および set session-timeout コマンドを使用してさまざまなタイムアウト値を設定します。

set user-account-unlock-time

ログイン試行の最高回数に達した後、ユーザがシステムからロックアウトされる時間を指定するには、**set user-account-unlock-time** コマンドを使用します。

set user-account-unlock-time *unlock_time*

構文の説明	<i>unlock_time</i>	ユーザがシステムからロックアウトされた状態を維持する時間（秒単位）。値の範囲は 600～36000 です。デフォルト値は 1800 秒（30分）です。
コマンドモード	セキュリティ モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン ユーザ（管理者ユーザを含む）が指定されたログイン試行最高回数を超えると、ユーザはシステムからロックアウトされるため、ログインが再び許可されるまで、この時間待機する必要があります。ユーザがロックアウトされたことを示す通知は表示されません。

例

次の例では、セキュリティモードを開始し、ロックアウトされたユーザが再びログインできるまでに経過する時間を指定する方法を示します。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # set user-account-unlock-time 900
FP9300-A /security* # commit-buffer
FP9300-A /security #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	clear lock-status	ユーザのロックアウト ステータスをクリアします。
	set max-login-attempts	ユーザがシステムからロックアウトされるまで、ログイン試行を失敗できる回数を指定します。

set user-label

アプリケーションシャーシにユーザ定義識別子を割り当てるには、`chassis/` モード **set user-label** コマンドを使用します。

インストール済みサーバのいずれかにユーザ定義識別子を割り当てるには、`server/` モードで **set user-label** コマンドを使用します。

set user-label *user_label*

構文の説明	<i>user_label</i>	アプライアンスまたはサーバに割り当てるラベル。最大 32 文字。
コマンドモード	scope chassis/ scope chassis/scope server	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン chassis/ モードで **show detail** コマンドを使用すると、シャーシに現在割り当てられているユーザラベルを表示できます。

chassis/server/ モードで **show detail** コマンドを使用すると、接続されたサーバに現在割り当てられているユーザラベルを表示できます。

例

次の例は、アプライアンスシャーシにユーザ定義ラベルを割り当てる方法を示しています。

```
firepower # scope chassis 1
firepower /chassis # set user-label FP9300-4
firepower /chassis* # commit-buffer
firepower /chassis # show detail

Chassis:
  Chassis: 1
  User Label: FP9300-4
  Overall Status: Operable
  Oper qualifier: N/A
  Operability: Operable
  Conf State: Ok
  Admin State: Acknowledged
  Conn Path: A
  Conn Status: A
  Managing Instance: A
  Product Name: Cisco Firepower 9300 Security Appliance AC
  PID: FPR-C9300-AC
  VID: V02
  Part Number: 68-100280-04
  Vendor: Cisco Systems Inc
```

```

Model: FPR-C9300-AC
Serial (SN): JMX1950196H
HW Revision: 0
Mfg Date: 2015-12-16T00:00:00.000
Power State: Ok
Thermal Status: Ok
SEEPROM operability status: Operable
Dynamic Reallocation: Chassis
Reserved Power Budget (W): 600
PSU Capacity (W): 0
PSU Line Mode: High Line
PSU State: Ok
Current Task:
firepower /chassis #

```

関連コマンド

コマンド	説明
show detail	<p>chassis/ モードでは、シャーシの現在のユーザ ラベルなど、詳細なシャーシ情報を表示します。</p> <p>chassis/server/ モードでは、接続サーバのユーザ ラベルなど、詳細なサーバ情報を表示します。</p>

set value (create bootstrap-key FIREWALL_MODE)

Threat Defense と ASA のブートストラップ コンフィギュレーションでファイアウォール モードをルーテッドまたはトランスペアレントに指定するには、**set value** コマンドを指定します。

set value {routed | transparent}

構文の説明	routed	ファイアウォール モードをルーテッドファイアウォール モードに設定します。
	transparent	ファイアウォール モードをトランスペアレント ファイアウォールに設定します。

コマンドモード scope ssa/create logical-device/create mgmt-bootstrap/create bootstrap-key FIREWALL_MODE/

コマンドデフォルト デフォルト モードはルーテッドです。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	ASA のサポートが追加されました。
	1.1(4)	FTD に対してコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン ブートストラップの設定は、初期導入専用、またはディザスタリカバリ用です。通常の運用では、アプリケーション CLI の設定でほとんどの値を変更できます。

例

次に、モードをルーテッドに設定する例を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # create logical-device FTD1 ftd 1 standalone
Firepower /ssa/logical-device* # create mgmt-bootstrap ftd
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* # create bootstrap-key FIREWALL_MODE
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # set value routed
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # exit
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create bootstrap-key FIREWALL_MODE	アプリケーションのファイアウォール モードを設定します。
	create logical-device	論理デバイスを作成します。

コマンド	説明
create mgmt-bootstrap	アプリケーションのブートストラップコンフィギュレーションを作成します。

set value (create bootstrap-key MANAGEMENT_TYPE)

Threat Defense のブートストラップ設定でマネージャ（FMC または FDM）を指定するには、**set value** コマンドを使用します。

set value {FMC | LOCALLY_MANAGED}

構文の説明	FMC マネージャを FDM に設定します。				
	LOCALLY_MANAGED マネージャを FMC に設定します。				
コマンドモード	scope ssa/create logical-device/create mgmt-bootstrap/create bootstrap-key LOCALLY_MANAGED/				
コマンドデフォルト	デフォルトのマネージャは FMC です。				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.7(1)</td> <td>FTD に対してコマンドが追加されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	2.7(1)	FTD に対してコマンドが追加されました。
リリース	変更内容				
2.7(1)	FTD に対してコマンドが追加されました。				
使用上のガイドライン	ブートストラップの設定は、初期導入専用、またはディザスタリカバリ用です。通常の運用では、アプリケーション CLI の設定でほとんどの値を変更できます。				

例

次の例は、マネージャを FDM に設定する方法を示しています。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # create logical-device FTD1 ftd 1 standalone
Firepower /ssa/logical-device* # create mgmt-bootstrap ftd
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* # create bootstrap-key MANAGEMENT_TYPE
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # set value LOCALLY_MANAGED
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # exit
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create bootstrap-key FIREWALL_MODE	アプリケーションのファイアウォール モードを設定します。
	create logical-device	論理デバイスを作成します。
	create mgmt-bootstrap	アプリケーションのブートストラップコンフィギュレーションを作成します。

set value (create bootstrap-key PERMIT_EXPERT_MODE)

Threat Defense の FTD SSH セッションでエキスパート モードを許可するには、**set value** コマンドを使用します。

set value {yes | no}

構文の説明	no	SSHセッションから Threat Defense へのエキスパートモードを禁止します。
	yes	SSHセッションから Threat Defense へのエキスパートモードを許可します。
コマンドモード	scope ssa/create logical-device/create mgmt-bootstrap/create bootstrap-key PERMIT_EXPERT_MODE/	
コマンドデフォルト	デフォルトは no です。	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン エキスパートモードでは、高度なトラブルシューティングに FTD シェルからアクセスできません。デフォルトでは、コンテナインスタンスの場合、エキスパートモードを使用できるのは FXOS CLI から FTD CLI にアクセスするユーザだけです。この制限は、インスタンス間の分離を増やす場合、コンテナインスタンスのみに適用されます。マニュアルの手順で求められた場合、または Cisco Technical Assistance Center から求められた場合のみ、エキスパートモードを使用します。このモードを開始するには、FTD CLI で **expert** コマンドを使用します。

例

次に、SSH でエキスパートモードを有効にする例を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # create logical-device FTD1 ftd 1 standalone
firepower /ssa/logical-device* # create mgmt-bootstrap ftd
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* # create bootstrap-key PERMIT_EXPERT_MODE
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # set value yes
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap/bootstrap-key* # exit
firepower /ssa/logical-device/mgmt-bootstrap* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create bootstrap-key FIREWALL_MODE	アプリケーションのファイアウォールモードを設定します。

コマンド	説明
create logical-device	論理デバイスを作成します。
create mgmt-bootstrap	アプリケーションのブートストラップコンフィギュレーションを作成します。

set vlan

コンテナインスタンスで使用するサブインターフェイスの VLAN ID を設定するには、**set vlan** コマンドを使用します。

set vlan *id*

構文の説明

id 1 ~ 4095 の間で VLAN ID を設定します。

コマンドモード

scope eth-uplink/scope fabric a/scope interface/create subinterface/
scope eth-uplink/scope fabric a/create port-channel/create subinterface/

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ネットワーク配置に応じて、250 ~ 500 の VLAN サブインターフェイスをシャーシに追加できます。

インターフェイスごとの VLAN ID は一意である必要があります。コンテナインスタンス内では、VLAN ID は割り当てられたすべてのインターフェイス全体で一意である必要があります。異なるコンテナインターフェイスに割り当てられている限り、VLAN ID を別のインターフェイス上で再利用できます。ただし、同じ ID を使用していても、各サブインターフェイスが制限のカウント対象になります。

例

次に、イーサネット 1/1 上の 3 つのサブインターフェイスを作成し、データ共有インターフェイスに設定する例を示します。

```
firepower# scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # scope interface Ethernet1/1
firepower /eth-uplink/fabric/interface # create subinterface 10
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set vlan 10
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set port-type data-sharing
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/interface # create subinterface 11
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set vlan 11
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set port-type data-sharing
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/interface # create subinterface 12
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set vlan 12
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # set port-type data-sharing
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/fabric/interface/subinterface #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create port-channel	EtherChannel（ポート チャンネル）を作成します。
	create subinterface	サブインターフェイスを追加します。
	scope interface	物理インターフェイス オブジェクトを入力します。
	set port-type	インターフェイス タイプを設定します。



sh コマンド

- [show \(387 ページ\)](#)
- [show app \(388 ページ\)](#)
- [show \(app-instance\) \(394 ページ\)](#)
- [show audit-logs \(397 ページ\)](#)
- [show auth-domain \(398 ページ\)](#)
- [show authentication \(399 ページ\)](#)
- [show breakout \(400 ページ\)](#)
- [show callhome \(401 ページ\)](#)
- [show \(card\) \(402 ページ\)](#)
- [show card detail \(404 ページ\)](#)
- [show cc-mode \(407 ページ\)](#)
- [show certreq \(408 ページ\)](#)
- [show cfg-export-policy \(410 ページ\)](#)
- [show chassis \(412 ページ\)](#)
- [show cli \(414 ページ\)](#)
- [show clock \(416 ページ\)](#)
- [show cloud-connector \(417 ページ\)](#)
- [show configuration \(418 ページ\)](#)
- [show connection \(419 ページ\)](#)
- [show core-export-target \(420 ページ\)](#)
- [show cpu \(422 ページ\)](#)
- [show domain-env-feature \(424 ページ\)](#)
- [show domain-storage-feature \(426 ページ\)](#)
- [show dns \(428 ページ\)](#)
- [show download-task \(429 ページ\)](#)
- [show enforce-strong-password \(431 ページ\)](#)
- [show environment \(432 ページ\)](#)
- [show eth-uplink \(467 ページ\)](#)
- [show event \(469 ページ\)](#)

- [show fabric \(471 ページ\)](#)
- [show fabric-interconnect \(472 ページ\)](#)
- [show fan-module \(474 ページ\)](#)
- [show fault \(476 ページ\)](#)
- [show fips-mode \(478 ページ\)](#)
- [show firmware \(479 ページ\)](#)
- [show \(firmware-install\) \(481 ページ\)](#)
- [show fw-infra-pack \(483 ページ\)](#)
- [show hardware-bypass-ports \(485 ページ\)](#)
- [show https \(486 ページ\)](#)
- [show hw-crypto \(487 ページ\)](#)
- [show image detail \(489 ページ\)](#)
- [show identity \(490 ページ\)](#)
- [show interface \(494 ページ\)](#)
- [show interface counter errors \(connect fxos\) \(497 ページ\)](#)
- [show interface transceiver \(connect fxos\) \(498 ページ\)](#)
- [show interface brief \(connect fxos\) \(500 ページ\)](#)
- [show inventory \(514 ページ\)](#)
- [show inventory \(connect fxos\) \(518 ページ\)](#)
- [show ip-block \(519 ページ\)](#)
- [show ip-pool \(521 ページ\)](#)
- [show ipsec-log \(523 ページ\)](#)
- [show ipv6-block \(525 ページ\)](#)
- [show ipv6-if \(527 ページ\)](#)
- [show keyring \(528 ページ\)](#)
- [show lacp \(connect fxos\) \(530 ページ\)](#)
- [show license \(534 ページ\)](#)
- [show local-user \(536 ページ\)](#)
- [show logical-device-template \(538 ページ\)](#)
- [show mac-address \(540 ページ\)](#)
- [show member-port \(542 ページ\)](#)
- [show mac-pool \(544 ページ\)](#)
- [show memory \(546 ページ\)](#)
- [show \(management interface\) \(549 ページ\)](#)
- [show mgmt-port \(550 ページ\)](#)
- [show monitor \(551 ページ\)](#)
- [show nm-fpga-version \(553 ページ\)](#)
- [show ntp-overall-status \(554 ページ\)](#)
- [show ntp server \(555 ページ\)](#)
- [show org \(556 ページ\)](#)
- [show package \(557 ページ\)](#)

- [show password-profile \(559 ページ\)](#)
- [show pki fsm status \(560 ページ\)](#)
- [show pmon state \(562 ページ\)](#)
- [show post \(563 ページ\)](#)
- [show pre-login-banner \(564 ページ\)](#)
- [show port-channel \(connect fxos\) \(565 ページ\)](#)
- [show port-channel \(scope fabric\) \(568 ページ\)](#)
- [show psu \(570 ページ\)](#)
- [show registry-repository \(572 ページ\)](#)
- [show remote-user \(573 ページ\)](#)
- [show resource \(574 ページ\)](#)
- [show resource-profile \(576 ページ\)](#)
- [show role \(578 ページ\)](#)
- [show \(scope fabric\) \(580 ページ\)](#)
- [show schedule infra-fw \(581 ページ\)](#)
- [show security \(583 ページ\)](#)
- [show sel \(584 ページ\)](#)
- [show server actual-boot-order \(585 ページ\)](#)
- [show server adapter \(586 ページ\)](#)
- [show server assoc \(588 ページ\)](#)
- [show server bios \(589 ページ\)](#)
- [show server boot-order \(591 ページ\)](#)
- [show server cpu \(593 ページ\)](#)
- [show server decommissioned \(594 ページ\)](#)
- [show server environment \(595 ページ\)](#)
- [show server firmware \(597 ページ\)](#)
- [show server identity \(599 ページ\)](#)
- [show server inventory \(601 ページ\)](#)
- [show server memory \(603 ページ\)](#)
- [show server status \(605 ページ\)](#)
- [show server storage \(606 ページ\)](#)
- [show server version \(608 ページ\)](#)
- [show service-profile \(610 ページ\)](#)
- [show shell-session-limits \(616 ページ\)](#)
- [show \(slot\) \(617 ページ\)](#)
- [show slot \(619 ページ\)](#)
- [show snmp \(connect fxos\) \(621 ページ\)](#)
- [show snmp \(monitoring\) \(625 ページ\)](#)
- [show snmp-trap \(626 ページ\)](#)
- [show snmp-user \(628 ページ\)](#)
- [show ssh-server \(630 ページ\)](#)

- [show stats](#) (631 ページ)
- [show storage](#) (633 ページ)
- [show subinterface](#) (634 ページ)
- [show sup](#) (636 ページ)
- [show system](#) (637 ページ)
- [show system reset-reason](#) (639 ページ)
- [show system uptime \(connect fxos\)](#) (640 ページ)
- [show tech-support](#) (641 ページ)
- [show timezone](#) (647 ページ)
- [show trustpoint](#) (648 ページ)
- [show user-sessions](#) (650 ページ)
- [show validate-task](#) (652 ページ)
- [show version](#) (654 ページ)
- [shutdown](#) (657 ページ)
- [show web-session-limits](#) (659 ページ)

show

さまざまなコマンドモードで動作と現在の設定に関する情報を表示するには、**show** コマンドを使用します。

FXOS CLI コマンドモードの多くには、現在のコマンドモードに関連するさまざまな情報を表示する一般的な **show** コマンドがあります。たとえば、現在の SSP 情報を表示するには、スロットモード (scope ssa/scope slot) で **show** コマンドを使用します。

これらのコマンドの多くは、このガイドには明示的に記載されていません。現在のコマンドモードで利用可能な **show** オプションを表示するには、**show ?** を使用します。

show app

ASA や FTD などのシステムで使用可能なキックスタートアプリのリストを表示するには、**show app** コマンドを使用します。

show app [detail]

構文の説明	Detail	詳細なアプリ情報の一覧を表示します。
コマンドモード	scope ssa	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン これは、スコープ ssa の **show** コマンドのサブコマンドです。

例

次の例は、すべてのキックスタートアプリの情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /fabric-interconnect # scope ssa
Firepower /ssa # show app
```

Name	Version	Author	Supported Deploy Types	CSP Type	Is
Default App					
asa	99.18.20.36	cisco	Native	Application	Yes
ftd	7.2.0.1784	cisco	Native, Container	Application	No
ftd	7.2.0.83	cisco	Native, Container	Application	No
ftd	7.3.0.1258	cisco	Native, Container	Application	No
ftd	7.3.0.1402	cisco	Native, Container	Application	Yes
	In Cluster	Data Node			

例

次の例は、使用可能なすべてのアプリの情報を表示する方法を示しています。

```
firepower /ssa # show app detail
Application:
Name: asa
Version: 99.18.20.36
Author: cisco
Supported Deploy Types: Native
Is Default App: Yes
CSP Type: Application
Is Decorator: No
Has License Agreement: No
```

```
License Agreement has been Accepted: No
Time Stamp: 2012-01-27T11:34:37.000
Validation State: None
Validation Time Stamp: Never
Application Information:
  Deploy Type: Native
  Description: N/A
  Build Date: 12/16/2021
  Min OS: 92.12.0.122
  Data VNIC NR: 0
  Mgmt VNIC NR: 0
  Security Control: No
  Support Aggregated VNIC: No
  Can Upgrade: Yes
  Full Install: Yes
  Can Downgrade: Yes
  Is Secondary Data Disk Supported: No
  Installation Timeout (sec): 240
  Uninstallation Timeout (sec): 240
  Upgrade Timeout (sec): 360
  Recommended Data Disk (MB): 20481
  Recommended Cpu Cores: 0
  Recommended Ram (MB): 0
  Minimum Required Data Disk (MB): 20481
  Minimum Required Cpu Logical Cores: 16
  Minimum Required Ram (MB): 24576
  Required Binary Disk (MB): 171
  Net Management Bootstrap Type: Appagent
  Is App Agent Supported: Yes
  Is Clustering Supported: Yes
  Is Turbo Mode Supported: No
  Aggregator: Full
  Incompatible Apps: ftd
  Support Customized CCL IP Subnet: Yes
  Max Application Instance Count: 1
  Reboot Module On App Restart: Yes
  Hardware Crypto Version: Unsupported
Name: ftd
Version: 7.2.0.1784
Author: cisco
Supported Deploy Types: Native,Container
Is Default App: No
CSP Type: Application
Is Decorator: No
Has License Agreement: Yes
License Agreement has been Accepted: No
Time Stamp: 2012-01-26T11:16:15.000
Validation State: None
Validation Time Stamp: Never
Application Information:
  Deploy Type: Native
  Description: N/A
  Build Date: 02/28/2022
  Min OS: 92.12.0.122
  Data VNIC NR: 0
  Mgmt VNIC NR: 0
  Security Control: No
  Support Aggregated VNIC: No
  Can Upgrade: No
  Full Install: Yes
  Can Downgrade: No
  Is Secondary Data Disk Supported: Yes
  Installation Timeout (sec): 1800
  Uninstallation Timeout (sec): 600
```

```
Upgrade Timeout (sec): 1800
Recommended Data Disk (MB): 195313
Recommended Secondary Disk (MB): 0
Recommended Cpu Cores: 0
Recommended Ram (MB): 0
Minimum Required Data Disk (MB): 39063
Minimum Required Secondary Disk (MB): 0
Minimum Required Cpu Logical Cores: 4
Minimum Required Ram (MB): 10
Required Binary Disk (MB): 3907
Net Management Bootstrap Type: Appagent
Is App Agent Supported: Yes
Is Clustering Supported: Yes
Is Turbo Mode Supported: No
Aggregator: Full
Incompatible Apps: asa
Support Customized CCL IP Subnet: Yes
Max Application Instance Count: 1
Reboot Module On App Restart: Yes
Hardware Crypto Version: Unsupported
Deploy Type: Container
Description: N/A
Build Date: 02/28/2022
Min OS: 92.12.0.122
Data VNIC NR: 0
Mgmt VNIC NR: 0
Security Control: No
Support Aggregated VNIC: No
Can Upgrade: No
Full Install: Yes
Can Downgrade: No
Is Secondary Data Disk Supported: Yes
Installation Timeout (sec): 1800
Uninstallation Timeout (sec): 600
Upgrade Timeout (sec): 1800
Recommended Data Disk (MB): 40960
Recommended Secondary Disk (MB): 102400
Recommended Cpu Cores: 10
Recommended Ram (MB): 32768
Minimum Required Data Disk (MB): 40960
Minimum Required Secondary Disk (MB): 0
Minimum Required Cpu Logical Cores: 6
Minimum Required Ram (MB): 10
Required Binary Disk (MB): 3907
Net Management Bootstrap Type: Appagent
Is App Agent Supported: Yes
Is Clustering Supported: Yes
Is Turbo Mode Supported: No
Aggregator: Full
Incompatible Apps: asa
Support Customized CCL IP Subnet: No
Max Application Instance Count: 0
Reboot Module On App Restart: No
Hardware Crypto Version: 2
Name: ftd
Version: 7.2.0.83
Author: cisco
Supported Deploy Types: Native,Container
Is Default App: No
CSP Type: Application
Is Decorator: No
Has License Agreement: Yes
License Agreement has been Accepted: No
Time Stamp: 2012-01-22T07:04:58.000
```

```
Validation State: None
Validation Time Stamp: Never
```

例

次の例は、使用可能なすべてのアプリの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /ssa # show app expand detail
Application:
  Application:

  Name: asa
  Version: 99.18.20.36
  Author: cisco
  Supported Deploy Types: Native
  Is Default App: Yes
  CSP Type: Application
  Is Decorator: No
  Has License Agreement: No
  License Agreement has been Accepted: No
  Time Stamp: 2012-01-27T11:34:37.000
  Validation State: None
  Validation Time Stamp: Never
  Application Information:
    Deploy Type: Native
    Description: N/A
    Build Date: 12/16/2021
    Min OS: 92.12.0.122
    Data VNIC NR: 0
    Mgmt VNIC NR: 0
    Security Control: No
    Support Aggregated VNIC: No
    Can Upgrade: Yes
    Full Install: Yes
    Can Downgrade: Yes
    Is Secondary Data Disk Supported: No
    Installation Timeout (sec): 240
    Uninstallation Timeout (sec): 240
    Upgrade Timeout (sec): 360
    Recommended Data Disk (MB): 20481
    Recommended Cpu Cores: 0
    Recommended Ram (MB): 0
    Minimum Required Data Disk (MB): 20481
    Minimum Required Cpu Logical Cores: 16
    Minimum Required Ram (MB): 24576
    Required Binary Disk (MB): 171
    Net Management Bootstrap Type: Appagent
    Is App Agent Supported: Yes
    Is Clustering Supported: Yes
    Is Turbo Mode Supported: No
    Aggregator: Full
    Incompatible Apps: ftd
    Support Customized CCL IP Subnet: Yes
    Max Application Instance Count: 1
    Reboot Module On App Restart: Yes
    Hardware Crypto Version: Unsupported
    App Attribute Key for the Application:
      App Attribute Key: cluster-role
      Description: This is the role of the blade in the cluster
      App Attribute Key: mgmt-ip
      Description: This is the IP for the management interface
      App Attribute Key: mgmt-ip-virtual
```

```

Description: This is the Virtual IP for cluster only
App Attribute Key: mgmt-ipv6
Description: This is the IPv6 for the management interface
App Attribute Key: mgmt-ipv6-virtual
Description: This is the Virtual IPv6 for cluster only
App Attribute Key: mgmt-url
Description: This is the management URL for this application
App Attribute Key: mgmt-url-ipv6
Description: This is the management IPv6 URL for this application
Net Mgmt Bootstrap Key for the Application:
Bootstrap Key: FIREWALL_MODE
Key Data Type: enum:(routed, transparent)
Mandatory: No
Is the Key Secret: No
Description: This is the mode to set the firewall (transparent routed)
Key scope: Global
Bootstrap Key: PASSWORD
Key Data Type: string
Mandatory: No
Is the Key Secret: Yes
Description: The admin user password.
Key scope: Global
Port Requirement for the Application:
Port Type: Data
Max Ports: 120
Min Ports: 1
Interchassis Supported Port Types: PORT_CHANNEL
Port Type: Mgmt
Max Ports: 1
Min Ports: 0
Interchassis Supported Port Types:
Port Type: Cluster
Max Ports: 1
Min Ports: 0
Interchassis Supported Port Types:

Name: ftd
Version: 7.3.0.1258
Author: cisco
Supported Deploy Types: Native,Container
Is Default App: No
CSP Type: Application
Is Decorator: No
Has License Agreement: Yes
License Agreement has been Accepted: No
Time Stamp: 2012-03-18T13:06:33.000
Validation State: None
Validation Time Stamp: Never
Application Information:
Deploy Type: Native
Description: N/A
Build Date: 04/19/2022
Min OS: 92.13.0.100
Data VNIC NR: 0
Mgmt VNIC NR: 0
Security Control: No
Support Aggregated VNIC: No
Can Upgrade: No
Full Install: Yes
Can Downgrade: No
Is Secondary Data Disk Supported: Yes
Installation Timeout (sec): 1800
Uninstallation Timeout (sec): 600
Upgrade Timeout (sec): 1800

```

```
Recommended Data Disk (MB): 195313
Recommended Secondary Disk (MB): 0
Recommended Cpu Cores: 0
Recommended Ram (MB): 0
Minimum Required Data Disk (MB): 39063
Minimum Required Secondary Disk (MB): 0
Minimum Required Cpu Logical Cores: 4
Minimum Required Ram (MB): 10
Required Binary Disk (MB): 3907
Net Management Bootstrap Type: Appagent
Is App Agent Supported: Yes
Is Clustering Supported: Yes
Is Turbo Mode Supported: No
Aggregator: Full
Incompatible Apps: asa
Support Customized CCL IP Subnet: Yes
Max Application Instance Count: 1
Reboot Module On App Restart: Yes
Hardware Crypto Version: Unsupported
App Attribute Key for the Application:
  App Attribute Key: cluster-role
  Description: This is the cluster role for this application instance
  App Attribute Key: firepower-mgmt-ip
  Description: This is the IP address used to initialize a tunnel with
Firepower Management Center
  App Attribute Key: firepower-mgmt-ipv6
  Description: This is the IPv6 address used to initialize a tunnel wi
th Firepower Management Center
  App Attribute Key: mgmt-url
  Description: This is the management URL for Firepower Management Cen
ter
  App Attribute Key: NAT_ID
  Description: This is the token used to associate with Firepower Mana
gement Center
Net Mgmt Bootstrap Key for the Application:
  Bootstrap Key: DNS_SERVERS
  Key Data Type: string
  Mandatory: No
  Is the Key Secret: No
  Description: Comma-separated DNS servers for the application
  Key scope: Global
  Bootstrap Key: FIREPOWER_MANAGER_IP
  Key Data Type: string
  Mandatory: No
  Is the Key Secret: No
  Description: The IP address of Cisco Firepower Management Center
  Key scope: Global
```

show (app-instance)

現在のアプリケーション情報を表示するには、app-instance モードで **show** コマンドを使用します。

show [**app** | **app-attri** | **detail** | **event** | **expand** | **fault** | **fsm** | **heartbeat** | **hotfix** | **resource**]

構文の説明

app	(任意) インストール (ブレード) に使用できる ASA や FTD などのアプリケーションパッケージのリストを表示します。
app-attri	(任意) 現在のアプリケーション属性を表示します。
detail	(任意) 現在のアプリケーションインスタンスの詳細情報を表示します。 また、このキーワードは、指定されたオプションの詳細情報を表示するその他のコマンド オプションの多くで利用可能です。
event	(任意) アプリケーションのイベント管理情報を表示します。
expand	(任意) 現在のアプリケーションインスタンスの補足情報を表示します。 また、このキーワードは、指定されたオプションの補足情報を表示するその他のコマンド オプションの多くで利用可能です。
fault	(任意) このアプリケーションインスタンスで発生した障害に関する情報を表示します。次のオプションも利用可能です。 <ul style="list-style-type: none"> • fault_ID : 指定された障害の情報を表示します。 • cause : 指定された原因タイプの情報のみを表示します。 • detail : 詳細な障害情報を表示します。 • severity : 指定されたシビラティ (重大度) レベルの情報のみを表示します。 • suppressed : 抑制された障害をリストします。 cause、detail、および severity キーワードはこのオプションで使用できます。
fsm { status task }	(任意) 指定されたキーワードに従って、現在のアプリケーションで有限状態マシン情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • status : FSM ステータス情報を表示します。 • task : FSM タスク情報を表示します。
heartbeat	(任意) 最後に受信したハートビートの情報を表示します。

hotfix (任意) 適用されたホットフィックスの情報を表示します。また、次のオプションは **detail**、**expand**、および **version** キーワードでも利用可能で、特定のホットフィックスの情報を表示できます。

resource (任意) 現在のリソースの割り当てに関する情報を表示します。

コマンドモード scope ssa/scope slot

コマンド履歴

リリース 変更内容

1.1(1) コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、このコマンドは一般的なアプリケーションインスタンスの設定情報を表示します。

例

次の例は、一般的なアプリケーションインスタンス情報を表示する方法を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope slot 2
firepower /ssa/slot # scope app-instance asa cluster1
firepower /ssa/slot/app-instance # show
```

```
Application Instance:
  App Name      Identifier Admin State Oper State      Running Version Startup Version
  Deploy Type  Profile Name Cluster State  Cluster Role
  -----
  asa          cluster1    Enabled   Online      201.2.1.125    201.2.1.125
  Native                               In Cluster  Data Node
```

例

次の例は、インストールに使用できる一般的なアプリケーション情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope ssa
firepower# show app
firepower /ssa # show app
  Name      Version      Author      Supported Deploy Types CSP Type      Is Default
  App
  -----
  asa       9.12.3.12    cisco       Native          Application No
  asa       9.12.3.140  cisco       Native          Application No
  asa       9.12.3.9     cisco       Native          Application No
  asa       9.14.1.150  cisco       Native          Application No
  asa       9.16.2.3    cisco       Native          Application Yes
  asa       9.9.2        cisco       Native          Application No
  ftd       6.4.0.102   cisco       Native,Container Application No
  ftd       6.5.0.115   cisco       Native,Container Application No
  ftd       6.6.1.91    cisco       Native,Container Application No
```

show (app-instance)

ftd	6.6.4.59	cisco	Native,Container	Application Yes
ftd	6.7.0.65	cisco	Native,Container	Application No
ftd	7.0.0.94	cisco	Native,Container	Application No

関連コマンド

コマンド	説明
scope app-instance	特定のアプリケーションのアプリケーションモードを開始します。
show slot	特定の SSP モジュールの一般的な設定情報を表示します。

show audit-logs

ユーザー監査ログを表示するには、**show audit-logs** コマンドを使用します。

show audit-logs

コマンドモード `scope security`

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドはユーザー監査ログ情報を表示します。

例

次の例は、ユーザー監査ログ情報を示しています。

```
firepower# scope security
firepower # /security # show audit-logs
Audit trail logs:
  Creation Time      User      ID      Action      Description
  -----
  2021-10-11T21:42:30.885
                        admin      18405523 Creation      PreLoginBanner created
  2021-10-11T21:41:07.340
                        admin      18405498 Deletion      PreLoginBanner deleted
  2021-10-11T21:40:48.222
                        internal   18405486 Deletion      Web A: user admin terminated
  session id web_34771_A
  2021-10-11T21:39:52.703
                        internal   18405463 Creation      Fabric A: remote user test1
  logged in from 192.0.2.1
  2021-10-11T21:39:44.351
                        internal   18405450 Deletion      Fabric A: user test1
  terminated session id pts_1_1_5725
firepower# /security # show audit-logs 18405523 detail
Audit trail logs:
  Creation Time: 2021-10-11T21:42:30.885
  User: admin
  Session ID: pts_0_1_24360
  ID: 18405523
  Action: Creation
  Description: PreLoginBanner created
  Affected Object: sys/user-ext/pre-login-banner
  Trigger: Admin
  Modified Properties: message:TEST
, policyOwner:local
```

show auth-domain

現在の認証ドメイン情報を表示するには、セキュリティ モードで **show auth-domain** コマンドを使用します。

show auth-domain [**detail** | *domain_name*]

構文の説明	detail	(任意) 現在のすべての認証ドメインの詳細情報を表示します。
	<i>domain_name</i>	(任意) 指定されたドメインの情報のみを表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。
コマンドモード	scope security/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 認証ドメインは、**create auth-domain** または **enter auth-domain** コマンドを使用して作成されます。

例

次の例は、特定のドメインの認証ドメインに関する詳細情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope security
firepower /security # show auth-domain test_domain detail
```

```
Authentication domain:
  Authentication domain name: test_domain
  Web session refresh period(in secs): 600
  Idle Session timeout(in secs) for web, ssh, telnet sessions: 600
  Absolute Session timeout(in secs) for web, ssh, telnet sessions: 3600
  Serial Console Idle Session timeout(in secs): 600
  Serial Console Absolute Session timeout(in secs): 3600
  Default Realm: Local
  Authentication server group:
  Use of 2nd factor: No
firepower /security #
```

コマンド	説明
create auth-domain	新しい認証ドメインを作成します。
scope auth-domain	特定の認証ドメインで auth-domain モードを開始します。

show authentication

コンソールおよびデフォルト認証の既存の管理設定と動作ステータスを表示するには、**show authentication** コマンドを使用します。

show authentication

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

scope security

コマンド履歴

リリース

変更内容

2.10(1)

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コンソールおよびデフォルト認証の既存の管理設定と動作ステータスを表示できます。

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、デフォルト認証方式を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope security
firepower /security # show authentication
Console authentication: Local
Operational Console authentication: Local
Default authentication: Local
Operational Default authentication: Local
Role Policy For Remote Users: Assign Default Role
```

関連コマンド

コマンド	説明
set authentication	デフォルトの認証サービスを設定します。

show breakout

インターフェイスポートブレイクアウト設定に関する情報を表示するには、ファブリックモードで **show breakout** コマンドを使用します。

show breakout [*slot_id port_id* | **detail** | **expand**]

構文の説明	<i>slot_id port_id</i>	(任意) 特定のポートのブレイクアウト情報を表示します。 expand および expand キーワードはこのオプションで使用できます。
	detail	(任意) ポートブレードの詳細情報を表示します。このオプションでは expand キーワードを使用できます。
	expand	(任意) ポートブレイクアウトの補足情報を表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。

コマンドモード scope cabling/scope fabric a/

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドはすべてのポートのブレイクアウト情報を表示します。

例

次の例は、ケーブル接続の補足情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope cabling
firepower /cabling # scope fabric a
firepower /cabling/fabric # show breakout

port breakout:
  Slot ID      Port ID      breakout type
  -----
           3          1 10g 4x
           3          2 10g 4x
firepower /cabling/fabric #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create breakout	新しいインターフェイスブレイクアウトを作成します。

show callhome

Call Home の設定情報およびステータス情報を表示するには、**show callhome** コマンドを使用します。

show callhome [**detail** | **expand** | **fsm status**]

構文の説明	detail	(任意) Call Home の詳細情報を表示します。
	expand	(任意) Call Home の補足情報を表示します。
	fsm status	(任意) Call Home の情報および有限状態マシンのステータスを表示します。
コマンドモード	monitoring モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、Call Home 情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A /monitoring # show callhome
```

```
Callhome:
  Admin State: Off
  Throttling State: On
  Contact Information: admin
  Customer Contact Email:
  From Email:
  Reply To Email:
  Phone Contact e.g., +1-011-408-555-1212:
  Street Address:
  Contract Id:
  Customer Id:
  Site Id:
  Switch Priority: Debugging
  Enable/Disable HTTP/HTTPS Proxy: Off
  HTTP/HTTPS Proxy Server Address:
  HTTP/HTTPS Proxy Server Port: 80
  SMTP Server Address:
  SMTP Server Port: 25
```

```
DOC-FP9300-A /monitoring #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	scope callhome	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。

show (card)

現在のファブリック カード情報を表示するには、カード モードで **show** コマンドを使用します。

show [**beacon-led** | **detail** | **event** | **expand** | **fault** | **fsm task** | **port**]

構文の説明

beacon-led	(任意) カードのビーコン LED に関する情報を表示します。次のオプションも利用可能です。 <ul style="list-style-type: none"> • detail : 詳細な LED 情報を表示します。このオプションでは expand キーワードを使用できます。 • expand : LED 補足情報を表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。 • fsm status : 有限状態マシン ステータス情報を表示します。このオプションでは expand キーワードを使用できます。
detail	(任意) ファブリック カードの詳細情報を表示します。このオプションでは expand キーワードを使用できます。
event [<i>event_ID</i> detail expand]	(任意) ファブリック カードのイベント情報を表示します。数字イベント ID を入力すると、そのイベントの情報のみを表示できます。 detail と expand のキーワードはこのオプションでも使用できます。
expand	(任意) ファブリック カードの補足情報を表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。
fault	(任意) ファブリック カードで発生した障害に関する情報を表示します。このキーワードは次のオプションも使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • fault_ID : 指定された障害の情報を表示します。 • cause : 指定された原因タイプの情報のみを表示します。 • detail : 詳細な障害情報を表示します。 • severity : 指定されたシビラティ (重大度) レベルの情報のみを表示します。 • suppressed : 抑制された障害をリストします。 cause、detail、および severity キーワードはこのオプションで使用できます。
fsm task	(任意) カードの FSM タスク情報を表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。
port	(任意) カードのポート情報を表示します。

コマンドモード `scope fabric-interconnect/scope card`

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドはカードの基本的なステータスを表示します。

例

次の例は、特定のファブリックカードに関するポート情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope fabric-interconnect
firepower /fabric-interconnect # scope card 1
firepower /fabric-interconnect/card # show port
```

Ether Port:

Slot	Aggr Port	Port	Oper State	Mac	Role	Xcvr
1	0	1	Up	B0:AA:77:2F:F0:B0	Network	1000BASE T
1	0	2	Up	B0:AA:77:2F:F0:B1	Network	1000BASE T
1	0	3	Up	B0:AA:77:2F:F0:B2	Network	1000BASE T
1	0	4	Up	B0:AA:77:2F:F0:B3	Network	1000BASE T
1	0	5	Up	B0:AA:77:2F:F0:B4	Network	1000BASE T
1	0	6	Up	B0:AA:77:2F:F0:B5	Network	1000BASE T
1	0	7	Failed	B0:AA:77:2F:F0:B6	Network	1000BASE T
1	0	8	Sfp Not Present	B0:AA:77:2F:F0:B7	Network	N/A

```
firepower /fabric-interconnect/card #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>scope card</code>	特定のファブリックカードの管理モードを開始します。

show card detail

カード情報を表示するには、**show card detail** コマンドを使用します。

show card [**detail** | **event** | **expand** | **card-config**]

構文の説明	detail	ファブリックカードの詳細情報を表示します。
	expand	(任意) ファブリックカードの補足情報を表示します。
	card-config	(任意) 現在のカード設定に関する情報を表示します。
コマンドモード	scope fabric-interconnect a	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	これは、scope fabric-interconnect a の show コマンドのサブコマンドです。	

例

次の例は、特定のファブリックカードに関する情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower# scope fabric-interconnect a
Firepower /fabric-interconnect # show card
```

```
Fabric Card:
  Id      State
  -----
    1    Online
    2    Online
    3    Online
```

次の例は、特定のファブリックカードに関する詳細情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /fabric-interconnect # show card detail
```

```
Fabric Card:
  Id: 1
  Description: Firepower 9300 Supervisor
  Number of Ports: 8
  State: Online
  Vendor: Cisco Systems, Inc.
  Model: FPR9K-SUP
  HW Revision: 0
  Serial (SN): JSJ18250001
  Perf: N/A
  Admin State: Online
  Power State: Online
  Presence: Equipped
  Thermal Status: N/A
  Voltage Status: N/A
```

```
Id: 2
Description: Firepower 8x10G SFP+ NM
Number of Ports: 8
State: Online
Vendor: Cisco Systems, Inc.
Model: FPR-NM-8X10G
HW Revision: 0
Serial (SN): JAD19510ALL
Perf: N/A
Admin State: Online
Power State: Online
Presence: Equipped
Thermal Status: N/A
Voltage Status: N/A
```

```
Id: 3
Description: Firepower 4x40G QSFP NM
Number of Ports: 16
State: Online
Vendor: Cisco Systems, Inc.
Model: FPR-NM-4X40G
HW Revision: 0
Serial (SN): JAD21040C9U
Perf: N/A
Admin State: Online
Power State: Online
Presence: Equipped
Thermal Status: N/A
Voltage Status: N/A
```

次の例は、現在のファブリックカードの拡張情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower# scope fabric-interconnect a
Firepower /fabric-interconnect # show card detail expand
```

```
Fabric Card:
Id: 1
Description: Firepower 9300 Supervisor
Number of Ports: 8
State: Online
Vendor: Cisco Systems, Inc.
Model: FPR9K-SUP
HW Revision: 0
Serial (SN): JSJ18250001
Perf: N/A
Admin State: Online
Power State: Online
Presence: Equipped
Thermal Status: N/A
Voltage Status: N/A

Id: 2
Description: Firepower 8x10G SFP+ NM
Number of Ports: 8
State: Online
Vendor: Cisco Systems, Inc.
Model: FPR-NM-8X10G
HW Revision: 0
Serial (SN): JAD19510ALL
Perf: N/A
Admin State: Online
Power State: Online
Presence: Equipped
```

```

Thermal Status: N/A
Voltage Status: N/A

```

```

Id: 3
Description: Firepower 4x40G QSFP NM
Number of Ports: 16
State: Online
Vendor: Cisco Systems, Inc.
Model: FPR-NM-4X40G
HW Revision: 0
Serial (SN): JAD21040C9U
Perf: N/A
Admin State: Online
Power State: Online
Presence: Equipped
Thermal Status: N/A
Voltage Status: N/A

```

次の例は、現在のカード設定に関する情報を表示する方法を示しています。

```

Firepower# scope fabric-interconnect a
Firepower /fabric-interconnect # show card-config

```

Card Config:

Slot	Model	OperState	Presence	ConfigState
1	FPR9K-SUP	Online	Yes	Ok
2	FPR-NM-8X10G	Online	Yes	Ok
3	FPR-NM-4X40G	Online	Yes	Ok

show cc-mode

現在のコモンクライテリア モードのステータス情報を表示するには、**show cc-mode** コマンドを使用します。

show cc-mode

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

セキュリティ モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Firepower 4100/9300 シャーシで認定準拠を有効にしても、接続された論理デバイスにまでそのコンプライアンスは自動的に伝搬されません。

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、現在のコモンクライテリアモードのステータス情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # show cc-mode
Common Criteria Mode Admin State: Disabled
Common Criteria Mode Operational State: Disabled
FP9300-A /security #
```

関連コマンド

コマンド	説明
disable cc-mode	コモンクライテリアモードを無効にします。
enable cc-mode	コモンクライテリアモードを有効にします。

show certreq

特定の RSA キーリングの認証要求を表示するには、**show certreq** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

キーリング モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、現在のキーリングの認証要求を表示します。その後、コピーしてトラスト アンカーまたは認証局に送信できます。

例

次の例は、既存のキーリングを入力し、その認証要求を表示する方法を示しています。

```

FP9300-A # scope security
FP9300-A # scope keyring test-ring
FP9300-A /security/keyring # show certreq
Certificate request subject name: SSP
Certificate request ip address: 198.168.0.111
Certificate request FI A ip address: 0.0.0.0
Certificate request FI B ip address: 0.0.0.0
Certificate request e-mail name:
Certificate request ipv6 address: ::
Certificate request FI A ipv6 address: ::
Certificate request FI B ipv6 address: ::
Certificate request country name:
State, province or county (full name): CA
Locality name (eg, city): SJC
Organisation name (eg, company): Cisco
Organisational Unit Name (eg, section): Sec
DNS name (subject alternative name):
Request:
-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST-----
MIIDEzCCAbsCAQAwEDEOMAwGA1UEAwFgVzdDEWggFiMA0GCSqGSIb3DQEBAQUA
A4IBTAAwggFKAoIBQQCDnam/ZTgX8SYXeaYIMEVPeMLvOO7EempP7kEAHPPAqX9d6
3V5NIOLnNcfr7SL8gmLDFORanzZLYb9uxD7/z98xlrS3LdIB3GWCYw+IN1Hz5do/
uClI56thmN5nWgjEWGDwTnu+CD0tFn3qPg8wOpynutE+f43B4fyhWRpU5V06I3Ma
SRrR4Cp9CKju6U91ttqiNkt5VH3+peM+3AgF6suFF96tN2G+caIlwwf3h6EpFJ1e
NE6CHUIQAdrKPtJVcmMYIYEmEogMYD10ORXY+ionucK7id4JFAKLVFXPrzHGA3g7
n+xInFC84/2kM1TtapWHrMAOYcTiQ5UR6BJOpLT1V6yXTJrv/FrknJkZJUFKvOBX
9fvZ82UH9o+gWMD8rRBvsz94zGbjBm3SpKh1MLvXjR9af3koaiWMR45BSob0XwID
AQABoD4wEwYJKoZIhvcNAQkHMqYMBHRlc3QwJwYJKoZIhvcNAQkOMRowGDAWBGNV
HREEDzAnggV0ZXN0MYcEAQEBAATANBgkqhkiG9w0BAQsFAAOCAUEAC1VpnjwB8KjD
Okw6k9PaBde07aleSWwmMd99rR3F9SmnWQMvFXj07m3dEgNRoTCMyxZXH3diDd6/
0e9Ss91/FxORTI3ux+lXhKAOKjOJ5Urz1YLLjomHGrhGNpITQCm71r/fXIjPfuHx
fwaN5lbgImiLL6copKMPY+XMPsFNvIuM4dTAZLHhn5PG0jRAztMNBogw+Eb659BH
vad0QYrz2SHAiH7xETZxp3CTBX4jGhoCad8ffS4YdGQd73/jpu8Zy1nnd1jv7mEj
H9GkSm8sQQfTwxQX8RgpbzegZGHu3/LxLO6XQDIRj9bTo1aa6zTuhwPyPs4MtdYbpbv
mGdEB8QAMHUChdPZdPC44XRPhjPyseig91j+Q1HUmFCMvzNGXksbY1rWj3T4G8gn

```

```
z/g7x+OXX/31dLJA2yLx9osUsshmqjs=  
-----END CERTIFICATE REQUEST-----  
  
FP9300-A /security/keyring #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create certreq	新しいキーリング認証要求を作成します。
create keyring	新しい RSA キーリングを作成します。
delete certreq	既存のキーリング認証要求を削除します。
enter certreq	キーリング認証要求を入力します。

show cfg-export-policy

設定済みのエクスポートポリシーのリストを表示するには、**show cfg-export-policy** コマンドを使用します。

構文の説明	detail	show で設定されたエクスポートポリシーに関する詳細情報を表示します。
コマンドモード	scope org	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	これは、scope org. のコマンドの show サブコマンドです。	

例

次の例は、スケジュール設定済みのエクスポートポリシー情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /fabric-interconnect # scope org
Firepower /org # show cfg-export-policy
Config Export policy:
  Name                Description Admin State
  -----
  default              Configuration Export Policy
                          Disable
```

例

次の例は、使用可能なすべての構成済みエクスポートポリシーの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /org # show cfg-export-policy detail
Config Export policy:
  Name: default
  Description: Configuration Export Policy
  Admin State: Disable
  Protocol: Ftp
  Hostname:
  User:
  Remote File:
  Schedule: Daily
  Port: Default
  Current Task:
```

例

次の例は、使用可能なすべての構成済みエクスポートポリシーの fsm ステータスの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /org # show cfg-export-policy fsm status
Name: default

FSM 1:
  Status: Nop
  Previous Status: Nop
  Timestamp: Never
  Try: 0
  Progress (%): 100
  Current Task:
```

show chassis

シャーシ情報を表示するには、**show chassis** コマンドを使用します。

```
show chassis [1] [decommissioned | detail | environment | fabric | fi-iom | firmware | fsm
status | inventory | iom | psu | version]
```

構文の説明

1	(任意) シャーシ ID。シャーシは 1 つだけのため、この ID の入力 は任意です。
decommissioned	(任意) 稼働停止しているシャーシの情報を表示します。
detail	(任意) シャーシの詳細情報を表示します。
environment	(任意) 環境情報を表示します。 detail 、 expand 、 fan 、 iom 、 psu 、 server のキーワードも使用できま す。
fabric	(任意) ファブリックの情報を表示します。 キーワード detail も使用できます。
fi-iom	(任意) ファブリック インターコネクト I/O モジュール情報を表示 します。 キーワード detail も使用できます。
firmware	(任意) ファームウェアの情報を表示します。 キーワード detail も使用できます。
fsm status	(任意) 有限状態マシンの情報を表示します。 キーワード expand も使用できます。
inventory	(任意) シャーシのベンダーと ID の情報を表示します。 detail 、 expand 、 fabric 、 fan 、 fi-iom 、 iom 、 psu 、 server 、 unspecified のキーワードも使用できます。
iom	(任意) 入出力モジュールの情報を表示します。 キーワード detail も使用できます。
psu	(任意) 電源装置のステータスを表示します。 キーワード detail も使用できます。

version	(任意) シャーシ内のすべてのデバイスのバージョン番号を表示します。 キーワード detail も使用できます。
----------------	--

コマンドモード 任意のコマンドモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 引数やキーワードを指定せずに **show chassis** コマンドを使用すると、シャーシの基本情報を表示できます。

例

次の例は、シャーシの基本情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show chassis 1
Chassis:
Chassis   Overall Status           Admin State
-----
          1 Accessibility Problem   Acknowledged
FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show server environment	サーバハードウェア情報を表示します。

show cli

CLI コマンド関連情報を表示するには、**show cli** コマンドを使用します。

show cli { **command-status** | **history** | **mode-info** | **session-config** | **shell-type** }

構文の説明	command-status	(任意) 最新のコマンドのステータスを表示します。 オプションキーワード detail を使用すると、以前に入力したコマンドの詳細が表示されます。
	history	(任意) 現在のセッション中に入力されたコマンドのリストを表示します。
	mode-info	(任意) 現在の CLI モードに関する情報を表示します。
	session-config	(任意) 現在のセッション構成情報を表示します。
	shell-type	(任意) 現在のコマンドシェルタイプ情報を表示します。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドにライセンスは必要ありません。	

例

次の例は、現在のセッション設定の情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show cli session-config
Suppress Headers: off
Suppress Field Spillover: off
Table Field Delimiter: none
Terminal Width: 61
Terminal Length: 31
Session Absolute Timeout: 3600 seconds
Session Timeout: 600 seconds

FP9300-A#
```

関連コマンド

コマンド	説明
set cli	ターミナルウィンドウの幅に合うようにコマンド出力行を折り返すまたは切り詰めるかどうか、テーブルヘッダーを表示するかどうか、コマンド出力テーブルのフィールドを区切るためにカンマまたはスペースを使用するかどうかを指定します。

show clock

現在のシステム日時を表示するには、**show clock** コマンドを使用します。

show clock [detail]

構文の説明	detail	(任意) 詳細情報をリスト形式で表示します。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、現在のシステム日時を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show clock
Tue Apr 20 13:24:33 PDT 2010
FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set clock	日時を手動で設定します。
	show timezone	現在設定されているタイムゾーンを表示します。

show cloud-connector

cloud-connector のステータスと設定情報を表示するには、**show cloud-connector** コマンドを使用します。

show cloud-connector [**detail** | **expand** | **fsm**]

構文の説明	detail	(任意) 追加のクラウド コネクタの詳細を表示します。
	expand	(任意) クラウド コネクタの補足情報を表示します。
	fsm status	(任意) 現在の有限状態マシン (FSM) のステータス情報を表示します。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.2(2)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、クラウドコネクタ FSM のステータス情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show cloud-connector fsm status
```

```

FSM 1:
  Remote Result: Not Applicable
  Remote Error Code: None
  Remote Error Description:
  Status: Nop
  Previous Status: Nop
  Timestamp: Never
  Try: 0
  Progress (%): 100
  Current Task:
FP9300-A #

```

関連コマンド	コマンド	説明
	scope cloud-connector	クラウドコネクタモードを開始します。

show configuration

システム設定情報を表示するには、**show configuration** コマンドを使用します。

show configuration [**all** | **no-diff-markers** | **no-pending** | **pending**]

構文の説明	all	(任意) 現在のすべての設定情報を表示します。
	no-diff-markers	(任意) 表示される設定情報に diff-markers は含まれません。
	no-pending	(任意) 保留中 (コミットされていない) 設定コマンドは含まれません。
	pending	(任意) 保留中の設定コマンドのみをすべて表示します。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、保留中 (コミットされていない) の設定コマンドに関する情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show configuration pending
scope services
+   create ntp-server 192.168.200.101
exit
FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show cli	CLI 関連のステータス情報を表示します。

show connection

現在の IPSec 接続の設定情報を表示するには、単一接続の場合、**show connection** コマンドを使用します。

show connection [**detail** | *name*]

構文の説明	detail	(任意) IPSec 接続の詳細情報を表示します。
	<i>name</i>	(任意) 特定の接続名には 16 文字以内の英数字を使用できます。
コマンドモード	IPsec モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドを使用して、現在の IPSec 接続情報を表示します。	

例

次の例は、IPSec 接続情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # scope ipsec
FP9300-A /security/ipsec # show connection

IPSec Connection:
  Name          Admin State Local Address Remote Address ESP Mode Keyring Name
  -----
  TEST          Disabled
                                     Transport

FP9300-A /security/ipsec #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show ipsec-log	IPSec 接続ログを表示します。
	show stats	IPSec 統計情報を表示します。

show core-export-target

システムで使用可能なコアエクスポートターゲットの情報を表示するには、**show core-export-target** コマンドを使用します。

show connection [**detail** | **FSM**]

構文の説明	detail	詳細なコアエクスポートターゲット情報を一覧表示します。
	fsm	指定されたキーワードに従って、現在のアプリケーションで有限状態マシン情報を表示します。 ステータス : FSM ステータス情報を表示します。
コマンドモード	スコープモニタリングおよびスコープ sysdebug	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン これは、スコープモニタリングおよびスコープ sysdebug の **show** コマンドのサブコマンドです。

例

次の例は、すべてのシステム コア エクスポート ターゲットの情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower # scope monitoring
Firepower /monitoring # scope sysdebug
Firepower /monitoring/sysdebug # show core-export-target

Core Export Target:
  Server Name Port      Path      Admin State
  -----
                69                Disabled
Firepower /monitoring/sysdebug # show core-export-target detail

Core Export Target:
Server Name:
  Port: 69
  Path:
  Admin State: Disabled
  Description:
  Current Task:
Firepower /monitoring/sysdebug # show core-export-target fsm status

Server Name:
Port: 69
Path:
Admin State: Disabled

FSM 1:
```

```
Remote Result: Not Applicable
Remote Error Code: None
Remote Error Description:
Status: Nop
Previous Status: Configure Success
Timestamp: 2012-08-04T12:24:44.253
Try: 0
Progress (%): 100
Current Task:
```

show cpu

CPU の詳細を表示するには、**show cpu** コマンドを使用します。

show cpu [**detail**]

構文の説明	detail	詳細なバージョン情報を表示します。
コマンドモード	scope chassis/scope server	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	これは、scope chassis 1 の下の scope server 1 の show コマンドのサブコマンドです。	

例

次の例は、特定のサーバーの CPU 情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower # KSEC-FPR4115-3# scope chassis 1
Firepower /chassis # scope server 1
Firepower /chassis/server # show cpu
CPU:
  ID  Presence          Architecture      Socket Cores      Speed (GHz)
  ---  -
  1   Equipped          Xeon              CPU1   12                2.100000
  2   Equipped          Xeon              CPU2   12                2.100000
Firepower /chassis/server #
```

例

次の例は、特定のサーバーの CPU の詳細情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower# scope chassis 1
Firepower /chassis # scope server 1
Firepower /chassis/server # show cpu detail
```

```
CPU:
  ID: 1
  Presence: Equipped
  Architecture: Xeon
  Socket: CPU1
  Cores: 12
  Cores Enabled: 12
  Speed (GHz): 2.100000
  Stepping: 4
  Vendor: Intel(R) Corporation
  HW Revision: 0
  Thermal Status: OK
  Overall Status: Operable
  Operability: Operable
```

```
ID: 2
Presence: Equipped
Architecture: Xeon
Socket: CPU2
Cores: 12
Cores Enabled: 12
Speed (GHz): 2.100000
Stepping: 4
Vendor: Intel(R) Corporation
HW Revision: 0
Thermal Status: OK
Overall Status: Operable
Operability: Operable
Firepower /chassis/server #
```

show domain-env-feature

ドメイン環境機能を表示するには、**show domain-env-feature** コマンドを使用します。

show domain-env-feature [detail]

構文の説明	detail dns	show domain environment 機能に関する詳細情報を表示します。
コマンドモード	スコープシステム (スコープ環境機能)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	これは、スコープシステム、スコープ環境機能にある show コマンドのサブコマンドです。	

例

次の例は、ドメイン環境の機能情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /fabric-interconnect # scope system
Firepower /system/ # scope environment-feature
Firepower /system/environment-feature/ show domain-env-feature
Domain Environment Feature:
  Name                               Functional State
  -----
  DC_POWER_GROUP_FEATURE             Disabled
  ESTIMATE_IMPACT_ON_RECONNECT       Enabled
  HEALTH_REPORTING_FEATURE           Disabled
  POWER_GROUP_FEATURE                Enabled
  REMOTE_OPERATION_FEATURE           Enabled
  UCS_REGISTRATION_FEATURE           Enabled
```

例

```
Firepower /system/environment-feature # show domain-env-feature detail
Domain Environment Feature:
  Name: DC_POWER_GROUP_FEATURE
  Feature Type: Major
  Functional State: Disabled

  Name: ESTIMATE_IMPACT_ON_RECONNECT
  Feature Type: Major
  Functional State: Enabled

  Name: HEALTH_REPORTING_FEATURE
  Feature Type: Major
  Functional State: Disabled

  Name: POWER_GROUP_FEATURE
  Feature Type: Major
  Functional State: Enabled
```

```
Name: REMOTE_OPERATION_FEATURE  
Feature Type: Major  
Functional State: Enabled
```

```
Name: UCS_REGISTRATION_FEATURE  
Feature Type: Major  
Functional State: Enabled
```

show domain-storage-feature

システムドメインストレージ機能のリストを表示するには、**show show domain-storage-feature** コマンドを使用します。

show domain-storage-feature [detail | Name]

構文の説明	detail dns	詳細な show domain storage 機能情報を表示します。
	Name	特定のドメインストレージに関する情報を表示します。このオプションでは、 details キーワードも使用できます。
コマンドモード	スコープシステム/スコープストレージ機能	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン これは、スコープシステム、スコープストレージ機能にある **show** コマンドのサブコマンドです。

例

次の例は、ドメインストレージ機能のポリシー情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /fabric-interconnect # scope system
Firepower /system # scope storage-feature
Firepower /system/storage-feature # show domain-storage-feature
Domain Storage Feature:
  Name                               Functional State
  -----
  FC_ZONING_FEATURE                 Enabled
  ISCSI_IPV6_FEATURE                Enabled
```

例

次の例は、使用可能なドメインストレージ機能の詳細情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /system/storage-feature # show domain-storage-feature detail
Domain Storage Feature:
  Name: FC_ZONING_FEATURE
  Feature Type: Major
  Functional State: Enabled

  Name: ISCSI_IPV6_FEATURE
  Feature Type: Major
  Functional State: Enabled
Firepower /system/storage-features # show domain-storage-feature FC_ZONING_FEATURE
Domain Storage Feature:
```

```
Name Functional State
-----
FC_ZONING_FEATURE Enabled
```

show dns

FXOS で DNS ネームサーバーを表示するには、**show dns** コマンドを使用します。

show dns

構文の説明	show dns	このコマンドは、FXOS で DNS ネームサーバーを表示するために使用されます。
コマンドモード	scope system/scope services	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	デフォルトでは、このコマンドは DNS ネームサーバーを表示します。	

例

次の例は、DNS ネームサーバーを表示する方法を示しています。

```
firepower# scope system; scope services
firepower /system /services # show dns
Domain Name Servers:
IP Address: 192.0.2.1
```

show download-task

ファームウェアパッケージのダウンロード操作に関する情報を表示するには、ファームウェアモードで **show download-task** コマンドを使用します。

論理デバイスのソフトウェアイメージのダウンロード操作に関する情報を表示するには、アプリケーションソフトウェア (/ssa/app-software) モードで **show download-task** コマンドを使用します。

show download-task [**detail** | **fsm** | *file_name*]

構文の説明

detail	(任意) このキーワードを使用して、すべてのダウンロードの詳細なリストを表示するか、または <i>file_name</i> が指定されている場合は、指定したファイルの詳細なダウンロード情報を表示します。
fsm status fsm task	(任意) このキーワードを使用して、すべてのダウンロードの有状態マシン (FSM) 関連の情報をリストするか、または <i>file_name</i> が指定されている場合は、指定したファイルの FSM 関連情報のみを表示します。 (注) ファームウェアモードでは、このキーワードは fsm status です。 アプリケーションソフトウェア (/ssa/app-software) モードでは、このキーワードは fsm task です。
<i>file_name</i>	(任意) 特定のファイルのダウンロードに関する情報を表示するには、そのファイルの名前を指定します。

コマンドモード

scope firmware/
scope ssa/scope app-software

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

特定の *file_name* を指定しない場合は、すべてのダウンロードがリストされます。

例

次の例は、特定のパッケージのファームウェアダウンロードタスクの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope firmware
firepower /firmware # show download-task fxos-k9-fpr9k-firmware.1.0.16.SPA detail
```

Download task:

```

File Name: fxos-k9-fpr9k-firmware.1.0.16.SPA
Protocol: Scp
Server: 172.23.32.21
Port: 0
Userid: admin2
Path: /auto/sspdev/bios/MIO_Firmware/release_images/fpr9k/1.0.16
Downloaded Image Size (KB): 2118
Time stamp: 2018-05-14T09:30:01.047
State: Downloaded
Status: Successful unpack the image
Transfer Rate (KB/s): 192.545456
Current Task:
firepower /firmware #

```

次の例は、ダウンロードしたソフトウェアイメージファイルをリストする方法を示しています。

```

firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope app-software
firepower /ssa/app-software # show download-task
Downloads for Application Software:
  File Name                Protocol  Server                Userid      State
-----
  cisco-asa.9.4.1.65.csp   Scp      192.168.1.1          user        Downloaded

```

関連コマンド

コマンド	説明
download image	ファームウェア イメージまたは論理デバイス ソフトウェア イメージをアプライアンスにコピーします。
install firmware	ファームウェア パッケージをインストールします。
show firmware	システム ファームウェア情報を表示します。

show enforce-strong-password

パスワード強度チェックを表示するには、**show enforce-strong-password** コマンドを使用します。

show enforce-strong-password

構文の説明	Enforce-strong-password パスワード強度チェックを表示します (yes/no)。				
コマンド モード	scope security				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>2.3.1</td><td>コマンドが追加されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	2.3.1	コマンドが追加されました。
リリース	変更内容				
2.3.1	コマンドが追加されました。				
使用上のガイドライン	これは、scope security の show コマンドのサブコマンドです。				

例

次の例は、パスワード強度チェックを表示する方法を示しています。

```
firepower# scope security
firepower /security # show enforce-strong-password
Password Strength Check: No
```

show environment

シャーシの環境ステータス情報を表示するには、シャーシ、fxos、またはローカル管理モードで **show environment** コマンドを使用します。

show environment [**detail** | **expand** | **fan** | **iom** | **psu** | **server** | **summary** | **verbose** | **tech**]

構文の説明	
detail	(任意) このキーワードを使用して、シャーシの詳細な環境情報を表示します。
expand	(任意) このキーワードを使用して、シャーシの各コンポーネントのステータスに関する補足情報を表示します。
fan	(任意) 各ファンモジュールのファンごとの広範なステータス情報を表示します。 detail 、 iom 、 psu 、 server のキーワードも使用できます。
iom	(任意) 入出力モジュールの情報を表示します。 detail 、 fan 、 psu 、 server のキーワードも使用できます。
psu	(任意) 電源装置のステータスを表示します。 detail 、 fan 、 iom 、 server のキーワードも使用できます。
server	(任意) 各サーバのハードウェアコンポーネントごとのステータスに関する補足情報をリストします。 detail 、 fan 、 iom 、 psu のキーワードも使用できます。
summary	(任意) 各ハードウェアコンポーネントのステータスの概要を表示します。 キーワード detail も使用できます。
verbose tech	(任意) このキーワードを使用して、環境上の各コンポーネントの詳細なデバッグ情報を表示します。

コマンドモード scope chassis/connect fxos/connect local-mgmt

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

引数やキーワードを指定せずにこのコマンドを使用すると、基本的なシャーシの環境情報を表示できます。

例

次の例は、シャーシ環境の概要を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope chassis
firepower /chassis # show environment summary

Chassis INFO :
  Total Power Consumption: 726.000000
  Inlet Temperature (C): 35.000000
  CPU Temperature (C): 46.000000
  Last updated Time: 2018-12-18T21:19:22.353

PSU 1:
  Type: AC
  Input Feed Status: Ok
  12v Output Status: Ok
  Overall Status: Operable
PSU 2:
  Type: AC
  Input Feed Status: Ok
  12v Output Status: Ok
  Overall Status: N/A

FAN 1
  Fan Speed RPM (RPM): 4268
  Speed Status: Ok
  Overall Status: Operable
FAN 2
  Fan Speed RPM (RPM): 4312
  Speed Status: Ok
  Overall Status: Operable
FAN 3
  Fan Speed RPM (RPM): 4180
  Speed Status: Ok
  Overall Status: Operable
FAN 4
  Fan Speed RPM (RPM): 4092
  Speed Status: Ok
  Overall Status: Operable

BLADE 1:
  Total Power Consumption: 258.000000
  Processor Temperature (C): 61.000000
BLADE 2:
  Total Power Consumption: 270.000000
  Processor Temperature (C): 65.500000

firepower /chassis #
```

例

次の例は、詳細なデバッグ情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# connect fxos
firepower (fxos) # show environment verbose
***** Chassis Temps *****
AD7416_INLET_TEMP is 34 degrees Celsius
AD7416_OUTLET_TEMP_1 is 31 degrees Celsius
```

```

***** CPU Data *****
Core Temperature 0 is 46 degrees Celsius
Core Temperature 1 is 46 degrees Celsius
Core Temperature 2 is 46 degrees Celsius
Core Temperature 3 is 46 degrees Celsius
Core Temperature 4 is 46 degrees Celsius
Core Temperature 5 is 46 degrees Celsius
Core Temperature 6 is 46 degrees Celsius
Core Temperature 7 is 46 degrees Celsius
Core Temperature 8 is 46 degrees Celsius
Core Temperature 9 is 46 degrees Celsius
Core Temperature 10 is 46 degrees Celsius
Core Temperature 11 is 46 degrees Celsius
Core Temperature 12 is 46 degrees Celsius
Core Temperature 13 is 46 degrees Celsius
Core Temperature 14 is 46 degrees Celsius
Core Temperature 15 is 46 degrees Celsius

***** Power Supplies *****
PSU 1 input is okay
PSU 1 output is okay

-- Power Supply 1
Voltage In      : 0xf9ab Raw Hex
Current In     : 0xc878 Raw Hex
Power In       : 0x00c0 Raw Hex
Temperature 1  : 0x0022 Raw Hex
Temperature 2  : 0x0026 Raw Hex
Temperature 3  : 0x001f Raw Hex
Fan Speed      : 0x28c4 Raw Hex
Fan Status     : 0x00 Raw Hex
Voltage Out    : 0x0078 Raw Hex
Current Out    : 0x008f Raw Hex
Power Out      : 0x00ab Raw Hex

No detected PSU in PSU Slot 2

***** PSEQ Data *****
12V      Voltage Output      : 12.22 Volts
3.3V     Voltage Output      : 3.37 Volts
1.2V_FPGA Voltage Output      : 1.23 Volts
2.5V_FPGA Voltage Output      : 2.56 Volts
0.85V_KC Voltage Output      : 0.87 Volts
0.9V_KC  Voltage Output      : 0.93 Volts
1.8V_KC  Voltage Output      : 1.85 Volts
1.2V_KC  Voltage Output      : 1.23 Volts
1.8V_SW  Voltage Output      : 1.84 Volts
1.0V_SW  Voltage Output      : 1.01 Volts
SW_CORE  Voltage Output      : 1.01 Volts
1.8V_NIC Voltage Output      : 1.84 Volts
0.9V_CORE_NIC Voltage Output : 0.93 Volts
1.0V_NIC Voltage Output      : 1.03 Volts
VDD_18_S5 Voltage Output      : 1.84 Volts
VDDCR_SOC_S5 Voltage Output  : 0.92 Volts
VDD_18   Voltage Output      : 1.84 Volts
VDD_33   Voltage Output      : 3.45 Volts
VPP_CD   Voltage Output      : 2.55 Volts
VPP_GH   Voltage Output      : 2.55 Volts
VDDIO_MEM_CD Voltage Output  : 1.23 Volts
VDDIO_MEM_GH Voltage Output  : 1.23 Volts
1.2V_MGTAVTT_KC Voltage Output : 1.23 Volts

```

```
0.9V_NTX_EN Voltage Output      : 0.00 Volts
1.5V_NTX_EN Voltage Output      : 0.00 Volts
1.8V_PHY_EN Voltage Output      : 0.00 Volts
1.0V_PHY_EN Voltage Output      : 0.00 Volts
VDDCR_SOC_EN Voltage Output     : 0.00 Volts
VDDCR_CPU_EN Voltage Output     : 0.00 Volts
VDD_3.3_S5_EN Voltage Output    : 0.00 Volts
3.3_NIC_EN Voltage Output       : 0.00 Volts
5V_EN Voltage Output            : 0.00 Volts
```

PSEQ log

```
Fault Info Reg (0xb5):
22 9a 00 00 4f a9 33 48 7f ff ff ff ff ff ff ff ff 7f ff
```

```
Fault Rails Warning Reg (0xb6):
20 00 00 00 00 00 00 00 7f ff ff ff ff ff ff ff ff
7f ff ff ff ff ff ff ff 7f ff ff ff ff ff ff ff ff
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 0:
07 00 d0 2f 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 1:
07 00 45 34 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 2:
07 00 54 4c 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 3:
07 00 7d 4f 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 4:
07 00 10 36 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 5:
07 00 6c 39 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 6:
07 00 44 39 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 7:
07 00 18 4c 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 8:
07 00 22 39 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 9:
07 00 80 3e 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 10:
07 00 80 3e 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 11:
07 00 12 39 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 12:
07 00 a0 39 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 13:
07 00 b8 3f 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 14:
07 00 36 39 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 15:
07 00 3c 39 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 16:
07 00 22 39 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 17:
07 00 74 35 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 18:
07 00 3e 4f 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 19:
07 00 37 4f 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 20:
07 00 7c 4c 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 21:
07 00 7c 4c 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 22:
07 00 74 4c 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 23:
07 00 00 00 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 24:
07 00 00 00 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 25:
07 00 00 00 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 26:
07 00 00 00 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 27:
07 00 00 00 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 28:
07 00 00 00 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 29:
07 00 00 00 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 30:
07 00 00 00 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 31:
07 00 01 00 00 00 00

Logged Fault Reg (0xea):
25 03 00 00 08 02 82 00 7f ff ff ff ff ff ff ff
7f ff ff ff ff ff ff ff 7f ff ff ff ff ff ff ff
00 00 00 00 00

Fault Details Index Reg (0xeb):
00 64

Fault Details Reg (0xec) index 0:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 1:
```

```
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 2:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 3:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 4:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 5:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 6:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 7:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 8:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 9:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 10:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 11:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 12:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 13:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 14:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 15:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 16:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 17:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 18:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 19:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 20:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 21:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
Fault Details Reg (0xec) index 22:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
```

```
Fault Details Reg (0xec) index 23:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 24:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 25:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 26:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 27:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 28:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 29:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 30:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 31:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 32:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 33:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 34:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 35:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 36:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 37:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 38:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 39:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 40:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 41:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 42:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 43:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
```

```
Fault Details Reg (0xec) index 44:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 45:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 46:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 47:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 48:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 49:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 50:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 51:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 52:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 53:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 54:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 55:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 56:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 57:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 58:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 59:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 60:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 61:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 62:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 63:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 64:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 65:
```

```
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 66:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 67:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 68:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 69:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 70:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 71:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 72:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 73:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 74:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 75:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 76:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 77:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 78:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 79:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 80:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 81:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 82:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 83:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 84:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 85:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 86:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
```

```
Fault Details Reg (0xec) index 87:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 88:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 89:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 90:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 91:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 92:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 93:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 94:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 95:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 96:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 97:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 98:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 99:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 0:
05 00 4b 31 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 1:
05 00 fa 35 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 2:
05 00 08 4f 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 3:
05 00 25 52 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 4:
05 00 fc 37 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 5:
05 00 58 3b 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 6:
05 00 24 3b 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 7:
05 00 e8 4e 00
```

```
Logged Page Peaks Reg (0xed) page 8:
05 00 06 3b 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 9:
05 00 c8 41 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 10:
05 00 c8 41 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 11:
05 00 16 3b 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 12:
05 00 d8 3b 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 13:
05 00 dc 41 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 14:
05 00 10 3b 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 15:
05 00 1c 3b 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 16:
05 00 2a 3b 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 17:
05 00 3e 37 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 18:
05 00 ce 51 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 19:
05 00 ce 51 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 20:
05 00 4c 4f 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 21:
05 00 58 4f 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 22:
05 00 44 4f 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 23:
05 00 00 00 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 24:
05 00 00 00 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 25:
05 00 00 00 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 26:
05 00 00 00 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 27:
05 00 00 00 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 28:
05 00 00 00 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 29:
```

```

05 00 00 00 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 30:
05 00 00 00 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 31:
05 00 00 00 00

Fault Detail Enable Reg (0xef):
25 ff ff ff f7 fd 07 07 7f ff ff ff ff ff ff ff
7f ff ff ff ff ff ff ff 7f ff ff ff ff ff ff ff
00 00 00 00 00

***** EPM Data *****
EPM0 is present
EPM0 Card power is okay
EPM0 Card is ready
EPM0 temperature is 32 degrees Celsius

***** Fans *****
FanMod 1 Fan 1 rotating
FanMod 1 Fan 1 RPM = 21720
FanMod 1 Fan 2 rotating
FanMod 1 Fan 2 RPM = 19380
FanMod 1 Fan 3 rotating
FanMod 1 Fan 3 RPM = 21900
FanMod 1 Fan 4 rotating
FanMod 1 Fan 4 RPM = 19320
FanMod 2 Fan 1 rotating
FanMod 2 Fan 1 RPM = 21720
FanMod 2 Fan 2 rotating
FanMod 2 Fan 2 RPM = 19200
FanMod 2 Fan 3 rotating
FanMod 2 Fan 3 RPM = 21540
FanMod 2 Fan 4 rotating
FanMod 2 Fan 4 RPM = 19440
Fan Controller Speed = automatic

```

例

次の例は、デバッグ情報を表示する方法を示しています。

```

firepower# connect fxos
firepower (fxos) # show environment tech
***** Chassis Temps *****
AD7416_INLET_TEMP is 34 degrees Celsius
AD7416_OUTLET_TEMP_1 is 31 degrees Celsius

***** CPU Data *****
Core Temperature 0 is 45 degrees Celsius
Core Temperature 1 is 45 degrees Celsius
Core Temperature 2 is 45 degrees Celsius
Core Temperature 3 is 45 degrees Celsius
Core Temperature 4 is 45 degrees Celsius
Core Temperature 5 is 45 degrees Celsius
Core Temperature 6 is 45 degrees Celsius
Core Temperature 7 is 45 degrees Celsius
Core Temperature 8 is 45 degrees Celsius
Core Temperature 9 is 45 degrees Celsius

```

show environment

```

Core Temperature 10 is 45 degrees Celsius
Core Temperature 11 is 45 degrees Celsius
Core Temperature 12 is 45 degrees Celsius
Core Temperature 13 is 45 degrees Celsius
Core Temperature 14 is 45 degrees Celsius
Core Temperature 15 is 45 degrees Celsius
Tdie is 45
Tctl is 45
Tccd3 is 45
Tccd5 is 38

***** Power Supplies *****
PSU 1 input is okay
PSU 1 output is okay

-- Power Supply 1
Voltage In      : 0xf9ab Raw Hex
Current In     : 0xc878 Raw Hex
Power In       : 0x00c0 Raw Hex
Temperature 1  : 0x0022 Raw Hex
Temperature 2  : 0x0026 Raw Hex
Temperature 3  : 0x001f Raw Hex
Fan Speed      : 0x28c5 Raw Hex
Fan Status     : 0x00 Raw Hex
Voltage Out    : 0x0078 Raw Hex
Current Out    : 0x0091 Raw Hex
Power Out     : 0x00ac Raw Hex

No detected PSU in PSU Slot 2

***** PSEQ Data *****

Common PSEQ Regs
CAPABILITY           : 0xb0 Raw Hex
STATUS_BYTE         : 0x03 Raw Hex
STATUS_WORD         : 0x1003 Raw Hex
Communication status : 0x40 Raw Hex
MFR_ID              : 31 37 2d 31 30 32 30 7f ff ff ff ff ff ff ff 80 Raw
Hex
PMBus revision      : 0x12 Raw Hex
MFR_MODEL           : 46 50 52 2d 33 31 30 7f ff ff ff ff ff ff ff 80 Raw
Hex
MFR_REVISION        : 56 31 2e 35 a3 ff ff 7f ff ff ff ff ff ff ff 80 Raw
Hex
MFR_LOCATION        : 43 69 73 63 6f 6e ff 7f ff ff ff ff ff ff ff 80 Raw
Hex
MFR_DATE            : 30 35 32 31 32 31 db 7f ff ff ff ff ff ff ff 80 Raw
Hex
MFR_SERIAL          : 55 31 36 36 c5 ff ff 7f ff ff ff ff ff ff ff 80 Raw
Hex
Silicon device ID   : 55 43 44 39 30 33 32 7f ff ff ff ff ff ff ff 80 Raw
Hex
Silicon device revision : 2e 30 2e 30 2e 33 30 7f ff ff ff ff ff ff ff 80 Raw
Hex

12V      Voltage Output : 12.24 Volts
Page     : 0x00 Raw Hex
OPERATION : 0x00 Raw Hex
On Off Config : 0x14 Raw Hex
VOUT mode  : 0x16 Raw Hex
VOUT command : 0x3000 Raw Hex
VOUT margin hi : 0x3266 Raw Hex

```

```

VOUT margin lo           : 0x2d9a Raw Hex
VOUT scale               : 0xa2a8 Raw Hex
VOUT OV fault limit     : 0x3733 Raw Hex
VOUT OV warn limit      : 0x34cd Raw Hex
VOUT UV warn limit      : 0x2b33 Raw Hex
VOUT UV fault limit     : 0x28cd Raw Hex
IOUT OC fault limit     : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit      : 0x8000 Raw Hex
Power good on           : 0x2b33 Raw Hex
Power good off          : 0x28cd Raw Hex
On delay                : 0xba00 Raw Hex
On time limit           : 0x8000 Raw Hex
Off delay               : 0xba00 Raw Hex
Off time limit          : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT            : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT            : 0x00 Raw Hex
Output voltage          : 0x30e5 Raw Hex
Output current          : 0x8000 Raw Hex

```

```

3.3V      Voltage Output : 3.37 Volts
Page      : 0x01 Raw Hex
OPERATION : 0x00 Raw Hex
On Off Config : 0x14 Raw Hex
VOUT mode    : 0x14 Raw Hex
VOUT command : 0x34cd Raw Hex
VOUT margin hi : 0x3771 Raw Hex
VOUT margin lo : 0x3229 Raw Hex
VOUT scale    : 0xb26d Raw Hex
VOUT OV fault limit : 0x3cb8 Raw Hex
VOUT OV warn limit : 0x3a14 Raw Hex
VOUT UV warn limit : 0x2f85 Raw Hex
VOUT UV fault limit : 0x2ce1 Raw Hex
IOUT OC fault limit : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit : 0x8000 Raw Hex
Power good on : 0x2f85 Raw Hex
Power good off : 0x2ce1 Raw Hex
On delay      : 0xba00 Raw Hex
On time limit : 0xda80 Raw Hex
Off delay     : 0xba00 Raw Hex
Off time limit : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT   : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT   : 0x00 Raw Hex
Output voltage : 0x35ea Raw Hex
Output current : 0x8000 Raw Hex

```

```

1.2V_FPGA Voltage Output : 1.23 Volts
Page      : 0x02 Raw Hex
OPERATION : 0x00 Raw Hex
On Off Config : 0x14 Raw Hex
VOUT mode    : 0x12 Raw Hex
VOUT command : 0x4ccd Raw Hex
VOUT margin hi : 0x50a4 Raw Hex
VOUT margin lo : 0x48f6 Raw Hex
VOUT scale    : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit : 0x5852 Raw Hex
VOUT OV warn limit : 0x547b Raw Hex
VOUT UV warn limit : 0x451f Raw Hex
VOUT UV fault limit : 0x4148 Raw Hex
IOUT OC fault limit : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit : 0x8000 Raw Hex
Power good on : 0x451f Raw Hex
Power good off : 0x4148 Raw Hex
On delay      : 0xba00 Raw Hex
On time limit : 0xda80 Raw Hex

```

```

Off delay                : 0xba00 Raw Hex
Off time limit           : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT              : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT              : 0x00 Raw Hex
Output voltage           : 0x4ec0 Raw Hex
Output current           : 0x8000 Raw Hex

2.5V_FPGA Voltage Output : 2.56 Volts
Page_                   : 0x03 Raw Hex
OPERATION                : 0x00 Raw Hex
On Off Config           : 0x14 Raw Hex
VOUT mode                : 0x13 Raw Hex
VOUT command            : 0x5000 Raw Hex
VOUT margin hi          : 0x5400 Raw Hex
VOUT margin lo          : 0x4c00 Raw Hex
VOUT scale               : 0xb333 Raw Hex
VOUT OV fault limit     : 0x5c00 Raw Hex
VOUT OV warn limit      : 0x5800 Raw Hex
VOUT UV warn limit      : 0x4800 Raw Hex
VOUT UV fault limit     : 0x4400 Raw Hex
IOUT OC fault limit     : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit      : 0x8000 Raw Hex
Power good on           : 0x4800 Raw Hex
Power good off          : 0x4400 Raw Hex
On delay                 : 0xba00 Raw Hex
On time limit           : 0xda80 Raw Hex
Off delay                : 0xba00 Raw Hex
Off time limit           : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT              : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT              : 0x00 Raw Hex
Output voltage           : 0x5207 Raw Hex
Output current           : 0x8000 Raw Hex

0.85V_KC Voltage Output : 0.87 Volts
Page_                   : 0x04 Raw Hex
OPERATION                : 0x00 Raw Hex
On Off Config           : 0x14 Raw Hex
VOUT mode                : 0x12 Raw Hex
VOUT command            : 0x3666 Raw Hex
VOUT margin hi          : 0x3927 Raw Hex
VOUT margin lo          : 0x33b6 Raw Hex
VOUT scale               : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit     : 0x3e87 Raw Hex
VOUT OV warn limit      : 0x3bd7 Raw Hex
VOUT UV warn limit      : 0x30f6 Raw Hex
VOUT UV fault limit     : 0x2e35 Raw Hex
IOUT OC fault limit     : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit      : 0x8000 Raw Hex
Power good on           : 0x30f6 Raw Hex
Power good off          : 0x2e35 Raw Hex
On delay                 : 0xba00 Raw Hex
On time limit           : 0xda80 Raw Hex
Off delay                : 0xba00 Raw Hex
Off time limit           : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT              : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT              : 0x00 Raw Hex
Output voltage           : 0x37c8 Raw Hex
Output current           : 0x8000 Raw Hex

0.9V_KC Voltage Output  : 0.93 Volts
Page_                   : 0x05 Raw Hex
OPERATION                : 0x00 Raw Hex
On Off Config           : 0x14 Raw Hex
VOUT mode                : 0x12 Raw Hex

```

```

VOUT command                : 0x399a Raw Hex
VOUT margin hi              : 0x3c7b Raw Hex
VOUT margin lo              : 0x36b8 Raw Hex
VOUT scale                   : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit         : 0x423d Raw Hex
VOUT OV warn limit          : 0x3f5c Raw Hex
VOUT UV warn limit          : 0x33d7 Raw Hex
VOUT UV fault limit         : 0x30f6 Raw Hex
IOUT OC fault limit         : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit          : 0x8000 Raw Hex
Power good on                : 0x33d7 Raw Hex
Power good off              : 0x30f6 Raw Hex
On delay                     : 0xba00 Raw Hex
On time limit                : 0xda80 Raw Hex
Off delay                    : 0xba00 Raw Hex
Off time limit               : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT                  : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT                  : 0x00 Raw Hex
Output voltage               : 0x3b38 Raw Hex
Output current               : 0x8000 Raw Hex

1.8V_KC      Voltage Output : 1.85 Volts
Page         : 0x06 Raw Hex
OPERATION    : 0x00 Raw Hex
On Off Config : 0x14 Raw Hex
VOUT mode    : 0x13 Raw Hex
VOUT command : 0x399a Raw Hex
VOUT margin hi : 0x3c7b Raw Hex
VOUT margin lo : 0x36b8 Raw Hex
VOUT scale    : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit : 0x423d Raw Hex
VOUT OV warn limit : 0x3f5c Raw Hex
VOUT UV warn limit : 0x33d7 Raw Hex
VOUT UV fault limit : 0x30f6 Raw Hex
IOUT OC fault limit : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit : 0x8000 Raw Hex
Power good on : 0x33d7 Raw Hex
Power good off : 0x30f6 Raw Hex
On delay      : 0xba00 Raw Hex
On time limit : 0xda80 Raw Hex
Off delay     : 0xba00 Raw Hex
Off time limit : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT   : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT   : 0x00 Raw Hex
Output voltage : 0x3b1a Raw Hex
Output current : 0x8000 Raw Hex

1.2V_KC      Voltage Output : 1.23 Volts
Page         : 0x07 Raw Hex
OPERATION    : 0x00 Raw Hex
On Off Config : 0x14 Raw Hex
VOUT mode    : 0x12 Raw Hex
VOUT command : 0x4ccd Raw Hex
VOUT margin hi : 0x50a4 Raw Hex
VOUT margin lo : 0x48f6 Raw Hex
VOUT scale    : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit : 0x5852 Raw Hex
VOUT OV warn limit : 0x547b Raw Hex
VOUT UV warn limit : 0x451f Raw Hex
VOUT UV fault limit : 0x4148 Raw Hex
IOUT OC fault limit : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit : 0x8000 Raw Hex
Power good on : 0x451f Raw Hex
Power good off : 0x4148 Raw Hex

```

```

On delay                : 0xba00 Raw Hex
On time limit           : 0xda80 Raw Hex
Off delay               : 0xba00 Raw Hex
Off time limit          : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT             : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT            : 0x00 Raw Hex
Output voltage          : 0x4e84 Raw Hex
Output current          : 0x8000 Raw Hex

1.8V_SW      Voltage Output : 1.84 Volts
Page         : 0x08 Raw Hex
OPERATION    : 0x00 Raw Hex
On Off Config : 0x14 Raw Hex
VOUT mode    : 0x13 Raw Hex
VOUT command : 0x399a Raw Hex
VOUT margin hi : 0x3c7b Raw Hex
VOUT margin lo : 0x36b8 Raw Hex
VOUT scale    : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit : 0x423d Raw Hex
VOUT OV warn limit : 0x3f5c Raw Hex
VOUT UV warn limit : 0x33d7 Raw Hex
VOUT UV fault limit : 0x30f6 Raw Hex
IOUT OC fault limit : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit : 0x8000 Raw Hex
Power good on   : 0x33d7 Raw Hex
Power good off  : 0x30f6 Raw Hex
On delay        : 0xeb20 Raw Hex
On time limit   : 0xda80 Raw Hex
Off delay       : 0xba00 Raw Hex
Off time limit  : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT     : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT     : 0x00 Raw Hex
Output voltage  : 0x3af2 Raw Hex
Output current  : 0x8000 Raw Hex

1.0V_SW      Voltage Output : 1.01 Volts
Page         : 0x09 Raw Hex
OPERATION    : 0x00 Raw Hex
On Off Config : 0x14 Raw Hex
VOUT mode    : 0x12 Raw Hex
VOUT command : 0x4000 Raw Hex
VOUT margin hi : 0x4333 Raw Hex
VOUT margin lo : 0x3ccd Raw Hex
VOUT scale    : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit : 0x499a Raw Hex
VOUT OV warn limit : 0x4666 Raw Hex
VOUT UV warn limit : 0x399a Raw Hex
VOUT UV fault limit : 0x3666 Raw Hex
IOUT OC fault limit : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit : 0x8000 Raw Hex
Power good on   : 0x399a Raw Hex
Power good off  : 0x3666 Raw Hex
On delay        : 0xba00 Raw Hex
On time limit   : 0xda80 Raw Hex
Off delay       : 0xba00 Raw Hex
Off time limit  : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT     : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT     : 0x00 Raw Hex
Output voltage  : 0x409c Raw Hex
Output current  : 0x8000 Raw Hex

SW_CORE      Voltage Output : 1.01 Volts
Page         : 0x0a Raw Hex
OPERATION    : 0x00 Raw Hex

```

```

On Off Config                : 0x14 Raw Hex
VOUT mode                    : 0x12 Raw Hex
VOUT command                 : 0x4000 Raw Hex
VOUT margin hi               : 0x4333 Raw Hex
VOUT margin lo               : 0x3ccd Raw Hex
VOUT scale                   : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit          : 0x499a Raw Hex
VOUT OV warn limit           : 0x4666 Raw Hex
VOUT UV warn limit           : 0x399a Raw Hex
VOUT UV fault limit          : 0x3666 Raw Hex
IOUT OC fault limit          : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit           : 0x8000 Raw Hex
Power good on                : 0x399a Raw Hex
Power good off               : 0x3666 Raw Hex
On delay                      : 0xca80 Raw Hex
On time limit                : 0xda80 Raw Hex
Off delay                     : 0xba00 Raw Hex
Off time limit                : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT                  : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT                  : 0x00 Raw Hex
Output voltage                : 0x4094 Raw Hex
Output current                : 0x8000 Raw Hex

1.8V_NIC Voltage Output      : 1.84 Volts
Page                          : 0x0b Raw Hex
OPERATION                     : 0x00 Raw Hex
On Off Config                 : 0x14 Raw Hex
VOUT mode                     : 0x13 Raw Hex
VOUT command                 : 0x399a Raw Hex
VOUT margin hi               : 0x3c7b Raw Hex
VOUT margin lo               : 0x36b8 Raw Hex
VOUT scale                   : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit          : 0x423d Raw Hex
VOUT OV warn limit           : 0x3f5c Raw Hex
VOUT UV warn limit           : 0x33d7 Raw Hex
VOUT UV fault limit          : 0x30f6 Raw Hex
IOUT OC fault limit          : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit           : 0x8000 Raw Hex
Power good on                : 0x33d7 Raw Hex
Power good off               : 0x30f6 Raw Hex
On delay                      : 0xba00 Raw Hex
On time limit                : 0xda80 Raw Hex
Off delay                     : 0xba00 Raw Hex
Off time limit                : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT                  : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT                  : 0x00 Raw Hex
Output voltage                : 0x3ae8 Raw Hex
Output current                : 0x8000 Raw Hex

0.9V_CORE_NIC Voltage Output : 0.93 Volts
Page                          : 0x0c Raw Hex
OPERATION                     : 0x00 Raw Hex
On Off Config                 : 0x14 Raw Hex
VOUT mode                     : 0x12 Raw Hex
VOUT command                 : 0x399a Raw Hex
VOUT margin hi               : 0x3c7b Raw Hex
VOUT margin lo               : 0x36b8 Raw Hex
VOUT scale                   : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit          : 0x423d Raw Hex
VOUT OV warn limit           : 0x3f5c Raw Hex
VOUT UV warn limit           : 0x33d7 Raw Hex
VOUT UV fault limit          : 0x30f6 Raw Hex
IOUT OC fault limit          : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit           : 0x8000 Raw Hex

```

show environment

```

Power good on           : 0x33d7 Raw Hex
Power good off          : 0x30f6 Raw Hex
On delay                : 0xba00 Raw Hex
On time limit           : 0xda80 Raw Hex
Off delay               : 0xba00 Raw Hex
Off time limit          : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT             : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT             : 0x00 Raw Hex
Output voltage          : 0x3bc4 Raw Hex
Output current          : 0x8000 Raw Hex

1.0V_NIC Voltage Output : 1.03 Volts
Page                 : 0x0d Raw Hex
OPERATION            : 0x00 Raw Hex
On Off Config        : 0x14 Raw Hex
VOUT mode            : 0x12 Raw Hex
VOUT command         : 0x4000 Raw Hex
VOUT margin hi       : 0x4333 Raw Hex
VOUT margin lo       : 0x3ccd Raw Hex
VOUT scale           : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit  : 0x499a Raw Hex
VOUT OV warn limit   : 0x4666 Raw Hex
VOUT UV warn limit   : 0x399a Raw Hex
VOUT UV fault limit  : 0x3666 Raw Hex
IOUT OC fault limit  : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit   : 0x8000 Raw Hex
Power good on        : 0x399a Raw Hex
Power good off       : 0x3666 Raw Hex
On delay             : 0xba00 Raw Hex
On time limit        : 0xda80 Raw Hex
Off delay            : 0xba00 Raw Hex
Off time limit       : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT         : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT         : 0x00 Raw Hex
Output voltage       : 0x41a0 Raw Hex
Output current       : 0x8000 Raw Hex

VDD_18_S5 Voltage Output : 1.84 Volts
Page                 : 0x0e Raw Hex
OPERATION            : 0x00 Raw Hex
On Off Config        : 0x14 Raw Hex
VOUT mode            : 0x13 Raw Hex
VOUT command         : 0x399a Raw Hex
VOUT margin hi       : 0x3c7b Raw Hex
VOUT margin lo       : 0x36b8 Raw Hex
VOUT scale           : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit  : 0x423d Raw Hex
VOUT OV warn limit   : 0x3f5c Raw Hex
VOUT UV warn limit   : 0x33d7 Raw Hex
VOUT UV fault limit  : 0x30f6 Raw Hex
IOUT OC fault limit  : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit   : 0x8000 Raw Hex
Power good on        : 0x33d7 Raw Hex
Power good off       : 0x30f6 Raw Hex
On delay             : 0xba00 Raw Hex
On time limit        : 0xda80 Raw Hex
Off delay            : 0xba00 Raw Hex
Off time limit       : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT         : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT         : 0x00 Raw Hex
Output voltage       : 0x3b02 Raw Hex
Output current       : 0x8000 Raw Hex

VDDCR_SOC_S5 Voltage Output : 0.92 Volts

```

```

Page : 0x0f Raw Hex
OPERATION : 0x00 Raw Hex
On Off Config : 0x14 Raw Hex
VOUT mode : 0x12 Raw Hex
VOUT command : 0x399a Raw Hex
VOUT margin hi : 0x3c7b Raw Hex
VOUT margin lo : 0x36b8 Raw Hex
VOUT scale : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit : 0x423d Raw Hex
VOUT OV warn limit : 0x3f5c Raw Hex
VOUT UV warn limit : 0x33d7 Raw Hex
VOUT UV fault limit : 0x30f6 Raw Hex
IOUT OC fault limit : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit : 0x8000 Raw Hex
Power good on : 0x33d7 Raw Hex
Power good off : 0x30f6 Raw Hex
On delay : 0xba00 Raw Hex
On time limit : 0xda80 Raw Hex
Off delay : 0xba00 Raw Hex
Off time limit : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT : 0x00 Raw Hex
Output voltage : 0x3b08 Raw Hex
Output current : 0x8000 Raw Hex

VDD_18 Voltage Output : 1.84 Volts
Page : 0x10 Raw Hex
OPERATION : 0x00 Raw Hex
On Off Config : 0x14 Raw Hex
VOUT mode : 0x13 Raw Hex
VOUT command : 0x399a Raw Hex
VOUT margin hi : 0x3c7b Raw Hex
VOUT margin lo : 0x36b8 Raw Hex
VOUT scale : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit : 0x423d Raw Hex
VOUT OV warn limit : 0x3f5c Raw Hex
VOUT UV warn limit : 0x33d7 Raw Hex
VOUT UV fault limit : 0x30f6 Raw Hex
IOUT OC fault limit : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit : 0x8000 Raw Hex
Power good on : 0x33d7 Raw Hex
Power good off : 0x30f6 Raw Hex
On delay : 0xb39a Raw Hex
On time limit : 0xda80 Raw Hex
Off delay : 0xba00 Raw Hex
Off time limit : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT : 0x00 Raw Hex
Output voltage : 0x3aee Raw Hex
Output current : 0x8000 Raw Hex

VDD_33 Voltage Output : 3.45 Volts
Page : 0x11 Raw Hex
OPERATION : 0x00 Raw Hex
On Off Config : 0x14 Raw Hex
VOUT mode : 0x14 Raw Hex
VOUT command : 0x34cd Raw Hex
VOUT margin hi : 0x3771 Raw Hex
VOUT margin lo : 0x3229 Raw Hex
VOUT scale : 0xb266 Raw Hex
VOUT OV fault limit : 0x3cb8 Raw Hex
VOUT OV warn limit : 0x3a14 Raw Hex
VOUT UV warn limit : 0x2f85 Raw Hex
VOUT UV fault limit : 0x2ce1 Raw Hex

```

```

IOUT OC fault limit      : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit      : 0x8000 Raw Hex
Power good on           : 0x2f85 Raw Hex
Power good off          : 0x2ce1 Raw Hex
On delay                 : 0xba00 Raw Hex
On time limit           : 0xda80 Raw Hex
Off delay                : 0xba00 Raw Hex
Off time limit           : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT             : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT             : 0x00 Raw Hex
Output voltage           : 0x372a Raw Hex
Output current           : 0x8000 Raw Hex

VPP_CD      Voltage Output : 2.55 Volts
Page        : 0x12 Raw Hex
OPERATION   : 0x00 Raw Hex
On Off Config : 0x14 Raw Hex
VOUT mode   : 0x13 Raw Hex
VOUT command : 0x5000 Raw Hex
VOUT margin hi : 0x5400 Raw Hex
VOUT margin lo : 0x4c00 Raw Hex
VOUT scale   : 0xb333 Raw Hex
VOUT OV fault limit : 0x5c00 Raw Hex
VOUT OV warn limit : 0x5800 Raw Hex
VOUT UV warn limit : 0x4800 Raw Hex
VOUT UV fault limit : 0x4400 Raw Hex
IOUT OC fault limit : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit : 0x8000 Raw Hex
Power good on : 0x4800 Raw Hex
Power good off : 0x4400 Raw Hex
On delay       : 0xba00 Raw Hex
On time limit  : 0xda80 Raw Hex
Off delay      : 0xba00 Raw Hex
Off time limit : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT   : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT   : 0x00 Raw Hex
Output voltage : 0x51c1 Raw Hex
Output current : 0x8000 Raw Hex

VPP_GH      Voltage Output : 2.55 Volts
Page        : 0x13 Raw Hex
OPERATION   : 0x00 Raw Hex
On Off Config : 0x14 Raw Hex
VOUT mode   : 0x13 Raw Hex
VOUT command : 0x5000 Raw Hex
VOUT margin hi : 0x5400 Raw Hex
VOUT margin lo : 0x4c00 Raw Hex
VOUT scale   : 0xb333 Raw Hex
VOUT OV fault limit : 0x5c00 Raw Hex
VOUT OV warn limit : 0x5800 Raw Hex
VOUT UV warn limit : 0x4800 Raw Hex
VOUT UV fault limit : 0x4400 Raw Hex
IOUT OC fault limit : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit : 0x8000 Raw Hex
Power good on : 0x4800 Raw Hex
Power good off : 0x4400 Raw Hex
On delay       : 0xba00 Raw Hex
On time limit  : 0xda80 Raw Hex
Off delay      : 0xba00 Raw Hex
Off time limit : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT   : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT   : 0x00 Raw Hex
Output voltage : 0x51bc Raw Hex
Output current : 0x8000 Raw Hex

```

```
VDDIO_MEM_CD Voltage Output      :   1.23 Volts
Page                             : 0x14 Raw Hex
OPERATION                       : 0x00 Raw Hex
On Off Config                   : 0x14 Raw Hex
VOUT mode                       : 0x12 Raw Hex
VOUT command                    : 0x4ccd Raw Hex
VOUT margin hi                 : 0x50a4 Raw Hex
VOUT margin lo                 : 0x48f6 Raw Hex
VOUT scale                     : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit           : 0x5852 Raw Hex
VOUT OV warn limit            : 0x547b Raw Hex
VOUT UV warn limit            : 0x451f Raw Hex
VOUT UV fault limit           : 0x4148 Raw Hex
IOUT OC fault limit           : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit            : 0x8000 Raw Hex
Power good on                  : 0x451f Raw Hex
Power good off                 : 0x4148 Raw Hex
On delay                       : 0xba00 Raw Hex
On time limit                  : 0xda80 Raw Hex
Off delay                      : 0xba00 Raw Hex
Off time limit                 : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT                    : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT                    : 0x00 Raw Hex
Output voltage                 : 0x4ef4 Raw Hex
Output current                 : 0x8000 Raw Hex
```

```
VDDIO_MEM_GH Voltage Output      :   1.23 Volts
Page                             : 0x15 Raw Hex
OPERATION                       : 0x00 Raw Hex
On Off Config                   : 0x14 Raw Hex
VOUT mode                       : 0x12 Raw Hex
VOUT command                    : 0x4ccd Raw Hex
VOUT margin hi                 : 0x50a4 Raw Hex
VOUT margin lo                 : 0x48f6 Raw Hex
VOUT scale                     : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit           : 0x5852 Raw Hex
VOUT OV warn limit            : 0x547b Raw Hex
VOUT UV warn limit            : 0x451f Raw Hex
VOUT UV fault limit           : 0x4148 Raw Hex
IOUT OC fault limit           : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit            : 0x8000 Raw Hex
Power good on                  : 0x451f Raw Hex
Power good off                 : 0x4148 Raw Hex
On delay                       : 0xba00 Raw Hex
On time limit                  : 0xda80 Raw Hex
Off delay                      : 0xba00 Raw Hex
Off time limit                 : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT                    : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT                    : 0x00 Raw Hex
Output voltage                 : 0x4ef4 Raw Hex
Output current                 : 0x8000 Raw Hex
```

```
1.2V_MGTAVTT_KC Voltage Output   :   1.23 Volts
Page                             : 0x16 Raw Hex
OPERATION                       : 0x00 Raw Hex
On Off Config                   : 0x14 Raw Hex
VOUT mode                       : 0x12 Raw Hex
VOUT command                    : 0x4ccd Raw Hex
VOUT margin hi                 : 0x50a4 Raw Hex
VOUT margin lo                 : 0x48f6 Raw Hex
VOUT scale                     : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit           : 0x5852 Raw Hex
VOUT OV warn limit            : 0x547b Raw Hex
```

```

VOUT UV warn limit           : 0x451f Raw Hex
VOUT UV fault limit          : 0x4148 Raw Hex
IOUT OC fault limit          : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit           : 0x8000 Raw Hex
Power good on                 : 0x451f Raw Hex
Power good off                : 0x4148 Raw Hex
On delay                       : 0xba00 Raw Hex
On time limit                 : 0xda80 Raw Hex
Off delay                      : 0xba00 Raw Hex
Off time limit                : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT                   : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT                   : 0x00 Raw Hex
Output voltage                : 0x4ee0 Raw Hex
Output current                : 0x8000 Raw Hex

0.9V_NTX_EN Voltage Output   : 0.00 Volts
Page                           : 0x17 Raw Hex
OPERATION                      : 0x00 Raw Hex
On Off Config                  : 0x14 Raw Hex
VOUT mode                      : 0x14 Raw Hex
VOUT command                   : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin hi                 : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin lo                 : 0x0000 Raw Hex
VOUT scale                     : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit           : 0x0000 Raw Hex
VOUT OV warn limit            : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV warn limit            : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV fault limit           : 0x0000 Raw Hex
IOUT OC fault limit           : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit            : 0x8000 Raw Hex
Power good on                  : 0x0000 Raw Hex
Power good off                 : 0x0000 Raw Hex
On delay                       : 0xba00 Raw Hex
On time limit                 : 0xda80 Raw Hex
Off delay                      : 0xba00 Raw Hex
Off time limit                : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT                   : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT                   : 0x00 Raw Hex
Output voltage                : 0x0000 Raw Hex
Output current                : 0x8000 Raw Hex

1.5V_NTX_EN Voltage Output   : 0.00 Volts
Page                           : 0x18 Raw Hex
OPERATION                      : 0x00 Raw Hex
On Off Config                  : 0x14 Raw Hex
VOUT mode                      : 0x14 Raw Hex
VOUT command                   : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin hi                 : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin lo                 : 0x0000 Raw Hex
VOUT scale                     : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit           : 0x0000 Raw Hex
VOUT OV warn limit            : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV warn limit            : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV fault limit           : 0x0000 Raw Hex
IOUT OC fault limit           : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit            : 0x8000 Raw Hex
Power good on                  : 0x0000 Raw Hex
Power good off                 : 0x0000 Raw Hex
On delay                       : 0xba00 Raw Hex
On time limit                 : 0xda80 Raw Hex
Off delay                      : 0xba00 Raw Hex
Off time limit                : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT                   : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT                   : 0x00 Raw Hex

```

```
Output voltage           : 0x0000 Raw Hex
Output current           : 0x8000 Raw Hex

1.8V_PHY_EN Voltage Output : 0.00 Volts
Page                     : 0x19 Raw Hex
OPERATION                 : 0x00 Raw Hex
On Off Config             : 0x14 Raw Hex
VOUT mode                 : 0x14 Raw Hex
VOUT command              : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin hi           : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin lo           : 0x0000 Raw Hex
VOUT scale                : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit      : 0x0000 Raw Hex
VOUT OV warn limit       : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV warn limit       : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV fault limit      : 0x0000 Raw Hex
IOUT OC fault limit      : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit       : 0x8000 Raw Hex
Power good on             : 0x0000 Raw Hex
Power good off           : 0x0000 Raw Hex
On delay                  : 0xba00 Raw Hex
On time limit             : 0xda80 Raw Hex
Off delay                 : 0xba00 Raw Hex
Off time limit            : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT               : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT               : 0x00 Raw Hex
Output voltage            : 0x0000 Raw Hex
Output current            : 0x8000 Raw Hex

1.0V_PHY_EN Voltage Output : 0.00 Volts
Page                     : 0x1a Raw Hex
OPERATION                 : 0x00 Raw Hex
On Off Config             : 0x14 Raw Hex
VOUT mode                 : 0x14 Raw Hex
VOUT command              : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin hi           : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin lo           : 0x0000 Raw Hex
VOUT scale                : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit      : 0x0000 Raw Hex
VOUT OV warn limit       : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV warn limit       : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV fault limit      : 0x0000 Raw Hex
IOUT OC fault limit      : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit       : 0x8000 Raw Hex
Power good on             : 0x0000 Raw Hex
Power good off           : 0x0000 Raw Hex
On delay                  : 0xba00 Raw Hex
On time limit             : 0xda80 Raw Hex
Off delay                 : 0xba00 Raw Hex
Off time limit            : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT               : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT               : 0x00 Raw Hex
Output voltage            : 0x0000 Raw Hex
Output current            : 0x8000 Raw Hex

VDDCR_SOC_EN Voltage Output : 0.00 Volts
Page                     : 0x1b Raw Hex
OPERATION                 : 0x00 Raw Hex
On Off Config             : 0x14 Raw Hex
VOUT mode                 : 0x14 Raw Hex
VOUT command              : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin hi           : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin lo           : 0x0000 Raw Hex
VOUT scale                : 0xba00 Raw Hex
```

```

VOUT OV fault limit      : 0x0000 Raw Hex
VOUT OV warn limit      : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV warn limit      : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV fault limit     : 0x0000 Raw Hex
IOUT OC fault limit     : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit     : 0x8000 Raw Hex
Power good on           : 0x0000 Raw Hex
Power good off          : 0x0000 Raw Hex
On delay                 : 0xba00 Raw Hex
On time limit           : 0xda80 Raw Hex
Off delay                : 0xba00 Raw Hex
Off time limit          : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT             : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT             : 0x00 Raw Hex
Output voltage          : 0x0000 Raw Hex
Output current          : 0x8000 Raw Hex

VDDCR_CPU_EN Voltage Output : 0.00 Volts
Page                       : 0x1c Raw Hex
OPERATION                   : 0x00 Raw Hex
On Off Config               : 0x14 Raw Hex
VOUT mode                   : 0x14 Raw Hex
VOUT command                : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin hi              : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin lo              : 0x0000 Raw Hex
VOUT scale                  : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit        : 0x0000 Raw Hex
VOUT OV warn limit         : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV warn limit         : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV fault limit        : 0x0000 Raw Hex
IOUT OC fault limit        : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit         : 0x8000 Raw Hex
Power good on              : 0x0000 Raw Hex
Power good off             : 0x0000 Raw Hex
On delay                   : 0xba00 Raw Hex
On time limit              : 0xda80 Raw Hex
Off delay                   : 0xba00 Raw Hex
Off time limit             : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT                : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT                : 0x00 Raw Hex
Output voltage             : 0x0000 Raw Hex
Output current             : 0x8000 Raw Hex

VDD_3.3_S5_EN Voltage Output : 0.00 Volts
Page                       : 0x1d Raw Hex
OPERATION                   : 0x00 Raw Hex
On Off Config               : 0x14 Raw Hex
VOUT mode                   : 0x14 Raw Hex
VOUT command                : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin hi              : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin lo              : 0x0000 Raw Hex
VOUT scale                  : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit        : 0x0000 Raw Hex
VOUT OV warn limit         : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV warn limit         : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV fault limit        : 0x0000 Raw Hex
IOUT OC fault limit        : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit         : 0x8000 Raw Hex
Power good on              : 0x0000 Raw Hex
Power good off             : 0x0000 Raw Hex
On delay                   : 0xba00 Raw Hex
On time limit              : 0xda80 Raw Hex
Off delay                   : 0xba00 Raw Hex
Off time limit             : 0x8000 Raw Hex

```

```

STATUS_VOUT           : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT           : 0x00 Raw Hex
Output voltage        : 0x0000 Raw Hex
Output current        : 0x8000 Raw Hex

```

```

3.3_NIC_EN Voltage Output : 0.00 Volts
Page              : 0x1e Raw Hex
OPERATION         : 0x00 Raw Hex
On Off Config     : 0x14 Raw Hex
VOUT mode         : 0x14 Raw Hex
VOUT command      : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin hi    : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin lo    : 0x0000 Raw Hex
VOUT scale        : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit : 0x0000 Raw Hex
VOUT OV warn limit : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV warn limit : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV fault limit : 0x0000 Raw Hex
IOUT OC fault limit : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit : 0x8000 Raw Hex
Power good on     : 0x0000 Raw Hex
Power good off    : 0x0000 Raw Hex
On delay          : 0xba00 Raw Hex
On time limit     : 0xda80 Raw Hex
Off delay         : 0xba00 Raw Hex
Off time limit    : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT       : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT       : 0x00 Raw Hex
Output voltage    : 0x0000 Raw Hex
Output current    : 0x8000 Raw Hex

```

```

5V_EN Voltage Output : 0.00 Volts
Page              : 0x1f Raw Hex
OPERATION         : 0x00 Raw Hex
On Off Config     : 0x14 Raw Hex
VOUT mode         : 0x14 Raw Hex
VOUT command      : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin hi    : 0x0000 Raw Hex
VOUT margin lo    : 0x0000 Raw Hex
VOUT scale        : 0xba00 Raw Hex
VOUT OV fault limit : 0x0000 Raw Hex
VOUT OV warn limit : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV warn limit : 0x0000 Raw Hex
VOUT UV fault limit : 0x0000 Raw Hex
IOUT OC fault limit : 0x8000 Raw Hex
IOUT OC warn limit : 0x8000 Raw Hex
Power good on     : 0x0000 Raw Hex
Power good off    : 0x0000 Raw Hex
On delay          : 0xba00 Raw Hex
On time limit     : 0xda80 Raw Hex
Off delay         : 0xba00 Raw Hex
Off time limit    : 0x8000 Raw Hex
STATUS_VOUT       : 0x00 Raw Hex
STATUS_IOUT       : 0x00 Raw Hex
Output voltage    : 0x0001 Raw Hex
Output current    : 0x8000 Raw Hex

```

PSEQ log

```

Fault Info Reg (0xb5):
12 9a 00 00 4f a9 33 48 7f ff ff ff ff ff ff ff 7f ff

```

```

Fault Rails Warning Reg (0xb6):

```

```
20 00 00 00 00 00 00 00 7f ff ff ff ff ff ff ff  
7f ff ff ff ff ff ff ff 7f ff ff ff ff ff ff ff
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 0:  
07 00 d0 2f 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 1:  
07 00 45 34 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 2:  
07 00 54 4c 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 3:  
07 00 7d 4f 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 4:  
07 00 10 36 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 5:  
07 00 6c 39 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 6:  
07 00 44 39 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 7:  
07 00 18 4c 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 8:  
07 00 22 39 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 9:  
07 00 80 3e 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 10:  
07 00 80 3e 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 11:  
07 00 12 39 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 12:  
07 00 a0 39 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 13:  
07 00 b8 3f 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 14:  
07 00 36 39 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 15:  
07 00 3c 39 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 16:  
07 00 22 39 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 17:  
07 00 74 35 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 18:  
07 00 3e 4f 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 19:  
07 00 37 4f 00 00 00
```

```
Rails Value Reg (0xb7) page 20:
07 00 7c 4c 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 21:
07 00 7c 4c 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 22:
07 00 74 4c 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 23:
07 00 00 00 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 24:
07 00 00 00 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 25:
07 00 00 00 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 26:
07 00 00 00 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 27:
07 00 00 00 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 28:
07 00 00 00 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 29:
07 00 00 00 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 30:
07 00 00 00 00 00 00

Rails Value Reg (0xb7) page 31:
07 00 01 00 00 00 00

Logged Fault Reg (0xea):
25 03 00 00 08 02 82 00 7f ff ff ff ff ff ff ff
7f ff ff ff ff ff ff 7f ff ff ff ff ff ff ff
00 00 00 00 00

Fault Details Index Reg (0xeb):
00 64

Fault Details Reg (0xec) index 0:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 1:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 2:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 3:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 4:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 5:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 6:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
```

```
Fault Details Reg (0xec) index 7:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 8:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 9:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 10:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 11:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 12:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 13:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 14:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 15:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 16:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 17:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 18:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 19:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 20:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 21:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 22:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 23:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 24:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 25:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 26:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 27:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
```

```
Fault Details Reg (0xec) index 28:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 29:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 30:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 31:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 32:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 33:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 34:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 35:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 36:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 37:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 38:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 39:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 40:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 41:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 42:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 43:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 44:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 45:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 46:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 47:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 48:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 49:
```

```
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 50:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 51:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 52:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 53:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 54:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 55:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 56:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 57:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 58:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 59:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 60:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 61:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 62:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 63:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 64:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 65:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 66:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 67:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 68:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 69:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 70:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
```

```
Fault Details Reg (0xec) index 71:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 72:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 73:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 74:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 75:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 76:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 77:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 78:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 79:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 80:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 81:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 82:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 83:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 84:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 85:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 86:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 87:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 88:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 89:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 90:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 91:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff
```

```
Fault Details Reg (0xec) index 92:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 93:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 94:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 95:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 96:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 97:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 98:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Fault Details Reg (0xec) index 99:
0c 02 66 2c 4e 88 04 e9 7f ff ff ff

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 0:
05 00 4b 31 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 1:
05 00 fa 35 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 2:
05 00 08 4f 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 3:
05 00 25 52 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 4:
05 00 fc 37 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 5:
05 00 58 3b 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 6:
05 00 24 3b 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 7:
05 00 e8 4e 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 8:
05 00 06 3b 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 9:
05 00 c8 41 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 10:
05 00 c8 41 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 11:
05 00 16 3b 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 12:
05 00 d8 3b 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 13:
```

```
05 00 dc 41 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 14:
05 00 10 3b 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 15:
05 00 1c 3b 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 16:
05 00 2a 3b 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 17:
05 00 3e 37 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 18:
05 00 ce 51 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 19:
05 00 ce 51 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 20:
05 00 4c 4f 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 21:
05 00 58 4f 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 22:
05 00 44 4f 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 23:
05 00 00 00 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 24:
05 00 00 00 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 25:
05 00 00 00 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 26:
05 00 00 00 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 27:
05 00 00 00 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 28:
05 00 00 00 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 29:
05 00 00 00 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 30:
05 00 00 00 00

Logged Page Peaks Reg (0xed) page 31:
05 00 00 00 00

Fault Detail Enable Reg (0xef):
25 ff ff ff f7 fd 07 07 7f ff ff ff ff ff ff ff
7f ff ff ff ff ff ff 7f ff ff ff ff ff ff ff
00 00 00 00 00

***** EPM Data *****
EPM0 is present
```

```

EPM0 Card power is okay
EPM0 Card is ready
EPM0 temperature is 32 degrees Celsius

***** Fans *****
FanMod 1 Fan 1 rotating
FanMod 1 Fan 1 RPM = 21720
FanMod 1 Fan 2 rotating
FanMod 1 Fan 2 RPM = 19380
FanMod 1 Fan 3 rotating
FanMod 1 Fan 3 RPM = 21900
FanMod 1 Fan 4 rotating
FanMod 1 Fan 4 RPM = 19320
FanMod 2 Fan 1 rotating
FanMod 2 Fan 1 RPM = 21720
FanMod 2 Fan 2 rotating
FanMod 2 Fan 2 RPM = 19260
FanMod 2 Fan 3 rotating
FanMod 2 Fan 3 RPM = 21540
FanMod 2 Fan 4 rotating
FanMod 2 Fan 4 RPM = 19440

Environmental Fan FPGA Control : 0x00000107
Environmental Fan Status : 0x00000003
Environmental Fan Enable Control : 0x00110700
Fanmod1 PWM Slope : 0x00000108
Fanmod1 Speed : 0x000003e8
Fanmod1 Smartfan Control : 0x00000000
Fanmod1 Smartfan Status : 0x00540000
Fanmod1 Smartfan PWM : 0x000000f0
Fanmod1 Smartfan Debug : 0x00003aee
Fanmod2 PWM Slope : 0x00000108
Fanmod2 Speed : 0x000003e8
Fanmod2 Smartfan Control : 0x00000000
Fanmod2 Smartfan Status : 0x00540000
Fanmod2 Smartfan PWM : 0x000000f0
Fanmod2 Smartfan Debug : 0x00003b14
T2/T1 Temp : 0x0088007c
T4/T3 Temp : 0x0098008c
T6/T5 Temp : 0x00a8009c
T8/T7 Temp : 0x00b800ac
Level 1 Speed : 0x000004b0
Level 2 Speed : 0x00000550
Level 3 Speed : 0x000005b4
Level 4 Speed : 0x00000640
Level 5 Speed : 0x000007d0
Minimal Speed Threshold : 0x00000054
Fan Controller Speed = automatic

***** Disks *****

***** SSD Data *****

```

関連コマンド

コマンド	説明
show server environment	サーバハードウェア情報を表示します。

show eth-uplink

イーサネット アップリンク情報を表示するには、**show eth-uplink** コマンドを使用します。

show eth-uplink [**detail** | **expand** | **fsm**]

構文の説明	detail	(任意) イーサネット アップリンクの詳細を表示します。
	expand	(任意) イーサネット アップリンクの補足情報を表示します。
	fsm status	(任意) 有限状態マシンのステータスを表示します。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	単方向リンク検出 (UDLD) は FXOS ではサポートされていません。UDLD への参照を無視します。	

例

次の例は、イーサネット アップリンクの補足情報を表示する方法を示します。

```
firepower# show eth-uplink expand
```

```
Ethernet Uplink:
  Mode           MAC Table Aging Time (dd:hh:mm:ss)  VLAN Port Count Optimization
  -----
  Security Node 00:04:01:40              Disabled
firepower# show eth-uplink expand
```

```
Ethernet Uplink:
Mode: Security Node
MAC Table Aging Time (dd:hh:mm:ss): 00:04:01:40
VLAN Port Count Optimization: Disabled
```

```
Ethernet Link Profile:
  Name           UDLD link policy name Oper UDLD link policy name
  -----
  default        default                fabric/lan/udld-link-pol-default
```

```
Fabric:
Fabric ID: A
```

```
Interface:
Port Name: Ethernet1/1
Port Type: Mgmt
Admin State: Enabled
Oper State: Link Down
State Reason: Link failure or not-connected
```

<--- intervening lines removed for brevity --->

```
Port Name: Ethernet2/6
Port Type: Data
Admin State: Disabled
Oper State: Admin Down
State Reason: Administratively down
```

```
Port Name: Ethernet2/7
Port Type: Data
Admin State: Disabled
Oper State: Sfp Not Present
State Reason: Unknown
```

```
Port Name: Ethernet2/8
Port Type: Data
Admin State: Disabled
Oper State: Sfp Not Present
State Reason: Unknown
```

```
Port Channel:
Port Channel Id: 48
Name: Port-channel48
Port Type: Cluster
Admin State: Enabled
Oper State: Failed
State Reason: No operational members
```

```
Member Port:
      Port Name      Membership      Oper State      State Reason
-----
not-connected Ethernet1/5      Down            Link Down       Link failure or
not-connected Ethernet1/6      Down            Link Down       Link failure or
```

```
Stats Threshold Policy:
Name: default
Full Name: fabric/lan/thr-policy-default
Policy Owner: Local
```

```
UDLD link policy:
Name      Admin State  UDLD mode
-----
default   Disabled     Normal
firepower#
```

関連コマンド

コマンド	説明
scope eth-uplink	イーサネット アップリンク モードを開始します。

show event

FSM イベントの情報を表示するには、**show event** コマンドを使用します。

show event [*event_id* | **detail**]

構文の説明	<i>event_id</i>	(任意) 特定のイベントの情報を表示します。
	detail	(任意) すべてのイベントの詳細情報を表示します。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	引数やキーワードを指定せずに show event コマンドを使用すると、イベントのリストを表示できます。	

例

次の例は、イベントのリストを表示する方法を示します。

```
FP9300-A# show event
Creation Time          ID          Code          Description
-----
2025-12-23T04:17:00.678  176144  E4195253  [FSM:STAGE:SKIP]: keyring configuration on
secondary (FSM-STAGE:sam:dme:PkiEpUpdateEp:SetKeyRingPeer)
2025-12-23T04:17:00.678  176145  E4195253  [FSM:STAGE:END]: keyring configuration on
secondary (FSM-STAGE:sam:dme:PkiEpUpdateEp:SetKeyRingPeer)
2025-12-23T04:17:00.678  176146  E4197130  [FSM:STAGE:SKIP]: post processing after keyring
configuration on primary (FSM-STAGE:sam:dme:PkiEpUpdateEp:PostSetKeyRingLocal)
2025-12-23T04:17:00.678  176147  E4197130  [FSM:STAGE:END]: post processing after keyring
configuration on primary (FSM-STAGE:sam:dme:PkiEpUpdateEp:PostSetKeyRingLocal)
2025-12-23T04:17:00.678  176148  E4197131  [FSM:STAGE:SKIP]: post processing after keyring
configuration on secondary (FSM-STAGE:sam:dme:PkiEpUpdateEp:PostSetKeyRingPeer)
2025-12-23T04:17:00.678  176149  E4197131  [FSM:STAGE:END]: post processing after keyring
configuration on secondary (FSM-STAGE:sam:dme:PkiEpUpdateEp:PostSetKeyRingPeer)
2025-12-23T04:17:00.678  176150  E4195525  [FSM:END]: keyring
configuration (FSM:sam:dme:PkiEpUpdateEp)
2025-12-23T04:17:00.677  176142  E4195252  [FSM:STAGE:STALE-SUCCESS]: keyring configuration
on primary (FSM-STAGE:sam:dme:PkiEpUpdateEp:SetKeyRingLocal)

<--- remaining lines removed for brevity --->

FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show sel	サーバのシステム イベント ログ (SEL) の内容を表示します。

show fabric

ファブリックのケーブル接続情報を表示するには、ケーブル接続モードで **show fabric** コマンドを使用します。

show fabric [**breakout** | **detail** | **expand**]

構文の説明	a	(任意) ファブリック A 専用のケーブル接続情報を表示します。 (注) ファブリック B はありません。
	detail	(任意) ケーブル接続の詳細情報を表示します。このオプションでは expand キーワードを使用できます。
	expand	(任意) ポートブレイクアウトのケーブル接続に関する補足情報を表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できません。

コマンドモード scope cabling/

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドは一般的なファブリックのケーブル接続情報を表示します。

例

次の例は、ケーブル接続の補足情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope cabling
firepower /cabling # show fabric expand

cabling on switch:
  Id: A

  port breakout:
    Slot ID   Port ID   breakout type
    -----
             3         1 10g 4x
             3         2 10g 4x
firepower /cabling #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create breakout	新しいインターフェイス ブレイクアウトを作成します。

show fabric-interconnect

ファブリック インターコネクト情報を表示するには、**show fabric-interconnect** コマンドを使用します。

show fabric-interconnect [**a** | **b** | **detail** | **environment** | **firmware** | **fsm** | **inventory** | **mac-aging** | **mode** | **version**]

構文の説明

a	(任意) ファブリック A のファブリック インターコネクト情報を表示します。任意の detail キーワードを使用すると、ファブリックの詳細情報が表示されます。 (注) ファブリックは1つだけです。A は印です。そのため、このキーワードを入力する必要はありません。
b	(任意) 使用しないでください。ファブリック B はありません。
detail	(任意) ファブリック インターコネクトの詳細情報を表示します。
environment	(任意) ファブリック カードの情報を表示します。これらの任意のキーワードは利用可能です。 <ul style="list-style-type: none"> • a : ファブリック A の情報のみを表示します。このキーワードは任意です。ファブリックは1つだけです。 • b : 使用しないでください。ファブリック B はありません。 • detail : 詳細な環境情報を表示します。 • expand : 環境の補足情報を表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。 • fan : ファン固有の情報を表示します。このオプションでは detail および psu キーワードを使用できます。 • psu : 電源装置固有の情報を表示します。このオプションでは detail および fan キーワードを使用できます。
firmware	(任意) ファームウェアの情報を表示します。
fsm status	(任意) 有限状態マシンのステータス情報を表示します。
inventory	(任意) ファブリックの基本的なファームウェア情報を表示します。このオプションでは、 detail 、 expand 、 id キーワードを使用できます。
mac-aging	(任意) MAC テーブルのエージング タイムを表示します。

mode	(任意) ファブリック インターコネクト モードの情報を表示します。
-------------	------------------------------------

version	(任意) ファームウェア バージョンの情報を表示します。
----------------	------------------------------

コマンドモード	任意のコマンドモード
---------	------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	このコマンドにライセンスは必要ありません。
------------	-----------------------

例

次の例は、ファブリック インターコネクトの基本情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show fabric-interconnect
```

```
Fabric Interconnect:
  ID   OOB IP Addr   OOB Gateway   OOB Netmask   OOB IPv6 Address OOB IPv6 Gateway
  Prefix Operability
  ----
  A    10.201.153.14 10.201.153.1 255.255.255.0  ::              ::
  64   Operable
FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	scope fabric-interconnect	ファブリック インターコネクト モードを開始します。

show fan-module

インストールされているファンモジュールの情報を表示するには、シャシーモードで **show fan-module** コマンドを使用します。

show fan-module [[1 *module_id*] | **detail** | **expand**]

構文の説明	<i>tray_id module_id</i>	(任意) 特定のモジュールの情報を表示するには、 <i>tray_id module_id</i> を使用してモジュールを特定します。 <i>tray_id</i> は常に 1 です。 <i>module_id</i> は 1 ~ 8 で指定できます。
	detail	(任意) このキーワードを使用して、各ファンモジュールの詳細なステータス情報を表示します。
	expand	(任意) このキーワードを使用して、各ファンモジュールのステータス全体の情報を表示します。

コマンドモード scope chassis/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 引数やキーワードを指定せずにこのコマンドを使用すると、基本的なファンモジュール情報を表示できます。

例

次の例は、特定のファンモジュールの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope chassis
firepower /chassis # show fan-module 1 2 detail

Fan Module:
  Tray: 1
  Module: 2
  Overall Status: Operable
  Operability: Operable
  Threshold Status: OK
  Power State: On
  Presence: Equipped
  Thermal Status: OK
  Product Name: Cisco Firepower 9000 Series Fan
  PID: FPR9K-FAN
  VID: 01
  Part Number: 73-17509-01
  Vendor: Cisco Systems Inc
  Serial (SN): NWG194500D8
  HW Revision: 0
  Mfg Date: 2015-11-07T00:00:00.000
```

```
firepower /chassis #
```

関連コマンド

コマンド	説明
scope fan	特定のファンを有効にします。

show fault

障害情報を表示するには、**show fault** コマンドを使用します。

show fault [*ID* | **cause** | **detail** | **severity** | **suppressed**]

構文の説明	
<i>ID</i>	(任意) 指定された障害に関する情報のみを表示します。
cause <i>label</i>	(任意) <code>set-user-local-failed</code> など、原因ラベルが指定された障害を表示します。
detail	(任意) 各障害に関する詳細情報を表示します。
severity { cleared condition critical info major minor warning }	(任意) 指定されたシビラティ (重大度) のすべての障害を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • cleared • condition • critical • info • major • minor • warning
suppressed	(任意) 抑制されたすべての障害を表示します。 また、 cause 、 detail 、 severity のキーワードを追加することもできます。

コマンドモード 任意のコマンドモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、障害リストを表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show fault
Severity Code      Last Transition Time      ID      Description
-----
Major    F0276    2025-12-16T07:08:08.542    52605  ether port 1/1 on fabric interconnect
         A oper state: link-down, reason: Link failure or not-connected
Major    F0276    2025-12-16T07:08:08.542    78300  ether port 1/5 on fabric interconnect
```

```
A oper state: link-down, reason: Link failure or not-connected
Major    F0276    2025-12-16T07:08:08.542    78301 ether port 1/6 on fabric interconnect
A oper state: link-down, reason: Link failure or not-connected
Warning  F16683    2025-12-16T07:08:00.670    78430 [FSM:STAGE:FAILED]: internal system
        backup(FSM-STAGE:sam:dme:MgmtBackupBackup:upload)
Warning  F78123    2025-12-16T07:08:00.670    78428 [FSM:STAGE:REMOTE-ERROR]: Result:
        end-point-failed Code: unspecified
Message: End point timed out. Check for IP, port, password, disk space or network access
        related issues. #(sam:dme:MgmtBackupBackup:upload)

        <--- remaining lines removed for brevity --->

FP9300-A#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show server status	サーバのステータスに関する情報を表示します。

show fips-mode

現在の FIPS（連邦情報処理標準）モードのステータス情報を表示するには、**show fips-mode** コマンドを使用します。

show fips-mode

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

セキュリティ モード

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Firepower 4100/9300 シャーシで認定準拠を有効にしても、接続された論理デバイスにまでそのコンプライアンスは自動的に伝搬されません。

例

次の例は、セキュリティ モードを開始し、現在の FIPS モードのステータス情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # show fips-mode
FIPS Mode Admin State: Disabled
FIPS Mode Operational State: Disabled
FP9300-A /security #
```

関連コマンド

コマンド	説明
disable fips-mode	FIPS モードをディセーブルにします。
enable fips-mode	FIPS モードをイネーブルにします。

show firmware

システム ファームウェア情報を表示するには、**show firmware** コマンドを使用します。

show firmware [**detail** | **expand** | **monitor** | **package-version**]

構文の説明	detail
	(任意) このキーワードを使用して、デバイスの現在のファームウェアとスタートアップバージョン、実行中のバージョン、そのアクティブ ステータス、サービス マネージャのスタートアップバージョンを表示します。
	expand
	(任意) このキーワードを使用して、さまざまなシステムコンポーネントのバージョンとステータス情報の詳細なリストを表示します。
	monitor
	(任意) このキーワードを使用して、デバイスマネージャ、ファブリック インターコネクタ、およびシャーシサーバの現在のパッケージバージョンとアップグレード ステータスを表示します。
	package-version
	(任意) このキーワードを使用して、デバイスマネージャの現在のパッケージバージョンを表示します。

コマンドモード システム モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

show firmware monitor を使用すると、ファームウェア アップグレードのダウンロードとアクティベーションのステータスを繰り返しモニタできます。

例

次の例は、ファームウェアのバージョンとアップグレードのステータスをモニタする方法を示しています。

```
FP9300-A# scope system
FP9300-A /system # show firmware monitor
FPRM:
  Package-Vers: 2.4(1.52)
  Upgrade-Status: Ready

Fabric Interconnect A:
  Package-Vers: 2.4(1.52)
  Upgrade-Status: Ready

Chassis 1:
  Server 1:
    Package-Vers: 2.4(1.52)
```

```
Upgrade-Status: Ready
Server 2:
Package-Vers: 2.4 (1.52)
Upgrade-Status: Ready

FP9300-A /system #
```

関連コマンド

コマンド	説明
activate firmware	ファームウェア パッケージを有効にします。
show server firmware	サーバ ファームウェアのバージョンとステータス情報を表示します。

show (firmware-install)

現在のファームウェア パッケージ情報を表示するには、`firmware-install` モードで `show` コマンドを使用します。

`show` [`detail` | `event` | `fsm`]

構文の説明	detail	(任意) ファームウェア パッケージの詳細情報を表示するには、このキーワードを使用します。
	event [<code>event_ID</code> detail]	(任意) ファームウェアのアップグレード中に記録されたイベントを表示するには、このキーワードを使用します。 detail キーワードを使用できます。 このイベントの情報のみを表示するには、特定の <code>event_ID</code> を指定します。
	fsm { <code>status</code> <code>task</code> }	(任意) ファームウェア アップグレード関連の有限状態マシン (FSM) ステータスまたはタスク関連情報を表示するには、このキーワードを使用します。

コマンドモード ファームウェア インストール モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドは最近インストールされたファームウェア パッケージに関する情報を表示します。

例

次の例は、インストールされたファームウェア パッケージの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope firmware
FP9300-A /firmware # scope firmware-install
FP9300-A /firmware-install # show detail

Firmware Pack Install:
  Upgrade Package Version: 1.0.16
  Oper State: Ready
  Upgrade Status: Upgrade Complete Successful
  Current Task:
FP9300-A /firmware-install #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	install firmware	ファームウェア パッケージをインストールします。
	show download-task	ファームウェアパッケージのダウンロード操作に関する情報を表示します
	show firmware	システム ファームウェア情報を表示します。

show fw-infra-pack

システムで使用可能なファームウェア インフラストラクチャ パッケージのリストを表示するには、**show fw-infra-pack** コマンドを使用します。

show fw-infra-pack [detail]

構文の説明	detail	詳細なファームウェア パッケージ インフラストラクチャ情報を一覧表示します。
コマンドモード	scope org	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	これは、scope org. のコマンドの show サブコマンドです。	

例

次の例は、すべてのシステム ファームウェア インフラストラクチャ パッケージの情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /fabric-interconnect # scope org
Firepower /org # show fw-infra-pack
Infra Pack:
  Name                Description Infrastructure Bundle Version
  -----
  default              Infrastructure Pack
                        92.14 (0.0808g_libtirpc)
```

例

次の例は、使用可能なすべてのシステム ファームウェア インフラストラクチャ パッケージの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /org # show fw-infra-pack expand detail
Infra Pack:
  Name: default
  Description: Infrastructure Pack
  Infrastructure Bundle Version: 92.14 (0.0808g_libtirpc)

  Pack Image:
  HW Vendor: Cisco Systems
    HW Model: FPR-Manager
    Type: System
    Version: 92.13 (0.0808g)
    Presence: Present

  HW Vendor: Cisco Systems
```

```
HW Model: MGMTEXT
Type: 17
Version: 92.13(0.107g)
Presence: Present

HW Vendor: Cisco Systems, Inc.
HW Model: F9K-C9300-SUP-K9
Type: Fabric Interconnect Kernel
Version: 5.0(3)N2(92.130.0808g)
Presence: Present

HW Vendor: Cisco Systems, Inc.
HW Model: F9K-C9300-SUP-K9
Type: Fabric Interconnect System
Version: 5.0(3)N2(92.130.0808g)
Presence: Present

HW Vendor: Cisco Systems, Inc.
HW Model: FPR-4110-SUP
Type: Fabric Interconnect Kernel
Version: 5.0(3)N2(92.130.0808g)
Presence: Present

HW Vendor: Cisco Systems, Inc.
HW Model: FPR-4110-SUP
Type: Fabric Interconnect System
Version: 5.0(3)N2(92.130.0808g)
Presence: Present

HW Vendor: Cisco Systems, Inc.
HW Model: FPR-4112-SUP
Type: Fabric Interconnect Kernel
Version: 5.0(3)N2(92.130.0808g)
Presence: Present

HW Vendor: Cisco Systems, Inc.
HW Model: FPR-4112-SUP
Type: Fabric Interconnect System
Version: 5.0(3)N2(92.130.0808g)
Presence: Present

HW Vendor: Cisco Systems, Inc.
HW Model: FPR-4115-SUP
Type: Fabric Interconnect Kernel
Version: 5.0(3)N2(92.130.0808g)
Presence: Present
```

show hardware-bypass-ports

ハードウェアバイパスポート情報を表示するには、**show hardware-bypass-ports** コマンドを使用します。

show hardware-bypass-ports

構文の説明	show hardware-bypass-ports (任意) ハードウェアバイパス情報を表示します。
コマンドモード	任意のコマンドモード
コマンド履歴	リリース 変更内容 2.6(1) コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次の例は、バイパスポートペア情報を表示する方法を示しています。

```
FPR # scope fabric-interconnect
FPR /fabric-interconnect # show hardware-bypass-ports
```

hardware-bypass port pairs:

Port1 Val	Port2	Mode	Oper Mode	WDT	WDT
Ethernet2/1	Ethernet2/2	Standby	Standby	Enabled	1000
<-----Pair Ethernet 2/1-2 is in standby mode					
Ethernet2/3	Ethernet2/4	Disabled	Disabled	Disabled	0
Ethernet2/5	Ethernet2/6	Disabled	Disabled	Disabled	0
Ethernet2/7	Ethernet2/8	Disabled	Disabled	Disabled	0
Ethernet3/1	Ethernet3/2	Disabled	Disabled	Disabled	0
Ethernet3/3	Ethernet3/4	Switch Bypass	Switch Bypass	Enabled	1000
<-----Pair Ethernet 3/3-4 is in bypass mode (bypass is active)					
Ethernet3/5	Ethernet3/6	Switch Bypass	Switch Bypass	Enabled	1000
<-----Pair Ethernet 3/5-6 is in bypass mode (bypass is active)					

関連コマンド	コマンド	説明
	scope fabric-interconnect	ファブリック インターコネクト モードを開始します。

show https

現在の HTTPS サービスの設定を表示するには、**show https** コマンドを使用します。

show https

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

サービス モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、現在の HTTPS サービス設定を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope system
FP9300-A /system # scope services
FP9300-A /system/services # show https
Name: https
  Admin State: Enabled
  Port: 443
  Operational port: 443
  Key Ring: default
  Cipher suite mode: Medium Strength
  Cipher suite: ALL:!EDH-RSA-DES-CBC3-SHA:!EDH-DSS-DES-CBC3-SHA:!DES-CBC3-SHA:
!ADH:!3DES:!EXPORT40:!EXPORT56:!LOW:!RC4:!MD5:!IDEA:+HIGH:+MEDIUM:+EXP:+eNULL
  Htps authentication type: Cred Auth
  Crl mode: Relaxed
FP9300-A /system/services #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set https auth-type	HTTPS アクセス用の認証タイプを指定します。

show hw-crypto

TLS 暗号化アクセラレーションのステータスを表示するには、**show hw-crypto** コマンドを使用します。TLS 暗号化アクセラレーションに関する詳細については、*Management Center* コンフィギュレーションガイドを参照してください。

show hw-crypto

コマンドモード	connect module	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.7.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーションのステータスを表示します。

例

次に、TLS 暗号化アクセラレーションのステータスを表示する例を示します。

```
scope ssa
/ssa # show app-instance

App Name      Identifier Slot ID      Admin State Oper State      Running Version Startup
Version Deploy Type Turbo Mode Profile Name Cluster State Cluster Role
-----
ftd           FTD-FDM      1           Enabled      Online           6.5.0.1159      6.5.0.1159
Native       No           Not Applicable None
ftd           ftd2         2           Enabled      Online           6.5.0.1159      6.5.0.1159
Container    No           Default-Small Not Applicable None

/ssa # sc slot 2
/ssa/slot # scope app-instance ftd ftd2
/ssa/slot/app-instance # show hw-crypto

Hardware Crypto:
Admin State Hardware Crypto Size Hardware Crypto Version
-----
Enabled      13%           2
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create hw-crypto	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション 設定を作成します。
	delete hw-crypto	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション 設定を削除します。

コマンド	説明
scope hw-crypto	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション 設定を有効または無効にします。

show image detail

システムで使用可能なキックスタートイメージとシステムイメージのリストを表示するには、**show image** コマンドを使用します。

show image detail

構文の説明	detail	詳細な画像情報を一覧表示します。
コマンドモード	scope fabric-interconnect	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	これは、スコープファブリック インターコネクトモードでの show コマンドのサブコマンドです。	

例

この例は、すべてのキックスタートイメージとシステムイメージの情報を示しています。

```
firepower# /system/services # scope fabric-interconnect
firepower# /fabric-interconnect # show image
Name                                     Type                                     Version
-----
fxos-k9-kickstart.5.0.3.N2.4.111.85.SPA  Fabric Interconnect Kernel
1.85)                                     5.0(3)N2(4.11
fxos-k9-kickstart.5.0.3.N2.92.130.257g.gSSB Fabric Interconnect Kernel
30.257g)                                   5.0(3)N2(92.1
fxos-k9-system.5.0.3.N2.4.111.85.SPA      Fabric Interconnect System
1.85)                                       5.0(3)N2(4.11
fxos-k9-system.5.0.3.N2.92.130.257g.gSSB Fabric Interconnect System
30.257g)                                   5.0(3)N2(92.1
Mahendra-QPD /fabric-interconnect #
```

show identity

さまざまなシステム情報を表示するには、**show identity** コマンドを使用します。

```
show identity {ip-addr | ipv6-addr | iqn | mac-addr | uuid | wwn}
```

構文の説明

ip-addr	<p>(任意) 利用可能なすべての IP アドレスの情報をリストします。</p> <p>次のオプション キーワードを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• IPv4_address : 指定された IPv4 アドレスの ID 情報を表示します。• detail : IPv4 アドレスの詳細な ID 情報を表示します。• pool-info : プールの IPv4 アドレス情報を表示します。 detail キーワードも使用できます。• profile-info : プロファイルの IPv4 アドレス情報を表示します。 detail キーワードも使用できます。
ipv6-addr	<p>(任意) 利用可能なすべての IPv6 アドレスの情報をリストします。</p> <p>次のオプション キーワードを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• detail : IPv6 アドレスの詳細な ID 情報を表示します。• pool-info : プールの IPv6 アドレス情報を表示します。 detail キーワードも使用できます。• profile-info : プロファイルの IPv6 アドレス情報を表示します。 detail キーワードも使用できます。• IPv6_address : 指定された IPv6 アドレスの ID 情報を表示します。

iqn (任意) システムの iSCSI 修飾名 (IQN) ID に関する情報を表示します。

次のオプションキーワードも使用できます。

- **detail** : ID 情報の詳細をリスト形式で表示します。
- **pool-info** : プールの IQN ID 情報を表示します。 **detail** キーワードも使用できます。
- **profile-info** : プロファイルの IQN ID 情報を表示します。 **detail** キーワードも使用できます。
- **prefix** : 指定された IQN プレフィックスの情報を表示します。
- **name** : 名前付き IQN ID の情報を表示します。最大 510 文字を指定できます。

デフォルトでは、このコマンドは IQN プールに設定されているすべての IQN ID に関する情報をリストします。

mac-addr (任意) システムの MAC アドレスの ID 情報を表示します。

次のオプションキーワードも使用できます。

- **id** : 特定の MAC アドレスの ID 情報を表示します。
AA:BB:CC:DD:EE:FF 形式で MAC アドレスを指定します。
- **detail** : ID 情報の詳細をリスト形式で表示します。
- **pool-info** : プールの MAC アドレスの ID 情報を表示します。
detail キーワードも使用できます。
- **profile-info** : プロファイルの MAC アドレスの ID 情報を表示します。
detail キーワードも使用できます。

uuid	<p>(任意) システムの汎用一意識別子 (UUID) の ID 情報を表示します。</p> <p>次のオプションキーワードも使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • derived id : FFFF-FFFFFFFFFFFFFF 形式で入力および指定された UUID の ID 情報を表示します。 • detail : UUID の詳細な ID 情報を表示します。 • uuid_prefix : FFFFFFFF-FFFF-FFFF 形式で入力および指定された UUID プレフィックスの ID 情報を表示します。 • uuid : FFFFFFFF-FFFF-FFFF-FFFF-FFFFFFFFFFFFFF 形式で入力および指定された UUID の ID 情報を表示します。 • pool-info : プールの UUID ID 情報を表示します。 detail キーワードも使用できます。 • profile-info : プロファイルの UUID ID 情報を表示します。 detail キーワードも使用できます。
-------------	--

wwn	<p>(任意) システムのワールドワイド名 (WWN) 情報を表示します。</p> <p>次のオプションキーワードも使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • detail : ID 情報の詳細をリスト形式で表示します。 • id : 特定の WWN の ID 情報を表示します。 FF:FF:FF:FF:FF:FF:FF:FF 形式で一意の WWN 識別子が指定されています。 • pool-info : プールの ID 情報を表示します。 detail キーワードも使用できます。 • profile-info : プロファイルの ID 情報を表示します。 detail キーワードも使用できます。
------------	--

コマンドモード	任意のコマンドモード
---------	------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
1.1(1)		コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **show identity iqn** コマンドを使用するには、IQN プールおよびプレフィックスを順番に設定する必要があります。

例

次の例は、デバイスの IPv4 アドレスの詳細な ID 情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show identity ip-addr detail
IP Address: 192.0.2.9
    Assigned: No
    Assigned Service Profile:
    Owner: Pool
IP Address: 192.0.2.10
    Assigned: No
    Assigned Service Profile:
    Owner: Pool
IP Address: 192.0.2.11
    Assigned: No
    Assigned Service Profile:
    Owner: Pool
IP Address: 192.0.2.12
    Assigned: No
    Assigned Service Profile:
    Owner: Pool

    <--- remaining lines removed for brevity --->

FP9300-A#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show server identity	サーバ、アダプタ、およびインターフェイスの ID 情報を表示します。

show interface

イーサネットインターフェイスステータスを表示するには、**show interface** コマンドを使用します。

show interface [**detail** | **expand** | **fsm status** | *interface_id*]

構文の説明

detail	詳細なインターフェイス情報を表示します。
expand	インターフェイスおよびサブインターフェイスの情報を表形式以外で表示します。
fsm status	有限状態マシン (FSM) のステータスを表示します。
<i>interface_id</i>	Ethernet1/4 など、特定のイーサネットインターフェイスの情報を表示します。

コマンドモード

scope eth-uplink/scope fabric a/

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.4(1)	VLAN サブインターフェイスにフィールドが追加されました。
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドはイーサネットインターフェイスにのみ適用されます。EtherChannels については、**show port-channel** コマンドを参照してください。サブインターフェイスについては、**show subinterface** コマンドを参照してください。



(注) 単方向リンク検出 (UDLD) は FXOS ではサポートされていません。UDLD への参照を無視します。

例

次に、**show interface** コマンドの出力例を示します。

```
firepower# scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # show interface

Interface:
  Port Name          Port Type          Admin State Oper State          Allowed Vlan State
Reason
-----
-----
Ethernet1/2         Data               Enabled      Up                   All
```

Ethernet1/4	Mgmt	Enabled	Up		All	
Ethernet1/5	Data	Enabled	Up		Untagged	
Ethernet1/7	Firepower Eventing	Enabled	Up		All	
Ethernet1/8	Data	Disabled	Sfp Not Present	All		Unknown
Ethernet2/1	Data	Disabled	Sfp Not Present	All		Unknown
Ethernet2/2	Data	Disabled	Sfp Not Present	All		Unknown
Ethernet2/3	Data	Disabled	Sfp Not Present	All		Unknown
Ethernet2/4	Data	Disabled	Sfp Not Present	All		Unknown
Ethernet2/5	Data	Disabled	Sfp Not Present	All		Unknown
Ethernet2/6	Data	Disabled	Sfp Not Present	All		Unknown
Ethernet2/7	Data	Disabled	Sfp Not Present	All		Unknown
Ethernet2/8	Data	Disabled	Sfp Not Present	All		Unknown

次に、**show interface detail** コマンドの出力例を示します。

```
firepower# scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # show interface detail
```

Interface:

```
Port Name: Ethernet1/2
User Label:
Port Type: Data
Admin State: Enabled
Oper State: Up
State Reason:
flow control policy: default
Auto negotiation: No
Admin Speed: 1 Gbps
Oper Speed: 1 Gbps
Admin Duplex: Full Duplex
Oper Duplex: Full Duplex
Ethernet Link Profile name: default
Oper Ethernet Link Profile name: fabric/lan/eth-link-prof-default
Ulld Oper State: Admin Disabled
Inline Pair Admin State: Enabled
Inline Pair Peer Port Name:
Allowed Vlan: All
Network Control Policy: default
Current Task:
```

```
Port Name: Ethernet1/4
User Label:
Port Type: Mgmt
Admin State: Enabled
Oper State: Up
State Reason:
flow control policy: default
Auto negotiation: No
Admin Speed: 1 Gbps
Oper Speed: 1 Gbps
Admin Duplex: Full Duplex
Oper Duplex: Full Duplex
Ethernet Link Profile name: default
```

```

Oper Ethernet Link Profile name: fabric/lan/eth-link-prof-default
Udld Oper State: Admin Disabled
Inline Pair Admin State: Enabled
Inline Pair Peer Port Name:
Allowed Vlan: All
Network Control Policy: default
Current Task:

```

[...]

次に、**show interface expand** コマンドの出力例を示します。

```

firepower# scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # show interface expand

Interface:
  Port Name: Ethernet1/2
  Port Type: Data
  Admin State: Enabled
  Oper State: Up
  Allowed Vlan: All
  State Reason:

  Port Name: Ethernet1/4
  Port Type: Mgmt
  Admin State: Enabled
  Oper State: Up
  Allowed Vlan: All
  State Reason:

  Port Name: Ethernet1/5
  Port Type: Data
  Admin State: Enabled
  Oper State: Up
  Allowed Vlan: Untagged
  State Reason:

Sub Interface:
  Sub-If Id  Sub-Interface Name  VLAN      Port Type
  -----  -
          100 Ethernet1/5.100      500      Data Sharing

```

関連コマンド

コマンド	説明
show port-channel	EtherChannel ステータスを表示します。
show subinterface	サブインターフェイスのステータスを表示します。

show interface counter errors (connect fxos)

インターフェイス カウンタ エラーを表示するには、**show interface counter errors** コマンドを使用します。

show interface counter errors

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

connect fxos

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、インターフェイス カウンタ エラーを表示します。

例

次の例は、インターフェイス カウンタ エラー情報を表示する方法を示しています。

```
firepower#
firepower# connect fxos
...
firepower(fxos)# show interface counters errors
```

Port	Align-Err	FCS-Err	Xmit-Err	Rcv-Err	UnderSize	OutDiscards
Eth1/1	0	0	0	0	0	0
Eth1/2	0	0	0	0	0	0
Eth1/3	0	0	0	0	0	0
Eth1/4	0	0	948984	0	0	0

show interface transceiver (connect fxos)

トランシーバーの詳細とキャリブレーションを表示するには、**show interface transceiver** コマンドを使用します。

show interface transceiver | details | calibrations

構文の説明	details	詳細なインターフェイス トランシーバ情報を表示します。
	calibrations	詳細なキャリブレーション情報を表示します。
コマンドモード	connect fxos	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドは **connect fxos** シェルの **show interface** コマンドのサブコマンドです。

例

次の例は、インターフェイス トランシーバ関連の一連の簡単な情報を表示する方法を示しています。

```
firepower#
firepower# connect fxos
...
firepower(fxos)# show interface transceiver calibrations
Ethernet1/1
    transceiver is present
    type is 1000base-T
    name is CISCO-METHODE
    part number is SP7041-R
    revision is
    serial number is ABCD1234
    nominal bitrate is 1300 MBit/sec
    Link length supported for copper is 100 m
    cisco id is --
    cisco extended id number is 4

firepower(fxos)# show interface transceiver details
Ethernet1/1
    transceiver is present
    type is 1000base-T
    name is CISCO-METHODE
    part number is SP7041-R
    revision is
    serial number is ABCD1234
    nominal bitrate is 1300 MBit/sec
    Link length supported for copper is 100 m
    cisco id is --
    cisco extended id number is 4
```

```
DOM is not supported
```

show interface brief (connect fxos)

インターフェイス ステータスおよびその他の情報の減少を表示または保存するには、**show interface brief** コマンドを表示します。

show interface brief

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

connect fxos/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは **connect fxos** シェルの **show interface** コマンドのサブコマンドです。

例

次の例は、インターフェイス関連の情報の要約を表示する方法を示しています。

```
firepower # connect fxos
firepower (fxos) # show interface brief
```

```
-----
Ethernet      VLAN   Type Mode   Status Reason                               Speed   Port
Interface                                           Ch #
-----
Eth1/1        1      eth  1qtunl up     none                               1000 (D) 48
Eth1/2        1      eth  1qtunl up     none                               1000 (D) --
Eth1/3        1      eth  1qtunl down  suspended(no LACP PDU)           1000 (D) 1
Eth1/4        1      eth  1qtunl up     none                               1000 (D) --
Eth1/5        1      eth  1qtunl up     none                               1000 (D) --
Eth1/6        1      eth  1qtunl up     none                               1000 (D) 2
Eth1/7        1      eth  1qtunl up     none                               1000 (D) --
Eth1/8        1      eth  1qtunl down  SFP not inserted                  10G (D) --
Eth1/9        1      eth  vntag  up     none                               40G (D) --
Eth1/10       1      eth  vntag  up     none                               40G (D) --
Eth1/11       1      eth  vntag  up     none                               40G (D) --
Eth1/12       1      eth  vntag  up     none                               40G (D) --
Eth1/13       1      eth  access down  Administratively down             40G (D) --
Eth1/14       1      eth  access down  Administratively down             40G (D) --
Eth1/15       1      eth  access down  Administratively down             1000 (D) --
Eth1/16       1      eth  access down  Administratively down             1000 (D) --
Eth2/1        1      eth  1qtunl down  SFP not inserted                  10G (D) --
Eth2/2        1      eth  1qtunl down  SFP not inserted                  10G (D) --
Eth2/3        1      eth  1qtunl down  SFP not inserted                  1000 (D) --
Eth2/4        1      eth  1qtunl down  SFP not inserted                  1000 (D) --
Eth2/5        1      eth  1qtunl down  SFP not inserted                  10G (D) --
Eth2/6        1      eth  1qtunl down  SFP not inserted                  10G (D) --
Eth2/7        1      eth  1qtunl down  SFP not inserted                  10G (D) --
Eth2/8        1      eth  1qtunl down  SFP not inserted                  10G (D) --
-----
```

```

Port-channel VLAN      Type Mode   Status Reason                               Speed  Protocol
Interface
-----
Po1             1       eth 1qtunl down  No operational members              1000 (D) lacp
Po2             1       eth 1qtunl up    none                                 a-1000 (D) lacp
Po48            1       eth 1qtunl up    none                                 a-1000 (D) lacp
-----
Port   VRF           Status IP Address                            Speed  MTU
-----
mgmt0  --           down   --                                     --     1500
-----
Vethernet  VLAN  Type Mode   Status Reason                               Speed
-----
Veth721    4047  virt trunk up    none                                 auto
Veth722    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth723    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth724    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth725    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth726    4047  virt trunk up    none                                 auto
Veth727    4047  virt trunk up    none                                 auto
Veth728    4047  virt trunk up    none                                 auto
Veth736    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth737    1     virt trunk down  Administratively down              auto
Veth738    1     virt trunk down  Administratively down              auto
Veth739    4047  virt trunk up    none                                 auto
Veth740    4047  virt trunk up    none                                 auto
Veth741    4047  virt trunk up    none                                 auto
Veth757    4047  virt trunk up    none                                 auto
Veth758    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth759    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth760    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth761    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth762    4047  virt trunk up    none                                 auto
Veth763    4047  virt trunk up    none                                 auto
Veth764    4047  virt trunk up    none                                 auto
Veth772    1     virt trunk down  Administratively down              auto
Veth773    1     virt trunk down  Administratively down              auto
Veth774    1     virt trunk down  Administratively down              auto
Veth775    4047  virt trunk up    none                                 auto
Veth776    4047  virt trunk up    none                                 auto
Veth777    4047  virt trunk up    none                                 auto
Veth792    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth793    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth794    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth797    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth798    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth800    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth801    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth802    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth805    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth806    1     virt trunk up    none                                 auto
Veth2182   1     virt trunk up    none                                 auto
Veth2328   1     virt trunk up    none                                 auto
Veth2482   1     virt trunk up    none                                 auto
Veth2502   1     virt trunk up    none                                 auto
Veth2503   1     virt trunk down  nonParticipating                  auto
Veth2504   1     virt trunk up    none                                 auto
Veth2636   1     virt trunk up    none                                 auto
Veth2637   1     virt trunk up    none                                 auto
Veth2638   1     virt trunk down  nonParticipating                  auto
Veth2639   1     virt trunk up    none                                 auto
Veth2640   1     virt trunk up    none                                 auto

```

show interface brief (connect fxos)

```

Veth2660      1      virt trunk up      none      auto
Veth2661      1      virt trunk down    nonParticipating auto
Veth2662      1      virt trunk up      none      auto
Veth2788      1      virt trunk up      none      auto
Veth2789      1      virt trunk down    nonParticipating auto
Veth2790      1      virt trunk up      none      auto
Veth2791      1      virt trunk up      none      auto
firepower (fxos)#

```

次の表で、show interface brief コマンドにより表示される列を説明します。

表 5: show interface brief の各フィールド

フィールド	説明
インターフェイス ID	インターフェイスまたはポート識別子
VLAN	VLAN 識別子
タイプ	インターフェイス タイプ eth : 専用イーサネット インターフェイス virt : 仮想インターフェイス
モード (Mode)	動作ポート モード : layer3 : レイヤ 3 インターフェイス access : アクセス ポート trunk : トランク ポート pvlan : プライベート VLAN fabric : ファブリック ポート (F_port) lqtunl : lq-tunnel (802.1Q トンネル) ポート f-path : ファブリック パス
Status (ステータス)	インターフェイス状態 : up : ポートが稼働中です down : ポートが稼働停止しています testing : インターフェイスはテスト モードです。運用パケットを通過させることはできません trunking : トランキングが有効です link up : リンクは稼働中ですが、データプレーンのトラフィック用のポートはまだ完全に稼働していません。制御プロトコル用のポートは稼働しています

フィールド	説明
理由	

フィールド	説明
	<p>インターフェイス状態の詳細な理由 :</p> <p>トランシーバーの初期化中</p> <p>その他</p> <p>なし</p> <p>ハードウェア障害</p> <p>診断の失敗</p> <p>エラー ディセーブル化</p> <p>ポート ソフトウェア障害</p> <p>リンク障害または未接続</p> <p>オフライン</p> <p>未参加</p> <p>初期化中</p> <p>非アクティブ</p> <p>管理機能のダウン</p> <p>チャンネル管理機能のダウン</p> <p>中断 (インターフェイス)</p> <p>一時停止 (ポート)</p> <p>チャンネル メンバーシップの更新中</p> <p>RCF の実行中</p> <p>ELPが失敗したため、隔離されました</p> <p>ESCが失敗したため、隔離されました</p> <p>ドメインの重複により隔離されました</p> <p>ドメイン ID の割り当てが失敗したため、隔離されました</p> <p>反対側の E ポートが隔離されたため、隔離されました</p> <p>ファブリック再構成が無効なため、隔離されました</p> <p>ドメインマネージャが無効なため、隔離されました</p> <p>ゾーンのマージが失敗したため、隔離されました</p> <p>ピアで vsan が設定されていないため、隔離されました</p> <p>親インターフェイスの管理機能がダウンしました</p> <p>トンネルポートの送信元インターフェイスがバインドされていません</p>

フィールド	説明
	<p>インターフェイスが削除されました</p> <p>SFPがありません</p> <p>SFPベンダーがサポートされていないため、エラーが無効になりました</p> <p>管理ポートモードに互換性がないため、エラーが無効になりました</p> <p>管理ポート速度に互換性がないため、エラーが無効になりました</p> <p>モードに互換性がないため、中断しました</p> <p>速度に互換性がないため、中断しました</p> <p>リモート スイッチ WWNに互換性がないため、中断しました</p> <p>反対側のドメイン マネージャが応答しないため、隔離されました</p> <p>EPP 障害が原因でエラーが無効になりました</p> <p>ポート vsan が一致しないため、隔離されました</p> <p>同一スイッチへのポート ループバックが原因で隔離されました</p> <p>ラインカードのアップグレード中</p> <p>管理ポート rxbbcredit に互換性がないため、エラーが無効になりました</p> <p>管理ポート rxbufsize に互換性がないため、エラーが無効になりました</p> <p>動作中のメンバーがいません</p> <p>リモート ゾーン サーバが応答していないため、隔離されました</p> <p>このグループの最初のインターフェイスがEであるため、エラーが無効になりました</p> <p>このグループの他のインターフェイスがシャットダウンされていないため、エラーが無効になりました</p> <p>ピアによって TCP 接続がクローズされました</p> <p>ピア別の TCP 接続 rest</p> <p>TCP 最大再送信回数に達しました</p> <p>TCP キープ アライブ タイマーの期限が切れました</p> <p>TCP 持続タイマーの期限が切れました</p> <p>親イーサネット リンクがダウンしました</p> <p>親イーサネットがダウンしました</p> <p>管理設定変更</p>

フィールド	説明
	トンネル送信元ポートが削除されました
	トンネル送信元モジュールがオンラインではありません
	ポート チャネルの設定ミスの可能性があります
	ポート セキュリティ障害が原因で隔離されました
	ファブリック バインド障害が原因で隔離されました
	トランク上のピアと共通の vsan がいないため、隔離されました
	Ficon vsan がダウンしました
	ピアで無効なアタッチメント Ficon が設定されていません
	Ficon が原因でポートがブロックされました
	管理ポート rxbbcredit のパフォーマンス バッファに互換性がないため、エラーが無効になりました
	無効な flogis が多すぎるために中断しました
	ポート セキュリティにより中断しました
	ELP 障害リビジョンが一致しなしたため、隔離されました
	クラス F パラメータ エラーによる ELP 障害のため、隔離されました
	クラス N パラメータ エラーによる ELP 障害のため、隔離されました
	無効なフロー制御コードによる ELP 障害のため、隔離されました
	無効なフロー制御パラメータによる ELP 障害のため、隔離されました
	無効なポート名による ELP 障害のため、隔離されました
	無効なスイッチ名による ELP 障害のため、隔離されました
	R_A_TOV または E_D_TOV の不一致による ELP 障害のため、隔離されました
	検出されたループバックによる ELP 障害のため、隔離されました
	無効な B2B クレジットの伝送による ELP 障害のため、隔離されました
	無効なペイロード サイズによる ELP 障害のため、隔離されました
	ポートチャネルの設定ミスによりエラーが無効になりました
	ポートが使用できないために、リンク障害が発生しました
	信号消失により、リンク障害が発生しました

フィールド	説明
	同期ずれにより、リンク障害が発生しました
	リンク障害 NOS を受信しました
	リンク障害 OLS を受信しました
	再ネゴシエーションに失敗したため、リンク障害が発生しました
	空白以外の受信キューによりリンクリセットに失敗したため、リンク障害が発生しました
	過剰なクレジット損失が示されたため、リンク障害が発生しました
	受信キューのオーバーフローにより、リンク障害が発生しました
	過剰なポート割り込みが原因でエラーが無効になりました
	空白以外の受信キューによりループの初期化に失敗したため、リンク障害が発生しました
	空白以外のキューによりリンクリセットに失敗したため、リンク障害が発生しました
	受信キューが空でない場合に、OPNy がタイムアウトになったため、リンク障害が発生しました
	受信キューが空でない場合に、OPNy が返されたため、リンク障害が発生しました
	空白以外のキューによりリンクリセットに失敗したため、リンク障害が発生しました
	リンク障害または未接続
	FCSP に失敗したため、隔離されました
	SFP チェックサムエラー
	外部ループバック診断障害により、中断しました
	ファブリック バインディング交換が無効です
	TOV の不一致により、隔離されました
	ficon が有効になっていないため、エラーが無効になりました
	論理インターフェイスに ficon ポート番号がないため、エラーが無効になりました
	Ficon が有効です
	E TE ポートに禁止マスクが設定されているために、ポートがダウンしました
	グレースフルシャットダウン
	トランク上のすべての VSAN が稼働しているわけではありません

フィールド	説明
	ファブリック バインディング ピア スイッチ WWN が見つからないため、隔離されました
	ファブリック バインディング ピア ドメインが一致しないため、隔離されました
	ファブリック バインディング データベースが一致しないため、隔離されました
	ファブリック バインディングがピアから応答を受信しないため、隔離されました
	ダイナミック vsan の一時停止により中断されました
	ダイナミック vsan が見つからないため、中断されました
	すべてのトラッキング対象ポートがダウンしました
	ループ ポートで拡張レジット モードが許可されていないため、中断されました
	ポートチャネルの設定ミスにより隔離されました
	ピア デバイスがポートチャネルをサポートしていません
	ポート起動中に隔離されました
	ドメインが許可されていないため、隔離されました
	IVR 仮想ドメインの重複により隔離されました
	休止中または使用不可
	認証に失敗した
	単方向 UDLD が検出されました
	(注) 単方向リンク検出 (UDLD) はFXOSではサポートされていません。UDLD への参照を無視します。
	UDLD Tx Rx ループ
	UDLD ネイバーが一致しませんでした
	UDLD の空エコー
	UDLD においてアグレッシブ モードでリンク障害が検出されました
	ポート コネクタ タイプ エラー
	reinit 制限に達したため、エラーが無効になりました
	VSAN のポート番号が重複しています
	内部 RCF が実行中です

フィールド	説明
	重複する WWN
	他の無効な princ epp req を受信しました
	不明な理由により隔離されました
	不完全なトンネル設定
	ハードウェアプログラミングに失敗しました
	トンネル宛先アドレスへのルートがありません
	モジュールが削除されました
	MTU 割り当てに失敗しました
	すべてのパラメータが設定されていません
	SFP が挿入されていません
	トランシーバーが挿入されていません
	SFP がシスコ認定されていません
	トランシーバーはシスコ認定されていません
	ビットエラー レートのしきい値を超えました
	リンクがリセットされたため、リンク障害が発生しました
	ポートの初期化に失敗したため、リンク障害が発生しました
	ELP の障害、すべてのゼロ ピア WWN を受信しました
	優先パスにより隔離されました
	FC リダイレクトの隔離
	ポート アクティビティ ライセンスが使用できません
	SDM の隔離
	FCID 割り当てに失敗しました
	外部で無効になっています
	認証保留中
	バンドル内のホットスタンバイ
	チャンネルエラーが無効です
	ポートの機能が不明です
	送信元とトランスポート VRF が一致しません
	転送参照トランスポート VRF
	同じ設定の2つのトンネルインターフェイスは許可されていません

フィールド	説明
	<p>短時間でリンク フラップが多すぎます</p> <p>プライマリ vlan がダウンしました</p> <p>VRF が使用できません</p> <p>内部ハンドシェイク障害</p> <p>BPDU ガードによってエラーの無効化がトリガーされました</p> <p>ポートが無効です</p> <p>セキュリティ違反が原因でエラーが無効になりました</p> <p>モードが設定されていないため、トンネルインターフェイスがダウンしています</p> <p>送信元が設定されていないため、トンネルインターフェイスがダウンしています</p> <p>宛先が設定されていないため、トンネルインターフェイスがダウンしています</p> <p>トンネル送信元インターフェイスに関連付けられた IP アドレスを解決できなかったため、トンネルインターフェイスがダウンしています</p> <p>トンネル宛先に関連付けられた IP アドレスを解決できなかったため、トンネルインターフェイスがダウンしています</p> <p>トンネルインターフェイスに設定されている vrf がダウンしているため、トンネルインターフェイスがダウンしました</p> <p>VPC ピアリンクで STP に一貫性がないため、インターフェイスがエラーの無効化状態です</p> <p>STP セット ポート状態に障害があるため、インターフェイスがエラーの無効化状態です</p> <p>vpc によって中断されたため、ポートチャネルがダウンしています</p> <p>vpc 設定中です</p> <p>vpc ピア リンクがダウンしています</p> <p>ピアからの応答の受信に失敗したため、vpc がダウンしました</p> <p>互換性チェックに失敗したため、vpc がダウンしました</p> <p>TCAM バンクに十分な空きエントリがありません</p> <p>トンネル送信元インターフェイスがダウンしているため、トンネルインターフェイスがダウンしました</p> <p>IP アドレスの競合が原因でエラーが無効になりました</p>

フィールド	説明
	<p>ピン接続されたファブリック ポートがダウンしています</p> <p>ファブリック ポートが無効です</p> <p>FEX ファブリック sfp が無効です</p> <p>SDP のタイムアウト/SFP の不一致</p> <p>FEX ID の不一致</p> <p>ファブリック ポートで FEX ID が設定されていません</p> <p>IP QoS ポリシー アプリケーションに障害が発生したため、エラーが無効になりました</p> <p>ルータの mac 割り当てに失敗しました</p> <p>VLAN/BD が存在しません</p> <p>VLAN/BD がダウンしています</p> <p>VLAN タイプが無効です</p> <p>ポートで複数の MSAP ID を受信した DCX</p> <p>ACK を使用せずに DCX で 100 PDU を受信しました</p> <p>IP QoS DCBXP の互換性チェックに失敗しました</p> <p>minlinks が原因で中断しました</p> <p>親インターフェイスがダウンしています</p> <p>非アクティブ : M1 ポートが FabricPath モード VLAN で許可されていません</p> <p>トランシーバーでサポートされている速度がポートで設定されている速度と一致しません</p> <p>ポートでトランシーバーの認証に失敗しました</p> <p>vPC+ ピア リンク ファブリック パスのスイッチ ID が設定されていないため、起動に失敗しました</p> <p>vPC+ ピア リンク ポートがファブリック パス ポートとして設定されていないため、起動に失敗しました</p> <p>トランシーバーがイーサネット コンプライアンスに失敗しました</p> <p>速度グループ設定がトランシーバーのタイプと一致しません</p> <p>ピアから LACP PDU を受信しなかったため、中断しました</p>

フィールド	説明
速度 (Speed)	<p>インターフェイス速度 :</p> <p>Auto : 自動ネゴシエーション</p> <p>10 : 10 Mbps</p> <p>100 : 100 Mbps</p> <p>Auto110 : 10 ~ 100 Mbps の自動ネゴシエーション</p> <p>1000 : 1 Gbps</p> <p>10G : 10 Gbps</p> <p>a-10 : 自動ネゴシエーション、16 Mbps</p> <p>a-100 : 自動ネゴシエーション、106 Mbps</p> <p>a-1000 : 自動ネゴシエーション、1006 Mbps</p> <p>a-10G : 自動ネゴシエーション、10006 Mbps</p> <p>40G : 40000 Mbps</p> <p>100G : 100000 Mbps</p> <p>a-40G : 自動ネゴシエーション、40006 Mbps</p> <p>a-100G : 自動ネゴシエーション、100006 Mbps</p> <p>(注) 速度エントリに追加された (D) は専用インターフェイスを表し、(S) は共有を表します。</p>
ポート チャネル #	インターフェイスが割り当てられているポート チャネルの ID 番号 (存在する場合)。
プロトコル	<p>ポート チャネル プロトコル :</p> <p>none : Link Aggregation Control Protocol (LCAP) が有効になっていません</p> <p>lcap : LCAP が有効になっています</p>
VRF	ポートが割り当てられている virtual routing and forwarding (VRF) インスタンスの名前 (存在する場合)。
IP アドレス	ポート IP アドレス
MTU	ポート MTU (最大伝送ユニット) サイズ

関連コマンド	コマンド	説明
	show port	connect fxos モードでは、ポート情報を表示します。
	show vlan	connect fxos モードでは、VLAN 情報を表示します。

show inventory

シャーシおよびそこに取り付けられているモジュールに関する情報を表示するには、シャーシモードで **show inventory** コマンドを使用します。

show inventory [**detail** | **expand** | **fabric** | **fan** | **fi-iom** | **iom** | **psu** | **server** | **unspecified**]

構文の説明	detail	(任意) このキーワードを使用して、シャーシ自身の詳細情報を表示します。
	expand	(任意) このキーワードを使用して、シャーシの各コンポーネントに関する補足情報を表示します。
	fabric	(任意) このキーワードを使用して、ファブリック トランスポート情報を表示します。 キーワード detail も使用できます。
	fan	(任意) シャーシの各ファン モジュールに関する情報を表示します。 キーワード detail も使用できます。
	fi-iom	(任意) ファブリック インターコネクト スイッチ I/O モジュールの情報を表示します。 キーワード detail も使用できます。
	iom	(任意) シャーシの入出力モジュールの情報を表示します。 キーワード detail も使用できます。
	psu	(任意) 取り付けられた電源装置の情報を表示します。 キーワード detail も使用できます。
	server	(任意) 各サーバ コンポーネントの情報をリストします。 キーワード detail も使用できます。
	unspecified	(任意) シャーシ コンポーネントの情報をリストします。 キーワード detail も使用できます。
コマンドモード	scope chassis/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 引数やキーワードを指定せずにこのコマンドを使用すると、基本的なシャーシの情報を表示できます。

例

次の例は、シャーシインベントリの補足情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope chassis
firepower /chassis # show inventory expand
Chassis 1:
  Servers:
    Server 1/1:
      Equipped Product Name: Cisco Firepower 9000 Series Security Module
      Equipped PID: FPR9K-SM-24
      Equipped VID: V01
      Equipped Serial (SN): FCH19057S0L
      Slot Status: Equipped
      Acknowledged Product Name: Cisco Firepower 9000 Series Security Module
      Acknowledged PID: FPR9K-SM-24
      Acknowledged VID: V01
      Acknowledged Serial (SN): FCH19057S0L
      Acknowledged Memory (MB): 262144
      Acknowledged Effective Memory (MB): 262144
      Acknowledged Cores: 24
      Acknowledged Adapters: 2

    Server 1/2:
      Equipped Product Name: Cisco Firepower 9000 Series Security Module
      Equipped PID: FPR9K-SM-24
      Equipped VID: V01
      Equipped Serial (SN): FCH19057RTY
      Slot Status: Equipped
      Acknowledged Product Name: Cisco Firepower 9000 Series Security Module
      Acknowledged PID: FPR9K-SM-24
      Acknowledged VID: V01
      Acknowledged Serial (SN): FCH19057RTY
      Acknowledged Memory (MB): 262144
      Acknowledged Effective Memory (MB): 262144
      Acknowledged Cores: 24
      Acknowledged Adapters: 2

    Server 1/3:
      Equipped Product Name:
      Equipped PID:
      Equipped VID:
      Equipped Serial (SN):
      Slot Status: Empty
      Acknowledged Product Name:
      Acknowledged PID:
      Acknowledged VID:
      Acknowledged Serial (SN):
      Acknowledged Memory (MB):
      Acknowledged Effective Memory (MB):
      Acknowledged Cores:
      Acknowledged Adapters:

  PSU 1:
    Presence: Equipped
    Product Name: Cisco Firepower 9000 Series AC Power Supply
    PID: FPR9K-PS-AC
    VID: V00
    Vendor: Cisco Systems Inc
```

Serial (SN): DTM190705G3
HW Revision: 0

PSU 2:

Presence: Equipped
Product Name: Cisco Firepower 9000 Series AC Power Supply
PID: FPR9K-PS-AC
VID: V00
Vendor: Cisco Systems Inc
Serial (SN): DTM190705J8
HW Revision: 0

Fan Modules:

Tray 1 Module 1:

Presence: Equipped

ID	PID	Vendor	Serial (SN)	HW Revision
1	FPR9K-FAN	Cisco Systems I	NWG190200LD	0
2	FPR9K-FAN	Cisco Systems I	NWG190200LD	0

Tray 1 Module 2:

Presence: Equipped

ID	PID	Vendor	Serial (SN)	HW Revision
1	FPR9K-FAN	Cisco Systems I	NWG190200ML	0
2	FPR9K-FAN	Cisco Systems I	NWG190200ML	0

Tray 1 Module 3:

Presence: Equipped

ID	PID	Vendor	Serial (SN)	HW Revision
1	FPR9K-FAN	Cisco Systems I	NWG190200KZ	0
2	FPR9K-FAN	Cisco Systems I	NWG190200KZ	0

Tray 1 Module 4:

Presence: Equipped

ID	PID	Vendor	Serial (SN)	HW Revision
1	FPR9K-FAN	Cisco Systems I	NWG190200L8	0
2	FPR9K-FAN	Cisco Systems I	NWG190200L8	0

Switch IOCard 1:

Side: Left
Fabric ID: A
Product Name: Cisco FPR9K-SUP
PID: FPR9K-SUP
VID: V01
Vendor: Cisco Systems, Inc.
Serial (SN): JAD190800VU
HW Revision: 0

Fabric Card 1:

Description: Firepower 9300 Supervisor
Number of Ports: 8
State: Online
Vendor: Cisco Systems, Inc.
Model: FPR9K-SUP
HW Revision: 0
Serial (SN): JAD190800VU
Perf: N/A
Power State: Online
Presence: Equipped
Thermal Status: N/A
Voltage Status: N/A

```

Fabric Card 2:
  Description: Firepower 4x100G QSFP28 NM
  Number of Ports: 4
  State: Online
  Vendor: Cisco Systems, Inc.
  Model: FPR-NM-4X100G
  HW Revision: 0
  Serial (SN): JAD2151037Z
  Perf: N/A
  Power State: Online
  Presence: Equipped
  Thermal Status: N/A
  Voltage Status: N/A

```

```

Fabric Card 3:
  Description: Firepower 4x40G QSFP NM
  Number of Ports: 16
  State: Online
  Vendor: Cisco Systems, Inc.
  Model: FPR9K-NM-4X40G
  HW Revision: 0
  Serial (SN): JAD191601DK
  Perf: N/A
  Power State: Online
  Presence: Equipped
  Thermal Status: N/A
  Voltage Status: N/A

```

```

firepower /chassis #

```

関連コマンド

コマンド	説明
show environment	シャーシハードウェアのステータス情報を表示します。

show inventory (connect fxos)

スーパーバイザモジュールとネットワークモジュールの名前、説明、PID、シリアル番号などのシャーシインベントリに関する情報を表示するには、connect fxos モードで **show inventory** コマンドを使用します。

show inventory

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	connect fxos	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	引数やキーワードを指定せずにこのコマンドを使用すると、シャーシまたはモジュールの情報を表示できます。	

例

次の例は、シャーシインベントリまたはモジュール情報を表示する方法を示しています。

```
firepower#
firepower# connect fxos
...
firepower(fxos)# show inventory
NAME: "Chassis", DESCR: "Cisco Firepower 9300 Security Appliance"
PID: FPR9K-SUP          , VID: V08 , SN: ABCD123456

NAME: "Module 1", DESCR: "Firepower 9300 Supervisor"
PID: FPR9K-SUP          , VID: V08 , SN: CBDA123456

NAME: "Module 2", DESCR: "Firepower 4x40G QSFP NM"
PID: FPR-NM-4X40G      , VID: V01 , SN: CBDA654321
```

show ip-block

サービスアクセス用に現在定義されている IPv4 アドレス ブロックのリストを表示するには、**show ip-block** コマンドを使用します。

show ip-block [[*ip_address prefix_length* {**https|snmp|ssh**}] | **detail**]

構文の説明

ip_address prefix_length {**https|snmp|ssh**} (任意) 特定の IPv4 アドレス ブロックを表示するには、そのアドレス情報を入力します。

- IPv4 アドレス ブロックの開始アドレス。
- プレフィックス長。ブロック内のアドレスの数を決定します。値は 0 ~ 32 です。
- アドレスブロックが割り当てられるサービス (HTTPS、SNMP、または SSH)。

detail

(任意) **detail** キーワードを追加すると、各 IPv4 ブロックのアドレス、プレフィックス、およびサービスが個別の行として表示されます。

コマンドモード

サービス モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

IPv4 アドレスで現在許可されているブロックのリストを表示するには、このコマンドを使用します。サービスごとに最大 25 個の異なるブロックを設定できます。

例

次の例は、IPv4 アドレス ブロックの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope system
FP9300-A /system # scope services
FP9300-A /system/services # show ip-block detail
```

```
IP Address: 209.165.201.1
Prefix Length: 24
Protocol: https
```

```
Permitted IP Block:
IP Address: 0.0.0.0
Prefix Length: 0
Protocol: snmp
```

```
IP Address: 209.165.202.129
Prefix Length: 24
```

show ip-block

```
Protocol: ssh  
FP9300-A /system/services #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create ip-block	IPv4 ブロックを作成します。
delete ip-block	既存の IPv4 ブロックを削除します。

show ip-pool

システムで使用可能な IP プールのリストを表示するには、**show ip-pool** コマンドを使用します。

show ip-pool [*detail* | *expand* | *name*]

構文の説明	detail	(任意) 特定のプールの IP プール情報を表示します。 expand および expand キーワードはこのオプションで使用できます。
	expand	(任意) IP プールの拡張情報を表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。
	name	詳細な IP プール情報を一覧表示します。
コマンドモード	scope org	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン これは、scope org. のコマンドの **show** サブコマンドです。

例

次の例は、IP プール情報を表示する方法を示します。

```
Firepower /fabric-interconnect # scope org
Firepower /org # show ip-pool
IP Pool:
  Name                Size      Assigned  Management mode
  -----
  ext-mgmt             0         0         0 Internal
  iscsi-initiator-pool 0         0         0 Internal
  ssp-ippool-app-ccl   126      0         0 Internal
  ssp-ippool-inter-mgmt 117      0         0 Internal
```

例

次の例は、使用可能なすべての IP プールの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /org # show ip-pool expand detail
IP Pool:
  Name: ext-mgmt
  Size: 0
  Assigned: 0
  IPv4 Size: 0
```

```
IPv4 Assigned: 0
IPv6 Size: 0
IPv6 Assigned: 0
Descr:
Assignment Order: Default
Management mode: Internal
Guid: 00000000-0000-0000-0000-000000000000
Net bios enabled or disabled: Not Active
DHCP enaled or disabled: Not Supported
Name: iscsi-initiator-pool
Size: 0
Assigned: 0
IPv4 Size: 0
IPv4 Assigned: 0
IPv6 Size: 0
IPv6 Assigned: 0
Descr:
Assignment Order: Default
Management mode: Internal
Guid: 00000000-0000-0000-0000-000000000000
Net bios enabled or disabled: Not Active
DHCP enaled or disabled: Not Supported
Name: ssp-ippool-app-ccl
Size: 126
Assigned: 0
IPv4 Size: 126
IPv4 Assigned: 0
IPv6 Size: 0
IPv6 Assigned: 0
Descr: SSP service profile IP Pool for app ccl vlan
Assignment Order: Default
Management mode: Internal
Guid: 00000000-0000-0000-0000-000000000000
Net bios enabled or disabled: Not Active
DHCP enaled or disabled: Not Supported
```

show ipsec-log

IPSec 接続ログを表示するには、**show ipsec-log** コマンドを使用します。

show ipsec-log

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	IPsec モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	set log-level コマンドを使用して、次のログに表示される情報の量を変更します。	

例

次の例は、IPSec ログ ファイルの内容を表示する方法を示しています。

```

FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # scope ipsec
FP9300-A /security/ipsec # show ipsec-log
Feb 10 23:40:02 15[CFG] <test-connection|69> using trusted ca certificate "C=US, ST=CA,
L=SJC, O=Cisco, OU=STBU, CN=CA, E=ssp@ssp.net"
Feb 10 23:40:02 15[CFG] <test-connection|69> reached self-signed root ca with a path
length of 0
Feb 10 23:40:02 15[CFG] <test-connection|69> crl correctly signed by "C=US, ST=CA,
O=CA1, OU=cal, CN=InterCA1, E=cal@ca.net"
Feb 10 23:40:02 15[CFG] <test-connection|69> crl is valid: until Mar 12 22:30:51 2017
Feb 10 23:40:02 15[CFG] <test-connection|69> using cached crl
Feb 10 23:40:02 15[CFG] <test-connection|69> certificate status is good
Feb 10 23:40:02 15[CFG] <test-connection|69> using trusted ca certificate "C=US, ST=CA,
L=SJC, O=Cisco, OU=STBU, CN=CA, E=ssp@ssp.net"
Feb 10 23:40:02 15[CFG] <test-connection|69> checking certificate status of "C=US, ST=CA,
O=CA1, OU=cal, CN=InterCA1, E=cal@ca.net"
Feb 10 23:40:02 15[CFG] <test-connection|69> fetching crl from
'file:///opt/certstore/ssp2-tp.crl' ...
Feb 10 23:40:02 15[CFG] <test-connection|69> issuer of fetched CRL 'C=US, ST=CA, O=CA1,
OU=cal, CN=InterCA1, E=cal@ca.net' does not match CRL issuer
'56:71:f1:d9:b1:62:fd:c3:2b:4d:cb:6b:01:85:ea:75:e5:0e:99:0d'
Feb 10 23:40:02 15[CFG] <test-connection|69> fetching crl from
'http://192.168.0.81/interca_inuse.crl.pem' ...
Feb 10 23:40:02 15[CFG] <test-connection|69> using trusted certificate "C=US, ST=CA,
L=SJC, O=Cisco, OU=STBU, CN=CA, E=ssp@ssp.net"
Feb 10 23:40:02 15[CFG] <test-connection|69> crl correctly signed by "C=US, ST=CA,
L=SJC, O=Cisco, OU=STBU, CN=CA, E=ssp@ssp.net"
Feb 10 23:40:02 15[CFG] <test-connection|69> crl is valid: until Mar 12 22:30:49 2017
Feb 10 23:40:02 15[CFG] <test-connection|69> certificate status is good
Feb 10 23:40:02 15[CFG] <test-connection|69> reached self-signed root ca with a path
length of 1
Feb 10 23:40:02 15[IKE] <test-connection|69> authentication of 'C=US, ST=CA, O=Cisco,
OU=STBU, CN=SSP, E=ssp@ssp.net' with RSA signature successful
Feb 10 23:40:02 15[IKE] <test-connection|69> IKE_SA test-connection[69] established

```

show ipsec-log

```
between 192.168.0.174[C=US, ST=CA, O=Cisco, OU=STBU, CN=SSP]  
FP9300-A /security/ipsec #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set log-level	IPSec ログの詳細を設定します。

show ipv6-block

サービスアクセス用に現在定義されている IPv6 アドレス ブロックのリストを表示するには、**show ipv6-block** コマンドを使用します。

show ipv6-block *[[ipv6_address prefix_length {https|snmp|ssh}]] | detail*

構文の説明

ipv6_address prefix_length (任意) 特定の IPv6 アドレス ブロックを表示するには、そのアドレス情報を入力します。
{**https|snmp|ssh**}

- IPv6 アドレス ブロックの開始アドレス。
- プレフィックス長。ブロック内のアドレスの数を決定します。値は 0 ~ 128 です。
- アドレスブロックが割り当てられるサービス (HTTPS、SNMP、または SSH)。

detail

(任意) **detail** キーワードを追加すると、各 IPv6 ブロックのアドレス、プレフィックス、およびサービスが個別の行として表示されます。

コマンドモード

サービス モード

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

IPv6 アドレスで現在許可されているブロックのリストを表示するには、このコマンドを使用します。サービスごとに最大 25 個の異なるブロックを設定できます。

例

次の例は、IPv4 アドレス ブロックの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope system
FP9300-A /system # scope services
FP9300-A /system/services # show ip-block detail
```

```
IP Address: 2001:DB8:1::1
Prefix Length: 64
Protocol: https
```

```
Permitted IP Block:
IP Address: 0:0:0:0:0:0:0:0
Prefix Length: 0
Protocol: snmp
```

```
IP Address: 2001:DB8:0:ABCD::1
Prefix Length: 64
```

■ show ipv6-block

```
Protocol: ssh  
FP9300-A /system/services #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create ipv6-block	IPv6 ブロックを作成します。
delete ipv6-block	既存の IPv6 ブロックを削除します。

show ipv6-if

現在の IPv6 管理インターフェイス情報を表示するには、**show ipv6-if** コマンドを使用します。

構文の説明	detail	IPv6 管理インターフェイスの詳細情報をリストします。
	fsm status	IPv6 管理インターフェイスに関連する有限状態マシン (FSM) のステータス情報をリストします。
コマンドモード	IPv6 コンフィギュレーション (fabric-interconnect/ipv6-config) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドは IPv6 管理インターフェイス情報のみを表示します。

例

次の例は、IPv6 管理インターフェイス情報を表示する方法を示しています。

```

FP9300-A# scope fabric-interconnect
FP9300-A# scope ipv6-config
FP9300-A /fabric-interconnect/ipv6-config # show ipv6-if

Management IPv6 Interface:
IPv6 Address                               Prefix      IPv6 Gateway
-----
2001::8998                                 64         2001::1
FP9300-A /fabric-interconnect/ipv6-config #

FP9300-A# scope fabric-interconnect
FP9300-A# scope ipv6-config
FP9300-A /fabric-interconnect/ipv6-config # show ipv6-if
Management IPv6 Interface:
  IPv6 Address                               Prefix      IPv6 Gateway
      AutoCfg-method ReadyCfg-method IPv6 state   ND state
-----
::                                             64         2008::1
      Stablesec      Notset      Enable      Enable

```

関連コマンド	コマンド	説明
	scope fabric-interconnect	ファブリック インターコネクト モードを開始します。
	scope ipv6-config	IPv6 コンフィギュレーション モードを開始します。

show keyring

インポートされた証明書情報を表示するには、**show keyring** コマンドを使用します。

show keyring [detail | name]

構文の説明	detail	インポートされた証明書情報を表示します。
	name	(任意) 指定されたインポートされた証明書の内容を表示します。
コマンドモード	scope security	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **show keyring** は、scope security における **show** コマンドのサブコマンドです。

例

次の例は、インポートされた証明書を表示し、証明書のステータス値を確認する方法を示しています。

```
Firepower# scope security
Firepower# show keyring
Name                Key pair type  RSA key modulus Elliptic Curve TrustpointCA
-----
default            Rsa            Mod2048          Ec              invalid
```

次の例は、インポートされた証明書の内容を表示する方法を示しています。

```
Firepower /security # show keyring detail
Keyring default:
  RSA key modulus: Mod2048
  Trustpoint CA:
  Certificate status: Self Signed Certificate
  Certificate:
  Data:
    Version: 3 (0x2)
    Serial Number:
      6f:fe:83:56:a2:60:da:fd:66:f9:50:75:47:bd:48:da:86:dc:81:81
    Signature Algorithm: sha256WithRSAEncryption
    Issuer: CN = MOIO-2
    Validity
      Not Before: May 26 12:14:42 2012 GMT
      Not After : May 26 12:14:42 2014 GMT
    Subject: CN = MOIO-2
    Subject Public Key Info:
      Public Key Algorithm: rsaEncryption
      RSA Public-Key: (2048 bit)
      Modulus:
        00:d0:78:39:a6:c3:b7:dd:f3:c8:8c:90:5e:6c:43:
        9b:a0:d3:40:15:06:c9:cc:3b:d8:6c:f1:51:fc:5a:
        09:2c:7c:eb:f7:74:25:aa:1d:94:5c:d7:6e:95:61:
```

```

6b:8d:d7:52:23:c8:6c:c7:86:ef:a9:cf:f4:41:65:
2a:7f:9d:f9:b5:d3:1e:15:91:6e:b5:3d:4a:a7:49:
d5:a0:cb:4e:8e:1a:e7:55:f3:aa:f9:f3:2a:e8:36:
b6:e8:a8:15:ad:54:b2:8a:f8:f3:b1:2f:ab:8f:df:
c8:28:a6:1d:08:df:25:bd:58:8c:e0:8e:8f:ce:db:
5a:68:68:ce:9a:37:37:66:a8:fa:8c:50:4f:54:0e:
e8:cf:10:a3:70:6a:f9:08:c5:45:5d:38:4f:70:2f:
7a:85:ca:37:e6:67:bf:63:77:c1:24:89:8f:d0:7f:
1d:a2:db:08:ad:33:33:53:ee:95:a9:2f:a3:d6:c1:
bf:d7:de:cd:ac:60:e6:db:2c:1f:20:81:14:c8:f5:
ce:3b:ea:aa:ed:c6:d9:c3:32:5f:f7:e7:36:ce:79:
31:19:18:43:42:62:4a:fa:f6:77:36:85:04:49:e2:
e7:40:0e:f6:9f:a9:a3:9c:c5:23:5e:c8:bc:50:fd:
f6:36:7f:e0:46:59:70:3d:82:84:45:a7:59:23:35:
80:bd
Exponent: 65537 (0x10001)
X509v3 extensions:
  X509v3 Subject Alternative Name:
    DNS:MOIO-2, IP Address:10.0.0.6
Signature Algorithm: sha256WithRSAEncryption
cb:b6:f5:2a:96:4d:b9:a9:18:9f:00:fa:b6:e0:c0:0e:50:51:
79:74:ca:21:25:e5:ae:e1:fe:03:dc:0b:9b:f7:c0:02:d2:72:
e7:da:fd:f2:76:25:12:27:5f:bc:38:14:80:31:8c:e1:8b:5f:
f8:7b:14:28:7a:be:2a:22:b8:b5:ea:90:1d:69:af:38:1b:ae:
5e:c3:3c:95:f3:9b:32:0b:af:cb:2a:0b:5d:d7:57:77:25:df:
26:ef:5b:ec:fb:09:6e:87:60:fb:3a:14:de:09:5e:13:f6:a8:
10:70:50:e0:dd:cf:6d:78:4f:5e:27:d0:ad:92:db:65:fe:d7:
81:cf:fb:93:d3:1f:21:e1:3f:20:50:62:5b:d3:7d:80:49:82:
99:fc:74:9a:c3:d8:29:bf:2a:cb:a5:33:4d:dd:04:d2:fe:2c:
1d:81:27:cc:56:70:9d:3e:f0:5c:ef:3a:86:ef:21:0a:6b:da:
6c:7a:aa:1a:43:86:8c:f0:89:92:38:71:83:d9:8a:6c:47:22:
03:4d:84:05:69:57:e9:a4:e5:2b:e2:3c:de:63:a9:10:3c:19:
f2:2e:55:de:04:3a:6f:f1:e4:20:1b:2f:2f:38:b6:96:9f:7a:
6b:18:09:f5:89:cd:8a:bc:95:59:b0:91:e9:61:46:7f:6e:6a:
7c:0e:95:d7
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIICyzCCAbOgAwIBAgIUb/6DVqJg2v1m+VB1R71I2obcgYEwDQYJKoZIhvcNAQEL
BQAwETEPMA0GA1UEAwGTU9JTy0yMB4XDTEyMDUyNjE5MTQ0M1oXDTE0MDUyNjE5
MTQ0MlowETEPMA0GA1UEAwGTU9JTy0yMIIIBIjANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOCAQ8A
MIIBKgKCAQEA0Hg5ps033fPIjJBebEOboNNAFQbJzDvYbPFR/FoJLHzr93Q1qh2U
XNdulWFrjddSI8hsx4bvqc/0QWUqf535tdMeFZFutT1Kp0nVoMtOjhrnVfOq+fmQ
6Da26KgVrVSyivjzsS+rj9/IKKYdCN8lvIM4I6PzttaaGjOmc3Zqj6jFBPVA7o
zxCjCGr5CMVFXThPcC96hco35me/Y3fBJImP0H8dotsIrrTMzU+6VqS+j1sG/197N
rGDm2ywfIIEUyPX00+qq7cbZwzJf9+c2znkxGRhDQmJK+vZ3NoUESeLnQA72n6mj
nMUjXsi8UP32Nn/gR1lwPYKERadZIzWAvQIDAQABoxswGTAXBgNVHREEDAAOggZN
T01PLTKHBAoAAAYwDQYJKoZIhvcNAQELBQADggEBAMu29SqWTbmgGJ8A+rbgwA5Q
UX10yiE15a7h/gPcC5v3wALScufa/fJ2JRInX7w4FIAXjOGLX/h7FCh6vioiuLXq
kB1przgb17DPJXzmzILr8sqC13XV3c13ybvw+z7CW6HYPs6FN4JXhP2qBBwUODd
z214T14n0K2S22X+14HP+5PTHyHhPyBQYlvTfYBJgpn8dJrD2Cm/KsulM03dBNL+
LB2BJ8xWcJ0+8FzvOobvIQpr2mx6qhpDhozwiZI4cYPZ1mxHIgNNhAVpV+mk5Svi
PN5jqRA8GfIuVd4EOm/x5CABLy84tpafemsYCFWJzYq8lVmwkelhRn9uanwOldc=
-----END CERTIFICATE-----

```

Zeroized: No

show lacp (connect fxos)

Link Aggregation Control Protocol (LACP) 情報を表示するには、**show lacp** コマンドを使用します。

show lacp { **counters** | **interface** | **internal** | **issu-impact** | **neighbor** [**port-channel**] | **system-identifier** }

構文の説明

counters [interface port-channel <i>number</i>]	LACP トラフィック統計情報を表示します。 (任意) 特定のポートチャネルを指定し、そのポートチャネルの統計情報のみを表示することができます。有効なポートチャネル番号は 1 ~ 4096 です。
interface [br-ethernet <i>slot/chassis_num</i> ethernet <i>slot/chassis_num</i>]	イーサネットインターフェイスの LACP 情報を表示します。 (任意) ブレイクアウトイーサネットインターフェイスまたはイーサネットインターフェイスを指定すると、特定のインターフェイスに関する情報を表示することができます。

internal {**debug** | **buffer** | **event-history** | **info** | **mem-stats**} 指定されたキーワードに従って、内部LCAP情報と統計情報を表示します。

- **debug buffer** : LACP デバッグ情報を表示します。
- **event-history** : LACP イベント ログを表示します。次のいずれかのイベントタイプ キーワードが必要です。
 - **errors** : LCP エラー ログを表示します。
 - **global** : グローバル イベント トランザクションを表示します。
 - **ifindex index_ID** : 指定されたインターフェイスインデックスの LACP インターフェイス ログを表示します。有効な値は 0 ~ 2147483647 です。
 - **interface** {**br-ethernet slot/chassis_num** | **ethernet slot/chassis_num**} : 指定されたイーサネットインターフェイスの LACP イベントを表示します。
 - **lock** : LACP ロック ログを表示します。
 - **msgs** : LACP イベントメッセージ ログを表示します。
- **info** : 一般的な内部 LACP 情報を表示します。特定の情報タイプを指定するには、次のオプションのキーワードを使用できます。
 - **all** : すべての LACP 内部情報を表示します。
 - **global** : グローバル LACP 情報を表示します。
 - **ifindex index_ID** : 指定されたインターフェイスインデックスの LACP 統計情報を表示します。有効な値は 0 ~ 2147483647。
 - **interface** {**br-ethernet slot/chassis_num** | **ethernet slot/chassis_num**} : 指定されたイーサネットインターフェイスの LACP 情報を表示します。
 - **log** : LACP 情報ログを表示します。
 - **pc-db interface port-channel number** : 指定されたポートチャンネルの仮想ポートチャンネルデータベース (2lvp) のステータスを表示します。
 - **pss** : グローバル永続ストレージ サービス (PSS) 情報を表示します。
- **mem-stats** : LACP メモリの割り当てに関する統計情報を表示します。

issu-impact	インサービス ソフトウェア アップグレード (ISSU) オプションは FXOS には適用されません。
neighbor [interface port-channel <i>number</i>]	LACP ネイバーの情報を表示します。 (任意) 特定のポートチャネルを指定し、そのポートチャネルの情報のみを表示することができます。有効なポートチャネル番号は 1 ~ 4096 です。
port-channel [interface port-channel <i>number</i>]	すべてのポートチャネルに関する情報を表示します。 (任意) 特定のポートチャネルを指定し、そのポートチャネルの情報のみを表示することができます。有効なポートチャネル番号は 1 ~ 4096 です。
system-identifier	LACP システム ID を表示します。この ID は、ポートプライオリティとデバイスの MAC アドレスが組み合わされています。

コマンドモード

connect fxos/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、ネットワークの LACP に関連する問題のトラブルシューティングを行います。



- (注) FXOS コマンドシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトがデフォルトプロンプトから変更されます。(fxos) が付加されたデフォルトプロンプトというアプライアンスに割り当てられた名前です。次の例を参照してください。

例

次の例は、LACP カウンタを表示する方法を示しています。

```
firepower# connect fxos
firepower (fxos)# show lacp counters
Response LACPDU
Port      Sent   Recv   Sent   Recv   Sent   Recv   Pkts Err
-----
port-channel1
Ethernet1/3      20552782218005  0    0    0    0    0
port-channel2
Ethernet1/6      671621 724750  0    0    0    0    0
port-channel48
Ethernet1/1      23974772587653  0    0    0    0    0
```

```
firepower (fxos) #
```

次の例は、特定のポートチャネルの LACP 情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# connect fxos
firepower (fxos) # show lacp port-channel interface port-channel 48
port-channel48
  System Mac=b0-aa-77-2f-f0-af
  Local System Identifier=0x8000,b0-aa-77-2f-f0-af
  Admin key=0x2f
  Operational key=0x2f
  Partner System Identifier=0x8000,78-ba-f9-e2-60-c0
  Operational key=0x30
  Max delay=0
  Aggregate or individual=1
  Member Port List=
firepower (fxos) #
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear lacp counters	LACP カウンタをクリアします。

show license

ライセンスパッケージの一部またはすべての使用状況を表示するには、**show license** コマンドを使用します。

show license { **all** | **resvcode** | **status** | **summary** | **techsupport** | **udi** | **usage** }

構文の説明	パラメータ	説明
	all	すべてのライセンスのスマートライセンスのステータスと使用状況に関する情報を表示します。
	resvcode	生成された予約コード情報を表示します。
	status	スマートライセンスのステータス情報を表示します。
	summary	スマートライセンスの概要情報を表示します。
	techsupport	Cisco TAC への送信用に完全なスマートライセンス情報を表示します。
	udi	FXOS ユニバーサル デバイス識別子 (UDI) を表示します。
	usage	現在のライセンスの使用状況を表示します。

コマンドモード 任意のコマンドモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 永続ライセンスを購入する必要があります。ライセンスは Smart Software Manager で使用できます。すべてのアカウントがパーマネントライセンスの予約について承認されているわけではありません。

例

次の例は、すべてのライセンスパッケージの現在のステータスと使用状況を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show license all

Smart Licensing Status
=====

Smart Licensing is ENABLED

Registration:
  Status: REGISTERED
  Smart Account: Cisco SVS temp
  Virtual Account: Escalations
```

```
Export-Controlled Functionality: Allowed
Initial Registration: SUCCEEDED on Feb 10 18:55:08 2016 CST
Last Renewal Attempt: SUCCEEDED on Jun 27 06:11:11 2017 CDT
Next Renewal Attempt: Jul 28 03:02:49 2017 CDT
Registration Expires: Jun 27 06:05:09 2018 CDT

License Authorization:
Status: AUTHORIZED on Jul 05 18:19:38 2017 CDT
Last Communication Attempt: SUCCESS on Jul 05 18:19:38 2017
CDT
Next Communication Attempt: Aug 08 14:50:41 2017 CDT

<--- remaining lines removed for brevity --->

FP9300-A#
```

関連コマンド

コマンド	説明
scope license	ライセンス モードを開始します。

show local-user

特定のユーザまたはすべてのローカルユーザに関する情報を表示するには、**show local-user** コマンドを使用します。

show local-user [**detail** | *user_name*]

構文の説明	detail	(任意) ローカルユーザの詳細情報を表示します。
	<i>user_name</i>	(任意) 指定されたローカルユーザの情報を表示します。
コマンドモード	セキュリティモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン セキュリティモードでは、特定の *user_name* を入力しない限り、デフォルトですべてのローカルユーザの情報がリストされます。

ローカルユーザモードで **show** コマンドを使用すると、接続されているユーザの情報を表示できます。

例

次の例は、特定のローカルユーザの詳細なユーザ情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A /security # show local-user test_user detail
Local User test_user:
  First Name: test
  Last Name: user
  Email: test_user@testuser.com
  Phone:
  Expiration: Never
  Password: ****
  User lock status: Not Locked
  Account status: Active
  User Roles:
    Name: admin
    Name: read-only
  User SSH public key:
FP9300-A /security #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create local-user	新規のローカルユーザアカウントを作成します。
	delete local-user	既存のローカルユーザアカウントを削除します。

コマンド	説明
enter local-user	既存のローカル ユーザ アカウントを入力します。

show logical-device-template

システムで使用可能な ASA や FTD などの論理デバイスのテンプレートを表示するには、**show logical-device-template** コマンドを使用します。

show logical-device-template [**detail** | *expand* | *name*]

構文の説明

detail	詳細な論理デバイステンプレート情報を一覧表示します。
<i>name</i>	特定の論理デバイスの論理デバイステンプレート情報を表示します。このオプションでは、 expand および expand キーワードを使用できます。
<i>expand</i>	(任意) 論理デバイステンプレートの拡張情報を表示します。

コマンドモード

scope ssa

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.3.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

これは、スコープ **ssa** の **show** コマンドのサブコマンドです。

例

次の例は、すべての論理デバイスのテンプレート情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /fabric-interconnect # scope ssa
Firepower /ssa # show logical-device-template
```

```
Logical Device Template:
  Name      Version  Description
  -----
  asa       1
  ftd       1
Firepower /ssa # show logical
```

例

次の例は、システムで使用可能なすべての論理デバイスにおけるテンプレートの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /ssa # show logical-device-template detail
Logical Device Template:
  Name: asa
  Version: 1
  Description:
  Name: ftd
  Version: 1
  Description:
```

例

次の例は、システムで使用可能な論理デバイステンプレートの拡張における詳細情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /ssa # show logical-device-template expand detail
  QP1 /ssa # show logical-device-template expand detail
Logical Device Template:
  Name: asa
  Version: 1
  Description:
  Template Applications:
    App Name: asa
    Application can be a decorator: No
  Name: ftd
  Version: 1
  Description:
  Template Applications:
    App Name: ftd
    Application can be a decorator: No
```

show mac-address

コンテナ インスタンス インターフェイスの MAC アドレス割り当てを表示するには、**show mac-address** コマンドを使用します。

show mac-address [**detail** | *mac_address*]

構文の説明	detail	テーブル形式以外で MAC アドレスを表示します。
	<i>mac_address</i>	特定の MAC アドレスに関する情報を表示します。
コマンドモード	scope ssa/scope auto-macpool/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、コンテナ インスタンス インターフェイスにのみ適用され、ネイティブ インスタンスの MAC アドレスは表示されません。

例

次に、**show mac-address** コマンドの出力例を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope auto-macpool
firepower /ssa/auto-macpool # show mac-address
Mac Address Item:
  Mac Address          Owner Profile          Owner Name
  -----
A2:46:C4:00:00:1E    ftd13                  Port-channel14
A2:46:C4:00:00:20    ftd14                  Port-channel15
A2:46:C4:00:01:7B    ftd1                   Ethernet1/3
A2:46:C4:00:01:7C    ftd12                  Port-channel11
A2:46:C4:00:01:7D    ftd13                  Port-channel14
A2:46:C4:00:01:7E    ftd14                  Port-channel15
A2:46:C4:00:01:7F    ftd1                   Ethernet1/2
A2:46:C4:00:01:80    ftd12                  Ethernet1/2
A2:46:C4:00:01:81    ftd13                  Ethernet1/2
A2:46:C4:00:01:82    ftd14                  Ethernet1/2
A2:46:C4:00:01:83    ftd2                   Ethernet3/1/4
A2:46:C4:00:01:84    ftd2                   Ethernet3/1/1
A2:46:C4:00:01:85    ftd2                   Ethernet3/1/3
A2:46:C4:00:01:86    ftd2                   Ethernet3/1/2
A2:46:C4:00:01:87    ftd2                   Ethernet1/2
A2:46:C4:00:01:88    ftd1                   Port-channel21
A2:46:C4:00:01:89    ftd1                   Ethernet1/8
```

次に、**show mac-address detail** コマンドの出力例を示します。

```
firepower# scope ssa
```

```
firepower /ssa # scope auto-macpool
firepower /ssa/auto-macpool # show mac-address detail
```

```
Mac Address Item:
  Mac Address: A2:F0:B0:00:00:16
  Owner Profile: ftd1
  Owner Name: Ethernet1/5

  Mac Address: A2:F0:B0:00:00:17
  Owner Profile: ftd1
  Owner Name: Port-channel1

  Mac Address: A2:F0:B0:00:00:18
  Owner Profile: ftd1
  Owner Name: Ethernet1/4

  Mac Address: A2:F0:B0:00:00:19
  Owner Profile: ftd1
  Owner Name: Ethernet1/4
```

関連コマンド

コマンド	説明
create port-channel	EtherChannel (ポート チャンネル) を作成します。
create subinterface	サブインターフェイスを追加します。
scope interface	物理インターフェイス オブジェクトを入力します。
set port-type	インターフェイス タイプを設定します。

show member-port

ポートチャネルのメンバーポートに関するステータス情報を表示するには、**show member-port** コマンドを使用します。

show member-port [*slot_id port_id* | **detail** | **Ethernetslot_id**/*port_id* | **expand** | **fsm status**]

構文の説明

<i>slot_id port_id</i>	(任意) 単一のメンバーポートのスロットおよびポート番号を指定することにより、そのメンバーポートのステータス情報を表示することができます。 detail および expand キーワードはこのオプションで使用できます。
detail	(任意) すべてのメンバーポートの詳細情報を表示するには、このキーワードを使用します。このオプションでは expand キーワードを使用できます。
Ethernetslot_id / <i>port_id</i>	(任意) 単一のメンバーポートのイーサネットポートラベルを指定することにより、そのメンバーポートのステータス情報を表示することができます。このオプションでは detail キーワードを使用できます。
expand	(任意) すべてのメンバーポートに関する情報の拡張リストを表示するには、このキーワードを使用します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。
fsm status	(任意) メンバーポートの有限状態マシン (FSM) ステータス情報を表示するには、このキーワードを使用します。 スロットおよびポート番号 (<i>slot_id port_id</i>) を追加することにより、指定したメンバーポートの情報だけが表示されるようにすることができます。このオプションでは expand キーワードを使用できます。

コマンドモード

scope eth-uplink/scope fabric a/port-channel

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、ポートチャネルを作成または入力する必要があります。

このコマンドは、scope eth-uplink/scope fabric/port-channel モードでの **show** コマンドのサブコマンドです。

例

次の例は、特定のポートチャネルの拡張メンバーポート情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # enter port-channel 3
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel # show member-port expand
```

```
Member Port:
  Port Name      Membership      Oper State      State Reason
  -----
  Ethernet1/1    Up              Up
  Ethernet2/3    Suspended       Failed           Suspended
  Ethernet2/4    Down            Sfp Not Present Unknown
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create member-port	ポートチャネル メンバー ポートを作成します。
create port-channel	新しいポートチャネルを作成します。

show mac-pool

システムで使用可能な mac プールのリストを表示するには、**show mac-pool** コマンドを使用します。

show mac-pool [**detail** | **expand** | **name**]

構文の説明	detail	詳細な MAC プール情報を一覧表示します。
	expand	(任意) 特定のプールの MAC プール情報を表示します。 expand および expand キーワードはこのオプションで使用できます。
	name	(任意) MAC プールの拡張情報を表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。
コマンドモード	scope org	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン これは、scope org. のコマンドの **show** サブコマンドです。

例

次の例は、使用可能な MAC プールの情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /fabric-interconnect # scope org
Firepower /org # show mac-pool
```

```
MAC Pool:
  Name                Size      Assigned
  -----
  default              0         0
  ssp-macpool-ccl     200       0
  ssp-macpool-inter-vnics
                        300       81
  ssp-macpool-mio-external-ports
                        76        3
```

例

次の例は、使用可能な MAC プールの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /org # show mac-pool expand detail
```

```
MAC Pool:
  Name: default
```

```
Size: 0
Assigned: 0
Descr:
Assignment Order: Default

Name: ssp-macpool-ccl
Size: 200
Assigned: 0
Descr: SSP service profile MAC Pool for ccl
Assignment Order: Default

Block of MAC Addresses:
  From: 00:15:C5:00:00:00
  To: 00:15:C5:00:00:C7

Pooled:
  Id: 00:15:C5:00:00:00
  Assigned: No
Assigned To Dn:
  Poolable Dn: mac/00:15:C5:00:00:00/pool-31022
  Prev Assigned To Dn:

  Id: 00:15:C5:00:00:01
  Assigned: No
  Assigned To Dn:
  Poolable Dn: mac/00:15:C5:00:00:01/pool-31025
  Prev Assigned To Dn:

  Id: 00:15:C5:00:00:02
  Assigned: No
  Assigned To Dn:
  Poolable Dn: mac/00:15:C5:00:00:02/pool-31028
  Prev Assigned To Dn:
```

show memory

メモリモジュールの情報を表示するには、**show memory** コマンドを使用します。

show memory [*details*]

構文の説明	detail	詳細なバージョン情報を表示できます。
コマンドモード	scope chassis/scope server	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	これは、scope chassis 1 の下の scope server 1 の show コマンドのサブコマンドです。	

例

次の例は、特定のサーバーで使用可能なメモリモジュール情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope chassis 1
firepower /chassis # scope server 1
firepower /chassis/server # show memory
DIMM Location Presence Overall Status Type Capacity (MB)
Clock
-----
-----
1 DIMM_A1 Equipped Operable DDR4 16384
2666
2 DIMM_A2 Missing Removed Undisc Unknown
Unknown
3 DIMM_B1 Equipped Operable DDR4 16384
2666
4 DIMM_B2 Missing Removed Undisc Unknown
Unknown
5 DIMM_C1 Equipped Operable DDR4 16384
2666
6 DIMM_C2 Missing Removed Undisc Unknown
Unknown
7 DIMM_D1 Equipped Operable DDR4 16384
2666
8 DIMM_D2 Missing Removed Undisc Unknown
Unknown
9 DIMM_E1 Equipped Operable DDR4 16384
2666
10 DIMM_E2 Missing Removed Undisc Unknown
Unknown
11 DIMM_F1 Equipped Operable DDR4 16384
2666
12 DIMM_F2 Missing Removed Undisc Unknown
Unknown
13 DIMM_G1 Equipped Operable DDR4 16384
2666
```

```

    14 DIMM_G2    Missing    Removed    Undisc    Unknown
Unknown
    15 DIMM_H1    Equipped   Operable   DDR4      16384
2666
    16 DIMM_H2    Missing    Removed    Undisc    Unknown
Unknown
    17 DIMM_J1    Equipped   Operable   DDR4      16384
2666
    18 DIMM_J2    Missing    Removed    Undisc    Unknown
Unknown
    19 DIMM_K1    Equipped   Operable   DDR4      16384
2666
    20 DIMM_K2    Missing    Removed    Undisc    Unknown
Unknown
    21 DIMM_L1    Equipped   Operable   DDR4      16384
2666
    22 DIMM_L2    Missing    Removed    Undisc    Unknown
Unknown
    23 DIMM_M1    Equipped   Operable   DDR4      16384
2666
    24 DIMM_M2    Missing    Removed    Undisc    Unknown
Unknown
firepower /chassis/server #

```

例

次の例は、特定のサーバで使用可能なすべてのメモリモジュールの詳細情報を表示する方法を示しています。

```

firepower# scope chassis 1
KSEC-FPR4115-3 /chassis # scope server 1
KSEC-FPR4115-3 /chassis/server # show memory detail
ID 1:
  Location: DIMM_A1
Presence: Equipped
  Overall Status: Operable
  Visibility: Yes
  Vendor: 0x2C00
  Vendor Part Number: 18ASF2G72PDZ-2G6E1
  Vendor Serial (SN): 43585030
  HW Revision: 0
  Form Factor: DIMM
  Type: DDR4
  Capacity (MB): 16384
  Clock: 2666
  Latency: 0.400000
  Width: 64
ID 2:
  Location: DIMM_A2
Presence: Missing
Overall Status: Removed
Visibility: No
Vendor:
Vendor Part Number:
Vendor Serial (SN):
HW Revision: 0
Form Factor: Undisc
Type: Undisc
Capacity (MB): Unknown
Clock: Unknown
Latency: Unknown
Width: Unknown

```

```
ID 3:
  Location: DIMM_B1
  Presence: Equipped
  Overall Status: Operable
  Visibility: Yes
  Vendor: 0x2C00
  Vendor Part Number: 18ASF2G72PDZ-2G6E1
  Vendor Serial (SN): 4358534D
  HW Revision: 0
  Form Factor: DIMM
  Type: DDR4
  Capacity (MB): 16384
  Clock: 2666
  Latency: 0.400000
  Width: 64
  .....
  .....
  .....
firepower /chassis/server #
```

show (management interface)

現在の管理インターフェイス情報を表示するには、ファブリック インターコネクト モードで **show** コマンドを使用します。

show

構文の説明

ファブリック インターコネクト モードでは、このコマンドに多数のキーワードがありますが、修飾子を指定せずに **show** を入力すると、現在のファブリック管理インターフェイス情報が表示されます。

コマンドモード

scope fabric-interconnect/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、このコマンドは IPv4 および IPv6 管理インターフェイス情報を表示します。**detail** キーワードを追加すると、このインターフェイス情報がファブリック固有の追加情報とともに表示されます。

例

次の例は、管理インターフェイス情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope fabric-interconnect
firepower /fabric-interconnect # show

Fabric Interconnect:
ID   OOB IP Addr   OOB Gateway   OOB Netmask   OOB IPv6 Address OOB IPv6 Gateway
Prefix Operability
-----
A   192.0.2.112   192.0.2.1     255.255.255.0  ::              ::
64   Operable
firepower /fabric-interconnect #
```

関連コマンド

コマンド	説明
scope fabric-interconnect	ファブリック インターコネクト モードを開始します。
show ipv6-if	現在のデバイス管理 IPv6 アドレスを表示します。

show mgmt-port

デバイス管理ポートのステータス情報を表示するには、**show mgmt-port** コマンドを使用します。

```
(local-mgmt) # show mgmt-port
```

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

connect local-mgmt

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、デバイス管理インターフェイスの設定とステータスに関する情報を表示します。

例

次の例は、管理ポート情報を表示する方法を示しています。

```
firepower # connect local-mgmt
firepower(local-mgmt) # show mgmt-port
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr b0:aa:77:2f:f0:a9
          inet addr:10.89.5.14  Bcast:10.89.5.63  Mask:255.255.255.192
          inet6 addr: fe80::b2aa:77ff:fe2f:f0a9/64  Scope:Link
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:174151  errors:0  dropped:0  overruns:0  frame:0
          TX packets:101268  errors:0  dropped:0  overruns:0  carrier:0
          collisions:0  txqueuelen:1000
          RX bytes:15273492 (14.5 MiB)  TX bytes:80246582 (76.5 MiB)

firepower(local-mgmt) #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show open-network-ports	すべてのオープン ネットワーク ポートを表示します。

show monitor

セキュリティ モジュールごとの情報とリソースを表示するには、**show monitor** コマンドを使用します。

show monitor [**detail** | **expand**]

構文の説明	detail	モジュールの詳細なリソース使用状況を表示します。
	expand	ディスク ファイル システムに関する詳細情報を表示します。
コマンドモード	scope ssa/scope slot/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	CPU コア、メモリ、ディスク使用率を表示するためのフィールドが追加されました。
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン OS のバージョン、メモリ、稼働時間など、セキュリティ モジュールの情報を表示できます。このコマンドは、コンテナ インスタンスでリソースの可用性を追跡する場合に役立ちます。

例

次に、**show monitor** コマンドの出力例を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope slot 1
firepower /ssa/slot # show monitor

Monitor:
  OS Version Memory Total (MB) Memory Free (MB) Memory Used (MB) CPU Cores Available
Blade Uptime Last Updated Timestamp
-----
-----
  2.4 (1.101)                251844          222089          29755                22
up 19 days,  2:06

                2018-11-27T18:11:34.155
```

次に、**show monitor detail** コマンドの出力例を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope slot 1
firepower /ssa/slot # show monitor detail

Monitor:
  OS Version: 2.4(1.101)
  CPU Total Load 1 min Avg: 4.790000
```

```

CPU Total Load 5 min Avg: 4.790000
CPU Total Load 15 min Avg: 4.780000
Memory Total (MB): 251844
Memory Free (MB): 222084
Memory Used (MB): 29760
CPU Cores Total: 48
CPU Cores Available: 22
Memory App Total (MB): 226886
Memory App Available (MB): 108514
Data Disk Total (MB): 699651
Data Disk Available (MB): 535811
Secondary Disk Total (MB): 0
Secondary Disk Available (MB): 0
Disk File System Count: 5
Blade Uptime: up 19 days, 1:55
Last Updated Timestamp: 2018-11-27T18:00:04.560

```

次に、**show monitor expand** コマンドの出力例を示します。

```

firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope slot 1
firepower /ssa/slot # show monitor expand
Monitor:
  OS Version: 2.4(1.101)
  Memory Total (MB): 251844
  Memory Free (MB): 222089
  Memory Used (MB): 29755
  CPU Cores Available: 22
  Blade Uptime: up 19 days, 2:06
  Last Updated Timestamp: 2018-11-27T18:11:34.155

Disk File System:
  File System Mount Point Disk Total (MB) Disk Free (MB) Disk Used (MB)
  -----
  /dev/sda1 /mnt/boot 7614 7451 163
  /dev/sda2 /opt/cisco/config 1846 1707 43
  /dev/sda3 /opt/cisco/platform/logs 4565 4278 49
  /dev/sda5 /var/data/cores 46807 44368 54
  /dev/sda6 /opt/cisco/csp 699651 653295 46356

```

関連コマンド

コマンド	説明
show resource	リソースの使用率を表示します。

show nm-fpga-version

ネットワークアダプタの fpga バージョンを表示するには、**show nm-fpga-version** コマンドを使用します。

show nm-fpga-version [detail]

構文の説明	detail	詳細なバージョン情報。
コマンドモード	scope chassis 1	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	スコープシャーシ 1 の show コマンドのサブコマンド。	

例

次の例は、ネットワークモジュール fpga バージョンのバージョン情報を示しています。

```
firepower/fabric-interconnect # scope chassis 1
firepower /chassis # show nm-fpga-version
```

```
Network Module Version:
  Network Module Slot: 2
  Running-Vers: 0.6.0
  Package-Vers: 0.0
  Activate-Status: Ready
firepower/chassis #
```

show ntp-overall-status

システムのネットワーク タイム プロトコルの同期化ステータス全体を表示するには、**show ntp-overall-status** コマンドを使用します。

show ntp-overall-status

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、シャーシにインストールされているシャーシおよび論理デバイスの現在のクロック同期化ステータスを表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show ntp-overall-status

      NTP Overall Time-Sync Status: Time Synchronized
FP9300-A#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	システム クロックを表示します。

show ntp server

NTP サーバーを表示するには、**show ntp-server** コマンドを使用します。

show ntp-server

構文の説明	show ntp-server	このコマンドは、FXOS の NTP サーバーを表示します。
コマンドモード	scope system/scope services/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	デフォルトでは、このコマンドは NTP サーバーを表示します。	

例

次に、NTP サーバを表示する例を示します。

```
firepower# scope system;scope services
firepower /system/services # show ntp-server

NTP server hostname:
  Name                               Time Sync Status
  -----
  192.0.2.1                          Time Synchronized

firepower /system/services # show ntp-server expand detail

NTP server hostname:
  Name: 192.0.2.1
  Time Sync Status: Time Synchronized
  NTP SHA-1 key id: 0
  Error Msg:
```

show org

現在の組織情報を表示するには、**show org** コマンドを使用します。

show org [**detail** | *name*]

構文の説明	detail	(任意) 現在定義されているすべての組織の詳細を表示します。
	<i>name</i>	(任意) 指定された組織の情報を表示します。この識別子は最大16文字です。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、現在の組織情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show org
```

```
Organizations:
  Name: / (root)
FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	scope org	組織 (/org) モードを開始します。

show package

ダウンロードしたタスク情報を表示するには、**show package** コマンドを使用します。

show package [**detail** | **expand** | **type** *endpoint_type* | *name*]

構文の説明

detail	(任意) バージョン番号、タイムスタンプ、日付スタンプなど、詳細なパッケージ情報を表示します。
expand	(任意) 各パッケージにバンドルされているイメージをリストします。 detail キーワードも使用できます。
type <i>endpoint_type</i>	(任意) 指定されたパッケージエンドポイントタイプの情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • b-series-bundle : 利用可能な B シリーズバンドルの情報をリストします。 • c-series-bundle : 利用可能な C シリーズバンドルの情報をリストします。 • catalog : イメージおよびパッケージをリストする FXOS イメージカタログの情報を表示します。 • firmware-fpr4k-bundle : 利用可能な FP4100 シリーズファームウェアバンドルの情報をリストします。 • firmware-fpr9k-bundle : 利用可能な FP9300 ファームウェアバンドルの情報をリストします。 • image : 利用可能なファームウェアイメージをリストします。 • full-bundle : ダウンロードされたすべてのバンドルの情報をリストします。 • infrastructure-bundle : ダウンロードされたインフラストラクチャバンドルの情報をリストします。 • platform-bundle : ダウンロードされたプラットフォームバンドルの情報をリストします。 • unknown : ダウンロードされた不明なタイプのバンドルの情報をリストします。 <p>detail と expand のキーワードはこのオプションでも使用できます。</p>
<i>name</i>	(任意) 指定されたパッケージの情報を表示します。 detail 、 expand 、 type のキーワードはこのオプションでも使用できます。

show package

コマンドモード ファームウェア モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン *name* を含めない場合、**show package** コマンドはアプライアンスのすべてのファームウェアパッケージの情報をリストします。

例

次の例は、特定のファームウェアパッケージの詳細情報と補足情報を表示する方法を示しています。

```

FP9300-A# scope firmware
FP9300-A /firmware # show package fxos-k9.2.3.1.51.SPA detail
Firmware Package fxos-k9.2.3.1.51.SPA:
  Version: 2.3(1.51)
  Type: Platform Bundle
  State: Active
Time Stamp: 2017-10-25T16:53:30.000
Build Date: 2017-10-21 09:10:36 UTC
FP9300-A /firmware # show package fxos-k9.2.3.1.51.SPA expand
Package fxos-k9.2.3.1.51.SPA:
  Images:
    fxos-k9-bundle-infra.2.3.1.51.SPA
    fxos-k9-bundle-server.2.3.1.51.SPA
FP9300-A /firmware #

```

関連コマンド	コマンド	説明
	show server firmware	サーバファームウェアのバージョンとステータス情報を表示します。
	verify platform-pack	指定された FXOS プラットフォーム イメージを確認します。

show password-profile

パスワードプロファイル情報を表示するには、**show password-profile** コマンドを使用します。

show password-profile [detail]

構文の説明	detail (任意) パスワードプロファイルの詳細情報を表示します。
コマンドモード	セキュリティ モード
コマンド履歴	リリース 変更内容 1.1(1) コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	デフォルトでは、このコマンドは現在のセキュリティパスワードプロファイルの情報をリストします。

例

次の例は、パスワードプロファイルの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # show password-profile detail

Password profile:
  Password history count: 5
  No password changes allowed (in Hours): 24
  Password change during interval: Enable
  Password change interval (in Hours): 48
  Password change count: 2
FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	scope password-profile	パスワードプロファイルモードを開始します。

show pki fsm status

FSM の情報を表示するには、**show pki fsm status** コマンドを使用します。

show pki fsm status [**expand** | **detail**]

構文の説明	expand	FSM のステータスを表示します。
	詳細	FSM ステータスの詳細な内容を表示します。
コマンドモード	scope security	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、これは scope security の **show** コマンドのサブコマンドです。

例

次の例は、FSM ステータスを表示する方法を示しています。

```
Firepower# scope security
Firepower # show pki fsm status expand detail
    FSM Status:
      Affected Object: sys/pki-ext/fsm
      Current FSM: updateEp
      Status: Success
      Completion Time: 2022-08-23T05:14:02.628
      Progress (%): 100
      Description:
      Remote Result: Not Applicable
      Error Code: None
      Error Description:

    FSM Stage:

      Order: 1
      Stage Name: updateEpSetKeyRingLocal
      Status: Success
      Try: 1
      Last Update Time: 2022-08-23T05:14:02.626
      Stage Description: keyring configuration on
      primary (FSM-STAGE:sam:dme:PkiEpUpdateEp:SetKeyRingLocal)

      Order: 2
      Stage Name: updateEpSetKeyRingPeer
      Status: Skip
      Try: 0
      Last Update Time: 2022-08-23T05:14:02.626
      Stage Description: keyring configuration on
      secondary (FSM-STAGE:sam:dme:PkiEpUpdateEp:SetKeyRingPeer)

      Order: 3
```

```
Stage Name: updateEpPostSetKeyRingLocal
Status: Skip
Try: 0
Last Update Time: 2022-08-23T05:14:02.627
Stage Description: post processing after keyring configuration on
primary(FSM-STAGE:sam:dme:PkiEpUpdateEp:PostSetKeyRingLocal)

Order: 4
Stage Name: updateEpPostSetKeyRingPeer
Status: Skip
Try: 0
Last Update Time: 2022-08-23T05:14:02.628
condary(FSM-STAGE:sam:dme:PkiEpUpdateEp:PostSetKeyRingPeer)g configuration on se--More--
```

show pmon state

ローカル管理モードでプロセスのステータスを表示するには、**show pmon state** コマンドを使用します。

show pmon state

構文の説明	show pmon state	ローカル管理モードのプロセスの状態を表示します。
コマンドモード	connect local-mgmt	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	デフォルトでは、このコマンドはローカル管理モードのプロセスのステータスを一覧表示します。	

例

次の例は、ローカル管理モードでプロセス情報のステータスを表示する方法を示しています。

```
firepower#
firepower# connect local-mgmt
...
firepower(local-mgmt)#(local-mgmt)# show pmon state

SERVICE NAME          STATE      RETRY (MAX)  EXITCODE    SIGNAL    CORE
-----
svc_sam_controller     running    0(4)         0           0        no
smConLogger            running    0(4)         0           0        no
svc_sam_dme            running    0(4)         0           0        no
svc_sam_dcosAG        running    0(4)         0           0        no
svc_sam_bladeAG       running    0(4)         0           0        no
svc_sam_portAG        running    0(4)         0           0        no
svc_sam_statsAG       running    0(4)         0           0        no
svc_sam_hostagentAG   running    0(4)         0           0        no
svc_sam_nicAG         running    0(4)         0           0        no
svc_sam_licenseAG     running    0(4)         0           0        no
svc_sam_extvmmAG      running    0(4)         0           0        no
httpd.sh              running    0(4)         0           0        no
...
```

show post

最新の BIOS 電源投入時自己診断テスト (POST) 中に発生したエラーを表示するには、**show post** コマンドを使用します。

show post [*id* | **detail** | **expand** | **no-errors**]

構文の説明	<i>id</i>	(任意) 特定のサーバの POST 情報を表示します。有効な値は 0 ~ 42949667295 です。
	detail	(任意) 追加の POST 詳細を表示します。
	expand	(任意) すべての POST 情報を表示します。
	no-errors	(任意) エラーのない POST 情報を表示します。

コマンドモード (任意) サーバ (/chassis/server) モードで最も関連性の高いコマンドモード。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン サーバ モードでこのコマンドを使用します。

例

次の例は、POST 情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope server 1/1
FP9300-A /chassis/server # show post

POST:
Global ID Code      Severity Affected Object      Description
-----
608      Post 608 Info      sys/chassis-1/blade-1 Invalid DIMM Configuration
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show server bios	サーバ BIOS ファームウェア情報を表示します。

show pre-login-banner

ログイン前バナーを表示するには、**show pre-login-banner** コマンドを使用します。

show pre-login-banner

コマンドモード	scope security
---------	----------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドはログイン前のバナー情報を表示します。

例

次の例では、ログイン前のバナー情報を表示します。

```
firepower# scope security
firepower /security # scope banner
firepower /security/banner # show pre-login-banner
```

```
Pre login banner:
Message
-----
TEST
```

show port-channel (connect fxos)

設定済みポート チャンネルの情報を表示するには、**show port-channel** コマンドを使用します。

```
show port-channel { capacity | compatibility-parameters | database | internal | load-balance |  
summary | traffic | usage }
```

構文の説明

capacity	利用可能な合計容量と使用中の合計容量など、ポートチャンネルの容量情報を表示します。
compatibility-parameters	ポートチャンネルインターフェイスの互換性要件とステータスをリストします。
database [interface port-channel <i>number</i>]	<p>動作中のポートとポートチャンネルの期間など、ポートチャンネルの設定とステータス情報をリストします。</p> <p>(任意) 特定のポートチャンネルを指定し、そのポートチャンネルの情報のみを表示することができます。有効なポートチャンネル番号は1～4096です。</p> <p>ポートチャンネル番号の後にドットとサブインターフェイス番号 (<i>. subinterface_num</i>) を追加すると、サブインターフェイスを指定できます。</p> <p>また、ポートチャンネルの範囲または複数の範囲を指定して表示することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none">• 1つの範囲を指定するには、<i>start_num - end_num</i> と入力します• 複数の範囲を指定するには、<i>start_num - end_num , start_num - end_num ,</i> などのように入力します

internal { event-history info max-channels mem-stat sdb }	<p>次のいずれかのキーワードを使用して、さまざまな内部統計情報のポートチャンネル情報を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • event-history : さまざまなポートチャンネル イベント タイプのログを表示できます。 • info : すべてのグローバル内部ポートチャンネル情報またはインターフェイス固有のポートチャンネル情報を表示できます。 • max-channels : このデバイスで許可されているポートチャンネルの最大数を表示します。 • mem-stats : プライベートメモリの割り当てに関する統計情報を表示します。オプションのキーワード detail を使用すると、詳細な統計情報を表示できます。 • sdb : ポートチャンネル内部ステータス情報をダンプします。 <p>ほとんどのオプションには、別のオプションとキーワードが追加されています。 show port-channel internal keyword? コマンドを使用すると、そのオプションが表示されます。</p>
load-balance	ポートチャンネル ロード バランスを設定します。
summary [interface port-channel <i>number</i>]	<p>ポートチャンネル概要を表示します。</p> <p>(任意) 特定のポートチャンネルを指定し、そのポートチャンネルの情報のみを表示することができます。有効なポートチャンネル番号は 1 ~ 4096 です。</p> <p>ポートチャンネル番号の後にドットとサブインターフェイス番号 (<i>.subinterface_num</i>) を追加すると、サブインターフェイスを指定できます。</p>
traffic [interface port-channel <i>number</i>]	<p>ポートチャンネル トラフィック 統計情報を表示します。</p> <p>(任意) 特定のポートチャンネルを指定し、そのポートチャンネルの情報のみを表示することができます。有効なポートチャンネル番号は 1 ~ 4096 です。</p> <p>ポートチャンネル番号の後にドットとサブインターフェイス番号 (<i>.subinterface_num</i>) を追加すると、サブインターフェイスを指定できます。</p>
usage	現在使用されている、および未使用のポートチャンネル ID 番号をリストします。

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1.1

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドは **connect fxos** シェルの **show** コマンドのサブコマンドです。



- (注) FXOS コマンドシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトがデフォルトプロンプトから変更されます。(fxos)が付加されたデフォルトプロンプトというアプライアンスに割り当てられた名前です。次の例を参照してください。

例

次の例は、ポートチャネルの概要情報を表示する方法を示しています。

```
firepower # connect fxos
firepower(fxos)# show port-channel summary
Flags: D - Down          P - Up in port-channel (members)
       I - Individual    H - Hot-standby (LACP only)
       s - Suspended     r - Module-removed
       S - Switched      R - Routed
       U - Up (port-channel)
       M - Not in use. Min-links not met
```

```
-----
Group Port-      Type      Protocol  Member Ports
Channel
-----
1     Po1 (SU)    Eth       LACP      Eth1/3 (P)
2     Po2 (SU)    Eth       LACP      Eth1/6 (P)
48    Po48 (SU)   Eth       LACP      Eth1/1 (P)
firepower(fxos)#
```

次の例は、ポートチャネルのトラフィック情報を表示する方法を示しています。

```
firepower # connect fxos
firepower(fxos)# show port-channel traffic
ChanId      Port  Rx-Ucst Tx-Ucst Rx-Mcst Tx-Mcst Rx-Bcst Tx-Bcst
-----
1     Eth1/3  0.0%   0.0% 100.00% 100.00%  0.0%   0.0%
-----
2     Eth1/6  0.0%   0.0% 100.00% 100.00%  0.0%   0.0%
-----
48    Eth1/1  0.0%   0.0% 100.00% 100.00%  0.0% 100.00%
firepower(fxos)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
enter member-port	既存のメンバーポートを入力するか、存在しない場合には作成します。
enter port-channel	既存のポートチャネルを入力するか、存在しない場合には作成します。

show port-channel (scope fabric)

ステータス情報を含む現在のポートチャネルのリストを表示するには、**show port-channel** コマンドを使用します。

show port-channel [**detail** | **expand** | *port_channel_num*]

構文の説明	detail
	詳細なポートチャネル情報をリストします。このオプションでは expand キーワードを使用できます。
	expand
	ポートチャネルの補足情報をリストします。このオプションでは detail キーワードを使用できます。
	port_channel_num
	指定されたポートチャネルのステータス情報のみを表示します。 detail および expand キーワードはこのオプションで使用できます。

コマンドモード scope eth-uplink/scope fabric/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン これは、scope eth-uplink/scope fabric モードでの **show** コマンドのサブコマンドです。

ポートチャネル番号を指定しない場合、すべてのポートチャネルの情報が一覧表示されます。

例

次の例は、特定のポートチャネルの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
firepower /eth-uplink/fabric # show port-channel 48 detail
```

```
Port Channel:
  Port Channel Id: 48
  Name: Port-channel48
  Port Type: Cluster
  Description:
  Admin State: Enabled
  Oper State: Up
  Port Channel Mode: Active
  Port Channel Mode State: Enabled
  Auto negotiation: No
  Speed: 1 Gbps
  Duplex: Full Duplex
  Oper Speed: 1 Gbps
  Band Width (Gbps): 1
  State Reason:
  flow control policy: default
  LACP policy name: default
  Oper LACP Policy Name: org-root/lACP-default
  Inline Pair Admin State: Enabled
  Inline Pair Peer Port Name:
```

```
Allowed Vlan: All
Network Control Policy: default
firepower /eth-uplink/fabric #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create port-channel	新しいポートチャネルを作成します。
scope port-channel	ポートチャネルを設定および管理できる既存のポートチャネルを有効にします。

show psu

インストールされている電源装置の情報を表示するには、シャーシモードで **show psu** コマンドを使用します。

show psu [*unit_id* | **detail** | **expand**]

構文の説明

<i>unit_id</i>	(任意) 電源装置の番号を入力して、その装置の情報をリストします。
detail	(任意) このキーワードを使用して、インストールされている電源装置ごとの詳細情報をリストします。
expand	(任意) このキーワードを使用して、電源装置の補足情報を表示します。

コマンドモード

scope chassis/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

引数やキーワードを指定せずにこのコマンドを使用すると、電源装置の基本情報を表示できます。

例

次の例は、電源装置の詳細情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope chassis
firepower /chassis # show psu detail

PSU:
  PSU: 1
  Overall Status: N/A
  Operability: N/A
  Threshold Status: N/A
  Power State: Off
  Presence: Equipped
  Thermal Status: OK
  Voltage Status: N/A
  Product Name: Cisco Firepower 9000 Series AC Power Supply
  PID: FPR9K-PS-AC
  VID: V00
  Part Number: 341-0723-01
  Vendor: Cisco Systems Inc
  Serial (SN): DTM190705G3
  HW Revision: 0
  Firmware Version: N/A
  Type: DV
  Wattage (W): 0
  Input Source: Unknown
```

```
PSU: 2
Overall Status: Operable
Operability: Operable
Threshold Status: OK
Power State: On
Presence: Equipped
Thermal Status: OK
Voltage Status: OK
Product Name: Cisco Firepower 9000 Series AC Power Supply
PID: FPR9K-PS-AC
VID: V00
Part Number: 341-0723-01
Vendor: Cisco Systems Inc
Serial (SN): DTM190705J8
HW Revision: 0
Firmware Version: N/A
Type: DV
Wattage (W): 2500
Input Source: 210AC 50 380DC
```

```
firepower /chassis #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show inventory	シャーシとそこにインストールされているモジュールの情報を表示します。

show registry-repository

サービス レジストリ情報を表示するには、**show registry-repository** コマンドを使用します。

show registry-repository

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、サービス レジストリ情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show registry-repository
```

```
Service Registry:
  Name:
  ID: 1000
  IP: 0.0.0.0
  Type: Service Reg
  Version:
  Capability: Unspecified
FP9300-A#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show service-profile	サービス プロファイル情報を表示します。

show remote-user

リモートユーザーの詳細を表示するには、**show remote-user** コマンドを使用します。

show remote-user

コマンドモード	scope security
---------	----------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、このコマンドはリモートユーザー情報を表示します。

例

次の例は、リモートユーザー情報を示しています。

```
firepower# scope security
firepower /ssa # show remote-user
User Name
-----
test1

firepower /security # show remote-user test1 detail
Remote User test1:
  Description:
  User Roles:
    Name: read-only
firepower /security # show remote-user detail
Remote User test1:
  Description:
  User Roles:
    Name: read-only
```

show resource

アプリケーションインスタンスのリソース割り当てを表示するには、**show resource** コマンドを使用します。

show resource [detail]

構文の説明	detail	表形式以外のテキスト形式でリソース割り当てを表示します。
コマンドモード	scope ssa/scope slot/create app-instance/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 利用可能なリソースを表示するには、**show monitor detail** と入力します。

例

次に、**show resource** コマンドの出力例を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope slot 1
firepower /ssa/slot # scope app-instance ftd LD1
firepower /ssa/slot/app-instance # show resource

Resource:
  Allocated Core NR Allocated RAM (MB) Allocated Data Disk (MB) Allocated Binary Disk
  (MB)
  -----
  -----
  3907                6                29593                40960
```

次に、**show resource detail** コマンドの出力例を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope slot 1
firepower /ssa/slot # scope app-instance ftd LD1
firepower /ssa/slot/app-instance # show resource detail

Resource:
  Allocated Core NR: 6
  Allocated RAM (MB): 29593
  Allocated Data Disk (MB): 40960
  Allocated Binary Disk (MB): 3907
  Allocated Secondary Disk (MB): 0
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show monitor detail	リソースの使用率を表示します。
	show resource-profile	リソース プロファイル情報を表示します。
	show resource-profile user-defined	リソース プロファイルの割り当てを表示します。

show resource-profile

vDP リソース プロファイルおよびコンテナ インスタンスで使用するリソース プロファイルを表示するには、**show resource-profile** コマンドを使用します。

show resource-profile [**system** [*name*] | **user-defined** [*name*] | **vdp** [*version* [*name*]]] [**detail**]

構文の説明

<i>name</i>	プロファイルの名前を指定します。
system	システム定義のリソース プロファイルのみを表示します。
user-defined	デフォルトリソース プロファイルなど、ユーザ定義のコンテナ インスタンス プロファイルを表示します。
vdp	システム定義の vDP プロファイルを表示します。
<i>version</i>	特定のバージョンの vDP を表示します。
detail	リソース プロファイルの詳細を表示します。

コマンドモード

scope ssa/

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.4(1)	user-defined キーワードが追加されました。
1.1(3)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

set resource-profile-name コマンドを使用して、アプリケーション インスタンスで使用されるリソース プロファイルを指定します。**create resource-profile** コマンドを使用すると、コンテナ インスタンスのリソース プロファイルを追加できます。vDP リソース プロファイルはシステムによって自動的に作成されます。シャーシには、「Default-Small」と呼ばれるデフォルト コンテナ インスタンスのリソース プロファイルが含まれています。このコア数は最小です。このプロファイルの定義を変更したり、使用されていない場合には削除することもできます。シャーシをリロードし、システムに他のプロファイルが存在しない場合は、このプロファイルが作成されます。

例

次に、**show resource-profile** コマンドの出力例を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # show resource-profile
Profile Name      App Name  App Version  Is In Use  Security Model  CPU Logical Core
Count RAM Size (MB)  Default Profile Profile Type Description
-----
```

```

bronze          N/A      N/A      No      all
6              0 No      User Defined low end device
DEFAULT-4110-RESOURCE
      vdp      8.13.01.09-2 No      FPR4K-SM-12
4              16384 Yes      System
DEFAULT-RESOURCE vdp      8.13.01.09-2 No      FPR9K-SM-56, FPR9K-SM-44,
FPR9K-SM-36, FPR9K-SM-24, FPR4K-SM-44, FPR4K-SM-36, FPR4K-SM-24

6              24576 Yes      System
gold           N/A      N/A      No      all
14            0 No      User Defined highest
silver        N/A      N/A      No      all
8            0 No      User Defined mid-level
Default-Small N/A      N/A      Yes     all
6            N/A No      User Defined
VDP-10-CORES vdp      8.13.01.09-2 No      FPR9K-SM-56, FPR9K-SM-44,
FPR9K-SM-36, FPR9K-SM-24, FPR4K-SM-44, FPR4K-SM-36, FPR4K-SM-24

10           40960 No      System
VDP-2-CORES  vdp      8.13.01.09-2 No      all
2            8192 No      System
VDP-4-CORES  vdp      8.13.01.09-2 No      all
4            16384 No      System
VDP-8-CORES  vdp      8.13.01.09-2 No      FPR9K-SM-56, FPR9K-SM-44,
FPR9K-SM-36, FPR9K-SM-24, FPR4K-SM-44, FPR4K-SM-36, FPR4K-SM-24

System
firepower /ssa # 8 32768 No

```

次に、**show resource-profile user-defined** コマンドの出力例を示します。

```

firepower# scope ssa
firepower /ssa # show resource-profile user-defined
Profile Name      Is In Use  CPU Logical Core Count Description
-----
bronze            No         6                low end device
gold              No         14               highest
silver            No         10               mid-level
firepower /ssa #

```

関連コマンド

コマンド	説明
create resource-profile	コンテナインスタンスのリソースプロファイルが追加されました。
set cpu-count	リソース プロファイルの CPU の数を設定します。
set resource-profile-name	リソース プロファイルがアプリケーション インスタンスに割り当てられました。
show monitor detail	セキュリティ モジュール/エンジン スロットのリソース使用率を表示します。
show resource detail	アプリケーションインスタンスのリソース割り当てを表示します。

show role

ロールとその権限のリストを表示するには、**show role** コマンドを使用します。

show role [**detail** | **name**]

構文の説明	detail	ロールのリストを表示します。
	name	(任意) 指定したロールの内容を表示します。
コマンドモード	scope security	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、これは **scope security** の **show** コマンドのサブコマンドです。

例

次の例は、インポートされた証明書を表示し、証明書のステータス値を確認する方法を示しています。

```
firepower# scope security
firepower /ssa # show roleRole:
  Role Name  Priv
  -----  ----
  aaa        aaa
  admin      admin
  operations fault, operations
  read-only  read-only
```

次の例は、システム内のロールの内容を表示する方法を示しています。

```
firepower /security # show role detail
Role:
  Role Name: aaa
  Priv: aaa

  Role Name: admin
  Priv: admin

  Role Name: operations
  Priv: fault, operations

  Role Name: read-only
  Priv: read-only
```

次の例は、選択したロールの内容を表示する方法を示しています。

```
firepower /security # show role aaa
Role:
  Role Name Priv
```

```
-----  
aaa      aaa
```

show (scope fabric)

ポートチャネルの情報を表示するには、**show** コマンドを使用します。

show

コマンドモード scope eth-uplink/scope fabric a/

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用する前に、ポートチャネルを作成する必要があります。

例

次の例は、すべてのポートチャネルに関する詳細情報を表示する方法を示しています。

```
firepower-9300# scope eth-uplink
firepower-9300 /eth-uplink # scope fabric a
firepower-9300 /eth-uplink/fabric # create port-channel 3
firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # show
  Port Channel:
Port Channel Id Name Port Type Admin
State Oper State State Reason
-----
-----
10 Port-channel10 Data Enabled Failed No operational members

firepower-9300 /eth-uplink/fabric/port-channel #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create port-channel	ポートチャネルを作成します。
	scope port-channel	個々のポートチャネルおよびポート情報を表示します。

show schedule infra-fw

スケジュール インフラストラクチャ ファームウェアのリストを表示するには、**show schedule infra-fw** コマンドを使用します。

show schedule infra-fw [**detail**]

構文の説明	detail	詳細なスケジュール インフラストラクチャ ファームウェア情報を表示します。
コマンドモード	scope system	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	これは、スコープシステムの show コマンドのサブコマンドです。	

例

次の例は、すべてのシステム show schedule infrastructure firmware 情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /fabric-interconnect # scope system
Firepower /system # show schedule infra-fw
Schedule:
  Name
  ----
  infra-fw
```

例

次の例は、使用可能なすべてのシステム show schedule infrastructure firmware の詳細情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower # show schedule infra-fw detail
Schedule:
  Name: infra-fw
  Description: Auto created by the system for Infrastructure upgrade
```

例

次の例は、スケジュールされたすべてのインフラストラクチャ ファームウェアの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /system # show schedule infra-fw expand detail
Schedule:
  Name: infra-fw
```

Description: Auto created by the system for Infrastructure upgrade

One-Time Occurrence:

Name: infra-fw
Start Date: 2012-07-05T23:27:33.148
Max Duration (dd hh mm ss): None
Max Concur Tasks: Unlimited
Max Tasks: Unlimited
Min Interval (dd hh mm ss): None
Executed Tasks: 19

show security

パスワード関連およびFSMステータス関連のセキュリティ情報を表示するには、**show security** コマンドを使用します。

show security [**detail** | **fsm**]

構文の説明	detail	(任意) パスワード関連の詳細情報を表示します。
	fsm status	(任意) 有限状態マシンのステータス情報を表示します。 status キーワードは必須です。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、セキュリティモードの補足情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show security detail

security mode:
  Password Strength Check: No
  Minimum Password Length: 8
  Current Task:
FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	scope security	セキュリティモードを開始します。

show sel

サーバのシステムイベントログ (SEL) の内容を表示するには、**show sel** コマンドを使用します。

show sel *server_id*

構文の説明	<i>server_id</i>	chassis-number/server-number で表現されるサーバの ID (ラック ID は無効です)。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、シャーシ 1 のサーバ 1 の SEL の内容を表示する方法を示します。

```
FP9300-A# show sel 1/1
show sel 1/1
1 | 12/16/2015 23:09:55 | CIMC | Event Logging Disabled DDR4_
P2_H2_ECC #0x99 | Log Area Reset/Cleared | | Asserted
2 | 12/16/2015 23:09:56 | CIMC | Processor P2_THERMTRIP_N #0x
7a | Limit Not Exceeded | Asserted
3 | 12/16/2015 23:09:57 | CIMC | Processor P1_THERMTRIP_N #0x
79 | Limit Not Exceeded | Asserted
4 | 12/16/2015 23:10:00 | CIMC | Platform alert LED_SYS_ACT #
0xa4 | LED is on | Asserted
5 | 12/16/2015 23:10:00 | CIMC | Platform alert LED_SYS_ACT #
0xa4 | LED color is green | Asserted
6 | 12/16/2015 23:10:01 | CIMC | Processor DDR4_P2_H3_TMP #0x
73 | Limit Not Exceeded | Asserted
7 | 12/16/2015 23:10:01 | CIMC | Platform alert LED_LOM_FAULT
#0xa3 | LED is off | Asserted
8 | 12/16/2015 23:10:01 | CIMC | Platform alert LED_LOM_FAULT
#0xa3 | LED color is blue | Asserted
9 | 12/16/2015 23:10:03 | CIMC | Processor DDR4_P2_H2_TMP #0x
72 | Limit Not Exceeded | Asserted
--More--

<--- remaining lines removed for brevity --->

FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	scope server	サーバモードを開始します。

show server actual-boot-order

サーバが最後に起動したときに実際に BIOS で使用されたサーバのブート順序を表示するには、**show server actual-boot-order** コマンドを使用します。

show server actual-boot-order [*server_id* | **uuid** *dynamic_uuid*]

構文の説明	<i>server_id</i>	(任意) chassis-number/server-number で表現される特定のサーバの実際のブート順序を表示します (ラック ID は無効です)。
	uuid <i>dynamic_uuid</i>	(任意) ダイナミック汎用一意識別子 (UUID) を使用して指定されたサーバの実際のブート順序を表示します。 NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNN 形式で指定します。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	デフォルトでは、このコマンドにより、すべてのサーバの実際のブート順序が表示されます。	

例

次の例は、すべてのサーバの実際のブート順序を表示する方法を示しています。

```
firepower# show server actual-boot-order
Server 1/1:
  Last Update: 2017-07-19T17:43:14.982
  LocalStorageAny
    (1) Not found. Please verify presence of device and p
resence of UEFI loader on device

Server 1/2:
  Last Update: 2017-07-19T17:43:14.980
  LocalStorageAny
    (1) Not found. Please verify presence of device and p
resence of UEFI loader on device

firepower#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show server boot-order	サーバのブート順序を表示します。

show server adapter

サーバのネットワークアダプタの情報を表示するには、**show server adapter** コマンドを使用します。

show server adapter [*server_id* | **detail** | **identity** | **inventory** | **status** | **uuid** *dynamic_uuid*]

構文の説明

<i>server_id</i>	(任意) chassis-number/server-number で表現される特定のサーバ内のネットワークアダプタについての情報を表示します (ラック ID は無効です)。このオプションではキーワード detail を使用できません。
detail	(任意) 詳細情報をリスト形式で表示します。
identity	(任意) 利用可能なアダプタごとに ID 情報を表示します。このオプションではキーワード uuid および <i>server_id</i> を使用できます。
inventory	(任意) インストールされているネットワークアダプタをリストします。このオプションでは、 detail 、 uuid 、 <i>server_id</i> のキーワードを使用できます。
status	(任意) インストールされているネットワークアダプタの全体的なステータスを表示します。このオプションでは、 detail 、 uuid 、 <i>server_id</i> のキーワードを使用できます。
uuid <i>dynamic_uuid</i>	(任意) ダイナミック汎用一意識別子 (UUID) を使用して指定された特定のサーバのネットワークアダプタに関する情報を表示します。NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNN 形式で入力します。このオプションではキーワード detail を使用できます。

コマンドモード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、このコマンドは各サーバで利用可能なアダプタをリストします。これは **inventory** キーワードで表示される情報と同じです。

例

次の例は、インストール済みネットワークアダプタの ID 情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# show server adapter identity
Server 1/1:
```

```

Burned-In UUID: 84928111-2710-4e7c-b664-91bce5b5dfbd
Dynamic UUID: 84928111-2710-4e7c-b664-91bce5b5dfbd
Adapter 1:
  Product Name: Cisco Firepower 9000 series MLOM Adapter
  PID: FPR-C9300-MP
  VID: V01
  Vendor: Cisco Systems Inc
  Serial: JAD190702J1
  Revision: 0

```

Eth Interface:

```

Adapter Interface Dynamic MAC Address
-----
      1          1 00:15:A5:01:01:00
      1          2 00:15:A5:00:00:8E
      1          3 B0:AA:77:2F:5A:4C
      1          4 B0:AA:77:2F:5A:7C
      1          5 B0:AA:77:2F:5A:6C
      1          6 00:15:A5:00:00:CF
      1          7 00:15:A5:00:00:DF
      1          8 00:15:A5:00:01:0F
      1          9 00:15:A5:00:00:BF
      1         10 00:15:A5:00:00:6E
      1         11 00:15:A5:00:01:0C
      1         12 00:15:A5:00:00:EF
      1         13 00:15:A5:00:01:1F
      1         14 00:15:A5:00:00:1F
      1         15 00:15:A5:00:00:3F

```

Ext Interface:

```

Adapter Interface Mac
-----
      1          1 BA:DB:AD:BA:D6:08
      1          5 BA:DB:AD:BA:D6:09

```

```

Adapter 2:
  Product Name: Cisco Firepower 9000 series MEZZ Adapter

```

<--- remaining lines removed for brevity --->

firepower#

関連コマンド

コマンド	説明
scope adapter	アダプタ モードを開始します。

show server assoc

各サーバに関連付けられたサービスプロファイルを表示するには、**show server assoc** コマンドを使用します。

show server assoc [*server_id*|**uuid** *dynamic_uuid*]

構文の説明	<i>server_id</i>	(任意) chassis-number/server-number で指定された特定のサーバの情報を表示します (ラック ID は無効なオプションです)。
	uuid <i>dynamic_uuid</i>	(任意) ダイナミック汎用一意識別子 (UUID) を使用して指定された特定のサーバの情報を表示します。 NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNN 形式で入力します。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドは各サーバのサービスプロファイルの関連付けをリストします。

例

次の例は、システムサーバに関連付けられたサービスプロファイルを表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show server assoc
Server Association Service Profile
-----
1/1      Associated  ssp-sprof-1
1/2      Associated  ssp-sprof-2

FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show service-profile	サービスプロファイル情報を表示します。

show server bios

サーバ BIOS ファームウェア情報を表示するには、**show server bios** コマンドを使用します。

show server bios [*server_id* | **detail** | **uuid** *dynamic_uuid*]

構文の説明	<i>server_id</i>	(任意) chassis-number/server-number で指定された特定のサーバの情報を表示します (ラック ID は無効なオプションです)。このオプションではキーワード detail を使用できます。
	detail	(任意) BIOS の詳細情報を表示します。
	uuid <i>dynamic_uuid</i>	(任意) ダイナミック汎用一意識別子 (UUID) を使用して指定された特定のサーバの情報を表示します。 NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNN 形式で入力します。このオプションではキーワード detail を使用できます。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドは各サーバの BIOS 情報をリストします。

例

次の例は、すべてのサーバの BIOS ファームウェアの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show server bios detail
Server 1/1:
  Model: FPR9K-SM-24
  Revision: 0
  Serial:
  Vendor: Cisco Systems, Inc.
  Running-Vers: FXOSSM1.1.2.1.3.031420161207
  Package-Vers: 2.0(1.135)
  Init Sequence: 0x0a:0x0a:0x0d:0x0d:0x0b:0x0b:0x01:0x01:0x
00:0x00:0x03:0x03:0x00:0x00:0x02:0x02:0x83:0x83:0xae:0xad
  Init Time: 2015-11-23T19:24:13.159

Server 1/2:
  Model: FPR9K-SM-24
  Revision: 0
  Serial:
  Vendor: Cisco Systems, Inc.
  Running-Vers: FXOSSM1.1.2.1.3.031420161207
  Package-Vers: 2.0(1.135)
  Init Sequence: 0x0a:0x0a:0x0d:0x0d:0x0b:0x0b:0x01:0x01:0x
00:0x00:0x03:0x03:0x00:0x00:0x02:0x02:0x83:0x83:0xae:0xad
```

```
Init Time: 2015-11-23T18:56:23.148  
FP9300-A#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show server version	現在のサーバソフトウェアのバージョンとステータス情報を表示します。

show server boot-order

サーバのブート順序を表示するには、**show server boot-order** コマンドを使用します。

show server boot-order [*server_id* | **detail** | **uuid** *dynamic_uuid*]

構文の説明	<i>server_id</i>	(任意) chassis-number/server-number で表現される特定のサーバのブート順序を表示します (ラック ID は無効なオプションです)。このオプションではキーワード detail を使用できます。
	detail	(任意) ブート順序の詳細情報を表示します。
	uuid <i>dynamic_uuid</i>	(任意) ダイナミック汎用一意識別子 (UUID) を使用して指定された特定のサーバのブート順序を表示します。 NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNN 形式で入力します。このオプションではキーワード detail を使用できます。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	デフォルトでは、このコマンドにより、すべてのサーバのブート順序が表示されます。	

例

次の例は、すべてのサーバのブート順序を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show server boot-order
Boot Definition:
  Full Name: sys/chassis-1/blade-1/boot-policy
  Reboot on Update: No
  Boot Mode: Uefi

  Boot Storage:
    Order: 1

  Local Storage:
    Name: local-storage

  Boot Any Local Device:
    Order: 1
    Type: Local Any

  Full Name: sys/chassis-1/blade-2/boot-policy
  Reboot on Update: No
  Boot Mode: Uefi

  Boot Storage:
    Order: 1
```

```
Local Storage:
  Name: local-storage

  Boot Any Local Device:
    Order: 1
    Type: Local Any

<--- remaining lines removed for brevity --->

FP9300-A#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show server actual-boot-order	実際のサーバのブート順序を表示します。

show server cpu

サーバ CPU の情報を表示するには、**show server cpu** コマンドを使用します。

show server cpu [*server_id* | **detail** | **uuid** *dynamic_uuid*]

構文の説明	<i>server_id</i>	(任意) chassis-number/server-number で表現される特定のサーバの CPU 情報を表示します (ラック ID は無効なオプションです)。このオプションではキーワード detail を使用できます。
	detail	(任意) CPU の詳細情報をリスト形式で表示します。
	uuid <i>dynamic_uuid</i>	(任意) ダイナミック汎用一意識別子 (UUID) を使用して指定された特定のサーバの CPU 情報を表示します。 NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNN 形式で入力します。このオプションではキーワード detail を使用できます。

コマンドモード 任意のコマンドモード

コマンド履歴 リリース 変更内容

1.1(1) コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドにより、すべてのサーバの CPU 情報が表示されます。

例

次の例は、シャーシ 1 内のサーバ 1 の CPU に関する情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show server cpu 1/1
Server 1/1:
  ID  Presence           Architecture      Socket Cores
  Speed (GHz)
  ----  -
  1  Equipped           Xeon              CPU1    12
  2.200000
  2  Equipped           Xeon              CPU2    12
  2.200000

FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show server inventory	このデバイスにインストールされているサーバに関する情報を表示します。

show server decommissioned

稼働中止されたサーバのリストを表示するには、**show server decommissioned** コマンドを使用します。

show server decommissioned

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、稼働中止されたサーバのリストを表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show server decommissioned
Vendor           Model           Serial (SN) Server
-----
Cisco Systems Inc R210-2121605W QCI1442AHFX 2
FP9300-A #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show server inventory	このデバイスにインストールされているサーバに関する情報を表示します。

show server environment

現在のサーバのステータス情報を表示するには、**show server environment** コマンドを使用します。

show server environment [*server_id* | **adapter** | **board** | **cpu** | **detail** | **expand** | **memory** | **uuid** | *dynamic_uuid*]

構文の説明	
<i>server_id</i>	(任意) chassis-number/server-number で指定された特定のサーバのステータス情報を表示します (ラック ID は無効なオプションです)。
adapter	(任意) サーバのステータスと各アダプタのステータス情報を表示します。 board 、 cpu 、 detail 、 memory のキーワードも使用できます。
board	(任意) サーバのステータスと各マザーボードのステータス情報を表示します。 adapter 、 cpu 、 detail 、 memory のキーワードも使用できます。
cpu	(任意) サーバのステータス、マザーボード情報、各 CPU のステータス情報を表示します。 adapter 、 board 、 detail 、 memory のキーワードも使用できます。
detail	(任意) ステータスの詳細情報をリスト形式で表示します。
expand	(任意) アダプタ、マザーボード、メモリアレイ、DIMM、CPU 情報など、ステータスの補足情報を表示します。 detail キーワードも使用できます。
memory	(任意) サーバ、マザーボード、メモリアレイ、DIMM のステータス情報をリストします。 adapter 、 board 、 cpu 、 detail のキーワードも使用できます。
uuid <i>dynamic_uuid</i>	(任意) ダイナミック汎用一意識別子 (UUID) を使用して指定された特定のサーバのステータス情報を表示します。 NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNN 形式で入力します。

コマンドモード 任意のコマンドモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドは各サーバの基本的な環境情報をリストします。

例

次の例は、すべてのサーバにインストールされたネットワーク アダプタの詳細なステータス情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show server environment adapter detail
```

```
Server 1/1:
  Overall Status: Ok
  Operability: Operable
  Oper Power: On

  Adapter 1:
    Threshold Status: N/A
    Overall Status: Operable
    Operability: Operable
    Power State: On
    Thermal Status: N/A
    Voltage Status: N/A

  Adapter 2:
    Threshold Status: N/A
    Overall Status: Operable
    Operability: Operable
    Power State: On
    Thermal Status: N/A
    Voltage Status: N/A

Server 1/2:
  Overall Status: Ok
  Operability: Operable
  Oper Power: On

  Adapter 1:
    Threshold Status: N/A
    Overall Status: Operable
    Operability: Operable

<--- remaining lines removed for brevity --->
```

```
FP9300-A#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show system	このデバイスに設定されているシステムに関する情報を表示します。

show server firmware

サーバファームウェアのバージョンとステータス情報を表示するには、**show server firmware** コマンドを使用します。

show server firmware [*server_id* | **adapter** | **bios** | **boardcontroller** | **cimc** | **detail** | **fxos** | **storage** | **uuid** | *dynamic_uuid*]

構文の説明		
<i>server_id</i>	(任意) chassis-number/server-number で指定された特定のサーバのファームウェアおよびステータス情報を表示します (ラック ID は無効なオプションです)。	
adapter	(任意) サーバのステータスと各アダプタのファームウェアバージョンおよびステータス情報を表示します。キーワード detail も使用できます。	
bios	(任意) サーバの BIOS ファームウェアのバージョンとステータスを表示します。キーワード detail も使用できます。	
boardcontroller	(任意) 管理コントローラのバージョンとステータスを表示します。キーワード detail も使用できます。	
cimc	(任意) Cisco Integrated Management Controller のバージョンおよびステータスを表示します。キーワード detail も使用できます。	
detail	(任意) ファームウェアおよびステータスの詳細情報をリスト形式で表示します。	
fxos	(任意) インストールされているセキュリティ サービス プロセッサ (SSP) のオペレーティングシステムに関するバージョンおよびステータス情報を表示します。キーワード detail も使用できます。	
storage	(任意) ローカルディスクおよび RAID コントローラのバージョンおよびステータス情報を表示します。キーワード detail も使用できます。	
uuid <i>dynamic_uuid</i>	(任意) ダイナミック汎用一意識別子 (UUID) を使用して指定された特定のサーバのファームウェアおよびステータス情報を表示します。NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNN 形式で入力します。	

コマンドモード 任意のコマンドモード

コマンド履歴 リリース 変更内容

1.1(1) コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドは各サーバの基本的なファームウェア情報をリストします。

例

次の例は、すべてのサーバのローカルディスクおよび RAID コントローラに関するファームウェアおよびステータス情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show server firmware storage
```

```
Server 1/1:
```

```
  RAID Controller 1:
    Running-Vers: 24.5.0-0021
    Package-Vers:
    Activate-Status: Ready
```

```
Server 1/2:
```

```
  RAID Controller 1:
    Running-Vers: 24.5.0-0021
    Package-Vers:
    Activate-Status: Ready
```

```
  Local Disk 1:
    Running-Vers: EM14
    Package-Vers:
    Activate-Status: Ready
```

```
  Local Disk 2:
    Running-Vers: EM14
    Package-Vers:
    Activate-Status: Ready
```

```
  Local Disk 1:
    Running-Vers: EM14
    Package-Vers:
    Activate-Status: Ready
```

```
  Local Disk 2:
    Running-Vers: EM14
    Package-Vers:
    Activate-Status: Ready
```

```
FP9300-A#
```

関連コマンド

コマンド	説明
scope firmware	ファームウェア モードを開始します。

show server identity

サーバ、アダプタ、インターフェイスの ID 情報を表示するには、**show server identity** コマンドを使用します。

show server identity [*server_id* | **uuid** *dynamic_uuid*]

構文の説明	<i>server_id</i>	(任意) chassis-number/server-number と指定された特定のサーバの情報を表示します (ラック ID は無効なオプションです)。
	uuid <i>dynamic_uuid</i>	(任意) ダイナミック汎用一意識別子 (UUID) を使用して指定された特定のサーバの識別情報を表示します。 NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNN 形式で入力します。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドは各サーバの識別情報をリストします。

例

次の例は、シャーシ 1 内のサーバ 2 の ID 情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show server identity 1/2
Server 1/2:
  Burned-In UUID: b3fd461c-b1c7-437b-ab08-c5cb28a84132
  Dynamic UUID: b3fd461c-b1c7-437b-ab08-c5cb28a84132

Eth Interface:

Adapter Interface Dynamic MAC Address
-----
1 1 00:15:A5:01:02:00
1 2 00:15:A5:00:00:7D
1 3 B0:AA:77:2F:F0:CD
1 4 B0:AA:77:2F:F0:ED
1 5 B0:AA:77:2F:F0:DD
1 6 00:15:A5:00:00:9D
1 7 00:15:A5:00:00:BE
1 8 00:15:A5:00:00:FE
1 9 00:15:A5:00:00:8D
1 10 00:15:A5:00:00:5D
1 11 00:15:A5:00:00:6D
1 12 00:15:A5:00:00:CE
1 13 00:15:A5:00:00:DE
1 14 00:15:A5:00:01:1E
1 15 00:15:A5:00:00:1E
2 1 B0:AA:77:2F:F0:FD
2 2 B0:AA:77:2F:F0:CE
```

```

2          3 B0:AA:77:2F:F0:EE
2          4 00:15:A5:00:01:0E
2          5 00:15:A5:00:00:0E
2          6 00:15:A5:00:00:3E
2          7 00:15:A5:00:00:EE
2          8 00:15:A5:00:00:4D
2          9 00:15:A5:00:00:AE
2         10 00:15:A5:00:00:2E
2         11 00:15:A5:00:00:5E
2         12 00:15:A5:00:00:4E
2         13 00:15:A5:00:00:7E

```

Ext Interface:

```

Adapter Interface Mac
-----
1          1 B0:AA:77:21:19:1E
1          5 B0:AA:77:21:19:1F
2          1 B0:AA:77:21:19:42
2          5 B0:AA:77:21:19:43

```

FP9300-A#

関連コマンド

コマンド	説明
scope server	サーバモードを開始します。

show server inventory

このデバイスにインストールされているサーバの情報を表示するには、**show server inventory** コマンドを使用します。

show server inventory

[*id* | *server_id* | **adapter** | **bios** | **board** | **cpu** | **detail** | **expand** | **memory** | **mgmt** | **storage** | **uuid** | *dynamic_uuid*]

構文の説明	
<i>id</i>	(任意) 指定されたサーバの情報を表示します。ID には 1 から 255 までの数値を指定する必要があります。
<i>server_id</i>	(任意) chassis-number/server-number で指定された特定のサーバのインベントリ情報を表示します。
adapter	(任意) サーバの情報と各アダプタの情報を表示します。このキーワードでは、 bios 、 board 、 cpu 、 detail 、 memory 、 mgmt 、 storage の各キーワードも使用できます。
bios	(任意) サーバの情報と BIOS の情報を表示します。このキーワードでは、 adapter 、 board 、 cpu 、 detail 、 memory 、 mgmt 、 storage の各キーワードも使用できます。
board	(任意) サーバの情報とマザーボードの情報を表示します。このキーワードでは、 adapter 、 bios 、 cpu 、 detail 、 memory 、 mgmt 、 storage の各キーワードも使用できます。
cpu	(任意) サーバの情報と CPU の情報を表示します。このキーワードでは、 adapter 、 bios 、 board 、 detail 、 memory 、 mgmt 、 storage の各キーワードも使用できます。
detail	(任意) 各サーバのインベントリの詳細情報を表示します。
expand	(任意) 各サーバのシステムの補足情報を表示します。キーワード detail も使用できます。
memory	(任意) サーバの情報と DIMM の情報を表示します。このキーワードでは、 adapter 、 bios 、 board 、 cpu 、 detail 、 mgmt 、 storage の各キーワードも使用できます。
mgmt	(任意) サーバ管理情報を表示します。このキーワードでは、 adapter 、 bios 、 board 、 cpu 、 detail 、 memory 、 storage の各キーワードも使用できます。
storage	(任意) サーバの情報およびディスクと RAID の情報を表示します。このキーワードでは、 adapter 、 bios 、 board 、 cpu 、 detail 、 memory 、 mgmt の各キーワードも使用できます。

uuid dynamic uuid (任意) ダイナミック汎用一意識別子 (UUID) を使用して指定された特定のサーバのファームウェアおよびステータス情報を表示します。NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNN 形式で入力します。

コマンドモード 任意のコマンドモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドは各サーバのインベントリ情報をリストします。

例

次の例は、インベントリの基本情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show server inventory
Server  Equipped PID Equipped VID Equipped Serial (SN) Slot S
tatus   Ackd Memory (MB) Ackd Cores
-----
1/1     FPR9K-SM-24  V01          FLM1949C6J5      Equipp
ed      262144          24
1/2     FPR9K-SM-24  V01          FLM1949C6J1      Equipp
ed      262144          24
1/3                                     Empty

FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show server environment	現在のサーバのステータス情報を表示します。

show server memory

このデバイスにインストールされているサーバのデュアル インライン メモリ モジュール (DIMM) に関する情報を表示するには、**show server memory** コマンドを使用します。

show server memory [*server_id* | **detail** | **uuid** *dynamic_uuid*]

構文の説明	<i>server_id</i>	(任意) chassis-number/server-number で指定された特定のサーバのメモリ情報を表示します (ラック ID は無効なオプションです)。
	detail	(任意) 各サーバのメモリの詳細情報を表示します。
	uuid <i>dynamic_uuid</i>	(任意) ダイナミック汎用一意識別子 (UUID) を使用して指定された特定のサーバのメモリ情報を表示します。 NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNN 形式で入力します。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドは各サーバのメモリ情報をリストします。

例

次の例は、メモリの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show server memory detail
Server 1/1:
  Array 1:
    CPU ID: 1
    Current Capacity (MB): 262144
    Error Correction: Undisc
    Max Capacity (MB): 1572864
    Max Devices: 24
    Populated: 16

  DIMMS:

  ID 1:
    Location: A1
    Presence: Equipped
    Overall Status: Operable
    Visibility: Yes
    Vendor: 0xAD00
    Vendor Part Number: HMA42GR7MFR4N-TF
    Vendor Serial (SN): 244BC0A6
    HW Revision: 0
    Form Factor: DIMM
    Type: Undisc
    Capacity (MB): 16384
```

```
Clock: 2133
Latency: 0.500000
Width: 64
```

ID 2:

```
Location: A2
Presence: Equipped
Overall Status: Operable
Visibility: Yes
Vendor: 0xAD00
Vendor Part Number: HMA42GR7MFR4N-TF
Vendor Serial (SN): 245C4A07
HW Revision: 0
Form Factor: DIMM
Type: Undisc
Capacity (MB): 16384
Clock: 2133
Latency: 0.500000
Width: 64
```

ID 3:

```
Location: A3
Presence: Missing
Overall Status: Removed
Visibility: No
Vendor:
Vendor Part Number:
Vendor Serial (SN):
HW Revision: 0
Form Factor: Undisc
Type: Undisc
Capacity (MB): Unknown
Clock: Unknown
Latency: Unknown
Width: Unknown
```

<--- remaining lines removed for brevity --->

FP9300-A#

関連コマンド

コマンド	説明
show server identity	サーバ、アダプタ、およびインターフェイスの ID 情報を表示します。

show server status

サーバのステータス情報を表示するには、**show server status** コマンドを使用します。

show server status [*id*|*server_id*|**detail**|**uuid** *dynamic_uuid*]

構文の説明	<i>id</i>	(任意) 指定されたサーバの情報を表示します。ID には 1 から 255 までの数値を指定する必要があります。
	<i>server_id</i>	(任意) chassis-number/server-number と指定された特定のサーバのステータス情報を表示します。
	detail	(任意) 各サーバのステータスの詳細情報を表示します。
	uuid <i>dynamic_uuid</i>	(任意) ダイナミック汎用一意識別子 (UUID) を使用して指定された特定のサーバのステータス情報を表示します。 NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNN 形式で入力します。

コマンドモード 任意のコマンドモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、コマンドはすべてのサーバのステータス情報をリストします。

例

次の例は、シャーシとブレードIDを使用して特定のサーバのステータス情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show server status 1/1
Server   Slot Status   Overall Status   Discovery
-----
1/1      Equipped   Ok               Complete
1/2      Equipped   Ok               Complete
1/3      Empty
```

FP9300-A#

関連コマンド	コマンド	説明
	show server inventory	このデバイスにインストールされているサーバに関する情報を表示します。

show server storage

サーバのディスクと RAID の情報を表示するには、**show server storage** コマンドを使用します。

show server storage [*server_id* | **detail** | **uuid** *dynamic_uuid*]

構文の説明	<i>server_id</i>	(任意) chassis-number/server-number と指定された特定のサーバのストレージ情報を表示します (ラック ID は無効なオプションです)。
	detail	(任意) 各サーバのストレージの詳細情報を表示します。
	uuid <i>dynamic_uuid</i>	(任意) ダイナミック汎用一意識別子 (UUID) を使用して指定された特定のサーバのストレージ情報を表示します。 NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNN 形式で入力します。

コマンドモード 任意のコマンドモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドは各サーバのストレージ情報をリストします。

例

次の例は、ストレージの基本情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# show server storage
Server 1/1:
  RAID Controller 1:
    Type: SAS
    Vendor: Cisco Systems Inc
    Model: UCSB-MRAID12G
    Serial: LSV194501YW
    HW Revision: C0
    PCI Addr: 01:00.0
    Raid Support: RAID0, RAID1
    OOB Interface Supported: Yes
    Rebuild Rate: 30
    Controller Status: Optimal

  Local Disk 1:
    Vendor: SAMSUNG
    Model: MZIES800HMHP/003
    Serial: S1N2NYAG800062
    HW Rev: 0
    Operability: Operable
    Presence: Equipped
    Size (MB): 761985
    Drive State: Online
    Power State: Active
```

```
Link Speed: 12 Gbps
Device Type: SSD

Local Disk 2:
Vendor: SAMSUNG
Model: MZIES800HMHP/003
Serial: S1N2NYAG800100
HW Rev: 0

<--- remaining lines removed for brevity --->

firepower#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show server inventory	このデバイスにインストールされているサーバに関する情報を表示します。

show server version

現在のサーバソフトウェアのバージョンとステータス情報を表示するには、**show server version** コマンドを使用します。

show server version [*server_id* | **adapter** | **bios** | **boardcontroller** | **cimc** | **detail** | **fxos** | **storage** | **uuid** | *dynamic_uuid*]

構文の説明	
<i>server_id</i>	(任意) chassis-number/server-number またはラック ID で指定された特定のサーバのファームウェアとステータス情報を表示します。
adapter	(任意) サーバのステータスと各アダプタのファームウェアバージョンおよびステータス情報を表示します。キーワード detail も使用できます。
bios	(任意) サーバの BIOS ファームウェアのバージョンとステータスを表示します。キーワード detail も使用できます。
boardcontroller	(任意) 管理コントローラのバージョンとステータスを表示します。キーワード detail も使用できます。
cimc	(任意) Cisco Integrated Management Controller のバージョンおよびステータスを表示します。キーワード detail も使用できます。
detail	(任意) ファームウェアおよびステータスの詳細情報をリスト形式で表示します。
fxos	(任意) インストールされているセキュリティ サービス プロセッサ (SSP) のオペレーティングシステムに関するバージョンおよびステータス情報を表示します。キーワード detail も使用できます。
storage	(任意) ローカルディスクおよび RAID コントローラのバージョンおよびステータス情報を表示します。キーワード detail も使用できます。
uuid <i>dynamic_uuid</i>	(任意) ダイナミック汎用一意識別子 (UUID) を使用して指定された特定のサーバのファームウェアおよびステータス情報を表示します。NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNN 形式で入力します。

コマンドモード 任意のコマンドモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドは各サーバの基本的なソフトウェア情報をリストします。

例

次の例は、すべてのサーバのローカルディスクおよび RAID コントローラに関するソフトウェアバージョンおよびステータス情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show server version storage
```

```
Server 1/1:
```

```
  RAID Controller 1:
    Running-Vers: 24.5.0-0021
    Package-Vers:
    Activate-Status: Ready
```

```
Server 1/2:
```

```
  RAID Controller 1:
    Running-Vers: 24.5.0-0021
    Package-Vers:
    Activate-Status: Ready
```

```
  Local Disk 1:
    Running-Vers: EM14
    Package-Vers:
    Activate-Status: Ready
```

```
  Local Disk 2:
    Running-Vers: EM14
    Package-Vers:
    Activate-Status: Ready
```

```
  Local Disk 1:
    Running-Vers: EM14
    Package-Vers:
    Activate-Status: Ready
```

```
  Local Disk 2:
    Running-Vers: EM14
    Package-Vers:
    Activate-Status: Ready
```

```
FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show server firmware	サーバファームウェアのバージョンおよびステータスを表示します。

show service-profile

サービス プロファイル情報を表示するには、**show service-profile** コマンドを使用します。

show service-profile { **assoc** | **circuit** | **connectivity** | **identity** | **inventory** | **path** | **status** }

構文の説明

assoc

サーバおよび各サービス プロファイルの関連付け情報を表示します。次のオプション キーワードを使用できます。

- **detail** : 各サービス プロファイルの詳細な関連付け情報を表示します。
- **org name** : 指定された組織のサービスプロファイルの関連付け情報を表示します。
- **server** { *id* | *server_id* } : 指定されたサーバのサービスプロファイルの関連付け情報を表示します。
- **uuid** { **derived** | *dynamic_uuid* } : 指定された UUID のサービスプロファイルの関連付け情報を表示します。

circuit

サービスプロファイルのネットワーク回線情報を表示します。次のオプション キーワードを使用できます。

- **detail** : サービス プロファイルの詳細なネットワーク回線情報を表示します。
- **name name** : 指定されたサービス プロファイルのネットワーク回線情報を表示します。
- **org org_name** : 指定された組織のサービスプロファイルの回線情報を表示します。
- **server** { *id* | *server_id* } : 指定されたサーバのサービスプロファイルの回線情報を表示します。*id* は 1 ~ 255 の値です。*server_id* はシャーシ番号/ブレード番号で指定されます。
- **uuid** { **derived** | *dynamic_uuid* } : 指定された UUID のサービスプロファイルの回線情報を表示します。

NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNNN 形式で入力します。

identity

サービスプロファイルID (UUIDプール) 情報を表示します。これらの任意のキーワードは利用可能です。

- **name** *name* : 指定されたサービス プロファイルの ID 情報を表示します。
 - **org** *org_name* : 指定された組織のサービスプロファイルの ID 情報を表示します。
 - **server** {*id*|*server_id*} : 指定されたサーバのサービスプロファイルの ID 情報を表示します。*id*は1～255の値です。*server_id*はシャーシ番号/ブレード番号で指定されます。
 - **uuid** {**derived**|*dynamic_uuid*} : 指定された UUID のサービスプロファイルの ID 情報を表示します。
NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNN 形式で入力します。
-

inventory

タイプ、割り当てられたサーバ、関連付けステータス情報を指定して、現在のサービスプロファイルインベントリを表示します。次のオプションキーワードを使用できます。

- **adapter** : サービスプロファイルに関連付けられているアダプタの情報を表示します。
 - **bios** : サービスプロファイルに関連付けられているサーバおよび BIOS の情報を表示します。
 - **board** : サービスプロファイルに関連付けられているサーバおよびマザーボードの情報を表示します。
 - **cpu** : サービスプロファイルに関連付けられているサーバおよび CPU の情報を表示します。
 - **detail** : サービスプロファイルのインベントリの詳細情報を表示します。
 - **expand** : サービスプロファイルのインベントリの補足情報を表示します。
 - **memory** : サービスプロファイルに関連付けられているサーバおよび DIMM の情報を表示します。
 - **mgmt** : サービスプロファイルに関連付けられているサーバ設定情報を表示します。
 - **name name** : 指定されたサービスプロファイルのインベントリ情報を表示します。
 - **org org_name** : 指定された組織のサービスプロファイルのインベントリ情報を表示します。
 - **server {id|server_id}** : 指定されたサーバのサービスプロファイルのインベントリ情報を表示します。*id* は 1 ~ 255 の値です。*server_id* はシャーシ番号/ブレード番号で指定されます。
 - **storage** : サービスプロファイルに関連付けられているサーバ、ローカルディスク、RAID の情報を表示します。
 - **uuid {derived|dynamic_uuid}** : 指定された UUID のサービスプロファイルのインベントリ情報を表示します。
NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNNN 形式で入力します。
-

path

接続タイプやポート情報など、サービスプロファイルのネットワークパス情報を表示します。次のオプションキーワードを使用できます。

- **detail** : サービスプロファイルの詳細なネットワークパス情報を表示します。
 - **name name** : 指定されたサービスプロファイルのパス情報を表示します。
 - **org org_name** : 指定された組織のネットワークパス情報を表示します。
 - **server {id|server_id}** : 指定されたサーバのサービスプロファイルのネットワークパス情報を表示します。*id* は 1 ~ 255 の値です。*server_id* はシャーシ番号/ブレード番号で指定されます。
 - **uuid {derived|dynamic_uuid}** : 任意の UUID で指定されたサービスプロファイルのネットワークパス情報を表示します。
NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNN 形式で入力します。
-

status	<p>動作ステータス、割り当てられたサーバ、および関連付けステータス情報とともにサービスプロファイルのステータスを表示します。次のオプション キーワードを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • detail : サービス プロファイルのステータスの詳細情報を表示します。 • expand : サービス プロファイルのステータスの補足情報を表示します。 • name name : 指定されたサービス プロファイルのステータス情報を表示します。 • org org_name : 指定された組織のサービスプロファイルのステータス情報を表示します。 • power : サービス プロファイルのサーバの電源およびステータスの補足情報を表示します。 • server {id server_id} : 指定されたサーバのサービスプロファイルのステータス情報を表示します。id は 1 ~ 255 の値です。server_id はシャーシ番号/ブレード番号で指定されます。 • thermal : サービス プロファイルのサーバステータス、温度、熱の情報を表示します。 • uuid {derived dynamic_uuid} : 任意の UUID で指定されたサービス プロファイルのステータス情報を表示します。 NNNNNNNN-NNNN-NNNN-NNNN-NNNNNNNNNNNNN 形式で入力します。 • voltage : サービス プロファイルのサーバのステータス、電源、および電圧の情報を表示します。
---------------	---

コマンドモード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、このコマンドは各サービス プロファイルの情報をリストします。

例

次の例は、特定のサービスプロファイルのインベントリ情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show service-profile inventory name ssp-sprof-1
```

```
Service Profile Name Type          Server  Assignment Association
-----
```

```

ssp-sprof-1          Instance          1/1    Assigned  Associated
FP9300-A#

```

次の例は、サービスプロファイルの電力ステータスの情報を表示する方法を示しています。

```

FP9300-A# show service-profile status power
Service Profile Name: ssp-sprof-1
Type: Instance
Server: 1/1
Description: ssp service profile
Assignment: Assigned
Association: Associated
Power State: On
Op State: Ok
Oper Qualifier: N/A
Conf State: Applied
Config Qual (Deprecated): N/A
Server Config Issues: N/A
Network Config Issues: N/A
Storage Config Issues: N/A
vNIC Config Issues: N/A
iSCSI Config Issues: N/A
Current Task:
  Server 1/1:
    Overall Status: Ok
    Operability: Operable
    Oper Power: On

    Motherboard:
      Threshold Status: OK
      Overall Status: N/A
      Operability: N/A
      Oper Power: On
      Power State: Ok
      Thermal Status: OK
      Voltage Status: OK
      CMOS Battery Voltage Status: Ok
      Mother Board Power Usage Status: Ok

      Motherboard Temperature Statistics:
        Motherboard Front Temperature (C): 42.000000
        Motherboard Rear Temperature (C): 57.000000

```

<--- remaining lines removed for brevity --->

```

FP9300-A#

```

関連コマンド

コマンド	説明
scope service-profile	サービスプロファイルモードを開始します。

show shell-session-limits

システムで使用可能なシェルセッションのリストを表示するには、**show shell-session-limits** コマンドを使用します。

show shell-session-limits [detail]

構文の説明	detail	シェルセッションの制限に関する詳細情報を表示します。
コマンドモード	scope system/scope services	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	これは、スコープシステム、スコープサービスの show コマンドのサブコマンドです。	

例

次の例は、システムシェルセッションの制限に関する情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /fabric-interconnect # scope system
Firepower /system #scope services
Firepower /system/services # show shell-session-limits
Shell Sessions:
  Maximum logins for single user Maximum Sessions
  -----
  32                               32
```

例

次の例は、すべてのシェルセッションに関する詳細情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /system/services # show shell-session-limits detail
Shell Sessions:
  Maximum logins for single user: 32
  Maximum Sessions: 32
```

show (slot)

現在の SSP 情報を表示するには、スロット モードで **show** コマンドを使用します。

show [**app-instance** | **detail** | **event** | **expand** | **fault** | **fsm** | **heartbeat** | **heartbeat-config** | **monitor**]

構文の説明

app-instance	<p>(任意) モジュール アプリケーション インスタンスに関する情報を表示します。次のオプションも利用可能です。</p> <ul style="list-style-type: none">• app-name : 指定されたインスタンスの情報のみを表示します。• detail : アプリケーション インスタンスの詳細情報を表示します。このオプションでは expand キーワードを使用できます。• expand : アプリケーション インスタンスの補足情報を表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。• fsm : アプリケーション インスタンスの有限状態マシン情報を表示します。
detail	<p>(任意) モジュール アプリケーション インスタンスの詳細情報を表示します。このオプションでは expand キーワードを使用できます。</p>
event	<p>(任意) アプリケーションのイベント管理情報を表示します。 detail および expand キーワードはこのオプションで使用できます。</p>
expand	<p>(任意) モジュール アプリケーション インスタンスの補足情報を表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。</p>
fault	<p>(任意) SSP で発生した障害に関する情報を表示します。このキーワードは次のオプションも使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• fault_ID : 指定された障害の情報を表示します。• cause : 指定された原因タイプの情報のみを表示します。• detail : 詳細な障害情報を表示します。• severity : 指定されたシビラティ (重大度) レベルの情報のみを表示します。• suppressed : 抑制された障害をリストします。 cause、detail、および severity キーワードはこのオプションで使用できます。
fsm task	<p>(任意) SSP の FSM タスク情報を表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。</p>

heartbeat	(任意) 最後に受信したハートビートの情報を表示します。 detail および expand キーワードはこのオプションで使用できます。
heartbeat-config	(任意) SSP の現在のハートビート設定に関する情報を表示します。 detail および expand キーワードはこのオプションで使用できません。
monitor	(任意) SSP のモニタリング情報を表示します。 detail および expand キーワードはこのオプションで使用できます。

コマンドモード scope ssa/scope slot

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドは一般的なモジュールの設定情報を表示します。

例

次の例は、一般的なスロット情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope slot 2
firepower /ssa/slot # show
Slot:
  Slot ID      Log Level Admin State  Oper State
  -----
  2           Info      Ok           Online
firepower /ssa/slot #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	scope slot	特定のスロットのモジュール設定モードを開始します。

show slot

システムで使用可能な管理状態や操作状態などのスロットのリストを表示するには、**showslot** コマンドを使用します。

show [**detail** | **expand**]

構文の説明	detail	詳細なスロット情報を表示します。
	expand	(任意) スロットの拡張情報を表示します。
コマンドモード	scope ssa	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	これは、ssa モードの show コマンドのサブコマンドです。	

例

次の例は、システム内のすべてのスロットの情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower / fabric-interconnect # scope ssa
Firepower /ssa # show slot
```

```
Slot ID      Log Level Admin State  Oper State
-----
1           Info      Ok           Online
```

This example shows detailed information for all available slots.

```
Firepower /ssa # show slot detail
Slot ID: 1
Log Level: Info
Admin State: Ok
Oper State: Online
Disk Format State: Ok
Disk Format Status: 100%
Clear Log Data: Available
Error Msg:
#
```

例

次の例は、使用可能なすべてのスロットの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /ssa #show slot detail expand
Slot:
Slot ID: 1
Log Level: Info
Admin State: Ok
```

```
Oper State: Online
Disk Format State: Ok
Disk Format Status: 100%
Clear Log Data: Available
Error Msg:

Heartbeat:
  Last Received Time: 2012-07-04T22:43:13.030
  Heartbeat Interval: 5
  Max Number of Missed heartbeats Permitted: 3

Monitor:
  OS Version: 82.14(0.48i)
  CPU Total Load 1 min Avg: 0.360000
  CPU Total Load 5 min Avg: 0.360000
  CPU Total Load 15 min Avg: 0.360000
  Memory Total (MB): 64221
  Memory Free (MB): 54576
  Memory Used (MB): 8584
  CPU Cores Total: 24
  CPU Cores Available: 22
  Memory App Total (MB): 52957
  Memory App Available (MB): 52957
  Data Disk Total (MB): 128727
  Data Disk Available (MB): 128727
  Secondary Disk Total (MB): 0
  Secondary Disk Available (MB): 0
  Disk File System Count: 5
  Blade Uptime: up 6 days, 12:04
  Last Updated Timestamp: 2012-07-04T22:42:52.566

Disk File System:
  File System: /dev/sda1
  Mount Point: /mnt/boot
  Disk Total (MB): 7614
  Disk Free (MB): 7447
  Disk Used (MB): 167

  File System: /dev/sda2
  Mount Point: /opt/cisco/config
  Disk Total (MB): 1846
  Disk Free (MB): 1736
  Disk Used (MB): 15

  File System: /dev/sda3
  Mount Point: /opt/cisco/platform/logs
  Disk Total (MB): 4629
  Disk Free (MB): 4329
  Disk Used (MB): 62

  File System: /dev/sda5
  Mount Point: /var/data/cores
  Disk Total (MB): 46679
  Disk Free (MB): 28868
  Disk Used (MB): 15427

  File System: /dev/sda6
  Mount Point: /opt/cisco/csp
  Disk Total (MB): 128727
  Disk Free (MB): 128566
  Disk Used (MB): 161
```

show snmp (connect fxos)

現在の Simple Network Management Protocol (SNMP) 設定に関する詳細情報を表示するには、FXOS コマンドシェルに接続しているときに **show snmp** コマンドを使用します。

show snmp [**community** | **context** | **engineID** | **group** | **host** | **internal** | **mib** | **sessions** | **source-interface** | **trap** | **user**]

構文の説明	
community	(任意) アクセス権限が割り当てられている現在の SNMP コミュニティストリングおよびグループを表示します。
context	(任意) SNMP コンテキストマッピングのエントリを一覧表示します。
engineID	(任意) ローカル SNMP エンジン ID を表示します。
group	(任意) SNMP ロールとそれらのアクセス権限を一覧表示します。
host	(任意) 現在定義されている SNMP 宛先を表示します。
internal	(任意) 各種の SNMP 内部情報を表示します。追加オプションを表示するには、 ? キーワードを使用します。
mib	(任意) SNMP MIB キャッシュまたはインターフェイステーブルを表示します。追加オプションを表示するには、 ? キーワードを使用します。
sessions	(任意) 現在の SNMP セッションを表示します。
source-interface	(任意) 両方の通知タイプの SNMP 送信元インターフェイスを表示します。
trap	(任意) 有効なすべての SNMP トラップタイプを一覧表示します。
user	(任意) 現在定義されているすべての SNMPv3 ユーザーとそのパラメータを一覧表示します。特定ユーザーの情報を表示するには、 <i>name</i> オプションを使用します。

コマンド モード connect fxos/

コマンド履歴 リリース 変更内容

1.1.1 コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドにより、コミュニティストリング、システムの連絡先、システムの位置などの現在の SNMP 設定情報が表示され、SNMP 入力および出力パケットタイプが一覧表示されます。

例

次の例は、FXOS シェルに接続し、**show snmp** コマンドを使用して現在の SNMP 情報を表示する方法を示しています。

```
firepower # connect fxos
firepower(fxos) # show snmp
Community          Group / Access      context      acl_filter
-----
SNMPcommunity     network-operator
sys contact: R_Admin
sys location:

0 SNMP packets input
  0 Bad SNMP versions
  0 Unknown community name
  0 Illegal operation for community name supplied
  0 Encoding errors
  0 Number of requested variables
  0 Number of altered variables
  0 Get-request PDUs
  0 Get-next PDUs
  0 Set-request PDUs
398 SNMP packets output
  0 Too big errors
  0 No such name errors
  0 Bad values errors
  0 General errors
  0 In No such name PDU
  0 In Bad vlaue PDU
  0 In Read only PDU
  0 In General errors
  0 In Get Responses
  0 Unknown Context name
  398 Out Traps PDU
  0 Out Get Requests
  0 Out Get Next Requests
  0 Out Set Requests
  0 Out Get Responses
  0 Silent Drops
```

SNMP USERS

User	Auth	Priv(enforce)	Groups
test1	sha	no	network-operator
snmp-user1	sha	no	network-operator
snmp-user2	sha	no	network-operator

NOTIFICATION TARGET USERS (configured for sending V3 Inform)

User	Auth	Priv
_____	_____	_____

SNMP Tcp Authentication Flag : Enabled.

 Port Monitor : unset

Policy Name : default
 Admin Status: Not Active
 Oper Status: Not Active
 Port type : All Ports

Counter event In Use	Threshold	Interval	Rising	Threshold event	Falling	Threshold
Link Loss 4 Yes	Delta	60	5	4	1	
Sync Loss 4 Yes	Delta	60	5	4	1	
Invalid Words 4 Yes	Delta	60	5	4	1	
Invalid CRC's 4 Yes	Delta	60	1	4	0	
RX Performance 4 Yes	Delta	60	5	4	1	
LR RX 4 Yes	Delta	60	200	4	10	
LR TX 4 Yes	Delta	60	5	4	1	
Timeout Discards 4 Yes	Delta	60	5	4	1	
Credit Loss Reco 4 Yes	Delta	60	200	4	10	
TX Credit Not Available 4 Yes	Delta	1	1	4	0	
RX Datarate 4 Yes	Delta	1	10	4	0	
TX Datarate 4 Yes	Delta	60	80	4	20	
ASIC Error Pkt from Port 4 Yes	Delta	60	80	4	20	

SNMP protocol : Enabled

 Context [Protocol instance, VRF, Topology]
 [vlan, MST]

1 ,
 ,
 ,
 1,

 101 ,
 ,
 ,
 101,

show snmp (connect fxos)

```

-----
102                               ,
                               ,
                               ,
                               102,
-----

<--- remaining lines removed for brevity --->

firepower (fxos) #

```

関連コマンド

コマンド	説明
enable snmp	SNMP を有効にします。
set snmp	SNMP 設定パラメータを設定します。
show snmp (monitoring)	現在の SNMP 設定に関する基本情報を表示します。

show snmp (monitoring)

現在の Simple Network Management Protocol (SNMP) 設定に関する基本情報を表示するには、**show snmp** コマンドを使用します。

show snmp [**community**]

構文の説明	community	(任意) 現在の SNMP コミュニティ名を表示します。 (注) セキュリティ上の理由から、空のフィールドのみが表示されるため、このキーワードは廃止されました。
コマンドモード	scope monitoring/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1.1	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	デフォルトでは、このコマンドにより、管理状態、システムの連絡先、システムの位置などの現在の SNMP 設定情報が表示されます。	

例

次の例は、モニタリングモードを開始し、**show snmp** コマンドを使用して現在の SNMP 設定を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope monitoring
firepower /monitoring # show snmp
Name: snmp
  Admin State: Enabled
  Port: 161
  Is Community Set: Yes
  Sys Contact: R_Admin
  Sys Location:
firepower /monitoring #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	enable snmp	SNMP を有効にします。
	set snmp	SNMP 設定パラメータを設定します。
	show snmp (connect fxos)	現在の SNMP 設定に関する詳細情報を表示します。

show snmp-trap

現在定義されている SNMP トラップに関する情報を表示するには、**show snmp-trap** コマンドを入力します。

show snmp-trap [**detail** | *trap_ID*]

構文の説明	detail	(任意) SNMP トラップの詳細情報を表示するには、このキーワードを使用します。
	<i>trap_ID</i>	(任意) 特定の SNMP トラップ宛先のホスト名または IP アドレスを指定して、そのトラップに関する情報を表示します (このオプションは scope monitoring/ モードでのみ使用できます)。このオプションでは detail キーワードを使用できます。

コマンドモード **scope monitoring/**
scope monitoring/snmp-trap/

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **scope monitoring/** モードでは、デフォルトで、このコマンドにより、SNMP トラップの現在のリストが表示されます。

scope monitoring/snmp-trap/ モードでは、このコマンドにより、現在のトラップに関する情報が表示されます。

例

次の例は、モニタリングモードを開始し、**show snmp-trap** コマンドを使用して現在の SNMP トラップのリストを表示する方法を示しています。

```
firepower# scope monitoring
firepower /monitoring # show snmp-trap

SNMP Trap:
  SNMP Trap          Port      Community  Version  V3 Privilege  Notification Type
  -----
  trap1_informs      162      ****      V2c      Noauth        Informs
  192.168.10.100     162      ****      V3       Noauth        Traps
firepower /monitoring #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create snmp-trap	新しい SNMP トラップを作成します。

コマンド	説明
enable snmp	SNMP をイネーブルにします。
set (snmp-trap)	既存の SNMP トラップのパラメータを指定します。
show snmp (monitoring)	現在の SNMP 設定に関する基本情報を表示します。
show snmp (connect fxos)	現在の SNMP 設定に関する詳細情報を表示します。

show snmp-user

現在定義されている SNMPv3 ユーザーに関する情報を表示するには、**show snmp** コマンドを入力します。

show snmp-user [**detail** | **fault** | *user_name*]

構文の説明

detail (任意) SNMPv3 ユーザーの詳細情報を表示するには、このキーワードを使用します。

fault (任意) このユーザーの障害情報を表示するには、このキーワードを使用します。このオプションでは次のオプションのキーワードを使用できます。

- **cause** : 障害情報を原因でフィルタ処理するには、このキーワードを使用します。
- **detail** : 詳細な障害情報を表示するには、このキーワードを使用します。
- **severity** : 障害情報をシビラティ (重大度) でフィルタ処理するには、このキーワードを使用します。
- **suppressed** : 抑制された障害のみを表示するには、このキーワードを使用します。
- **fault_ID** : ID 番号を入力することによって特定の障害を指定できます。有効な値は 0 - 18446744073709551615 です。

(注) このオプションは `scope monitoring/snmp-user/` モードでのみ使用できます。

user_name (任意) 特定の SNMP ユーザーの名前を指定して、そのユーザーに関する情報を表示します (このオプションは `scope monitoring/` モードでのみ使用できます)。

このオプションでは **detail** キーワードを使用できます。

コマンドモード

`scope monitoring/`
`scope monitoring/snmp-user/`

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

`scope monitoring/` モードでは、デフォルトで、このコマンドにより、SNMPv3 ユーザーの現在のリストがそれぞれの認証タイプとともに表示されます。

scope monitoring/snmp-trap/モードでは、このコマンドにより、現在の SNMPv3 ユーザーに関する情報が表示されます。

例

次の例は、モニタリングモードを開始し、**show snmp-user** コマンドを使用して現在の SNMPv3 ユーザーのリストと特定のユーザーの詳細な設定情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope monitoring
firepower /monitoring # show snmp-user

SNMPv3 User:
  Name                               Authentication type
  -----
  snmp-user1                         Sha
  testuser                            Sha
  snmp-user2                          Sha
firepower /monitoring # show snmp-user snmp-user1 detail

SNMPv3 User:
  Name: snmp-user1
  Authentication type: Sha
  Password: ****
  Privacy password: ****
  Use AES-128: Yes
firepower /monitoring #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create snmp-user	新しい SNMPv3 ユーザーを作成します。
enable snmp	SNMP をイネーブルにします。
set (snmp-user)	既存の SNMPv3 ユーザーのパラメータを指定します。
show snmp (monitoring)	現在の SNMP 設定に関する基本情報を表示します。
show snmp (connect fxos)	現在の SNMP 設定に関する詳細情報を表示します。

show ssh-server

SSH サーバ CPU の情報を表示するには、**show ssh-server** コマンドを使用します。

show server [**host-key**]

構文の説明	host-key	(任意) SSH サーバのホスト キーのサイズ、およびキーが削除されたかどうかを表示します。
コマンドモード	サービス モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、SSH 接続および認証情報を表示します。

例

次の例は、SSH サーバ情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope system
FP9300-A /system # scope services
FP9300-A /system/services # show ssh-server
Name: ssh
  Admin State: Enabled
  Port: 22
  Kex algorithm: diffie-hellman-group14-sha1
  Mac algorithm: hmac-sha1,hmac-sha2-256,hmac-sha2-512
  Encrypt algorithm:
aes128-ctr,aes192-ctr,aes256-ctr,3des-cbc,aes128-cbc,aes192-cbc,aes256-cbc
  Authentication algorithm: Rsa
  Host Key Size: 2048
  Rekey Limit Volume: None Time: None
FP9300-A /system/services #
```

コマンド	説明
create ssh-server	新しい SSH サーバのホスト キーを作成します。
delete ssh-server	既存の SSH サーバのホスト キーを削除します。
set ssh-server	SSH ホスト キーのサイズを設定します。

show stats

IPSec 統計を表示するには、**show stats** コマンドを使用します。

show stats [**detail** | **listauthor** | **listcert** | **listconn** | **listsa** | **status**]

構文の説明	detail	(任意) その他の IPSec 統計情報を表示します。
	listauthor	(任意) 利用可能なすべてのトラストポイントを表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。
	listcert	(任意) 利用可能なすべての証明書を表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。
	listconn	(任意) すべての接続の動作状態を表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。
	listsa	(任意) すべての IPSec セキュリティ アソシエーション (SA) の動作状態を表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。
	status	(任意) IPSec 全体のステータスを表示します。このオプションでは detail キーワードを使用できます。

コマンドモード IPsec モード

コマンド履歴 リリース 変更内容

1.1(1) コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、IPSec 統計情報を表示します。

例

次の例は、指定した接続の IPSec 接続情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # scope ipsec
FP9300-A /security/ipsec # show stats
```

```
Ipssec Stats:
  Stats Type: Status
  Stats Data: Status of IKE charon daemon (strongSwan 5.3.5, Linux 3.14.39ltsi, i686):

  uptime: 11 days, since Jun 29 17:36:39 2018
  malloc: sbrk 2289664, mmap 0, used 199808, free 2089856
  worker threads: 11 of 16 idle, 5/0/0/0 working, job queue: 0/0/0/0, scheduled: 0
  loaded plugins: charon aes des rc2 sha1 sha2 md5 random nonce x509 revocation constraints
  pubkey pkcs1 pkcs7 pkcs8 pkcs12 pgp dnskey sshkey pem openssl fips-prf xcbc cmac hmac
  files attr kernel-netlink resolve socket-default stroke vici updown xauth-generic
```

```
Listening IP addresses:
 10.122.150.220
 192.15.1.250
 192.15.1.251
 192.3.0.254
 192.5.254.1
 192.5.1.254
 192.7.254.1
 192.9.0.1
 192.128.254.1
 203.0.113.126
 192.16.254.1
Connections:
Security Associations (0 up, 0 connecting):
  none

      Time Stamp: 2018-07-11T17:20:17.542
FP9300-A /security/ipsec #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show connection	現在の IPSec 接続の設定情報を表示します。
show ipsec-log	IPSec 接続ログを表示します。

show storage

ディスク内のすべてのパーティションとそれらの現在のディスク使用状況を表示するには、**show storage** コマンドを使用します。

show storage

コマンド モード	scope fabric-interconnect
----------	---------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.11.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	ディスク使用状況を表示するために使用します。
------------	------------------------

例

次に、ファブリック インターコネクットのローカルフラッシュドライブ上のストレージを表示する例を示します。

```
firepower /fabric-interconnect # show storage
Storage on local flash drive of fabric interconnect:
  Partition      Size (MBytes)  Used Percentage
  -----
  bootflash      106540         43
  callhome        128            Empty
  dev-shm         512            59
  isan            4000           36
  mnt-cfg-0       73             3
  mnt-cfg-1       73             3
  mnt-plog        47             3
  mnt-pss         73            41
```

show subinterface

サブインターフェイスの情報を表示するには、**show subinterface** コマンドを使用します。

show subinterface [detail]

構文の説明	detail	テーブル形式以外で各サブインターフェイスの情報を表示します。
コマンドモード	scope eth-uplink/scope fabric a/scope interface/ scope eth-uplink/scope fabric a/create port-channel/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	サブインターフェイスはコンテナ インスタンスでのみサポートされます。	

例

次に、**show subinterface** コマンドの出力例を示します。

```
firepower# scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # enter interface ethernet1/8
firepower /eth-uplink/fabric/interface # show subinterface
```

```
Sub Interface:
  Sub-If Id  Sub-Interface Name  VLAN      Port Type
  -----
      100  Ethernet1/5.100      100      Data
```

次に、**show subinterface detail** コマンドの出力例を示します。

```
firepower# scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # enter interface ethernet1/8
firepower /eth-uplink/fabric/interface # show subinterface detail
```

```
Sub Interface:
  Sub-If Id: 100
  Sub-Interface Name: Ethernet1/5.100
  VLAN: 100
  Port Type: Data
```

関連コマンド	コマンド	説明
	create port-channel	EtherChannel (ポート チャネル) を作成します。

コマンド	説明
create subinterface	サブインターフェイスを追加します。
scope interface	物理インターフェイス オブジェクトを入力します。
set port-type	インターフェイス タイプを設定します。

show sup

シャーシ スーパーバイザのバージョン情報を表示するには、**show sup version** コマンドを使用します。

show sup version [detail]

構文の説明	detail	(任意) スーパーバイザ バージョンの詳細情報を表示します。
コマンドモード	シャーシ モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	デフォルトでは、このコマンドは、スーパーバイザの ROMMON および FPGA のバージョン情報をリストします。	

例

次の例は、すべてのサーバのスーパーバイザファームウェアに関する詳細情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A /chassis # show sup version detail
SUP FIRMWARE:
  ROMMON:
    Running-Vers: 1.0.11
    Package-Vers: 1.0.11
    Activate-Status: Ready
    Upgrade Status: SUCCESS
  FPGA:
    Running-Vers: 1.05
    Package-Vers: 1.0.11
    Activate-Status: Ready

FP9300-A /chassis #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show version	シャーシ上の各サーバの現在のソフトウェアに関するバージョンおよびステータス情報を表示します。

show system

このデバイスに設定されているシステムに関する情報を表示するには、**show system** コマンドを使用します。

show system [**detail** | **firmware** | **version**]

構文の説明	detail	(任意) システムの詳細情報を表示します。
	firmware	(任意) システムのファームウェアバージョンおよびステータス情報を表示します。 detail と expand のオプション キーワードも使用できます。
	version	(任意) システムのバージョンとステータス情報を表示します。 detail と expand のオプション キーワードも使用できます。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドは、設定された各システムの名前、モード、および IP アドレスを表示します。

例

次の例は、システムバージョンの補足情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show system version expand
FPRM:
  Running-Vers: 4.2(1.62)
  Package-Vers: 2.2(1.63)
  Activate-Status: Ready

Catalog:
  Running-Vers: 4.2(1.62)T
  Package-Vers: 2.2(1.63)
  Activate-Status: Ready

Management Extension:
  Running-Vers: 2.2(1.8)
  Package-Vers: 2.2(1.63)
  Activate-Status: Ready

Fabric Interconnect A:
  Running-Kern-Vers: 5.0(3)N2(4.21.62)
  Running-Sys-Vers: 5.0(3)N2(4.21.62)
  Package-Vers: 2.2(1.63)
  Startup-Kern-Vers: 5.0(3)N2(4.21.62)
```

```

Startup-Sys-Vers: 5.0(3)N2(4.21.62)
Act-Kern-Status: Ready
Act-Sys-Status: Ready
Bootloader-Vers:

Chassis 1:
  Server 1:
    CIMC:
      Running-Vers: 3.1(20a)
      Package-Vers: 2.2(1.63)
      Update-Status: Ready
      Activate-Status: Ready

    Adapter 1:
      Running-Vers: 4.0(1.57)
      Package-Vers: 2.2(1.63)
      Update-Status: Ready
      Activate-Status: Ready
    Adapter 2:
      Running-Vers: 4.0(1.57)

<--- remaining lines removed for brevity --->

FP9300-A#

```

関連コマンド

コマンド	説明
scope system	システム モードを開始します。

show system reset-reason

システムのリセット原因に関する情報を表示するには、**show system reset-reason** コマンドを使用します。

show system reset-reason

構文の説明	reset-reason	(任意) リセット原因に関する詳細情報を表示します。
コマンドモード	connect fxos	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドはリセット原因に関する情報を表示します。

例

次の例は、モジュールのリセット原因に関する情報を表示する方法を示しています。

```
firepower#
firepower# connect fxos
...
firepower(fxos)# show system reset-reason
----- reset reason for Supervisor-module 1 (from Supervisor in slot 1) ---
1) At 826701 usecs after Sun Jul 11 09:14:12 2021
   Reason: Reset Requested by CLI command reload <=====Manual reboot requested from
   CLI.
      Service:
      Version: 5.0(3)N2(4.81)

2) At 865598 usecs after Wed Apr 21 17:10:58 2021
   Reason: Reset Requested by CLI command reload
   Service:
   Version: 5.0(3)N2(4.61)
```

show system uptime (connect fxos)

設定された各システムのシステム稼働時間に関する情報を表示するには、**show system uptime** コマンドを使用します。

show system uptime

構文の説明	system uptime	システムのアップタイム情報が表示されます。
コマンドモード	connect fxos	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	デフォルトでは、このコマンドは、構成されたシステムのシステム稼働時間を表示します。	

例

次の例は、システム稼働時間の情報を表示する方法を示しています。

```
firepower#
firepower# connect fxos
...
firepower(fxos)# show system uptime
System start time:      Sun Jul 11 09:19:55 2021
System uptime:         89 days, 23 hours, 20 minutes, 21 seconds
Kernel uptime:        89 days, 23 hours, 22 minutes, 59 seconds
Active supervisor uptime: 89 days, 23 hours, 20 minutes, 21 seconds
```

show tech-support

デバイスのハードウェアとソフトウェアに関するトラブルシューティング情報を表示または保存するには、**show tech-support** コマンドを使用します。

```
(module) # show tech-support
```

```
(local-mgmt) # show tech-support { chassis chassis_ID | fprm | module module_ID [ app-instance application_name application_ID | brief | detail ] }
```

構文の説明

モジュールモードでは、このコマンドに引数またはキーワードはありません。

chassis *chassis_ID*
[**brief** | **detail**]

シャーシ関連のトラブルシューティングデータを収集します。
chassis_ID は常に 1 です。

次のオプションを使用できます。

- **brief** : このキーワードを使用して、端末の一連のトラブルシューティング情報の要約をリストします。

>と>>の演算子を使用すると、この情報をファイルに保存できます。詳細については、[show コマンド出力の保存 \(18 ページ\)](#) を参照してください。

- **detail** : このキーワードを使用して、デバイスの `techsupport` ディレクトリ内にあるファイルにトラブルシューティングの詳細情報を保存します。

どのキーワードも入力しない場合、**brief** 出力は端末画面に表示されます。

fprm [**brief** | **detail**]

この **fprm** オプションは、バージョン 2.8(1) で廃止され、使用できなくなりました。

module *module_ID* *module_ID*で指定されたモジュールのトラブルシューティングデータを収集します。次のオプションを使用できます。

[**app-instance**
application_name
application_ID | **brief** | **detail**]

- **app-instance** : 複数インスタンス環境でこのキーワードを使用すると、*application_name* および *application_ID* で指定されたアプリケーションインスタンスの情報をリストできます。
- **brief** : このキーワードを使用して、端末の一連のトラブルシューティング情報の要約をリストします。
- **detail** : このキーワードを使用して、端末のトラブルシューティングの詳細情報をリストします。

> と >> の演算子を使用すると、この情報をファイルに保存できます。詳細については、[show コマンド出力の保存 \(18 ページ\)](#) を参照してください。

キーワードも入力しない場合、**brief** 出力は端末画面に表示されません。

コマンド モード

connect local-mgmt
connect module

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。
2.4(1)	app-instance キーワードが module オプションに追加されました。
2.8(1)	この fprm オプションは、バージョン 2.8(1) で廃止され、使用できなくなりました。 代わりに show tech-support {chassis} コマンドを使用してください。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、シスコのテクニカルサポート送信用に一連のログメッセージ、設定情報、およびコマンド出力を表示または保存します。このデータを使用すると、デバイスのハードウェアとソフトウェアのステータスを判断できます。

トラブルシューティング ファイルを別のデバイスまたは場所に転送するには、ローカル管理モードで **copy** コマンドを使用します。



(注) モジュールモードでは、このコマンドは端末で指定されたモジュールに関して収集されたトラブルシューティング情報をリストだけです。

例

次の例は、シャーシ関連のトラブルシューティングの詳細情報のファイルを生成する方法を示しています。

```
firepower # connect local-mgmt
Firepower(local-mgmt)# show tech-support chassis 1 detail

The show tech support file will be located at
/workspace/techsupport/20191105041703_firepower-9300_BC1_all.tar

Initiating tech-support information task on FABRIC A ...

Initiating tech-support information task on Chassis 1 Fabric Extender 1 ...
Initiating tech-support information task on Chassis 1 CIMC 1 ...
Initiating tech-support information task on Adaptor 1 on Chassis/Server 1/1 ...
Initiating tech-support information task on Adaptor 2 on Chassis/Server 1/1 ...
Initiating tech-support information task on Chassis 1 CIMC 2 ...
Initiating tech-support information task on Adaptor 1 on Chassis/Server 1/2 ...
Initiating tech-support information task on Adaptor 2 on Chassis/Server 1/2 ...
Completed initiating tech-support subsystem tasks (Total: 8)
Waiting (Timeout: 900 Elapsed: 30) for completion of subsystem tasks (1/8).
Waiting (Timeout: 900 Elapsed: 50) for completion of subsystem tasks (2/8).
Waiting (Timeout: 900 Elapsed: 70) for completion of subsystem tasks (5/8).
Waiting (Timeout: 900 Elapsed: 90) for completion of subsystem tasks (6/8).
Waiting (Timeout: 900 Elapsed: 110) for completion of subsystem tasks (6/8).
Waiting (Timeout: 900 Elapsed: 130) for completion of subsystem tasks (6/8).
Waiting (Timeout: 900 Elapsed: 150) for completion of subsystem tasks (6/8).
Waiting (Timeout: 900 Elapsed: 170) for completion of subsystem tasks (6/8).
Waiting (Timeout: 900 Elapsed: 190) for completion of subsystem tasks (6/8).
Waiting (Timeout: 900 Elapsed: 210) for completion of subsystem tasks (6/8).
Waiting (Timeout: 900 Elapsed: 230) for completion of subsystem tasks (7/8).
--More--
The detailed tech-support information is located at workspace:///techsupport/201--More--
91105041703_firepower-9300_BC1_all.tar
```

次の例は、セキュリティモジュールのトラブルシューティング情報のファイルを保存し、デバイス上の場所を確認する方法を示しています。

```
firepower # connect local-mgmt
firepower(local-mgmt)# show tech-support module 1 detail
The show tech support file will be located at
/workspace/techsupport/20191107082242_firepower-9300_BC_CIMC1.tar

Try connecting to Firepower-module 1...
Last login: Wed Oct 23 09:03:56 CDT 2019 from 127.128.254.1 on pts/0
Cisco Firepower Extensible Operating System (FX-OS) Software. TAC support:
http://www.cisco.com/tac Copyright (c) 2009-2016, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
The copyrights to certain works contained in this software are owned by other third
parties and used and distributed under license. Certain components of this software are
licensed under the 'GNU General Public License, version 3' provided with ABSOLUTELY NO
WARRANTY under the terms of 'GNU General Public License, Version 3', available here:
http://www.gnu.org/licenses/gpl.html. See User Manual (''Licensing'') for details. Certain
components of this software are licensed under the 'GNU General Public License, version
2' provided with ABSOLUTELY NO WARRANTY under the terms of 'GNU General Public License,
version 2', available here: http://www.gnu.org/licenses/old-licenses/gpl-2.0.html. See
User Manual (''Licensing'') for details. Certain components of this software are licensed
under the 'GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE, version 3' provided with ABSOLUTELY NO
WARRANTY under the terms of 'GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE' Version 3, available
here: http://www.gnu.org/licenses/lgpl.html. See User Manual (''Licensing'') for details.
Certain components of this software are licensed under the 'GNU Lesser General Public
License, version 2.1' provided with ABSOLUTELY NO WARRANTY under the terms of 'GNU Lesser
```

```

General Public License, version 2', available here:
http://www.gnu.org/licenses/old-licenses/lgpl-2.1.html. See User Manual ('Licensing')
for details. Certain components of this software are licensed under the 'GNU Library
General Public License, version 2' provided with ABSOLUTELY NO WARRANTY under the terms
of 'GNU Library General Public License, version 2', available here:
http://www.gnu.org/licenses/old-licenses/lgpl-2.0.html. See User Manual ('Licensing')
for details.

```

```

Cisco Security Services Platform
Type ? for list of commands
Firepower-module1>support send_diag_archive
Creating default Archive...
Archive created in 11 secs.
Starting to transfer Firepower-Module1_11_07_2019_08_22_44.tar of 5109760 bytes.
Transferred Firepower-Module1_11_07_2019_08_22_44.tar successfully to MIO at
/bladelog/blade-1/ in 1 sec(s).
Firepower-module1>support send_allcontainerlogs size 3063
Upload container logs triggered from Supervisor Module, Starting upload ....
No container instances running, skipping container logs

The detailed tech-support information is located at
workspace:/techsupport/Firepower-Module1_11_07_2019_08_22_44.tar

```

ブレードがオフラインまたはその他のエラー状態の場合、**show tech-support module 1|2|3 [detail]** を実行するとタイムアウトすることがあります。このようなシナリオでは、次の手順に従って、モジュールのテクニカルサポート（詳細）を収集してください。

1. 接続モジュール 1|2|3 console|telnet で目的のブレードに接続します。

```

FPR4110# connect module 1 console
Telnet escape character is '~'.
Trying 127.5.1.1...
Connected to 127.5.1.1.
Escape character is '~'.

```

```

CISCO Serial Over LAN:
Close Network Connection to Exit

```

2. Diag バンドルの生成

```

Firepower-module1>support diagnostic
===== Diagnostic =====

1. Create default diagnostic archive
2. Manually create diagnostic archive
3. Exit

Please enter your choice: 1

Creating Default archive

ASA running ...

Done with extracting tech support information from ASA. Log file saved as
asa_tech_support.log

1. Added file: cspCfg_cisco-asa.9.16.1__asa_001_JMX2309L046K6AY356.xml
2. Added file: tech_support_report.txt
3. Added file: ssp-cardmgmt.log
4. Added file: ssp_ntp.log.2

```

```

5. Added file: ssp_tz.log
6. Added file: ssp_ntp.log.1
7. Added file: ssp-pm.log

```

3. 診断バンドルをスーパーバイザ (MIO) にコピーします。

```

Firepower-module1>support fileupload
Please choose from following:
=====
1. Archive Files
2. View selected files
3. Start upload and Exit
4. View transfer Status
Please enter your choice [x] to Exit:1
-----files-----
2021-09-29 17:24:36.571927 | 4065280 | Firepower-Module1_09_29_2021_17_23_17.tar
2021-09-29 17:27:34.094890 | 4065280 | Firepower-Module1_09_29_2021_17_26_15.tar
2021-09-29 17:24:38.211954 | 10240 |
Firepower-module1_09_29_2021_17_24_38_container.tar

([s] to select files or [x] to Exit):s

Type the partial name of the file to add, [<] to cancel
> Firepower-Module1_09_29_2021_17_26_15.tar
Firepower-Module1_09_29_2021_17_26_15.tar
Are you sure you want to add these files? (y/n) y
=== Package Contents ===
[Added] Firepower-Module1_09_29_2021_17_26_15.tar
=====

Type the partial name of the file to add, [<] to cancel
> <
Please choose from following:
=====
1. Archive Files
2. View selected files
3. Start upload and Exit
4. View transfer Status
Please enter your choice [x] to Exit:3
Transfer of Firepower-Module1_09_29_2021_17_26_15.tar started.
Firepower-module1>support fileupload
Please choose from following:
=====
1. Archive Files
2. View selected files
3. Start upload and Exit
4. View transfer Status
Please enter your choice [x] to Exit:4
File Transfer Status:
-----
Firepower-Module1_09_29_2021_17_26_15.tar Status: Completed.

```

4. ~でモジュールコンソールを終了し、MIO でファイルを見つけます。

```

Firepower-module1>
telnet> quit
Connection closed.
FPR4110# connect local-mgmt
FPR4110(local-mgmt)# dir workspace:/bladelog/blade-1/
<>
1 4065280 Sep 29 17:30:04 2021 Firepower-Module1_09_29_2021_17_26_15.tar <---
<>

```

関連コマンド	コマンド	説明
	copy	ローカル管理モードでは、指定されたファイルのコピーを作成します。
	dir	ローカル管理モードでは、現在のディレクトリの内容がリストされます。

show timezone

現在設定されているタイムゾーンを表示するには、**show timezone** コマンドを使用します。

show timezone

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
------	------

1.1(1)	コマンドが追加されました。
--------	---------------

例

次の例は、現在タイムゾーンを表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show timezone
Timezone: America/Chicago
FP9300-A#
```

関連コマンド

コマンド	説明
set timezone	デバイスのタイムゾーンを設定します。

show trustpoint

すべてのトラストポイントの証明書のリスト（またはチェーン）を表示するには、**show trustpoint** コマンドを使用します。

show trustpoint [**detail** | *trustpoint_name*]

構文の説明	detail	詳細な証明書情報を表示します。
	<i>trustpoint_name</i>	指定されたトラストポイントの証明書情報を表示します。 この名前には、1～32文字の英数字を使用できます。-（ハイフン）、_（アンダースコア）、:（コロン）、および（ピリオド）は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後で、この名前を変更することはできません。
コマンドモード	セキュリティ モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、トラストポイントの証明書情報を表示します。
また、トラストポイント (/security/trustpoint) モードで **show** コマンドを使用すると、接続されたトラストポイントの証明書情報も表示できます。

例

次の例は、特定のトラストポイントの証明書情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # show trustpoint CHdefault

Trustpoint CA:
Trustpoint Name Trustpoint certificate chain Cert Status
-----
CHdefault -----BEGIN CERTIFICATE-----
MIE0zCCA7ugAwIBAgIQGNrRniZ96LtKIVjNzGs7SjANBgkqhkiG9w0BAQUFADCB
yjELMAkGA1UEBhMCVVMxZmFzAVBgnVBAoTDlZlcm1TaWduLCBjbmuMR8wHQYDVQQL
ExZWZlXjU2lnbiBUcnVzdCBOZXR3b3JrMTowOAYDVQQLEzEoYykgMjAwNiBwZXJp
U2lnbiwgSW5jLiAtIEZvciBhdXRob3JpemVkiHVzZSBvbmx5MUUwQwYDVQQDEzEw
ZXJpU2lnbiBDbGFzcyAzIFB1Ym9yYyBQcm1tYXJ5IENlcnRpb24gQXV0aG9y
aG9yaXR5IC0gRzUwHhcNMDYxMjA4MDAwMDAwWhcNMzYwNzE2MjM1OTU5WjCBYjEL
MAkGA1UEBhMCVVMxZmFzAVBgnVBAoTDlZlcm1TaWduLCBjbmuMR8wHQYDVQQLExZl
ZXJpU2lnbiBUcnVzdCBOZXR3b3JrMTowOAYDVQQLEzEoYykgMjAwNiBwZXJpU2ln
biwgSW5jLiAtIEZvciBhdXRob3JpemVkiHVzZSBvbmx5MUUwQwYDVQQDEzEwZXJp
U2lnbiBDbGFzcyAzIFB1Ym9yYyBQcm1tYXJ5IENlcnRpb24gQXV0aG9y
aXR5IC0gRzUwggEiMA0GCSqGSIb3DQEBAQUAA4IBDwAwggEKAoIBAQCvJAgIKXo1
nmAMqduL007cfLw8RRy7K+D+KQL5VwijZIUUVJ/XxrcgxiV0i6CqqpkKzj/i5Vbex
```

```
t0uz/o9+B1fs70PbZmIVYc9gDaTY3vjgw2IIPVQT60nKWVSFJuUrjxuf6/WhkcIz
SdhDY2pSS9KP6HBRTdGJaXvHcPaz3BJ023tdS1bTlr8Vd6Gw9KI18q8ckmcY5fQG
BO+QueQA5N06tRn/Arr0FO7gi+s3i+z016zy9vA9r911kTMZHRxAy3QkGSGT2RT+
rCpSx4/VBEnkjWNHiDxpg8v+R70rfk/Fla4OndTRQ8Bnc+MUCH71P59zuDMKz10/
NIewiu5T6CUVAgMBAAGjgbIwga8wDwYDVR0TAQH/BAUwAwEB/zAOBgNVHQ8BAf8E
BAMCAQYwbQYIKwYBBQUHAQwEYTBfoV2gWzBZMFcwVRYJaW1hZ2UvZ21mMCEwHzAH
BgUrDgMCGGUj+XTGoasjY5rw8+AatRIGCx7GS4wJRYjaHR0cDovL2xvZ28udmVy
aXNpZ24uY29tL3ZzbG9nby5naWYwHQYDVR0OBBYEFH/TzafC3ey78DAJ80M5+gKv
MzEzMA0GCSqSIB3DQEBBQUAA4IBAQCtJEowX2LP2BqYLz3q3JktvXf2pXki00zE
p6B4Eq1iDkVwZMXn12YtmAl+X6/WzChl8gGqCBpH3vn5fJJJaCGkgDdk+bW48DW7Y
5garQBi5+Mht39tBquCWIMnNZBU4gcmU7qKEKQsTb47bDN01Atukix1E0kF6Bw1k
WE9gyn6CagsCqiUXObXbf+eEZSqVir2G3l6BFoMtEMze/aiCKm0oHw0LxOXnGiYZ
4fQRbxCl1fznQgUy286dUV4otp6F01vvpX1FQHKOtW5rDgb7MzVICbidJ4vEZV8N
hnacRRhr21Vz2XTIIM6RUthg/aFzyQkqFOFSDX9HoLPKsEdao7WNq
-----END CERTIFICATE-----
Valid
```

```
FP9300-A /security #
```

コマンド	説明
set certchain	トラストポイントの証明書のリスト（またはチェーン）を入力します。
set trustpoint	キーリングの証明書トラストポイントを設定します。

show user-sessions

ローカルおよびリモートユーザーセッションに関する情報を表示するには、**show user-sessions** コマンドを使用します。

show user-sessions

コマンドモード

scope security

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、このコマンドはユーザーセッション情報を表示します。

例

次の例は、ローカルおよびリモートユーザーセッション情報を表示する方法を示しています。

```
firepower# scope security
firepower /security # show user-sessions local
Session Id      User           Host           Login Time
-----
pts_0_1_24360*  admin         192.0.2.1     2021-10-11T20:46:16.000
```

```
firepower# show user-sessions local detail
Session Id pts_0_1_24360*:
  Fabric ID: A
  Term: pts/0
  User: admin
  Host: 192.0.2.1
  Pid: 24360
  Login Time: 2021-10-11T20:46:16.000
  Refresh Period (in secs): 0
  Session Timeout (in secs) for web, ssh, telnet sessions: 0
  Absolute Session Timeout (in secs) for web, ssh, telnet sessions: 0
```

```
firepower /security # show user-sessions remote

Session Id      User           Host           Login Time
-----
pts_1_1_9578    test1         192.0.2.2     2021-10-11T21:39:52.000
```

```
firepower /security # show user-sessions remote detail
Session Id pts_1_1_9578:
  Fabric ID: A
  Term: pts/1
  User: test1
  Host: 192.0.2.2
  Pid: 9578
  Login Time: 2021-10-11T21:39:52.000
```

```
Refresh Period (in secs): 0  
Session Timeout (in secs) for web, ssh, telnet sessions: 0  
Absolute Session Timeout (in secs) for web, ssh, telnet sessions: 0
```

show validate-task

手動で開始されたイメージ検証のステータスを確認するには、**show validate-task** コマンドを使用します。

show validate-task [**detail** | **fsm** | *pack_version*]

構文の説明	detail	(任意) 利用可能なすべてのプラットフォームのパッケージステータスの詳細情報を表示します。
	fsm status	(任意) 有限状態マシンの検証ステータスをリストします。 expand キーワードおよび <i>pack_version</i> 変数も使用できます。
	<i>pack_version</i>	(任意) 指定されたパッケージの検証情報を表示します。 このオプションでは detail キーワードも使用できます。

コマンドモード ファームウェア モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン *pack_version* を含めない場合、**show validate-task** コマンドはアプライアンスのすべてのファームウェア イメージの情報をリストします。

このコマンドまたは **show validation package** コマンドを使用すると、目的のパッケージのバージョン番号を特定できます。

例

次の例は、特定のファームウェアパッケージの検証履歴を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope firmware
FP9300-A /firmware # show validate-task 2.3(1.51)
```

```
Validate task:
  Pack Name: fxos-k9-bundle-infra.2.3.1.51.SPA
  Pack Version: 2.3(1.51)
  Validation Time Stamp: Never
  Validation State: None
  Overall Status String:

  Pack Name: fxos-k9-bundle-server.2.3.1.51.SPA
  Pack Version: 2.3(1.51)
  Validation Time Stamp: Never
  Validation State: None
  Overall Status String:

  Pack Name: fxos-k9.2.3.1.51.SPA
```

```
Pack Version: 2.3(1.51)
Validation Time Stamp: 2017-10-25T16:53:30.914
Validation State: None
Overall Status String: Ok
```

```
FP9300-A /firmware #
```

関連コマンド

コマンド	説明
download image	Firepower 4100/9300 シャーシに FXOS ソフトウェア イメージをダウンロードします。
verify platform-pack	ダウンロードされた FXOS プラットフォーム バンドルの整合性を確認します。

show version

現在のシステムのソフトウェアバージョン情報を表示するには、**show version** コマンドを使用します。

show version [**detail**]

すべてのシャーシコンポーネントのソフトウェアバージョンおよびステータス情報を表示するには、シャーシモードで **show version** コマンドを使用します。

show version [**detail** | **package-version**]

サーバのコンポーネントのソフトウェアバージョンおよびステータス情報を表示するには、サーバモードで **show version** コマンドを使用します。サーバモードでは、個々のコンポーネントのバージョン情報を表示することもできます。

show version [**adapter** | **bios** | **boardcontroller** | **cimc** | **detail** | **fxos** | **package-version** | **storage**]

構文の説明

adapter	(任意) 接続されたサーバにインストールされているアダプタのバージョン情報を表示します。このキーワードはサーバモードでのみ使用できます。
bios	(任意) 接続されたサーバの BIOS バージョン情報を表示します。このキーワードはサーバモードでのみ使用できます。
boardcontroller	(任意) 接続されたサーバの管理コントローラのバージョン情報を表示します。このキーワードはサーバモードでのみ使用できます。
cimc	(任意) 接続されたサーバの CIMC バージョン情報およびステータス情報を表示します。このキーワードはサーバモードでのみ使用できます。
detail	(任意) 追加のバージョン情報を表示します。
fxos	(任意) 接続されたサーバの SSP オペレーティングシステムのバージョン情報を表示します。このキーワードはサーバモードでのみ使用できます。
package-version	(任意) パッケージバージョン情報のみを表示します。このキーワードは、アダプタ、シャーシ、ファブリックインターコネクト、サーバ、システムモードでのみ使用できます。
storage	(任意) 接続されたサーバの RAID およびディスクコントローラのバージョン情報を表示します。このキーワードはサーバモードでのみ使用できます。

コマンドモード

Any コマンドモード：システムソフトウェアバージョン情報を表示します

シャーシモード：すべてのシャーシコンポーネントのソフトウェアバージョンおよびステータス情報を表示します

サーバモード：接続されたサーバのコンポーネントのソフトウェアバージョンおよびステータス情報を表示します

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **package-version** キーワードは、アダプタ、シャーシ、ファブリックインターコネクタ、サーバ、システムモードでのみ使用できます。

ファブリックインターコネクタモードでは、このコマンドは追加のバージョン情報を表示しません。次の例を参照してください。

例

次の例は、管理システムバージョンの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# show version detail
FPRM:
  Running-Vers: 4.2(1.62)
  Package-Vers: 2.2(1.63)
  Activate-Status: Ready
  Startup-Vers: 4.2(1.62)
```

```
FP9300-A#
```

次の例は、ファブリックインターコネクタモードでバージョン情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope fabric-interconnect a
FP9300-A /fabric-interconnect #show version
Fabric Interconnect A:
  Running-Kern-Vers: 5.0(3)N2(4.31.60)
  Running-Sys-Vers: 5.0(3)N2(4.31.60)
  Package-Vers: 2.3(1.51)
  Startup-Kern-Vers: 5.0(3)N2(4.31.60)
  Startup-Sys-Vers: 5.0(3)N2(4.31.60)
  Act-Kern-Status: Ready
  Act-Sys-Status: Ready
  Bootloader-Vers:
```

```
FP9300-A /fabric-interconnect #
```

次の例は、シャーシコンポーネントのバージョン情報を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope chassis 1
FP9300-A /chassis # show version detail
Chassis 1:
  Server 1:
    CIMC:
      Running-Vers: 3.1(23a)
      Package-Vers: 2.3(1.51)
      Update-Status: Ready
```

```

        Activate-Status: Ready

Adapter 1:
  Running-Vers: 4.0(1.67)
  Package-Vers: 2.3(1.51)
  Update-Status: Ready
  Activate-Status: Ready
  Bootloader-Update-Status: Ready
Adapter 2:
  Running-Vers: 4.0(1.67)
  Package-Vers: 2.3(1.51)
  Update-Status: Ready
  Activate-Status: Ready
  Bootloader-Update-Status: Ready
BIOS:
  Running-Vers: FXOSSM1.1.2.1.6.072020171212
  Package-Vers: 2.3(1.51)
  Update-Status: Ready
  Activate-Status: Ready

SSP OS:
  Running-Vers: 2.3(1.50)
  Package-Vers: 2.3(1.51)
  Update-Status: Ready
  Activate-Status:

RAID Controller 1:
  Running-Vers: 24.12.1-0203|6.30.03.0|NA
  Package-Vers: 2.3(1.51)
  Activate-Status: Ready

BoardController:
  Running-Vers: 14.0
  Package-Vers: 2.3(1.51)
  Activate-Status: Ready

Local Disk 1:
  Running-Vers: EM14
  Package-Vers:
  Activate-Status: Ready

Local Disk 2:
  Running-Vers: EM14
  Package-Vers:
  Activate-Status: Ready

Server 2:
  CIMC:
    Running-Vers: 3.1(23a)
    Package-Vers: 2.3(1.51)
    Update-Status: Ready
    Activate-Status: Ready

<--- remaining lines removed for brevity --->

FP9300-A /chassis #

```

関連コマンド

コマンド	説明
show server version	現在のサーバソフトウェアのバージョンとステータス情報を表示します。

shutdown

デバイスをシャットダウンするには、**shutdown** コマンドを使用します。

shutdown [**no-prompt** | *reason*]

構文の説明	no-prompt	(任意) このキーワードを使用すると、シャットダウンがすぐに開始されます。それ以外の場合、シャットダウンの開始には commit-buffer が必要です。
	<i>reason</i>	(任意) シャットダウン ログに追加されるテキスト文字列。最大 510 文字まで使用できます。

コマンドモード	シャーシモード ローカル管理モード：廃止
---------	-------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン シャットダウン前にシステム設定をバックアップすることを推奨します。
このコマンドはローカル管理モードでは廃止されています。シャーシモードで **shutdown** を使用します。

例

次の例は、シャーシモードを開始し、システムをシャットダウンする方法を示しています。

```
Firepower # scope chassis 1
Firepower /chassis # shutdown no-prompt
Starting chassis shutdown. Monitor progress with the command "show fsm status".
Please set the power switch to the off position after "INIT: no more processes left in
this runlevel" message is seen.
Firepower /chassis #
Broadcast message from root@Firepower (Tue Jul 14 11:40:47 2020):

All shells being terminated due to system /sbin/shutdown

Cisco FPR Series Security Appliance
INIT: Sending processes the TERM signal
Jul 14 11:40:53 %TTYD-2-TTYD_ERROR TTYD Error ttyd bad select

INIT: no more processes left in this runlevel
```

関連コマンド	コマンド	説明
	reboot	シャーンまたはファブリックインターコネクトを再起動します。

show web-session-limits

システムで使用可能な Web セッションのリストを表示するには、**show web-session-limits** コマンドを使用します。

show validate-task [**detail**]

構文の説明	Detail	Web セッション制限の詳細リストを表示します。
コマンド モード	scope system/scope services	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3.1	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	これは、スコープシステム、スコープサービスの show コマンドのサブコマンドです。	

例

次の例は、システム Web セッション制限の情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /fabric-interconnect # scope system
Firepower /system # scope services
Firepower /system/services # show web-session-limits

Web Sessions:
  Maximum logins for single user Maximum Sessions
  -----
  32                               256
```

例

次の例は、使用可能な Web セッションの詳細情報を表示する方法を示しています。

```
Firepower /system/services # show web-session-limits detail

Web Sessions:
  Maximum logins for single user: 32
  Maximum Sessions: 256
```

show web-session-limits



第 **III** 部

T-W コマンド

- [T-W コマンド \(663 ページ\)](#)



T-W コマンド

- [terminal](#) (664 ページ)
- [top](#) (665 ページ)
- [traceroute \(connect local-mgmt\)](#) (666 ページ)
- [traceroute6 \(connect local-mgmt\)](#) (667 ページ)
- [up](#) (668 ページ)
- [verify platform-pack](#) (669 ページ)
- [where](#) (671 ページ)

terminal

ターミナル ウィンドウに表示される行数および行の幅を設定するには、**terminal** コマンドを使用します。

terminal {**length** *lines*|**width** *characters*}

構文の説明	length <i>lines</i>	ターミナル ウィンドウに表示される行数。有効値の範囲は 0 ~ 511 です。一時停止を回避するには、0 を入力します。
	width <i>characters</i>	ターミナル ウィンドウに表示される 1 行あたりの文字数。有効値の範囲は 24 ~ 511 文字です。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドを使用して、ターミナル ウィンドウに表示される行数および 1 行あたりの文字数を設定します。	

例

次の例は、ターミナル ウィンドウに表示される行数を 12 に設定する方法を示しています。

```
FP9300-A# terminal length 12
FP9300-A *# commit-buffer
FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set cli	コマンド出力行を折り返すまたは切り詰めるかどうか、テーブルヘッダーを表示するかどうか、コマンド出力テーブルのフィールドを区切るためにカンマまたはスペースを使用するかどうかを指定します。

top

任意のモードでルート（EXEC）を入力するには、**top** コマンドを使用します。

top

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、任意のモードでルートを入力する方法を示します。

```
FP9300-A /system/services # top
FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	up	1つ上位のモードに移動します。

tracert (connect local-mgmt)

ネットワーク上の別のデバイスに至るルートを、そのホスト名または IPv4 アドレスを使ってトレースするには、**tracert** コマンドを使用します。

```
tracert {hostname|IPv4_address} [source header_IP]
```

構文の説明	<i>hostname IPv4_address</i> 接続するネットワーク デバイスのホスト名または IP アドレス。このホスト名の長さは最大 510 文字です。
	source header_IP (任意) このキーワードを使用すると、パケットヘッダーに含めるデバイスの IP アドレスを指定できます。
コマンドモード	connect local-mgmt
コマンド履歴	リリース 変更内容 1.1(1) コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、ネットワーク ホストへの IP パケットのルートを追跡します。パケットヘッダーに含まれる **source IP** アドレスを指定しない場合は、管理ポートアドレスが使用されます。

例

次の例は、ローカル管理 CLI に接続し、ネットワーク上の別のデバイスへのルートをトレースする方法を示しています。

```
firepower# connect local-mgmt
firepower(local-mgmt)# tracert 198.51.100.10
tracert to 198.51.100.10 (198.51.100.10), 30 hops max, 40 byte packets
 1 198.51.100.57 (198.51.100.57) 0.640 ms 0.737 ms 0.686 ms
 2 net1-gw1-13.cisco.com (198.51.100.101) 2.050 ms 2.038 ms 2.028 ms
 3 net1-sec-gw2.cisco.com (198.51.100.201) 0.540 ms 0.591 ms 0.577 ms
 4 net1-fp9300-19.cisco.com (198.51.100.108) 0.336 ms 0.267 ms 0.289 ms

firepower(local-mgmt)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ping	指定された宛先 (IPv4 アドレス) でデバイスに ping を実行します。

traceroute6 (connect local-mgmt)

ネットワーク上の別のデバイスに至るルートを、そのホスト名または IPv6 アドレスを使ってトレースするには、**traceroute6** コマンドを使用します。

traceroute6 {hostname|ipv6_address} [**source** header_ip]

構文の説明

hostname|ipv6_address 接続するネットワーク デバイスのホスト名または IPv6 アドレス。このホスト名の長さは最大 510 文字です。

source header_ip (任意) このキーワードを使用すると、パケットヘッダーに含めるデバイスの IP アドレスを指定できます。

コマンドモード

connect local-mgmt

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、ネットワーク ホストへの IP パケットのルートを追跡します。パケットヘッダーに含まれる **source** IP アドレスを指定しない場合は、管理ポートアドレスが使用されます。

例

次の例は、ローカル管理 CLI に接続し、ネットワーク上の別のデバイスへのルートをトレースする方法を示しています。

```
firepower# connect local-mgmt
firepower(local-mgmt)# traceroute 2001:DB8:1::1
traceroute to 2001:DB8:1::1 (2001:DB8:1::1), 30 hops max, 40 byte packets
 1 2001:DB8:1::4 (2001:DB8:1::4) 0.640 ms 0.737 ms 0.686 ms
 2 net1-gw1-13.cisco.com (2001:DB8:1::6) 2.050 ms 2.038 ms 2.028 ms
 3 net1-sec-gw2.cisco.com (2001:DB8:1::8) 0.540 ms 0.591 ms 0.577 ms
 4 net1-fp9300-19.cisco.com (2001:DB8:1::7) 0.336 ms 0.267 ms 0.289 ms

firepower(local-mgmt)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping6	指定された宛先 (IPv6 アドレス) でデバイスに ping を実行します。

up

コマンドモード階層で1つ上位のレベルに移動するには、**up** コマンドを使用します。

up

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

例

次の例は、1つ上位のモードに移動する方法を示します。

```
FP9300-A /org/service-profile # up
FP9300-A /org #
```

関連コマンド

コマンド	説明
exit	現在のCLIセッションを終了し、デバイスから切断するか、または接続されたオブジェクトモードを終了し、ルート (EXEC) レベルに戻ります。
top	任意のモードからルート (EXEC) を開始します。

verify platform-pack

ダウンロードした FXOS プラットフォーム バンドルの整合性を手動で確認するには、**verify platform-pack** コマンドを使用します。

verify platform-pack version version_number

構文の説明	version version_number 検証するプラットフォームパッケージのバージョン番号を指定します。
コマンドモード	ファームウェア モード
コマンド履歴	リリース 変更内容 1.1(1) コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	イメージの整合性は、新しいイメージが Firepower4100/9300 シャーシにダウンロードされたときに自動的に確認されます。ダウンロードしたイメージの整合性を後で手動で確認するには、このコマンドを使用します。

show validate-task または **show validation package** コマンドを使用すると、目的のパッケージバージョン番号を指定できます。

また、**show validate-task** コマンドを使用すると、検証プロセスをモニタすることもできます。出力表示は自動的に更新されないため、何度もコマンドを入力する必要があります。

例

次の例は、特定のプラットフォーム パッケージを確認する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope firmware
FP9300-A /firmware # show validation package
Firmware Package 2.2(2.19):
  Validation Time Stamp: 2017-10-26T14:34:24.925
  Pack Name: fxos-k9.2.2.2.19.SPA
  Validation State: None
  Overall Status Code: Ok

Firmware Package 2.3(1.51):
  Validation Time Stamp: 2017-10-25T16:53:30.914
  Pack Name: fxos-k9.2.3.1.51.SPA
  Validation State: None
  Overall Status Code: Ok
FP9300-A /firmware # verify platform-pack version 2.3(1.51)
The currently installed FXOS platform software package is 2.3(1.51)
All the Security Modules will be installed with these software components:
  Security Module Adapter  4.0(1.67)
  Security Module BIOS     FXOSSM2.1.3.1.13.0927171811
  Security Module FXOS     2.3(1.50)

INFO: There is no service impact to install this FXOS platform software 2.3(1.51)
```

```
Verifying FXOS platform software package 2.3(1.51). Verification could take several
minutes.
Do you want to proceed? (yes/no) [yes]:
```

関連コマンド

コマンド	説明
download image	Firepower 4100/9300 シャーシに FXOS ソフトウェア イメージをダウンロードします。
show validate-task	イメージ検証プロセスのステータスを表示します。

where

現在の CLI コマンド階層を判断するには、**where** コマンドを使用します。

where

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、現在の CLI を判断する方法を示します。

```
FP9300-A /org/service-profile # where
Mode: /org/service-profile
Mode Data:
  scope org
  enter org org10
  enter service-profile sp10 instance
FP9300-A /org/service-profile #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	top	任意のモードからトップ (EXEC) レベルに移動します。
	up	1つ上位のモードに移動します。

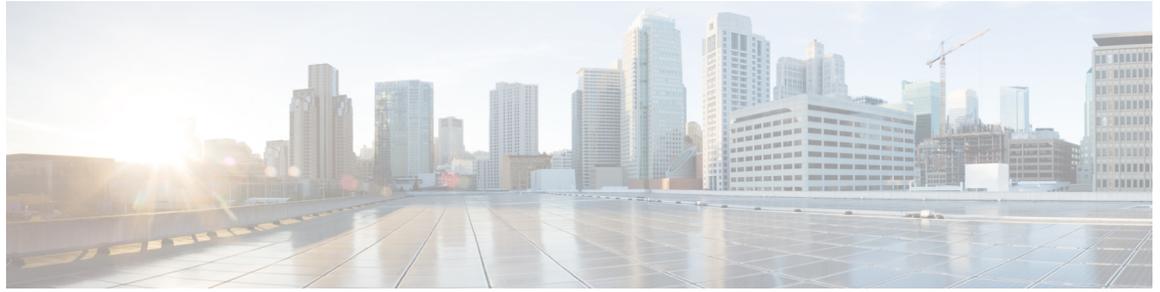
where



第 **IV** 部

connect shell コマンド

- [connect shell コマンド \(675 ページ\)](#)



connect *shell* コマンド

- [connect adapter](#) : コマンドリスト (676 ページ)
- [connect cime](#) : コマンドリスト (681 ページ)
- [connect fxos](#) : コマンドリスト (685 ページ)
- [connect local-mgmt](#) : コマンドリスト (701 ページ)
- [connect module](#) : コマンドリスト (708 ページ)

connect adapter : コマンドリスト

スーパーバイザ **connect adapter** コマンドを使用して特定のアダプタのコマンドシェルに接続すると、そのシェルで次のコマンドを使用できます。**connect adapter** コマンドの詳細については、[connect adapter \(41 ページ\)](#) を参照してください。



注目 これらのコマンドは、Cisco TACの監視下で仮想ネットワークアダプタをトラブルシューティングする場合にのみ使用してください。

アダプタ コマンドシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトはデフォルトコマンドから変更されます。adapter n/n/n というアプライアンスに割り当てた名前に変更されます。この場合、n/n/n は、接続用に入力したアダプタのシャーシ/サーバID の組み合わせです。

アダプタ モードを終了するには、**exit** と入力します。

例

次の例では、アダプタ コマンドシェルに接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示します。

```
firepower# connect adapter 1/2/1
adapter 1/2/1 # help
Available commands:
  connect      - Connect to remote debug shell
  exit         - Exit from subshell
  help        - List available commands
  history     - Show command history
  show-fwlist - Show firmware versions on the adapter
  show-identity - Show adapter identity
  show-phyinfo - Show adapter phy info
  show-systemstatus - Show adapter status
adapter 1/2/1 # exit
firepower#
```

表 6: アダプタのプライマリ コマンドシェルで利用可能なコマンド

コマンド	その他の情報
connect	デバッグ シェルに接続します。次の表に示すコマンドにアクセスできます。
exit	アダプタ コマンド シェルを終了します。
help	このシェルで利用可能なコマンドをリストします。
history	このシェルの入力後に発行されたコマンドのリストを表示します。

コマンド	その他の情報
show-fwlist	アダプタのファームウェアバージョンを表示します。
show-identity	アダプタの ID を表示します
show-phyinfo	アダプタの物理的情報を表示します
show-systemstatus	アダプタのステータスを表示します

デバッグ サブシェルで利用可能なコマンドは次のとおりです。アダプタのプライマリ コマンドシェルで **connect** コマンドを入力してアクセスします。



- (注) シェルのデバッグサブシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトが `adapter n/n/n` プロンプトから `adapter n/n/n (top):n` に変わります。(top): は現在アダプタ コマンドシェルの上位サブシェルであること、*n* はデバッグセッションに表示されるコマンドの行数を表します。

デバッグ サブシェルを終了するには、**exit** と入力します。

例

次の例は、アダプタのデバッグサブシェルに接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示しています。

```
adapter 1/2/1 # connect
No entry for terminal type "dumb";
using dumb terminal settings.
adapter 1/2/1 (top):1# help
Available commands:
  attach-fls      - Attach to fls
  attach-mcp      - Attach to mcp
  estat           - Run fc performance monitor
  exit            - Exit from subshell
  help            - List available commands
  history         - Show command history
  phy-read        - Read PHY register
  show-acltab     - Show ACL table
  show-fru        - Show FRU contents
  show-fwdtab     - Show forwarding table
  show-log        - Show system log
  show-macstats   - Show MAC statistics
  show-pcisw      - Show PCIE switch status
adapter 1/2/1 (top):2# exit
adapter 1/2/1 #
```

表 7:アダプタ デバッグ サブシェルで利用可能なコマンド

コマンド	その他の情報
attach-fls	アダプタのファブリック ログインサービスに接続します。次の表に示すコマンドにアクセスできます。
attach-mcp	マスター制御プログラムに接続します。多くのデバッグ情報コマンドを使用できます。リストを表示するには、 help コマンドを使用します。 ここでも、これらのコマンドは Cisco TAC のガイダンスでのみ使用します。
estat	ファイバチャネルパフォーマンス モニタを起動します。
exit	このサブシェルを終了します。
help	このサブシェルで利用可能なコマンドをリストします。
history	このサブシェルの入力後に発行されたコマンドのリストを表示します。
phy-read	PHY レジスタを読み込みます
show-acltab	ACL テーブルを表示します
show-fru	FRU の内容を表示します
show-fwddb	転送テーブルを表示します
show-log	システム ログを表示します
show-macstats	MAC 統計情報を表示します
show-pcisw	PCIE スイッチ ステータスを表示します

次のコマンドはファブリック ログインサービス (FLS) サブシェルで使用できます。アダプタのデバッグ シェルの **attach-fls** コマンドを入力してアクセスします。



- (注) アダプタのデバッグ サブシェルの FLS サブシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトが `adapter n/n/n (top):n` から `adapter n/n/n (fls):n` に変わります。(fls): は現在のデバッグ サブシェルの FLS サブシェルを表し、n はこの FLS セッションで表示されるコマンドの行数を表します。

FLS サブシェルを終了するには、**exit** を入力します。デバッグ サブシェルに戻ります。

例

次の例は、デバッグサブシェルから FLS サブシェルに接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示しています。

```

adapter 1/2/1 # connect
No entry for terminal type "dumb";
using dumb terminal settings.
adapter 1/2/1 (top):1# attach-fls
No entry for terminal type "dumb";
using dumb terminal settings.
adapter 1/2/1 (fls):1# help
Available commands:
    d - dumps the contents of the last fw request
    exit - Exit from subshell
    fwactive - retrieve active fcpu exchanges
    fwcqs - retrieves fcpu cq information
    fwexch - retrieves fcpu exchange data
    fwlif - retrieves fcpu lif data
    fwvnic - retrieves fcpu vnic data
    help - List available commands
    history - Show command history
    lif - Show lif information
    login - Show login information pertaining to vnic
    lunlist - Show Nameserver and Report LUN's response information for vnic
    lunmap - Show lunmap information pertaining to vnic
    vnic - Show vnic information

adapter 1/2/1 (fls):2# exit
adapter 1/2/1 (top):2#

```

表 8: FLS サブシェルで利用可能なコマンド

コマンド	その他の情報
d	最後のファームウェア要求の内容をダンプします。
exit	FLS サブシェルを終了します。
fwactive	アクティブな fcpu 交換を取得します
fwcqs	fcpu cq 情報を取得します
fwexch	fcpu 交換データを取得します
fwlif	fcpu lif データを取得します
fwvnic	fcpu vnic データを取得します
help	利用可能なコマンドをリストします
history	コマンド履歴を表示します

コマンド	その他の情報
lif	lif 情報を表示します
login	vnic に関するログイン情報を表示します
lunlist	vnic のネームサーバとレポート LUN の応答情報を表示します
lunmap	vnic に関連する lunmap 情報を表示します
vnic	vnic 情報を表示します

connect cimc : コマンドリスト

connect cimc スーパーバイザ コマンドを使用して特定のモジュールの CIMC ファームウェア デバッグユーティリティに接続すると、そのシェルで次のコマンドを使用できます。**connect cimc** コマンドの詳細については、[connect cimc \(45 ページ\)](#) を参照してください。

このユーティリティにより、リアルタイムの CIMC デバッグ情報を表示できるコマンドを使用して、読み取り専用シェルにアクセスできます。これらのコマンドは、主に CIMC 問題のトラブルシューティングに使用されます。アラーム、システムイベントログ、オンボードの障害、および電源制御が表示されます。



-
- (注) CIMC コマンドシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトがデフォルトプロンプトから変更されます。[xxx] というアプライアンスに割り当てた名前です。この場合、xxx は入力した最後のコマンドです。次の例を参照してください。
-

CIMC シェルを終了するには、**exit** と入力します。

例

次の例では、CIMC モードに接続し、利用可能なコマンドをリストする方法を示します。

```
firepower# connect cimc 1/1
Trying 127.5.1.1...
Connected to 127.5.1.1.
Escape character is '^]'.

CIMC Debug Firmware Utility Shell [ support ]
[ help ]# help

-----
Debug Firmware Utility
-----
Command List
-----
alarms
cores
dimmb1
exit
i2cstats
images
mctools
memory
messages
mrcout
network
obfl
post
power
programmables
sensors
sel
fru
```

```

tasks
top
update
users
version
cert
sldp
help
help [COMMAND]

```

Notes:
"enter Key" will execute last command
"COMMAND ?" will execute help for that command

```

[ help ]# power
OP:[ status ]
Power-State:           [ on ]
Master-State:          [ Master ]
VDD-Power-Good:        [ active ]
Power-On-Fail:         [ inactive ]
Power-Ctrl-Lock:       [ unlocked ]
Power-System-Status:   [ Good ]
Front-Panel Power Button: [ Disabled ]
Front-Panel Reset Button: [ Disabled ]
Source of Last Power Change: [ Software - "mcserver" ]
OP-CCODE:[ Success ]
[ power ]# exit
Connection closed by foreign host.
firepower#

```

表 9: CIMC デバッグ シェルで利用可能なコマンド

コマンド	その他の情報
alarms	StatusLEDの現在の状態、およびアラームに含まれているセンサー（存在する場合）を表示します。 アラーム レベル： <ul style="list-style-type: none"> 1 : OK（緑色の点灯） 2 : メモリの初期化（緑色の点滅） 3 : 中程度の障害（オレンジ色の点灯） 4 : 重大な障害（オレンジ色の点滅）
cores	コア ダンプ ディレクトリをリストします。
exit	CIMC サブシェルを終了します。
fru	すべての現場交換可能ユニット（FRU）デバイス情報をリストします。

コマンド	その他の情報
help [COMMAND]	コマンド help を入力するだけで、利用可能なすべてのコマンドがリストされます。 help cmd_name を入力すると、 <i>cmd_name</i> ? コマンドのヘルプ情報が表示されます。
i2cstats	I ² C コントローラレジスタ情報、ドライバカウンタ、マルチプライマリ デバッグトレース データを表示します。
images	ソフトウェアのイメージバージョンおよびステータス情報を表示します。
mctools	現在の MCtools の状態情報 (ソケットおよび共有ファイルのキャッシュ サイズ情報) を表示します。
memory	メモリおよび負荷の統計情報を表示します。
messages	messages [dump follow tail] dump : /var/log/messages ファイルをダンプします follow : /var/log/messages ファイルをテールおよびフォローします tail : 最後の 100 個のメッセージをダンプします
mezz1fru	mezz カード 1 FRU 情報を表示します
mezz2fru	mezz カード 2 FRU 情報を表示します
mrkout	MrcOut*.txt をダンプします
network	ネットワーク ステータスをリアルタイムで表示します ネットワーク情報をダンプします
obfl	OBFL (オンボード障害ログ) をダンプします dump : OBFL をダンプします follow : OBFL をテールおよびフォローします tail : 最後の 100 個のメッセージをダンプします
post	BIOS Post 情報をダンプします
power	電源ステータスをリアルタイムで表示します ブレードの電源ステータスをダンプします
programmables	ボードでプログラム可能なバージョンをダンプします

コマンド	その他の情報
sensors	すべてのセンサーをリアルタイムで表示します sensors [all power temp fault pres led] all : すべてのセンサーをダンプします (デフォルト) power : 電源センサーのみをダンプします temp : 温度センサーのみをダンプします fault : 障害センサーのみをダンプします pres : プレゼンス センサーのみをダンプします led : LED センサーのみをダンプします
sel	ブレード SEL 情報 (システム イベント ログ) を表示します
sldp	Cisco CIMC 相互作用のデバッグ このコマンドは、ユーザおよびシスコのサポート担当者の支援を受けて相互作用のデバッグ認証を実行します。
tasks	実行中タスクの情報をダンプします
top	上位プロセス モニタリングを実行します
update	現在のファームウェアの更新ステータス
users	IPMI ユーザをダンプします
version	バージョン情報を取得します

connect fxos : コマンドリスト

connect fxos スーパーバイザ コマンドを使用してスイッチング ファブリックの FXOS CLI シェルに接続すると、このシェルで次のコマンドを使用できます。**connect fxos** コマンドの詳細については、[connect adapter \(41 ページ\)](#) を参照してください。



- (注) FXOS コマンドシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトがデフォルトプロンプトから変更されます。(fxos) が付加されたデフォルトプロンプトというアプライアンスに割り当てられた名前です。次の例を参照してください。

FXOS シェルを終了するには、**exit** と入力します。

例

次の例では、FXOS コマンドシェルに接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示します。

```
firepower# connect fxos
firepower(fxos)# ?
clear          Reset functions
cli            CLI commands
debug         Debugging functions
debug-filter   Enable filtering for debugging functions
ethanalyzer    Configure cisco packet analyzer
no            Negate a command or set its defaults
ntp           NTP configuration
show          Show running system information
system        System management commands
terminal      Set terminal line parameters
test          Test command
undebg        Disable Debugging functions (See also debug)
end           Go to exec mode
exit          Exit from command interpreter
pop           Pop mode from stack or restore from name
push          Push current mode to stack or save it under name
where         Shows the cli context you are in

firepower(fxos)# exit
firepower#
```

表 10: スイッチング ファブリックの **FXOS** シェルで利用可能なコマンド

コマンド	その他の情報
clear	リセット機能 counters : カウンタをクリアします logging : ログ情報情報をクリアします mac : MAC
cli	CLI コマンド var : 変数を定義します
debug	デバッグ機能。次の表を参照してください
debug-filter	デバッグ機能のフィルタリングを有効にします ip : IP イベント ipv6 : IPv6 イベント pktmgr : Pm debug-filter routing : ルーティング イベント
ethanalyzer	シスコ パケット アナライザを設定します local : Sup へのフレームのローカル キャプチャを開始します
no	コマンドを無効にするか、またはデフォルト値を設定します debug : デバッグ機能 debug-filter : デバッグ機能のフィルタリングを有効にします ethanalyzer : シスコ パケット アナライザを設定します terminal : ターミナル ライン パラメータを設定します test : テスト コマンド
ntp	NTP 設定 sync-retry : 設定済みサーバの同期化を再試行します
show	実行中システムの情報を表示します。次の表を参照してください

コマンド	その他の情報
system	システム管理コマンド hap-reset : ha 障害でローカルまたはリモート sup のリセットを有効にします heartbeat : ハートビートを有効にします no : コマンドを無効にするか、コマンドのデフォルト値を設定します
terminal	端末回線パラメータを設定します。次の表を参照してください
test	テスト コマンド aaa : Aaa 認証 eltm : eltm 情報を表示します forwarding : Fib 情報 hardware : テスト ハードウェア パラメータ otv
undebug	デバッグ機能を無効にします (デバッグも参照します) all : すべてのデバッグを無効にします icmpv6 : ICMPv6 デバッグ コマンド ip : IP イベント ipv6 : IPv6 イベント l2 : レイヤ 2 l3vm : L3VM 情報をデバッグします pktmgr : パケット マネージャ デバッグ/トンネル情報 rpm : ルート ポリシー マネージャ (RPM) sockets : ソケット system : システム コンポーネントのデバッグを有効にします
end	EXEC モードに移行します
exit	コマンド インタープリタを終了します
pop	スタックからモードをポップするか、名前から復元します <i>name</i> : 名前 (任意)
push	現在のモードをスタックにプッシュするか、名前で保存します <i>name</i> : 名前 (任意)

コマンド	その他の情報
where	どの CLI コンテキストにいるかを表示します detail : 各エントリを別々の行に表示します (任意)

表 11: FXOS コマンド シェルで利用可能な *debug*、*show*、*terminal* コマンド

コマンド	その他の情報
debug	

コマンド	その他の情報
	デバッグ機能 aaa : aaa のデバッグを有効にします aclcomp : aclcomp デバッグを設定します aclog : aclog デバッグを設定します aclmgr : aclmgr デバッグを設定します afm : afm デバッグを設定します assoc : 元の ID と変換後の ID の関連付け bcm-usd : BCM USD bootvar : bootvar デバッグを有効にします callhome : Callhome のデバッグを有効にします cdp : CDP デバッグを設定します cert-enroll : cert enroll daemon のデバッグを設定します cfs : CFS のデバッグを有効にします cli : cli をデバッグします cli : cli サーバをデバッグします clk_mgr : clk_mgr デバッグを設定します copp : copp デバッグを設定します core : コア デーモン デバッグを有効にします csm : csm デバッグを有効にします device-alias : デバイスエイリアス配信サービスのデバッグを設定します dstats : 差分統計情報デバッグを設定します eltm : eltm デバッグを設定します ethpc : ethpc デバッグを設定します ethpm : ethpm デバッグを設定します evmc : イベント マネージャ クライアント デバッグ fc-mac : fcp 情報をデバッグします fc2 : FC2 デバッグを設定します fc2d : fc2d デバッグを設定します fcdomain : fcdomain デバッグを有効にします fcfwd : fcfwd デバッグを有効にします

コマンド	その他の情報
	<p>fcns : ネーム サーバをデバッグします</p> <p>fcoe_klm : FCOE_KLM デバッグを設定します</p> <p>fcpc : fcpc デバッグを設定します</p> <p>fcs : ファブリック設定サーバのデバッグを設定します</p> <p>fdmi : fdmi デバッグを設定します</p> <p>fex : FEX プロセスの cli をデバッグします</p> <p>fex : fex デバッグを設定します</p> <p>flogi : flogi デバッグを設定します</p> <p>fm : 機能マネージャのデバッグを設定します</p> <p>fspf : FSPF デバッグを設定します</p> <p>hardware : ハードウェア、カーネルロード可能なモジュールパラメータをデバッグします</p> <p>icmpv6 : ICMPv6 デバッグ コマンド</p> <p>idehsd : Idehsd ハンドラ デバッグを設定します</p> <p>im : im デバッグを設定します</p> <p>ip : IP イベント</p> <p>ipconf : ipconf デバッグを設定します</p> <p>ipfib : ipfib デバッグを設定します</p> <p>ipqos : IP QoS Manager のデバッグを設定します</p> <p>ipv6 : IPv6 イベント</p> <p>klm : カーネルロード可能なモジュールパラメータをデバッグします</p> <p>l2 : レイヤ 2</p> <p>l3vm : L3VM 情報をデバッグします</p> <p>lACP : lACP デバッグを設定します</p> <p>ldap : ldap のデバッグを設定します</p> <p>ledmgr : LED マネージャのデバッグを設定します</p> <p>license : ライセンスのデバッグ有効にします</p> <p>lldp : lldp デバッグを設定します</p> <p>logfile : ログファイルへのデバッグの直接出力</p> <p>logging : ロギングまたは syslogd デバッグを設定します</p> <p>m2rib : m2rib デバッグを設定します</p>

コマンド	その他の情報
	<p>mcec : MCEC デバッグを設定します</p> <p>mcm : mcm デバッグを設定します</p> <p>mfdm : mfdm デバッグを設定します</p> <p>monitor : イーサネット SPAN セッションを設定します</p> <p>mcp : mcp デバッグを設定します</p> <p>mvsh : MVSH サーバのデバッグ</p> <p>nf : nf デバッグを設定します</p> <p>nohms : nohms デバッグを設定します</p> <p>npacl : NPAACL 機能を設定します</p> <p>nsmgr : nsmgr デバッグを設定します</p> <p>ntp : NTP モジュールをデバッグします</p> <p>obfl : obfl デバッグを設定します</p> <p>pfm : pfm デバッグを設定します</p> <p>pfstat : pfstat デバッグを設定します</p> <p>pktmgr : パケット マネージャのデバッグ/トンネル情報</p> <p>platform : プラットフォーム デバッグを設定します</p> <p>platform : プラットフォーム内部情報</p> <p>platform : プラットフォーム</p> <p>plog : plog デバッグを設定します</p> <p>pltfm_config : pltfm_config デバッグを設定します</p> <p>plugin : プラグイン デバッグを設定します</p> <p>port : ポート デバッグを設定します</p> <p>port-channel : port-channel デバッグを設定します</p> <p>port-profile : port-profile マネージャのデバッグを有効にします</p> <p>port-resources : prm デバッグを設定します</p> <p>port-security : ポートセキュリティ関連コマンド</p> <p>private-vlan : プライベート VLAN のデバッグ フラグを設定します</p> <p>process-sap : デバッグ対象プロセスの SAP</p> <p>provision : プロビジョニング デバッグを設定します</p> <p>psshelper : Psshelper デバッグ</p>

コマンド	その他の情報
	<p>psshelper_gsvc : Psshelper デバッグ</p> <p>ptplc : ptplc デバッグを設定します</p> <p>qd : qd の情報を表示します</p> <p>radius : radius デーモンのデバッグを設定します</p> <p>res_mgr : res_mgr デバッグを設定します</p> <p>rib : rib デバッグを設定します</p> <p>rlir : RLIR デバッグを設定します</p> <p>rpm : ルート ポリシー マネージャ (RPM)</p> <p>rscn : RSCN デバッグを設定します</p> <p>sal : sal デバッグを設定します</p> <p>san-port-channel : san-port-channel デバッグを設定します</p> <p>scsi-target : scsi ターゲット デーモン デバッグを設定します</p> <p>security : セキュリティのデバッグを設定します</p> <p>session-mgr : セッション マネージャのデバッグを有効にします</p> <p>snm : snm デバッグを設定します</p> <p>snmp : snmp-server デバッグを設定します</p> <p>sockets : ソケット</p> <p>spm : spm デバッグを設定します</p> <p>statsclient : 統計情報</p> <p>system : システム コンポーネントのデバッグを有効にします</p> <p>system : システムをデバッグします</p> <p>tacacs+ : TACACS+ のデバッグを設定します</p> <p>track : トラック デバッグを設定します</p> <p>transceiver : FC トランシーバー デバッグ コマンド</p> <p>tunnel : トンネル デバッグを設定します</p> <p>udld : udld デバッグを設定します</p> <p>(注) 単方向リンク検出 (UDLD) はFXOSではサポートされていません。UDLD への参照を無視します。</p> <p>ufdm : ufdm デバッグを設定します</p> <p>vim : vim デバッグを設定します</p>

コマンド	その他の情報
	vlan : vlan マネージャのデバッグ フラグを設定します vmm : vmm デバッグを設定します vms : vms デバッグを設定します vsan : VSAN マネージャのデバッグを有効にします willesden : willesden デバッグを設定します wwn : WWN マネージャのデバッグを設定します xml : XML エージェント zone : ゾーン サーバのデバッグ コマンド zschk : zschk デバッグを設定します

コマンド	その他の情報
show	

コマンド	その他の情報
	<p>実行中のシステム情報を表示します</p> <p>aaa : aaa 情報を表示します</p> <p>access-lists : アクセス リストを表示します</p> <p>accounting : アカウント設定を表示します</p> <p>banner : 現在の motd バナー メッセージを表示します</p> <p>boot : Bootvar 変数を表示します</p> <p>callhome : callhome 情報を表示します</p> <p>cdp : Cisco Discovery Protocol 情報を表示します</p> <p>cfs : CFS Show コマンドハンドラ</p> <p>class-map : クラス マップを表示します</p> <p>cli : CLI 情報を表示します</p> <p>clock : 現在の日付を表示します</p> <p>cluster-state : クラスタ情報を表示します</p> <p>configuration : 設定セッションの情報を表示します</p> <p>copyright : 著作権情報</p> <p>debug : デバッグ フラグを表示します</p> <p>device-alias : デバイス エイリアス配信サービスの情報を表示します</p> <p>diagnostic : 診断コマンド</p> <p>ecmp-groups : すべての ECMP グループを表示します</p> <p>environment : システム環境情報</p> <p>fc2 : fc2 のテーブルと統計情報を表示します</p> <p>fc2d : fc2d の情報を表示します</p> <p>fcalias : Fcalias show コマンド</p> <p>fcdomain : fcdomain 情報を表示します</p> <p>fcdroplateny : スイッチまたはネットワークの遅延を表示します</p> <p>fcflow : fcflow 情報を表示します</p> <p>fcid-allocation : fcid-allocation リストの情報を表示します</p> <p>fcns : ネーム サーバ テーブルを表示します</p> <p>fcroute : FC ルートを表示します</p> <p>fcs : ファブリック設定サーバ情報を表示します</p>

コマンド	その他の情報
	<p> fctimer : ファイバチャンネルタイマーを表示します fdmi : fdmi 情報を表示します flogi : FLOGI の情報を表示します fp : Fp fspf : FSPF の情報を表示します hardware : ハードウェア情報を表示します hostname : システムのホスト名を表示します hosts : DNS の情報を表示します in-order-guarantee : 順序どおりの配信保証設定を表示します incompatibility : 互換性のない設定を表示します install : 2つのイメージ間のソフトウェアインストールの影響を表示します interface : インターフェイスのステータスおよび情報を表示します inventory : 物理インベントリを表示します ip : IP 情報を表示します ip : IP 情報 ipmc-groups : すべての IPMC グループを表示します ipv6 : IPv6 情報を表示します klm : カーネルモジュール情報を表示します l2-class-id : L2 クラス ID 割り当て l2-table : すべての L2 エントリを表示します lacp : LACP 情報を表示します ldap-server : LDAP 設定情報を表示します line : 行設定を表示します lldp : lldp の情報を表示します loadbalancing : 特定のフローまたは交換のユニキャストロードバランシングを表示します locator-led : デバイスのロケータの LED ステータスを表示します logging : ロギングの設定およびログファイルの内容を表示します mac : MAC module : モジュール情報を表示します </p>

コマンド	その他の情報
	<p>monitor : イーサネット SPAN 情報を表示します</p> <p>msh : Msp コマンド</p> <p>nsm : ネットワーク セグメント マネージャの情報を表示します</p> <p>ntp : NTP 情報を表示します</p> <p>phy-bypass : ハードウェア バイパス</p> <p>platform : Platform Manager で受信したイベントのリストを表示します</p> <p>policy-map : ポリシー マップを表示します</p> <p>port : ポート情報を表示します</p> <p>port-channel : ポートチャネル情報を表示します</p> <p>port-profile : ポートプロファイルを表示します</p> <p>port-security : ポートセキュリティ関連コマンド</p> <p>queuing : インターフェイス キューイングの情報を表示します</p> <p>radius-server : RADIUS 設定情報を表示します</p> <p>redundancy : システムの冗長性ステータスを表示します</p> <p>resource : VDC のリソース設定を表示します</p> <p>rlir : RLIR 情報を表示します</p> <p>rmon : RMON 統計情報を表示します</p> <p>role : ロール設定を表示します</p> <p>routing : ルーティング情報を表示します</p> <p>routing-context : 現在のルーティング コンテキストを表示します</p> <p>rscn : RSCN 情報を表示します</p> <p>running-config : 現在実行されている設定</p> <p>san-port-channel : ポートチャネル情報を表示します</p> <p>scsi-target : 検出された scsi ターゲット情報を表示します</p> <p>snmp : snmp 情報を表示します</p> <p>sprom : SPROM の内容</p> <p>ssh : SSH 情報を表示します</p> <p>startup-config : 現在のスタートアップ コンフィギュレーション</p> <p>svs : svs 情報を表示します</p> <p>switchname : システムのホスト名を表示します</p>

コマンド	その他の情報
	<p>system : システム関連の show コマンド</p> <p>tacacs-server : TACACS+ 設定情報を表示します</p> <p>tech-support : トラブルシューティングの情報を収集します</p> <p>telnet : telnet サーバ設定を表示します</p> <p>terminal : 端末設定パラメータを表示します</p> <p>topology : 接続されたスイッチの情報を表示します</p> <p>track : トラッキング情報</p> <p>trunk : トランク情報を表示します</p> <p>udld : UDLD プロトコル</p> <p>(注) 単方向リンク検出 (UDLD) はFXOS ではサポートされていません。UDLD への参照を無視します。</p> <p>user-account : ユーザ情報を表示します</p> <p>users : システムにログインしている現在のユーザを表示します</p> <p>vdc : 仮想デバイス コンテキストを表示します</p> <p>version : ソフトウェア バージョンを表示します</p> <p>vifs : 仮想インターフェイス</p> <p>vlan : Vlan コマンド</p> <p>vms : Vms コマンド</p> <p>vmware : Vmware 関連</p> <p>vrf : VRF 情報を表示します</p> <p>vsan : vsan 情報を表示します</p> <p>wwn : wwn 情報を表示します</p> <p>xml : XML エージェント</p> <p>zone : ゾーン show コマンド</p> <p>zoneset : ゾーンセット show コマンド</p>

コマンド	その他の情報
terminal	<p>端末回線のパラメータを設定します</p> <p>alias : エイリアスを表示します (引数のない場合)。「exec」エイリアスを作成します (非永続)。永続的なエイリアスは config モードです。「cli alias」を参照してください。</p> <p>color : プロンプト (最後のコマンドが ok の場合は緑、エラーの場合は赤)、コマンドライン (青)、出力 (デフォルトの色) の色付けを有効にします</p> <p>dont-ask : 「確認してください」という質問は表示されません。代わりにデフォルトの回答を使用します</p> <p>edit-mode : コマンドラインのエディションキー (vi または emacs、emacs がデフォルト) を設定します</p> <p>event-manager : イベント マネージャ cli イベント</p> <p>history : 端末履歴プロパティを設定します</p> <p>length : 画面の行数を設定します</p> <p>monitor : Syslog 出力を現在の端末行にコピーします</p> <p>no : コマンドを無効にするか、コマンドのデフォルト値を設定します</p> <p>output : show コマンド出力のフォーマット方法</p> <p>prompt : プロンプトの表示方法を設定します</p> <p>redirection-mode : リダイレクションモードを設定します</p> <p>session-timeout : セッションタイムアウトを設定します</p> <p>sticky-mode : 現在のモードでのみ一致するコマンドを検索します</p> <p>terminal-type : 端末タイプを設定します</p> <p>time : 変数に現在の時刻を保存します</p> <p>tree-update : メイン解析ツリーを更新します</p> <p>verify-only : コマンドを確認するだけで実行はしません</p> <p>width : 表示端末の幅を設定します</p>

connect local-mgmt : コマンドリスト

スーパーバイザ **connect local-mgmt** コマンドを使用してローカル管理シェルに接続すると、そのシェルで次のコマンドを使用できます。**connect local-mgmt** コマンドの詳細については、[connect adapter \(41 ページ\)](#) を参照してください。

このシェルでは、ファイルのコピー、ファブリック インターコネクットの再起動、ping および traceroute コマンドの実行など、ファブリック インターコネクットで操作を実行できます。その中でもトラブルシューティング ファイルの生成が最も重要です。



- (注) ローカル管理コマンドシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトがデフォルトプロンプトから変更されます。(local-mgmt)が付加されたデフォルトプロンプトというアプライアンスに割り当てられた名前です。次の例を参照してください。

ローカル管理モードを終了するには、**exit** と入力します。

例

次の例では、ローカル管理コマンドシェルに接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示します。

```
firepower# connect local-mgmt
firepower(local-mgmt)# ?
cd                Change current directory
clear             Clear managed objects
cluster          Cluster mode
connect          Connect to Another CLI
copy             Copy a file
cp              Copy a file
delete           Delete managed objects
dir              Show content of dir
enable           Enable
end              Go to exec mode
erase            Erase
erase-log-config Erase the mgmt logging config file
exit             Exit from command interpreter
fips             FIPS compliance
ls               Show content of dir
mgmt-port        Management Port
mkdir            Create a directory
move             Move a file
mv              Move a file
ping            Test network reachability
ping6           Test IPv6 network reachability
pwd             Print current directory
reboot          Reboots Fabric Interconnect
restore-check    Check if in restore mode
rm              Remove a file
rmdir           Remove a directory
run-script       Run a script
show            Show system information
shutdown        Shutdown
```

```

ssh                SSH to another system
tail-mgmt-log      tail mgmt log file
telnet             Telnet to another system
terminal           Terminal
top                Go to the top mode
traceroute         Traceroute to destination
traceroute6        Traceroute to IPv6 destination
verify            Verify Application Image

firepower(local-mgmt)# exit
firepower#

```

表 12: ローカル管理シェルで利用可能なコマンド

コマンド	その他の情報
cd	現在のディレクトリを変更します usbdrive : ファイル URI volatile : ファイル URI workspace : ファイル URI clear : 管理対象オブジェクトをクリアします sshkey : ホスト公開 SSH キー
cluster	Cluster mode force : ローカル ファブリック インターコネクトを強制的にプライマリーに変更します lead : 従属ファブリック インターコネクトをプライマリーにします
connect	別の CLI に接続します adapter : メザニン アダプタ cimc : Cisco Integrated Management Controller fxos : FXOS CLI に接続します local-mgmt : ローカル管理 CLI に接続します module : セキュリティ モジュール コンソール

コマンド	その他の情報
copy	ファイルをコピーします ftp : ソース ファイル URI scp : ソース ファイル URI sftp : ソース ファイル URI tftp : ソース ファイル URI usbdrive : ソース ファイル URI volatile : ソース ファイル URI workspace : ソース ファイル URI
cp	ファイルをコピーします ftp : ソース ファイル URI scp : ソース ファイル URI sftp : ソース ファイル URI tftp : ソース ファイル URI usbdrive : ソース ファイル URI volatile : ソース ファイル URI workspace : ソース ファイル URI
delete file	管理対象オブジェクトを削除します usbdrive : ソース ファイル URI volatile : ソース ファイル URI workspace : ソース ファイル URI
dir	dir のコンテンツを表示します order (任意) : 時間別にファイルを並べます usbdrive : (任意) ファイル URI volatile : (任意) ファイル URI workspace : (任意) ファイル URI
enable cluster	クラスタ モードを有効にします a.b.c.d : クラスタ IPv4 アドレス ipv6 : IPv6 クラスタ モード
end	EXEC モードに移行します

コマンド	その他の情報
erase	削除 configuration : システム設定
erase-log-config	管理ロギング設定ファイルを消去します
exit	コマンドインタプリタを終了します
fips	FIPS の準拠性 fault-test : FIPS 障害テストを実行します self-test : 要求に応じて FIPS セルフテストを実行します
ls	dir のコンテンツを表示します order (任意) : 時間別にファイルを並べます usbdrive : (任意) ファイル URI volatile : (任意) ファイル URI workspace : (任意) ファイル URI
mgmt-port	管理ポート no-shut (任意) 管理ポート アップ shut (任意) : 管理ポート ダウン
mkdir	ディレクトリの作成 usbdrive : (任意) ファイル URI volatile : (任意) ファイル URI workspace : (任意) ファイル URI
move	ファイルを移動します usbdrive : (任意) ファイル URI volatile : (任意) ファイル URI workspace : (任意) ファイル URI
mv	ファイルを移動します usbdrive : (任意) ファイル URI volatile : (任意) ファイル URI workspace : (任意) ファイル URI
ping	remote_host : ホスト名または IP アドレス (最小サイズ 0、最大サイズ 510)

コマンド	その他の情報
ping6	ネットワーク到達可能性をテストします IPv6 ネットワーク到達可能性をテストします remote_host : ホスト名またはIPアドレス (最小サイズ0、最大サイズ510)
pwd	現在のディレクトリを印刷します
reboot	ファブリック インターコネクトをリブートします 復元モードの場合は確認します
rm	ファイルの削除 usbdrive : (任意) ファイル URI volatile : (任意) ファイル URI workspace : (任意) ファイル URI
rmdir	ディレクトリを削除します usbdrive : (任意) ファイル URI volatile : (任意) ファイル URI workspace : (任意) ファイル URI
run-script	スクリプトを実行します workspace : 実行するスクリプトの名前

コマンド	その他の情報
show	<p>システム情報を表示します</p> <p>cli : CLI 情報</p> <p>clock : クロック</p> <p>file : ファイル コマンド</p> <p>license : ライセンス情報を表示します</p> <p>mgmt-ip-debug : IP デバッグ情報</p> <p>mgmt-port : 管理ポート</p> <p>open-network-ports : オープン ネットワーク ポートを表示します</p> <p>pmon : Pmon</p> <p>processes : プロセス</p> <p>sel : システム イベント ログ</p> <p>software : ソフトウェア</p> <p>sshkey : Sshkey</p> <p>tech-support : テクニカル サポート</p>
shutdown	シャットダウン
ssh	<p>別のシステムに SSH 接続します</p> <p>remote_system : ホスト名または ユーザ@ユーザ名 (最小サイズ 0、最大サイズ 510) を入力します</p>
tail-mgmt-log	<p>管理ログ ファイルの末尾を表示します</p> <p>module : モジュール名 (最小サイズ 0、最大サイズ 510)</p>
telnet	<p>別のシステムに Telnet 接続します</p> <p>remote_host : ホスト名または IP アドレス (最小サイズ 0、最大サイズ 510)</p>
terminal	<p>端末回線のパラメータを設定します</p> <p>length : 画面の行数を設定します</p> <p>width : 表示端末の幅を設定します</p>
top	上位モードに移行します
traceroute	<p>宛先にトレースルートします</p> <p>remote_host : ホスト名または IP アドレス (最小サイズ 0、最大サイズ 510)</p>

コマンド	その他の情報
traceroute6	IPv6 宛先にトレースルートします remote_host : ホスト名または IP アドレス (最小サイズ 0、最大サイズ 510)
verify signature	アプリケーションイメージを検証します bootflash : イメージファイル名 usbdrive : イメージファイル名 volatile : イメージファイル名 workspace : イメージファイル名



(注) **show processes** と **show system resources** CLI を同時に使用すると、CPU 使用率の値に違いがあることがわかります。CPU 使用率の値は、各 CLI がデフォルトで使用する反復回数と間隔により、反復によるサンプリング後に出力を要約するために異なります。

connect module : コマンドリスト

スーパーバイザ **connect module** コマンドを使用して特定のモジュール コンソールに接続すると、そのコンソールで次のコマンドを使用できます。**connect module** コマンドの詳細については、[connect module \(53 ページ\)](#) を参照してください。

このシェルでは、ファイルのコピー、ファブリック インターコネクットの再起動、ping および traceroute コマンドの実行など、ファブリック インターコネクットで操作を実行できます。



(注) モジュール コマンド シェルに接続すると、コマンドラインプロンプトがデフォルトプロンプトから変更されます。Firepower-module*n* というアプライアンスに割り当てた名前です。この場合、*n* は接続先のモジュール番号です。次の例を参照してください。

例

次の例では、Telnet を使用してモジュール 1 に接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示します。

```
firepower# connect module 1 telnet
Type exit or Ctrl-] followed by . to quit.
Firepower-module1>?
secure-login      => Enable blade secure login
show              => Display system information. Enter show ? for options
config           => Configure the system. Enter config ? for options
terminalLength   => Terminal settings. Enter terminal ? for options
ping             => Ping a host to check reachability
nslookup         => Look up an IP address or host name with the DNS servers
traceroute       => Trace the route to a remote host
connect          => Connect to specific csp console (asa, etc)
support          => System file operations
testcrashinfo    => Test crashinfo support
exit             => Exit the session
help             => Get help on command syntax
Firepower-module1> <Ctrl-], .>
firepower#
```

表 13: モジュール コンソールで利用可能なコマンド

コマンド	その他の情報
secure-login	ブレードセキュア ログインを有効にします

コマンド	その他の情報
show	<p>システム情報の表示オプションに show ? と入力します</p> <p>diskusage : 現在のディスク容量の使用率を表示します</p> <p>time : 現在のシステムの日付と時刻を表示します</p> <p>faults : 該当する場合はセキュリティ モジュールの障害を表示します</p> <p>memoryusage : システム メモリの使用率を表示します</p> <p>cpuinfo : システムの CPU 情報を表示します</p> <p>users : ログオンしているユーザおよびユーザの操作を表示します</p> <p>uptime : システム稼働時間を表示します</p> <p>slot : このブレードを接続する SSP のスロット番号を表示します</p> <p>processes : すべてのシステムのプロセスを表示します</p> <p>hosts : ホストを表示します</p> <p>route : 設定済みルートを表示します</p> <p>interfaces : 現在設定されているインターフェイスを表示します</p> <p>version : 製品バージョンを表示します</p> <p>netstat : ネットワーク接続を表示します</p> <p>vnicmap : イーサネット インターフェイスで VNIC を表示します</p> <p>platform : なし</p> <p>memory : メモリ モニタ設定を表示します</p> <p>disk : ディスク モニタ設定を表示します</p> <p>cpu : CPU モニタ設定を表示します</p> <p>ntp : NTP 時刻同期情報を表示します</p> <p>coredump : コアダンプ設定を表示します</p> <p>maxRestart : maxRestart を表示します</p> <p>turboBoost : turboBoost 設定を表示します</p> <p>services : サービスのステータスを表示します</p> <p>process : プロセス詳細を表示します</p> <p>cgroups : cgroup を表示します</p> <p>tech-support : トラブルシューティング用にシステム情報報告を生成します</p>

コマンド	その他の情報
config	<p>システムを設定します。オプションに <code>config?</code> と入力します</p> <p><code>vnic</code> : 指定された VNIC を設定します</p> <p><code>memory</code> : : メモリ モニタを設定します</p> <p><code>disk</code> : ディスク モニタを設定します</p> <p><code>process</code> : プロセス CPU モニタを設定します</p> <p><code>maxRestart</code> : 最大再起動 CSP を設定します。0 は機能を無効にします。デフォルトは 8 です</p> <p><code>restartTimeInter</code> : サーバがこの間隔で <code>maxRestart</code> の回数再起動した場合に、すべての CSP が起動しないようにする時間 (秒単位) を設定します。デフォルトは 1200 です</p> <p><code>restartCounters</code> : <code>restart_count</code> をリセットします</p> <p><code>coredump</code> : <code>coredump {...}</code> を設定します</p> <p><code>turboBoost</code> : <code>turboBoost {...}</code> を設定します</p>
terminalLength	<p>端末設定。オプションに <code>terminal?</code> と入力します</p> <p><code>enable</code> : 端末長を有効にします</p> <p><code>disable</code> : : 端末長を無効にします</p>
ping	<p>ホストに Ping を実行して到達可能性を確認します</p> <p>ホスト</p>
nslookup	<p>DNS サーバで IP アドレスまたはホスト名を検索します</p> <p>ホスト</p>
traceroute	<p>リモート ホストへのルートを追跡します</p> <p>ホスト</p>
connect	<p>特定の csp コンソール (asa など) に接続します</p> <p><i>appname apphost</i></p>

コマンド	その他の情報
support	<p>システム ファイルの操作</p> <ul style="list-style-type: none"> platform : プラットフォームの運用 fileupload : アーカイブ ファイルを MIO にコピーします diagnostic : 診断アーカイブ ファイルを作成します filelist : システム ディレクトリ内の既存のファイルをリストします fileview : システム内のファイルを表示します filetail : システム内のファイルの末尾を表示します deleteBootImage : ブート イメージを削除します certdownload : リモート syslog サーバから証明書をダウンロードします verify : イメージを検証します generate : generate {command..} をサポートします tunnel : : tunnel {command..} をサポートします dplug-access : dplug アクセスを有効にします send_diag_archiv : デフォルト アーカイブを MIO にアップロードします send_logs : 選択したファイルを MIO にアップロードします
testcrashinfo	<p>crashinfo サポートをテストします</p> <ul style="list-style-type: none"> singleprocess : 単一プロセスで crashinfo サポートをテストします multiprocess : 複数のプロセスで crashinfo サポートをテストします multithread : 複数のスレッドで crashinfo サポートをテストします
help	コマンド構文のヘルプを取得します

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。